

# やまなみ

第 3 号



岳人あびこ

# やまなみ

第 3 号





# 「やまなみ」第3号 目次

『やまなみ』3号発刊に寄せて

外崎 蓮

1

平成12年度 (2000年3月～2001年2月)

NO.	山 名	山 域	期 日	執 筆 者	ページ
平成12年(2000年)					
145	高川山	中央沿線	3月12日(日)	高橋 英雄	3
146	浅間嶺	奥多摩	3月26日(日)	松本 豊	4
147	棒ノ折山	奥多摩	4月9日(日)	武藤 邦芳	6
148	四ッ又山～鹿岳	西上州	4月16日(日)	山西 澄子	7
149	蓑山	奥武蔵	4月22日(土)	箕輪力オル	9
150	大菩薩嶺	大菩薩	4月23日(日)	武内 勇二	11
151	大塚山～中塚山	房総	4月29日(土)	外崎 蓮	13
152	天上山	東京都伊豆半島	5月3日(水)～5日(金)	細野清子、飯高基晴	16
153	浅草岳・守門岳	東北	5月3日(水)～6日(土)	(大串秀雄)	20
154	霧降高原	奥日光	5月7日(日)	小川誠二郎	22
155	景信山～高尾山	中央沿線	5月14日(日)	中村八重子	23
156	子持山	上州	5月21日(日)	佐藤きみよ	25
157	南月山～三本槍ヶ岳	那須	5月27日(土)～28日(日)	三浦 七郎	26
158	雲取山(公開登山)	奥秩父	6月3日(土)～4日(日)	山本 正敏	27
159	高岩	上州	6月10日(土)	清家三保子	33
160	リーダー研修in丹沢	丹沢	6月17日～18日(日)	細野 清子	34
161	早池峰・薬師岳	北上山域	7月1日～2日(日)	榊原文子、原田和昭	40
162	岩山(新人研修)	新鹿沼	7月2日(日)	箕輪 完二	42
163	籠ノ登山・水ノ塔山	浅間	7月16日(日)	松村 雅子	43
164	五色ヶ原～薬師岳	北アルプス	7月20日～23日(日)	安田みづほ	45
165	朝日連峰	羽越国境	7月28日～30日(日)	清家、柴田、外崎	47
166	白馬三山	北アルプス	8月5日～7日(月)	中村美、高橋芳、外崎	52
167	木曾駒ヶ岳・宝剣岳	中央アルプス	8月6日～7日(月)	中野 弘子	55
168	雲ノ平～槍ヶ岳	北アルプス	8月12日～16日(水)	榊原文子、高橋英雄	57
169	鳥海山	山形秋田県境	8月18日～20日(日)	斎藤 清一	60
170	奥穂高岳・北穂高岳	北アルプス	8月25日～28日(月)	山西 澄子	63
171	榛名山	上州	8月27日(日)	細野 清子	66
172	常念岳～蝶ヶ岳	北アルプス	9月14日～17日(日)	原田和昭、斎藤清一	69
173	八幡平・焼山	八幡平	9月15日～16日(日)	由布 仁子	74
174	秋田駒ヶ岳	秋田	9月16日～17日(日)	外崎 蓮	76
175	鬼怒沼	奥日光	9月30日～10月1日	箕輪力オル	78

# 「やまなみ」第3号 目 次

NO.	山 名	山 域	期 日	執 筆 者	ページ
176	燧ヶ岳	尾瀬	10月7日－8日(日)	松本 豊	81
177	雨飾山	頸城山塊	10月8日－9日(祝)	大串 秀雄	84
178	御前山	奥多摩	10月22日(日)	原 妙子	87
179	黒岳	富士周辺	10月29日(日)	庄司 洋子	88
180	小野子山～十二ヶ岳	上州	11月3日(日)	山本紫津子	90
181	塔ノ岳～鍋割山(新人)	丹沢	11月11日－12日(日)	石垣 吉朗	92
182	権現山	中央沿線	11月18日(土)	柴田 節子	94
183	陣場山	中央沿線	11月19日(日)	大畠 清江	95
184	高反山・諏訪山	西上州	11月25日－26日(日)	武藤 邦芳	96
185	倉岳山(忘年)	中央沿線	12月3日(日)	増田喜久子	97
186	六ツ石山	奥多摩	12月17日(日)	飯沼トミ子	99
187	八ヶ岳(X'mas山行)	八ヶ岳	12月23日－24日(日)	武内 勇二	100
平成13年(2001年)					
188	石老山	中央沿線	1月14日(日)	『富士山と富士周辺の山々』 (五周年記念山行文集)	103
189	三ッ峠山～黒岳	富士周辺	1月20-21日(日)		103
190	荒船山	西上州	2月4日(日)	高橋 潔	104
191	金時山	箱根	2月11日(日)	『富士山と富士周辺の山々』 (五周年記念山行文集)	107
192	御正体山	道志山塊	2月17日(土)		107
193	笹尾根	奥多摩	2月18日(日)	長木加代子	108
194	石割山	富士周辺	2月25日(日)	日下 芳十	110
115	烏帽子岳～奥穂高岳縦走	北アルプス	11年8月6日夜－12日	細野 清子	111
	県連登山学校			榎原文子、大串恵子	116
	岳人祭			武内 勇二	122
	岳人あびこ登山教室			村松 敏彦	124
	編集後記			細野 省二	
資 料					
	山行一覧表			編集部 (中村隆泰)	1
	山行統計			編集部 (中村隆泰)	4
	活動の記録			編集部 (中村隆泰)	7
	月刊会報「やまたん」内容			編集部 (中村隆泰)	11

表紙の作者:竹原政行氏 柏市在住の水彩画家



## 『やまなみ』3号の

### 発刊に寄せて

2002年7月

岳人あびこ 会長 外崎 蓮



岳人あびこが誕生して早や7期目。昨年は盛大に5周年を祝いました。その時の記念誌「富士山と富士周辺の山々」は、美しいピンクの表紙の立派な本としてまとめられました。そして今年は、『やまなみ』3号が発刊されます。岳人あびこが順調に歩んできたあかしです。

このやまなみを発刊するに当たりましては、編集者の皆さんの並々ならぬご努力があります。なかなか原稿が集まらないのです。私も何度催促されたことでしょう。日記と違い、読む第三者がいます。そのため色気を出して変に構え、力が入り、読む相手にあまり感動が伝わってこないことがあります。こんなことから書くのが億劫になってしまうのかも知れません。下手な文章でも、自分の気持ちを素直に表現した文章は、読む者にきらりと光る新鮮さを与えてくれる時があります。感動がとてもよく伝わってくる時もあります。構えずに素直な気持ちを文章に吐き出したいものです。

この『やまなみ』は私達のもんです。登ったどの山にも感動があります。『やまなみ』は私達みんなで綴る岳人あびこの足跡です。あの日、あの時自分がそこにいて、山仲間と共に歩いた記憶が懐かしく思い出されることでしょう。この素晴らしい珠玉の作品集を読むことを通じて、新たな感動をみんなで共有しあいたいものです。編集担当の方々のご努力には、重ねて心から感謝申し上げます。

平成 1 2 年度  
(2000 年度)

平成 1 2 年 3 月 ~ 平成 1 3 年 2 月



< 145 >

## 高川山(中央沿線) (975.7m)

高橋英雄

### 富士山の展望が抜群

今日は朝から小雨、なにか暗い気持ちで電車に乗る。天気予報では昼過ぎには晴れるとの予報である。大月を過ぎ、小仏トンネルを出たあたりからボタン雪になって車窓からの景色は一面雪化粧、山々は白銀の世界に変わる。

自分なりに雨より雪の方が良いか思いつつ雪の止むのを期待する。初狩駅で下車、農道みたいな細い道を登り、右手にお寺とお墓を見ながら登山道に入る。

このあたりから5センチぐらいの積雪となる。雪がさらさら音をたてて降り続く。雪の上には動物たちの足跡。新道を過ぎ左斜面に大月市椎茸栽培場を通り雪道を進む。木々に積もった雪が歩いているわれわれの頭に洗礼を受ける。また、途中誰かがこけたりして笑いがあったりもする。

女坂分岐付近は15センチの積雪があり登り坂のためアイゼンをつける。要所には道標があり高川山はハイキングコースとして本格的に力を入れているらしい。

今日の目的は富士山の展望であったが、山頂での展望はゼロ、時折小雪が降りもする。リーダーの計らいで甘酒をすすり体を温め、昼食もそこそこに下山とする。

下山道は滑りやすく、尻もちついたりもした。また、アイゼンに雪がつき厚底ブーツになり、ときどき雪を落としながらゆっくりと下山する。

思いもよらぬ春の大雪に感動し最高の日であった。雪道での登り、下り、アイゼンの付け方等多少は身についたかなあ……。

### 概要

山名	高川山(中央沿線)		
期日	平成12年3月12日(日) 雪のち晴れ		
山行形式	日帰り	グレード	A
目的	富士山の展望		
歩行時間	4時間(行動時間 4時間50分)		
費用	3000円	地形図	大月、都留
リーダー	日下	参加数	18名(ゲスト1)
日程コース	12日	我孫子5:33=高尾7:26=初狩8:25 /8:30~登山道入口9:05~女坂分岐9:30~高川山山頂10:20/11:15 ~小形山分岐12:10~大柵12:45~ 禾生駅13:22=大月駅15:23=我孫子駅18:08着	



↑思いがけない雪に、アイゼンの感触を楽しむ。



↑展望は銀世界、雪景色を堪能(高川山山頂にて)

< 1 4 6 >

新人歓迎山行

## 浅間嶺

(903m)

松本 豊

### 古の街道を歩く

天気は最高。今回の山行は5期生の歓迎山行である。全員元気に五日市駅で下車し都民の森行きのバスに向かうが接続がうまくいかずにしばし時間待ちとなる。乗ったバスは急行で浅間嶺入口には停車しないことが乗車後判明。数馬からもどる覚悟をしたとき細野（清）さんの粘り強い交渉（脅迫？）とバスに乗車していた会員の数の多さで運転手さんも今回は特別にと停車に応じてくれ無事登山口入口に降り立つことができた。バス道を少し戻り左に折れて南秋川を渡り民家の脇を抜けて登り始める。

民宿を抜けると本格的な山道を登ることになるが道は広く歩きやすい。植林の伐採跡まで登ってくると周辺の景色が開けてくる。風張峠へ抜ける道を左に見送り植林された尾根の南側を巻いていく。左の山側に馬頭観音が安置されていてこの道がかつて馬に荷物を担がせて人々が往来していたことが偲ばれる。昔の人は山腹の道をも生活道として利用していたんだと思いながら重い荷物を担いだ馬たちに敬意を表して観音様に一礼。

道が峠にさしかかる。一本松と呼ばれる峠である。たしかに松はあったがこの松が名前の由来か否かは不明。一本松からは丹沢の山々が眺

められる。一本松で小休止。

一本松を過ぎると道は尾根の北側を巻くようになり傾斜は少ない。一箇所木橋で巻く所があるがよく見ると橋の桁が宙に浮いている。桁の土台がガレて崩れ落ちたためである。念のため橋に過重をかけないように一人ずつ通過する。人里分岐を通過する。分岐を左に折れば人里部落へ通じる。分岐を過ぎると30分ほどで開けた浅間広場に到着する。広場はトイレ、休憩舎が完備されている。ここが今日の歓迎会場である。ここで5期生の武藤さんが合流。よくぞ朝の集合時間に遅れながらもその後挽回した努力に拍手。人里部落から登ってきて皆の到着を待っていたとのこと。

歓迎会は4期生が食担をつとめ美味なる豚汁が完成。ワイン、ジュースそして三浦さん提供の格式高き銘酒もふるまわれ最高の昼食となる。（山行途中の飲酒禁止が正式に決定されたのはこの山行以降であるので念のため）

なおこの広場の先の丘を登ると富士山が見えるとのこと。小生が登ったときはすでに雲に隠れて見ることは出来なかった。（日ごろの行いのせいかな？）

午後の行動開始。足取り軽く腹は重くの状態下山開始。落ち葉を踏んでの下山は滑らないように慎重に。一軒家がでてくる。脇を抜けてさらに進むと茶店がでてくる。道は林道隣10分ほどで神社が見えてくる。神社の手前の細い道を右に折れて急斜面を一時下ると又林道に交わる。ここにトイレあり。林道を下っていき時坂部落をぬければ払沢の滝入口に着く。滝は道から右へ10分ほどのところにあって三段の滝を見ることができる。バスの時間を確認したうえで見学するほうがいいだろう。滝の入口からは土産物屋が並んでいる。バス停の前には豆腐屋があり名水での豆腐が売られている。豆腐ドーナツも売られている。ここからバスで五日市にもどり5期生の歓迎山行は無事終了となる。



## 今月のドーン

新

入

会

員

新入会員歓迎山行「浅間嶺」



前列左から箕輪さん、武藤さん、小川さん(準々会員?)。他に山本さんもよろしく。  
後列はジュニアリーダーの面々。新人研修は高橋英、安田両リーダーが担当。

コース:我孫子 5:33=新松戸 5:40=西国分寺 6:50=立川 7:20=武蔵五日市 7:50 バス 8:25  
-浅間尾根登山口 9:15~浅間尾根 10:30~浅間嶺 12:50~時坂峠~払沢の滝  
14:50~バス停 15:45=武蔵五日市 16:20=立川=西国分寺=我孫子 19:00



具沢山の鍋はもうすぐ。食担は4期生、

<147>

## 棒ノ折山

(969m)

武藤 邦芳

### 早春の稜線歩きを楽しむ

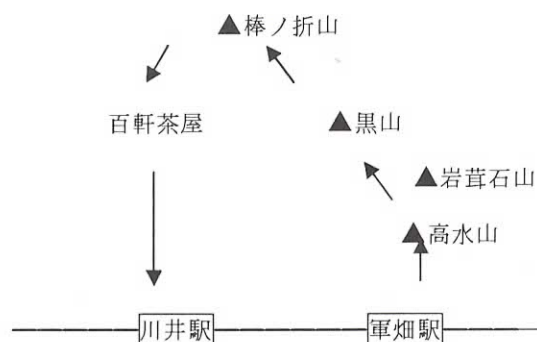
武蔵野線沿線の桜はちょうど満開。しかし青梅線に入ると季節が少しずつ後戻りしていき、軍畑の駅を降りると未だ梅の季節。駅から登山口までは舗装されているが、先輩達はかなりの早さで歩いていき、早くもちぎれかけてしまう。花をみながら待っていてくれるが、最初から不安である。なにせ今日は入会して2回目の山行、しかも前回は新人歓迎山行で楽なコースだったうえに、かなりはしょってしまった私にとっては、デビューに等しい。それなのに、グレードはBだし、背中にはコーヒーセットという余計な荷物まで持ってきている。これについていけなければ、迷惑新人大賞を受賞してしまいそうだ。

登山口に着くころにはもう体が熱くなってしまった。おかげで体も頭もすっかり目覚めた。一息入れて、先頭の前田さんについて歩き出す。登山道に入っていくといきなり急坂を抜けると、常福院のあたりではカタクリの群落が迎えてくれた。ここから道は稜線上を上り下りを繰り返していく。少し冷たい空気が、ほてった体に気持ちいい。わたし以外はみなさん半袖だ。膨らみ始めた木の芽がほんのりと紅い。その向こうに、ぼんやりと青い空が広がっている。高水山・岩茸石山・そして黒山と駆け抜けていく。階段状に整

備された道を強引に歩幅を合わせていくと、にわかには人の気配がする。棒ノ折の山頂だ。いくつかのグループがバーベキューをしたりしていた。かなりにぎやかだ。ここで我々もお昼の大休憩。

リーダーの指示で靴紐を締めなおして山頂を後にすると、等高線を断ち切るような線そのままの道を麓まで一気に降りていく。こっちは必死で降りていくのに、後ろでは武内さんや大串さんが楽しそうに歌いながら歩いている。一般道に着く頃には、足の裏がかなり痛くなっていた。三浦さんは「物足りないでしょう。」というけど、今の私には十分だ。

駅に近い酒屋にさしかかると、なぜか店の裏庭で”反省”して行くことに。お店の人に差し入れまでして貰い、楽しい宴が電車の時間まで続いた。



山名	棒ノ折山 (B)	山行形式	日帰り
月日	平成12年4月9日(日) 晴れ		
山城	奥多摩	地図	武蔵御嶽
目的	山頂からの展望	交通費	2,040円
リーダー	三浦	参加者	10名
日程コース	我孫子 5:33→戦畑 7:58/8:05→高水山 9:35→岩茸石山 10:10→黒山 11:45→棒ノ折山 12:20/13:05→百軒茶屋 13:55→反省会 15:00/15:55→川井駅 16:25→我孫子 ＜歩行時間：5時間50分＞		



< 148 >

## 四ツ又山～鹿岳 (1015m)

山西澄子

### ちょっくら激しかった山と、 山里のやさしさと

前日から続いた雨がしょぼ降る中、車3台に分乗して我孫子駅を出発したものの、車のフロントガラスにあたる雨の音に一喜一憂。上信越道に入った頃から雨もあがり、青い山々がくつきりと見え始めた。所々薄ら雪化粧をしている山もあり、アイゼンの不携帯にまた心配。下仁田辺りに来ると薄日がさし、今まさに満開の桜が歓迎してくれる。けまん草、大きくなった蓴の莖の咲く、四ツ又山の登り口に車を止め、リーダーの挨拶の後、出発（いつものことながら私はこの瞬間が好きです）。

沢沿いの道は歩きやすく、花はまだ少ないもののエイザンスミレ、ケマンソウ等見つけながら、これから来る厳しいアップダウンの連続や鹿岳のデカコブ（一ノ岳、二ノ岳）も知らないルンルン気分。尾根に出たの巻き道も気持ち良い。落葉した木々の容姿も、間からの眺めも最高。視界のきかない樹林帯に入った頃「見える見える」の声に指差す方を見た時の驚きは、いままでのルンルン気分が一気に吹っ飛んで「エエー…あれに登るんですか」…。もうここからは鹿岳のデカコブが頭の中にドーンと陣取ってしまった。

急登を頑張って四ツ又山山頂、ヤシオツツジ

が一面にあるが残念ながらまだつぼみが少し膨らんだ所（後一週間もすれば見ごろかな？）、天気もよく山頂からは妙義山、浅間隠山…と360度の眺め、デカコブはしばし忘れて今はこの景色を楽しもう。

さて、これから始まるアップダウンの厳しさは、鹿岳に登るための訓練かと思えるほどのものだった。美しい幹のリョウブには何度も体重を支えてもらい、ヤシオツツジには元気を与えられ、四方の山々から勇気付けられながら、やっとアブラチャン満開のマメガタ峠へ辿り着いた。ここで昼食を取り足を少し休めた後、気持ちを引き締めて鹿岳へ、ここからコブの肩まではきつい登りの連続、足元の確保に夢中になっている間にいつのまにか肩に来ていた。やしおつつじでおおわれたひとつ目のコブ（一ノ岳）は足元に気を取られている間に登頂、一瞬粉雪が舞った（山の神が祝福の紙吹雪の真似か）。またもうひとつのコブ（二ノ岳）はリュックを置いて行ったためか、また足元に気を取られている間に…、かくして、頭の中にドーンと陣取っていたデカコブが、ウソー…消えていた。

コブの上からの眺めはこれはもう最高（これだから山は止められない？と聞いた風なことを言う）。ここからはもう下山あるのみ。デカコブ直下の急な下りは慎重に、「落（石）」の声が幾度か、落とさない様、滑らない様、きつい下山中、なんとも言われないアカヤシオツツジの色が疲れた足にやさしい。帰りは西下仁田温泉「荒船の湯」で風呂とそばをいただいた。早朝から、またお疲れの所、運転して下さった方々、本当に有り難うございました。深く感謝いたします。



# 概要

山名	四ツ又山～鹿岳（西上州）		
期日	2000年4月16日 晴		
山行形式	日帰り（マイカー）	グレード	B
目的	展望抜群の奇峰縦走		
企画	ハイキング部	歩行時間	ネット6時間
費用	約8千円	地形図	荒船山
リーダー	細野省二	参加数	11名
日程コース	16日 我孫子駅南口 5:35 集合／5:45 出発～柏IC～上信越高速道～下仁田IC 8:05～小沢橋 8.45…四ツ又山（第1峰）10.15／25…マメガタ峠 11:00／11:25(昼食)…鹿岳（一ノ岳）12.15／25…二ノ岳 12:50…鞍部 1.10…下高原集落 1.55／2.25…小沢橋 3.25 下山～荒船の湯～下仁田～		
ルート状況	南峰直下の鎖場はななめに傾斜し足元が悪い。登り初めから、ここまで人と会わず。 鹿岳からの展望は妙義の岩山、荒船、雪の鼻曲、浅間隠、赤久縄山。 下高原の山村と人々はやさしさに満ちあふれていた。		



↑ キャプション（写真の説明）





<149>

養山 (奥武蔵)

583m

箕輪カオル

### 満開の桜の下でお花見を

前日の大雨で、山行ができるか心配だったに違いないリーダーの安田さん。でも、神は安田さんに微笑み当日は“快晴”でした。

5時30分に我孫子駅から常磐線、高崎線、秩父鉄道と乗り次いで皆野駅には8時30分に到着。皆野駅からは、日の前に養山、南に武甲山、西に両神山の山々が見られました。住宅地を通り抜け、別荘地をしばらく登り、そして、間もなく養山神社。この神社は、杉木立に囲まれていて深山の雰囲気いっぱい場所でした。せっかくきたので「お参りをしよう」ということになり、長い階段(112段)を数えながら(実際は松本さんだけが数えていた)社へ登りお参りをしました。

神社のところから少し登るとそこは「みはらし園地」でした。至るところに「まむし注意」の立て看板。それだけ自然豊かな所だと思われました。

みはらし園地は、皆野の町を一望できる展望台となっています。約一万本の桜が植えられているということです。4月中旬のソメイヨシノから5月上旬の山桜まで約一ヶ月間も桜が楽しめるということです。種類も数多く、私達の行った日は丁度見頃の時期でした。さすがに「関東の吉野」と言わ

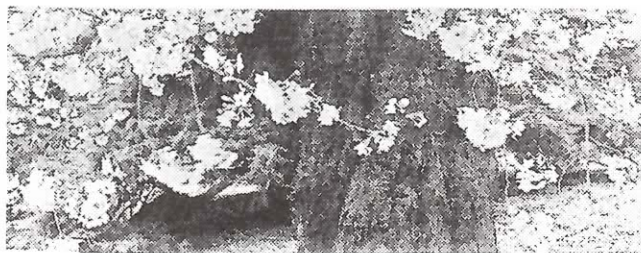
れているだけあると感じました。緑色に咲くという珍しい桜は、まだ蕾で開花が見られずちょっと残念でした。「来週も来なくちゃいけないなあ」と冗談を言う斉藤さんでした。

みはらし園地は、車で行かれるということもあり大勢の花見客で賑わっていました。

昼食は、大串恵子さんのメニュー「肉団子汁」で大満足。肉団子の味がよく染み込んでいて本当においしかったです。

予定より少し遅く養山をあとにし下山しました。途中「和同開珎」発掘跡に立ち寄りました。おばあさんが道に座り込み発掘跡について「あっちだよ」と教えてくれました。そのおばあさんの摘み草が三つ葉芹でした。市販のものとは違い、小さいが香りがいい。私達も自分たちの足下で三つ葉芹を探してみましたが、なかなか見つかりませんでした。

養山は、桜のほかに小さな草花も心豊かにしてくれました。今回出会った草花をあげてみます。野原の黄色いボタン、タンポポ(蒲公英)。日陰にひっそり群生しているヒトリシズカ(一人静)。タチツボスミレ(立ち坪菫)、エイザンスミレ(叡山菫)、マムシグサ(蝮草)、そしてイカリソウ(錨草)。やまぶき(山吹)の黄色と白の花。やまぶきによく似た花をつけたクサノオオ(草の王)。王朝の女官が着た十二単の衣装に似ていると付けられたジュウニヒトエ(十二単)。お歯黒の染料として用いられたというきぶし(木五倍子)の花。レンゲ草、木いちごの花、草ぼけ等々です。まさに、春爛漫の養山でした。養山は、美の山ともいわれるゆえんでしょう。



山名：蓑山（みのやま）（奥武蔵）

目的：満開のお花見と和銅遺跡を訪ねる。ルート

上野—熊谷—皆野駅—美の山—和同開珎—黒谷駅

山行期間 12年4月22日（土）

歩行時間： 3時間30分

交通費： 3700円

天候： 晴れ

参加人員： 19名

日程&コース 我孫子駅 5.30＝上野（高崎線） 6.16＝熊谷 7.23/秩父鉄道 7.40 皆野駅 8.30～別荘地 9.30～見晴らし園地 10.00～蓑山山頂 11.00 昼食/下山 12.30～和銅遺跡 13.25～黒谷駅 13.59～熊谷 15.24～我孫子駅 17.10





<150>

## 大菩薩嶺

( 2, 057 m )

武内 勇 二

はじめに

大菩薩峠というと中里介山の同名の長編小説がまずは念頭に浮かぶ。本年岳人あびこのリーダーに選ばれリーダーとして山行計画を提出するにあたり、たまたま本年初めより小説を読み始め一度は行ってみたいと思っていたこの山を選んだ。

初のリーダーを務めるとなるとそれなりに緊張する。本番の1週間前に妻を伴い偵察行に出かけ、予定コースを歩くことにした。丸川峠を過ぎ暫く行くと雪が始め頂上までアイスパーンの道が続いた。軽アイゼンを1組しか用意していなかったため難渋を強いられた。山行計画書にアイゼンは必須と追記、参加者に注意を促すこととした。

曇りのち晴れ

塩山駅 8時52分着、塩山タクシーの佐野さんが手を振って迎えてくれているのが車窓からみえた。タクシー3台に分乗、順調に丸川峠分岐に着いた。柔軟体操を柴田さんをお願いし入念に体をほぐした後9時20分出発。先頭はSLの榊原さんをお願いした。丸川峠までは比較的急坂に行くことになる。飯高君は花粉症対策として大きなマスクをして最初、列の後方を歩いていたが、呼吸が苦しいのかどうしても遅れがちになるので前2番目のポジションにかえた。峠まであと20分というあたりで心配していた雨がぱらぱらときたが雨具をつけるほどのこともなく直ぐに止んだ。

丸川峠の小屋は美味しいコーヒーを入れてくれるとの情報を人づてに聞いていたが、期待した富士山は雲に隠れているので、休

憩は最低限のことをするだけの時間に留め先を急ぐこととした。



峠より少し登るとやがて鬱蒼としたモミ、ツガの樹林帯の中の道に行く。心配した雪もこの1週間でもかなり解けたのか8合目あたりまではアイゼンなしで行けた。

大菩薩嶺の頂上は樹に囲まれ展望はないので登頂記念の写真のあと直ぐに下山にかかった。下り道は南面にあるので雪がない代わりにぬかるんでいるところがあり、滑らない様足元に注意しながら10分ほど下ると展望のよい雷岩に到着、ここで昼食休憩とした。雲がとれて日が射してきたが風がやたらと強い。岩陰に身を隠すようにして昼食をとった。

小鳥が飛んできて手にとまり、しきりに餌をねだる。全然人を怖がらない。介山荘の人が餌付けしたのだという。

約30分の休憩の後、草原の道を下りにか

かった。明るく気持ちの良い道だ。富士山が見え歓声が上がる。残念ながら南アルプスは霞んでいて見えなかった。

台地状の賽の河原は明治の初めまではここが大菩薩峠であったというが峠越えの道は今はない。昔の人はここを越さねば江戸から甲斐に入れなかったのだ。さぞかし山賊にも悩まされたことだろう。高速道路や鉄道による現代の旅の容易さに慣れたものにとって山登りはレクリエーションにすぎないが、昔の人にとって山行く旅は命がけの難行だったのだろう。

小説大菩薩峠の冒頭にある、子供のお松を連れた爺さんが無残なめにあったのはここより少し下った辺りだろうか。

避難小屋をすぎ少し下った所に中里介山の文学碑があり、更に暫く行くと介山荘に着く。ここが現在の大菩薩峠で標高1897mの指導標がある。

(小説・大菩薩峠の冒頭)

### 大菩薩峠 中里介山

大菩薩峠は江戸を西に距る30里、甲州裏街道が甲斐国東山梨郡萩原村に入って、その最も高く最も険しきところ、上下8里にわたる難所がそれです。標高6千4百尺、昔、高き聖が、この峰の頂に立って、東に落つる水も清かれ、西に落つる水も清かれと祈って、菩薩の像を埋めて置いた、それから東に落つる水は多摩川となり、西に流るるは笛吹川となり、いずれの流れも末永く人を湿おし田を実らすと伝えられております。(省略)

青梅から16里、その甲州裏街道第一の難所たる大菩薩峠は、記録によれば古代に大和武尊、中世に日蓮上人の遊跡があり.....

上日川峠を経由してどんどん下る。千石茶屋でドライブウエーに下り、朝出発した丸川峠の分岐を過ぎ、裂石の雲峰寺に立ち寄った。天然記念物に指定されているエドヒガン桜の巨木がある。花はすこし残っていたが盛りを過ぎていたのは残念だった。バス停前のみやげ物屋で反省会。ヒヤリハットも特になく、無事初リーダーとしての山行を終えることが出来た。



(この展望を期待したのだが、残念ながら霞んで見えなかった。)

山名	大菩薩嶺	山行形式	日帰り
日時	平成12年4月23日(日)		
山城	奥秩父 大菩薩連嶺	地図	大菩薩峠、 柳沢峠 (2万5千)
目的	富士の展望 と草原の道	交通 機関	JR・タクシー
歩行 時間	6時間 50分	費用	3,000円
日程・ コース	我孫子 5:33＝塩山 8:52＝丸川峠分岐 9:07/9:20～丸川峠 11:13/11:30～大菩薩嶺 1:02/1:05～雷岩 1:15/1:45～賽の河原 2:07～大菩薩峠 2:23～富士見山荘 3:00～福ちゃん荘 3:10～大菩薩登山口(裂石) 4:20＝バス 5:15＝5:35/6:27＝我孫子		



<151>

## 大塚山～中塚山(房総)

### 山菜摘み山行

外崎 蓮

#### 房総の里山を、植物探検隊が行く

今年の2月、追原ダム計画のあった小櫃川上流で、県連の自然保護委員会主催による自然観察会が行われた。その日、委員長のう沢氏は、河原でヒラメの化石を見せてくれたり、伝説の郷、追原へ案内してくれたりした。その時私は、春になったらここへ山菜摘みに来てみたいと思った。そして今回、追原ではないがそれが実現出来ることになった。はじめ私は、山菜摘みといっても民家の空き地に入って採ることは出来ないし、追原にしても誰かの許可がいるのではないかと思い、う沢氏に電話で聞いてみることにした。彼は私達が房総を訪問することを歓迎してか、当日は案内人を立てましようと言ってくれた。世話好きな人たちだから、喜んで引き受けるでしょうとも。私は素直に礼を述べた。

さて当日がやってきた。参加者は20名。バスの運転手さんも当会にとっては親戚みたいな人。今日はいつもの山行と違って楽しいハイキングと山菜摘み。心を弾ませ、春風の中を房総へ。鴨川市街地をぬけ、長狭街道と410号線の交差点を左に行った道の駅「みんなみの里」が案内人との待ち合わせ場所。一足先に着いた私達は、入り口を開けてもらって広い駐車場で彼らを待つ。約30分後、3人とご対面と相成った。彼ら

は、う沢氏と同じふわくハイキングサークルに所属する仲間とのこと。3人ともめったに県外に出ず、もっぱら房総のみ歩き回っているということで、どこに何があるのか手に取るように分かっているらしい。その中のリーダー的存在の野口氏は、早速駐車場の隅に地図を広げ、これから行く大塚山と中塚山の場所を説明してくれる。入れ歯がガタガタして多少聞き取れない面もあるが、ここからのリーダーは野口氏なので、あとは彼におまかせする。

再びバスに乗り山手に向かう。高台でバスを降りると、車を移動させた案内人3人を待って車道から杉林の中に入っていく。林の中には細々とした道がついている。先頭に行く野口氏は、道端の木や草を盛んに説明しながら行く。後部の方でも植物学者と言われる物静かな坂口氏の説明が始まる。こんな林の中に、説明にことかかない程のめずらしい植物があるなんて思ってもみなかった。何でも、フートーカズラはギリシャ語でピッペルカジュラといい、長生郡が北限で唯一の胡椒科とか。さすがは坂口氏だ。彼は、山菜摘みとは縁のないりっぱな植物学者なのだ。

案内されてたどり着いたところが藪山の大きなマテバ椎の木がある他は広場も展望もない。Uターンして今度は中塚山へ。林の中を導かれるままに歩き回って、一方向のみぽっかり開けた高台に上がる。ここが中塚山で、ここからは大山の千枚田を見ることが出来る。実際は300枚ということだが、この棚田は結構有名で、ここへ写真をとりに来る人が多いのだそうだ。私達は狭い岩場に立ってかわるがわるながめた後、中塚山を下って薄暗い林の中からはじかれたように里にとび出す。



## うららかな里道を 山菜摘みのご一行様が行く～

山に入り組んだ湿地帯にとびだすと、何とそこは一面のセリ畑。三つ葉も混じっている。歓声を上げながらセリの群落に飛びつき、忙しくナイフで摘む。何て楽しいだろう。私はこの時を想像して房総へやって来たのだから。食べるよりも摘むのがもっと好きな私。大分先の方で、野口氏がしびれを切らして待っているというのに動けない。山田の中には、黒い塊のようにおたまじゃくしがいっぱいいて、畦を歩くとサッと散る。民家が見え出すと山菜摘みはストップだ。農道に出て一行はビニール袋を片手に三々五々、うららかな日差しの中を桜公園に向かう。が、歩くと時間がかかるため、どこぞの民家の道端に集合してここから車で桜公園へ運んでもらう。この公園は県連のロングハイキングの時、茂原山の

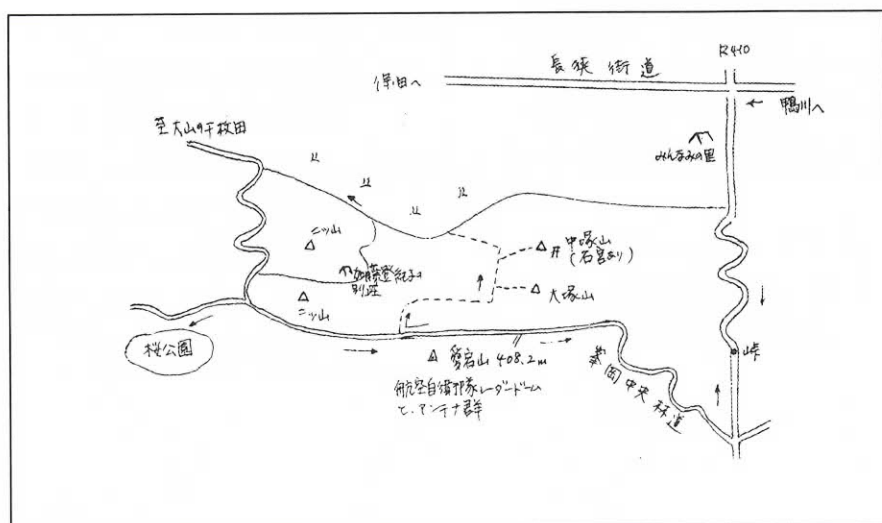
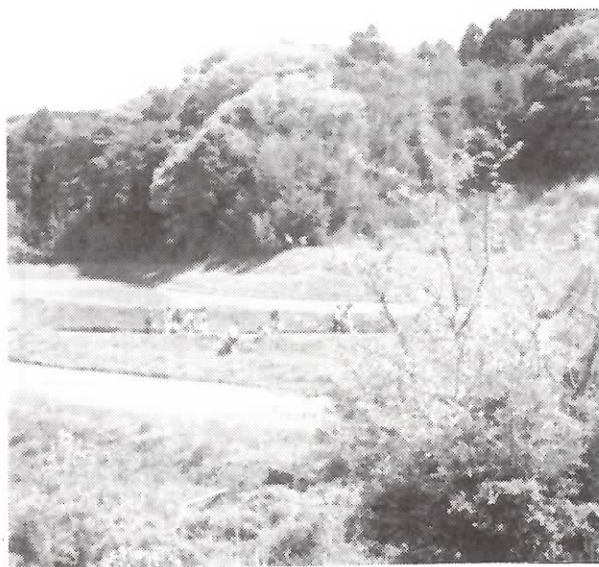
会の人たちが豚汁を作ってくれた場所である。一行が桜公園に揃うと、バスの中から持参したフライパンや小麦粉を持ち出し、山菜の天ぷら作りと相成った。三つのフライパンに女性達がとりつくのと、男性達は桜の木の下に腰を下ろし、天ぷらの揚がるのを待ちかまえている。運転手さんも、植物学者の坂田氏も。うどや野草の天ぷらは、房総の春の香りがした。たのしい昼食がすむと、坂田氏と園部氏は先にここを発った。3時過ぎ私達もここを発ち、道の駅に寄る。野口氏はまだ案内がし足りない風であったが、お別れすることにした。ここから410号線を清和県民の森ロマンの里へ行き、う沢氏に教えられた白壁の湯に入る。温泉を出たのは5時過ぎ。程良い疲れと、山菜のおみやげを携えてあとは一路我が家へ。

## < 後日談 >

山行後、う沢氏にお礼の電話を入れるとともに、案内を買って出てくれた3人に少しばかりのお礼と寄せ書きを送った。それからまもなく野口氏から、その時の写真数枚と寄せ書きに感激したという手紙が送られてきた。園部氏からはいつ撮ったのかビデオが送られてきた。ビデオは参加者全員に回覧した。大半が房総の植物であったが、私はこのビデオを最後まで見ることは出来なかった。途中から急に吐き気をもよおし、座ってられなくなった。どうやらビデオに酔ったようなのだ。にもかかわらず、その後もさらに房総の花ばかりを収録した2つ目のビデオテープが送られてきた。とても見る気にはなれなくて。棚で眠っています、お許し下さい、園部さん。



山名	大塚山～中塚山（房総）
期日	平成12年4月29日（日）
目的	房総の里山を歩き、山菜摘みを楽しむ
山行形式	日帰り、バス利用
地形図	金東（2万5千図）
コース	我孫子北口5：30～袖ヶ浦IC～鴨川有料道路～長狭街道～みんなみの里8：30／9：00～大塚山～中塚山～桜公園～清和県民の森白壁の湯～木更津南IC～千葉～我孫子20：40
総費用	一人5,000円（バス保険200円含む）



<152> - 1

神津島・伊豆諸島の山

## 天 上 山 (574m)

細野 清子

### 船酔い覚悟でゆったり船の山旅へ

ゴールデン、ウイーク初の海外登山と命名し、海を見る山の旅を考えた。

伊豆諸島の中で山を抱えた島のとっぺんに(天上山)という名の登る山がある。

書物によると山上の景観がすばらしいという、それでは、と、ゴールデンウイークに登ることを計画した。

船旅は酔わない人もあろうが、私の一番の苦手…酔い止めのくすりを持ち覚悟して3週間前にわが会の賛同者を募った。幸い面白い企画じゃないかと予想外の好評を受けた。京都の姉夫妻まで番外の飛び入りがあり稀にみる面白い山旅と海旅の贅沢な旅になった。

夕暮れの時間に東京竹芝客船ターミナルに向け人の波はすごい！乗船できるかな！と思うほど人各が集って来る。帰島する人、サーフィンらしき人、様々だ。東海汽船「さるびあ丸」ではザックを持った人も多い。22時出発までターミナルで時間を費やす。3等船室は船下2階にあり毛布をかけただけの(雑魚寝)状態だった。

明け2日目海原は平穏、デッキから、新島、式根島を左に見て待望の神津島に着いた。

港ではたくさんの民宿の出迎えがある。

民宿に着き海辺周辺をぶらり散歩。→その第一弾の行動は事前に用意した海水着で、待望の海辺の神津島温泉に入湯、風や波を身近に「ああ極楽極楽！」女性達も、うっとりでした。郷土資料館のほか、悲しい物語キリシタン…ジュリアの墓を訪ねたり、静かに海辺を散策し翌朝、いよいよ本番の天上山に向かう。見上げながら急な坂道の黒島口登山道を登る、千代を経て天上山山頂に着く。

頂上からは四方が海に広がり大きく深呼吸をすると雄大な気分になった

先着で歓声をあげる米国から来た学生達と写真を撮りあい交歓会は盛り上がった。はるかに広がる眼下の海への下りは裏砂漠を通り上ったり下ったりして神津島沢右岸に沿っていくと前浜に帰り着く。

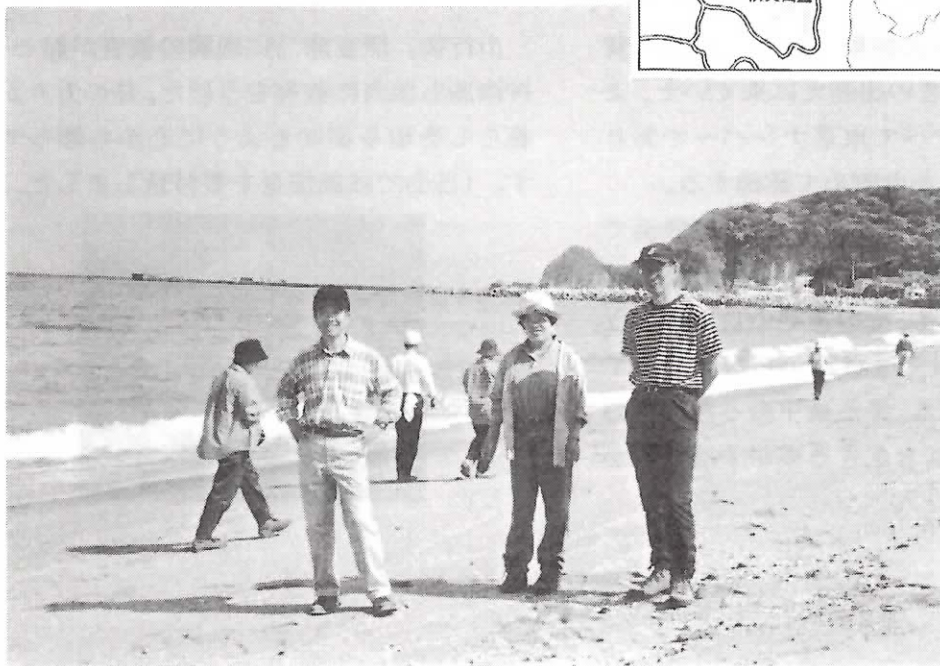
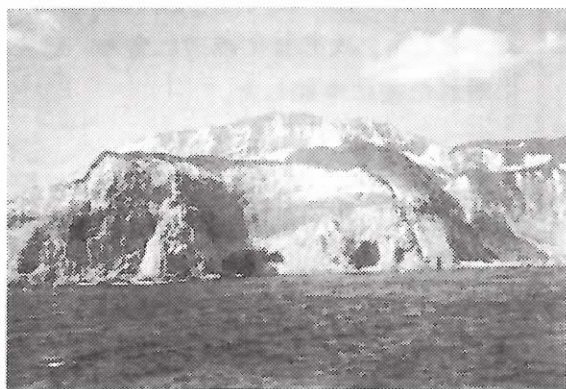
民宿では夕食に貴重品の珍品「くさや」が食膳に出された、皆がおいしいと大喜び、(1人異端児がいた、その臭いに怒り動転した我が夫については許してください、初めての臭いで腰が抜け皆さんに迷惑をかけました。大いに反省しその話をするると現在でも小さくなります)

山 名	天上山	
期日	12年5月3日夜11時30分乗船 ～5日	天気： 全日快晴
山城	伊豆諸島	神津島
費用 交通	約25,000円(交通、宿泊、入浴 東海汽船かとれあ丸2等船室 竹芝客船ターミナル～神津島港(往復)	
コース	民宿…黒島登山口…千代池… 天上山…那智堂…白島口…民宿	
参加者	高橋芳夫妻、原田夫妻、斎藤、外崎、 飯高、柴田、榊原、由布、斎藤 細野清子(L)夫妻、番外客人2名	





船上から天上山東面



<152>-2

天上山 テンジョウサン  
(574m)

飯高 基靖

### 太平洋を眺めつつ

### アルプス登山

神津島は我孫子から200キロ離れた伊豆諸島の島である。周囲は砂浜に囲まれ、沖縄のような海の美しさを誇る自然豊かな島である。だが、活火山であるが故にたびたび噴火を繰り返し、関東百名山の一つである天上山を形成した。今回はその最高峰を目指した。

私達は、東京竹芝桟橋より夜中フェリーにて神津島にむかった。連休中の為、大勢の観光客が乗船し寝場所の確保に苦労する。

そして、明朝に日の出を見る。海からのそれは言葉に尽くせぬ程美しい。しばらくして伊豆大島に着く。次に利島、新島、式根島に寄港した。海流の流れが変化するせいか海が驚く程美しい。新島、式根島はサーフィンのメッカだそうで大勢のサーファーが下船していく。そして、神津島に着くと島の人々が集合していて船内貨物の受け取り、乗船者の出迎えに来ていた。よくみると自動車はすべて東京ナンバーでありここも東京なんだなあと改めて認識する。

下船するとそこはコバルトブルーの砂浜で多くの熱帯魚が気持ちよさそうに泳いでいるのがはっきりとみえる。その後登山口にむかう。島の人々はとても親切で道がわからなくなっても丁寧に教えてくれる。また途中会った学生の目が輝かしい。活き活き生きる姿がすばらしか

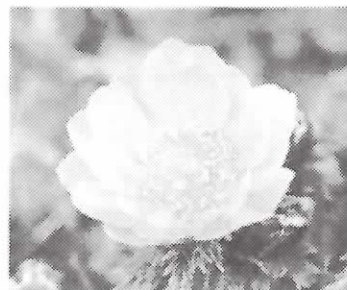
った。さらに島特有の植物をみながら歩くと、畑仕事をしている方、車で忙しそうに桟橋へ向かう方などがいた。そして、登山口に着くつとでに観光ツアーで登山中の方が登っていた。その後をゆっくりと白い石を踏みしめながら登る。天気恵まれ見晴らしは最高。稜線に立つと台地上にアルプスのような岩山がいくつも点在していた。海ははるか下に有りものすごい高度感。山頂のような山が幾つもありどこが山頂だか判らない。ようやく見つけて記念撮影をした。

その後、下山して神津島温泉に向かう。そこは海に面した見晴らし抜群の場所である。その後旅館に入り地元の魚料理を頂く。

特にくさや(魚を塩水に漬けて干したもの)は焼くと匂いが強いので閉口した。夜は満天の星を見る。この世にこれ程の星があったのかと驚く。そして、次の日に浜辺に寄り、地元の歴史に触れた後に乗船した。

最後に、島にゴミは少なく登山道は整備され、島の方々が日ごろから努力しているから楽しい山行ができた事に感謝する。彼らを見習って手賀沼、利根川環境についてもっとやらねばならない事があると痛感した。

山行後、伊豆諸島に地震の被害が起こり神津島も相当に被害をうけた。島の方々が元の暮らしを取り戻せるように心から願っています。(当会では義援金を寄付致しました。)

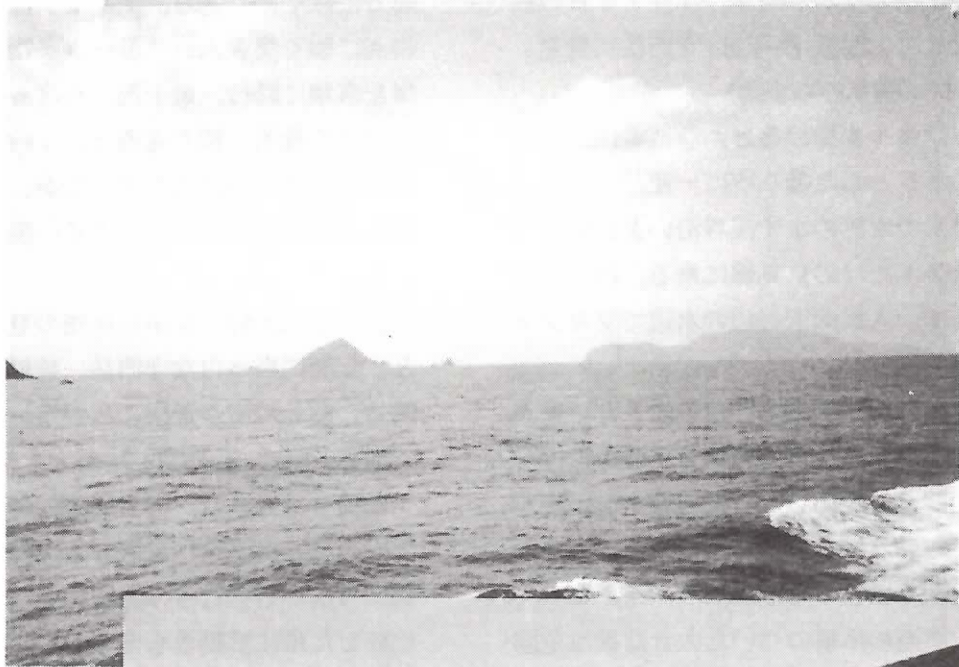




こころ広がる  
神津島山頂



船上より見る伊豆七島、右に神津島  
船はのたりのたりの波間を進む



山頂間近の休憩所で



## 浅草岳・守門岳

(やまたん誌より転載)

### 春山合宿

#### 雪山の美しさと厳しさと

① 当初企画では、昨年に続いて東北シリーズの飯豊連峰縦走を予定していた。しかし、例年になく積雪量で交通機関の開通が遅れているため、残念ながら断念。4月28日の参加者打合せで、急遽、浅草岳・守門岳に変更。

#### ② 1日目 (曇りのち小雨)

清水トンネルを抜けると、急に雪山が現われ、どんよりとした曇り空に一変。

雪解け水で水嵩のます溪谷沿いを長閑に走る、1日3本だけの只見線に乗る。待ち時間を利用して、入広瀬駅周辺の水辺でフキノトウの新芽摘み。

浅草岳には誰も登っていないようだ。タクシー運転手も登山口までの除雪状況を把握していないほど。登山口から適当なテント場を探しながら登り始める。残雪は未だに数メートル。地図では右の尾根筋が登山道になっているが、雪崩の爪痕のついた大きな沢は危険で渡れない。750m地点まで引き返し、雪崩の危険を考慮し登山口の雪上にテントを設営。

テント内にはフキノトウの春の香りが漂い、酒の香はいずこへ。食担の手料理に舌鼓。

#### ③ 2日目 (小雨)

積雪時のみの登山口から登ってみる。融雪で増水している2m程の小さな沢を渡渉。雪崩を避け尾根筋を登る。登山道のところだけ雪がなく、雪解け水に湿る道端には一面、可憐なイワウチワ。平石山直下から先は道が見当たらない。浅草岳にはガスがかかり、天候も悪化。安全を考え登頂を断念し下山。急斜

面の藪から雪面に下りる際は、雪崩を引き起こさないように静かに、とのリーダーの指示。登り以上に滑落に注意しながら慎重に下りる。

只見線で大白川駅へ。駅には山菜共和国の看板以外は人家などなにもない。駅前の斜面には、間口50m奥行10mほどに広がる自生カタクリの大群落。思わず見惚れる。

#### ④ 3日目 (快晴無風)

テントの外側が氷結。見上げれば雲ひとつない五月晴れ。無風。実に爽やか。スキーリフトを横目にゲレンデを登り登山口へ。直ぐに急峻な小さな沢を直登。両手でピッケルを前方に深く差し込み、アイゼンの前爪を雪の斜面に強く突き入れ、リーダー指示の2点確保を真摯に励行。最上部は斜度60度以上と思われる難所。振り返ると、1時間以上かけて登ってきた急斜面のすべてが、雪でできた滑り台のように足下に見える。源頭で一呼吸…ホッ！

藪ごぎに苦闘しながら尾根の登山道に出ると、正面に真っ白な守門岳。稜線の向うには明るい藍色の空が無限に広がる。背後にも雪を戴く八海山・越後駒ヶ岳が大きく聳え立つ。

山頂では360°の大展望。越後・会津・上州の山々がすべて見渡せる。特に、南に幾重にも広がる奥行きのある山並みは壮観。雪化粧した頂には動きも音もない。5月の強い日差しに白く照り輝く姿が神々しい。遥かに巻機山・谷川連峰・燧ヶ岳…。憧れの飯豊連峰は東側に大きく横たわる。全員、満面の笑み、幸せは今ここに。

下山は安全を考え表ルートに変更。巨大な雪庇の横を通る時は緊張するが、登りルートと異なり、総じて展望を楽しみながらのルンルン下山。雪面に立つ木々は未だ春の目覚め前。唯一、マンサクの黄色い花だけが目につく。雪のない登山道や斜面の僅かな土面は、イワウチワ、カタクリ、アズマイチゲなどが所狭しと咲き誇る花園。花の名山の面目躍如。

⑤ 山菜共和国の民宿では、ぜんまい煮付け、



ギボシ酢味噌、コゴミごま和え、ふきのとう味噌とカタクリの花、ウドのワサビ和え、アケビつるの浸しもの…と山菜ずくし。天ぷらにも、ウド(一本揚げ)、とりあし、よもぎ、ふきのとう、イタドリ、コゴミと小エビ、とんび舞茸…が。

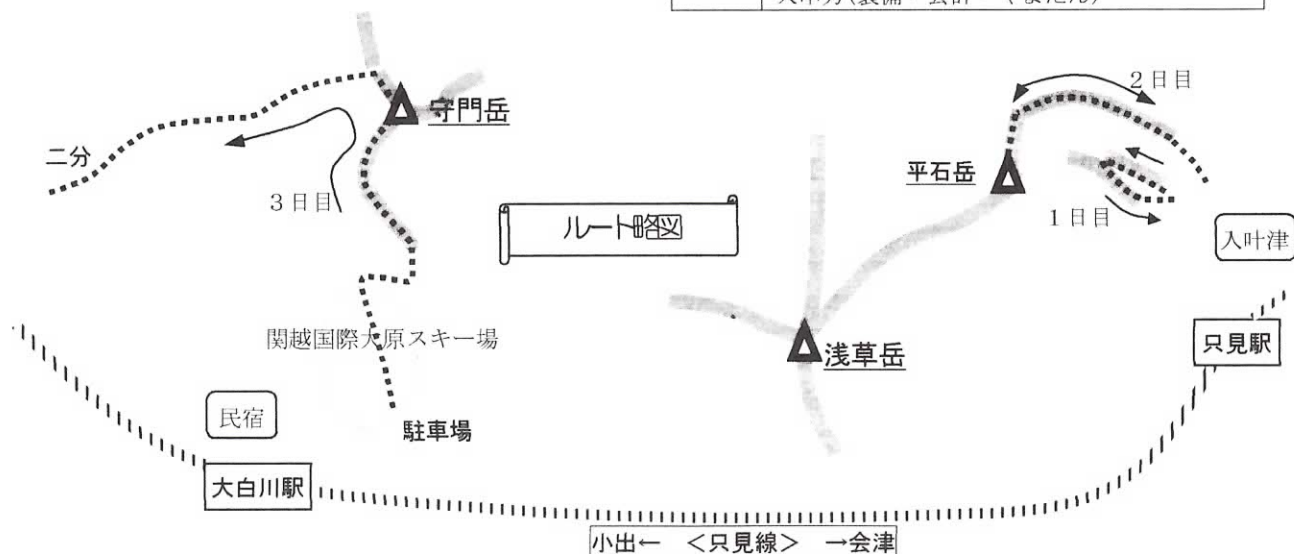
自家製魚沼コシヒカリ100%のご飯は、沢庵と梅干しだけで十分。いつもは酒だけの方々も、オカワリ、オカワリ…。このうえ、銘酒八海山の喉越しはモウ…。

⑥ 雪山では雪崩や滑落の危険に絶無を期すことは難しい。今回の山行は常に安全第一を考え、可能な限り、危険回避を実践。リーダー的確な行動や指示には、唯々敬服。雪山の美しさと厳しさを十分すぎるほど体験できた春山合宿だった。

未だに、満ち足りたものが残る。浅草岳・守門岳の両山には花の最盛期(6～7月)に再度登ってみたいものだ。むろん、山菜民宿泊セットで…。(大串秀)

山名	浅草岳・守門岳(越後)
月日	平成12年5月3日(祝)～6日(土) (テント2泊・民宿1泊)
目的	ゴールデンウィーク春山合宿 …白き峰に登山技術の向上を目指して ①合宿を通じての春山生活の体験。 ②雪山の美しさと厳しさの体験。

行程 コース	1 日目	我孫子 5:30⇒上野 6:30⇒高崎駅 8:22/8:25⇒ 水上駅 9:30/9:43⇒小出駅 11:00/11:30(昼食) ⇒(未沢行バス)⇒入広瀬駅 12:10/13:40(フキ ノトウ摘み)⇒(只見線)⇒只見駅 14:20/14:35 ⇒(タクシー)⇒入叶津 14:40⇒登山口 14:53/15:00⇒750m地点 16:25⇒登山口 17:00 (テント設営・泊) ＜歩行時間：2時間＞
	2 日目	登山口(起床 5:00)出発 7:10⇒雪山登山口(ス ノーシェッド手前)7:15⇒平石山 8:55/9:00⇒ 雪山登山口 9:40⇒登山口 10:00/10:10(テント 移動)⇒雪山登山口 10:20/13:00(昼食・テント 撤収)⇒入叶津 13:40⇒(タクシー)⇒只見駅 14:00/16:20(民俗記念館見学)⇒(只見線)⇒ 大白川駅 16:50⇒(民宿車)⇒スキー場駐車場 17:00 (テント設営・泊) ＜歩行時間：3時間＞
	3 日目	スキー場駐車場(起床 5:00)出発 6:30⇒池分岐 7:40/7:50⇒870m地点登山道分岐 9:00/9:15⇒1200m地点 10:50/11:05⇒守 門岳山頂 12:00/12:45(昼食)⇒850m地点 14:05/14:15⇒750m地点 14:30/14:40(給 水)⇒二分登山口 15:20⇒駐車場 15:45/16:00 ⇒(ヒッチハイク)⇒守門村 16:15/17:00⇒(民 宿車)⇒スキー場駐車場(テント撤収)17:30⇒ (民宿車)⇒大白川民宿「休み場」17:45 (泊) ＜歩行時間：9時間30分＞
	4 日目	大白川民宿(起床 6:00)出発 8:50⇒(民宿車)⇒ 大白川駅 8:55/9:28⇒(只見線)⇒小出駅 10:20/11:16⇒水上駅 12:38/12:45⇒高崎駅 13:46/14:10⇒上野 15:57/16:06⇒我孫子 ＜歩行時間なし＞
ルート 状況	雪崩の爪痕が随所に点在。雪崩・滑落に対し、 十分な知識と注意力を必要とするルート。 …今回の山行直後、山菜民宿組合の長を努め る地元の長老が、浅草岳で、遭難者の捜索 隊を指揮中に雪崩に遭遇し、死亡する事故 が発生している。	
参加者	村松敏(L)、柴(SL・カメラ)、清家(食担・ 記録)、村松峯(食担)、北川(記録・やまなみ)、 大串秀(装備・会計・やまたん)	



<154>

## 霧降高原 (日光)

(1,689m)

小川誠二郎

### 奥床しい花々

登山口から見上げると、キスゲ平の頂上が左に、その右に更に高い丸山の頂上が見える。

いつものことだが、登る前に見る山は大きくて高くて遠い。あの頂上へ今から自分の足で登って行くとは信じられない。登り始めてまずカタクリの花に会う。弱弱しげながらこの寒い山でしっかり春を告げているのが健気で可愛い。キスゲ平は意外に楽に到着した。ここから丸山を見ると、登山口から見たよりずっと身近でなだらかにつながっている。山は一步一步登れば到着できるものなんだなあと、これは初心者の感動。若いカップルにキス

ゲ平でも丸山でもシャッターを押して貰う。お礼にシャッター押しましょうかと言ったら結構ですと。お節介は禁物。下山道には氷や残雪、ぬかるみなどあってここでは春は遅い。熊笹の八平ヶ原を通過して、登って来た道に入る。再びカタクリの花を見ながら下山。誰かこの花知ってますかの声。ヤブレガサとのこと。物知りは偉い。下りて来て振り返ると山は霧に包まれて見えない。

山は登る前と下りて来てからでは印象が違うので、それを確かめたかったができなかった。高原ハウスのなだらかな斜面、スキーのゲレンデでコンロを並べてケンチン汁の調理。働く人、講釈する人。ケンチン汁とブタ汁の違いは味噌が入るか入らないかの違いとか。食事を済ませて出発。しばらくはひたすら下る。枯木山の色

なき景色にとろとろぼつぽつとピンクのやしほ。人知れず咲く様が奥床しい。期待のつつじには1週間程早いらし

いが、そのためやしほの風情が味わえて、これもまた結構。牧場のなだらかな坂を上り下りしたあとつつじの道に入る。朱色のつつじ。やしほにもつつじにも会えて嬉しい。道から外れてつつじの根方に身を置いて写真を撮るのは山のルール違反だから、記念撮影も難しい。霧降茶屋に到着、滝見台への道を下る。道の下の方から立つ木に白やしほ。きょうは赤白のやしほにお目にかかって光栄。滝は水量多く音を立てて落ちている。茶屋の前に

戻って、つつじの前で写真を撮ってバスは出発、やしほの湯で筋肉をほぐしたあとはバスで反省学習会。奥床しい花を訪ねた一日だった。

山道のかたくりの花踏まぬやう 誠二郎

#### [概要]

日 時：平成 12 年 5 月 7 日 (日) 日帰り

リーダー：榊原文子 グレード：A

天 候：くもり

目 的：満開のつつじを期待して

参加者：18 名。

費用：5,000 円 (貸切バス利用)

行動時間：6 時間 50 分、歩行時間 4 時間 50 分。

コース：我孫子駅北口発貸切バス 5:30—登山口駐車場 8:30—大山ハイキング入口 8:45—キスゲ平 1,635m 9:20 / 9:35—丸山頂上 1,689m 10:00 / 10:10—八平ヶ原 10:40 / 11:08—登山口駐車場 11:20 / 12:35 昼食—牧場の頂上、大山 13:35 / 13:40—猫の平 14:15 / 14:22—つつじヶ丘 14:40—霧降の滝入口、霧降茶屋 15:35、霧降の滝を見に行く—バス出発 16:12—やしほの湯 16:30 / 17:10—我孫子駅南口 20:20



< 1 5 5 >

## 景信山～高尾山

(727m 599m)

中村八重子

高尾山口までは稲荷山コースを歩く。気持ちのよい尾根歩きでありました

\* 景信山～高尾山は東京都を代表する入門の山。トイレ、ベンチ、標識、茶店など、よく整備されていました。  
さすが東京！！

## 入門の山 高尾山

昨夜の雷と豪雨で寝不足気味で家を出発した。  
今回の山行はリーダーを斎藤さんをお願いし、  
私たち3期有志の企画で実行となりました。(少し違った気持ちです)

高尾駅では同じバスに乗るのでしょうか？多くのハイカーが小仏行きの乗り場で順番を待っていました。車内はハイキング客でギュウギュウでしたが、雨上がりの車窓は新緑がまぶしかったです。水木の花、フジの花が目に飛び込んできました。

景信山入口付近は植林の山、急坂で展望がえられませんでした。雨上がりのため滑りやすかった。まもなく雑木林に変わりました。

景信山頂上は霞に包まれていました。小休止し東へ……、広々した山頂の城山でゆっくり昼食をとる。名物のなめこ汁をいただく(ワインをあげているパーティーもあった)。ところどころ南西の展望が開け、相模湖を望むことが出来ました。今日は丹沢、富士山が見えないのが残念です。

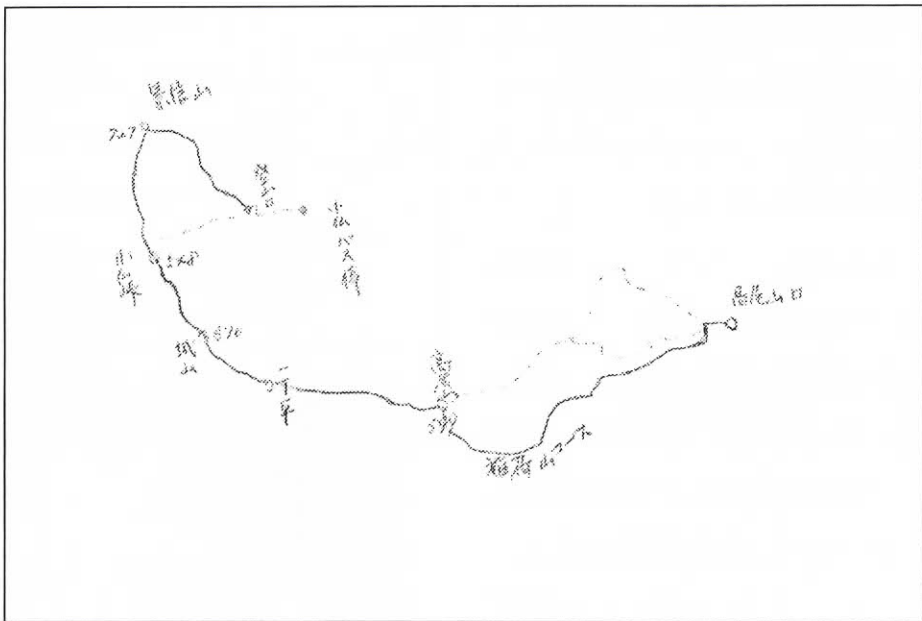
一丁平付近は多くの山野草が鑑賞できる場所、日陰のしめっぽい山肌にはシャガの花がひっそりと咲いていました。

高尾山頂上はどこからわいてきたのか、日地、人、人、人です。太陽がさし蒸し暑い。アイスクリームをほおぼる。

### 概 要

山 名	景信山～高尾山
期 日	平成12年5月14日(日)
山行形式	日帰り
山 域	中央沿線
目 的	新緑を求めて
費 用	約2,500円(ホリデーパスの利用)
行 程	我孫子駅6:09＝東京7:02＝高尾8:14/8:25⇒小仏バス停8:45～小仏登山口9:05～景信山10:05/10:30～小仏峠11:00/11:05～城山11:30/12:15～一丁平12:35～紅葉台13:05～高尾山13:20/13:30～(稲荷山コース)～京王高尾山駅14:55/16:40＝神田＝我孫子18:15







<156>

## 子持山

(1296m)

佐藤 きみよ

### 360度の眺め、 武尊・榛名・谷川

赤城、榛名の両雄に挟まれている子持山、渋川駅よりタクシーで30分、7号橋を渡ったところが登山口。登山口の駐車場は車が6台ほど、上を見上げれば柱状の屏風岩がそそり立っている。珍しい形状の岩、さながら盆栽のようだ。針葉樹林を抜け小川のある登山道を登り切ると獅子岩（又の名を大黒岩）に出る。この岩を探すのに結構迷う。

ここからは岩場のあるやせ尾根になる。雨のため滑りやすい。まもなく柳木ヶ峰というピークに出る。振り返ると獅子岩がスフィンクスのようにそびえ立っていた。少ない花の中で、ミツバツツジが美しい。途中ですべり落ちる人がいる。素早く木につかまる。すごい、よかった。更に気を引き締める。今日は行き交う登山者が少ない、、、もう少しで頂上だ。

頂上は意外と細長く広い。視界は昼食を食べている間に晴れ間がのぞく。バンザイ、歓声があがる。武尊山、谷川岳がきれいに見える。満足である。空があやしいので急いで下山、途中カミナリとどしゃ降りの雨に合う。

寺尾バス停に着くとすっかり雨が上がってしまった。あの雨は何だったのだろうか、くやしい。それでも久しぶりの山行に気分は上々でした。

#### 概要

山名	子持山（上州） 1296m		
期日	平成12年5月20日(日)		
山行形式	日帰り	グレード	A
目的	360度の山々の眺め、1等三角点の山		
企画	合同	歩行時間	4時間
費用	5,500円（ｽｰﾊﾟｰ-ﾎﾃﾙ-ﾊﾟｽ利用）		
地形図	上野中山、沼田、金井、鯉沢 (25000図)		
リーダー	細野清子	参加数	8名
日程コース	上野 6:30=渋川駅 8:55/9:00 タクシー ---子持神社奥社 9:23/9:30~屏風岩 ~水場~獅子岩 10:25/10:35~柳木ヶ峰 11:10~子持山 11:30/12:10~小峠 13:05/13:10~旭集落~寺尾バス停 13:55/14:15=沼田駅 14:25/15:01=上野=我孫子駅 18:35		



<157>

那須連山

南月山、茶臼岳、三本槍

三浦 七郎

## 那須の 春山 を歩く

活火山の茶臼岳はふもとの那須温泉郷を持ち山と温泉を求めて登る岳人が多い。強風のためロープウェイは一時運休中。天候に一抹の不安を感じながらの出発だったが初日、2日とも登山日和に恵まれ、まったくの杞憂に終わった。南月山の尾根道には、薄ピンクのミネザクラの花がチラホラ咲いている。

荒々しい山容を見せる茶臼岳は那須連山盟主の貫禄を見せている。茶臼岳山頂ではガスがかかり展望は明日までお預けだ。峰の茶屋で一服後、三斗温泉に向け、温泉！温泉！とサント？唱えて一目散に下る。

未明に温暖前線が通過したが出発時はまだ小雨、すぐに青空がひろがりはじめた。

この山には、変な名前がある、隠居倉と・・・なんとなく親しめる名前ではないか。

高齢の方々はニコニコ顔で記念にパチリ撮影。朝日岳から三本槍ヶ岳までは絶好の稜線歩きになった。コースタイムを上回る快調さ。残雪に輝く会津の山々が手招きしているかのように見えた。

下山路は花街道でまんかいのシロヤシオ、色鮮やかなシャクナゲがそこかしこに。ツツジの種類や可憐な草花の名称をテストされながら、気を付けて下山した。

那須の春山は、風薫る穏やかな晴れ！。

三斗小屋と大丸の三浦温泉では。温もりもいっぱいゆっくり湯ったり風呂三昧。厳しさの中にも滋味あふれる山行でした。





< 1 5 8 >

## 雲 取 山

(2018m)

第6回公開登山

山 本 正 敏

雲取山といえば東京都の最高峰で、最西端は東京都、山頂の北西は埼玉県、南西は山梨県と三都県の境をなしている。奥多摩で「日本100名山」に入っている唯一の山である。

### 第1日目

会員17名、公開登山一般参加者14名、計31名（ABC 3班編成）。我孫子駅北口ロータリーより貸切バスにて出発、鴨沢登山口下車。

総合リーダーの挨拶と各班リーダーおよび参加者の紹介の後、準備体操を行い、山行各班に分かれて出発。

緩やかな林道を通り、植林帯の登山道へと入る。背負っているザックが、先程分配された飲み物が入っているせいか、少々重く感じられる。これも訓練だ！

新緑の木々の中を通り、順調に堂所の尾根伝いに出る。ブナ坂に向かう手前、左手にブナ坂と右手に七ツ石尾根に至る分岐でどちらの方向か迷うが左手のブナ坂へと進む。丁度12時近くのため昼食休憩に入る。

20～30分前より今にも降りだしそうな空模様が気になっていたが、突然の雹と雷雨に会い、慌てふためいているため、雨具を取り出すのに手間取り大部濡れたようだ。休憩もほどほどに出発となったが、各班も隊列が乱れ、大部進行に影響がありそうだ。

霧も発生して見通しが悪くなり、足元が滑らないよう慎重に歩行を進める。ヘリポートの近くで雨もようやく小降りになり、まわりを観察する心の余裕も生まれ、防火帯の広々とした道

は単調な登りながら、周囲と自然との一体感のある、心を豊かにしてくれる風景と思われた。また、霧に浮かぶ遠方の山々が幻想的に思える。

雲取奥多摩小屋近くで雨もやみ、小休憩となるも、視界は悪く展望は皆無である。新緑の若々しい梢の原生林道を通り、小雲取山から一気に雲取山山頂に至る。視界もなんら変わらず、素晴らしい展望は明日に期待するのみ。

山頂より急斜面を下り、満開の山桜を見つつ今日の宿泊先、雲取山山荘（16：00）。ログハウス造りで、まだ木の香りのする手の行き届いた清潔な山荘で、本日は満員とのこと。

山荘に宿泊する人とテント泊する人に分かれ、夕食前に一同が庭に集合し今日の無事故と反省会を行う。

### 第2日目

04：00頃起床し、初めての宿泊で睡眠が少ないようだが体調はすこぶるよいようだ。

04：30、快晴、まぶしいばかりのご来光である。両手を合わせ拝む人、歓声をあげる人、それぞれ感動を表している。私も初めての体験で感激しました。

雲取山山荘06：50出発

昨日と違い澄み切った青い空とさわやかな風、快適な天候に恵まれての期待感で心がワクワクしている。疲れもとれそうだ。

山荘より大ダウまで下り道が続き、白岩山に向かつては上り坂に、緩やかなアップダウンの長い道のりが前白岩山に至る。

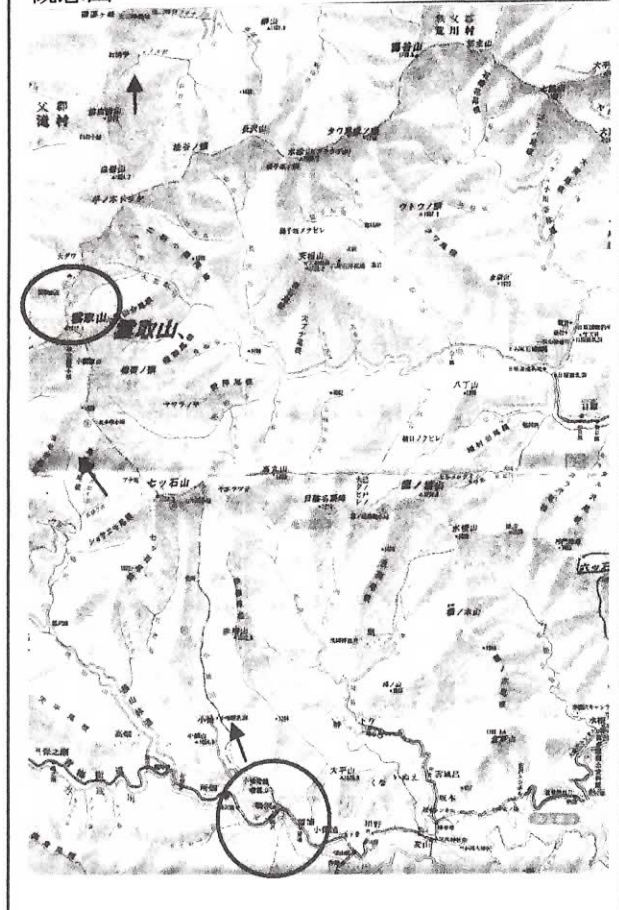
前白岩山では左前方に富士山が、南アルプスの北岳を抱き抱えるように、上端に高く白く秀峰が浮かんでいる姿がきれいだ。やっぱり晴れていないと見る事ができない。

深々とした森林美の原生林を通り、お清平、霧藻ヶ峰から三峰神社に下山する。（一同無事故）三峰神社で入浴後、バスにて岐路につく。

## 概要

山名	公開登山 <b>雲取山</b> (奥多摩) 2018m		
期日	平成12年6月3日(土)曇/雨～ 4日(日)晴		
山行形式	日帰り	グレード	B
目的	第6回公開登山、 新緑の東京都最高峰を登る。		
歩行時間	1日目7時間、2日目4時間40分		
費用	小屋泊15,000円、テント泊9,500円 (一般参加者は諸経費代として1000円追加)		
地形図	三峰、雲取山、丹波 (1/25000)		
総合リーダー	日下	参加数	会員17、一般14
			小屋21、テント10
日程コース	3日	我孫子5:40(バス利用)ー鴨沢8:30/ 9:00…登山道分岐 9:35…堂所 11:30… ブナ坂 13:40…五十人平(ヘリポート) 14:00…小雲取山 14:50…雲取山山頂 15:15…雲取山荘 16:00	
	4日	雲取山荘 6:50…大ダワ 7:04…白岩山 8:16…白岩小屋 8:35…前白岩山 9:00… お清平 9:55…霧藻ヶ峰 10:12…地蔵峠 10:26…炭焼平 10:46…妙法ヶ岳分岐 10:50…三峰神社 11:30(入浴等) 13:30 ー花園IC 16:05ー我孫子駅 18:30	

## 概念図



ガスで雲取山山頂からの展望はなかったが、2日目は快晴、空の青さと若葉の緑、幹の美しさ、さわやかな風……





快適な  
新しい雲取山荘で



2日目は快晴でした。



急登に喘ぐ参加者達！



# 公開登山に参加して

平成12年6月3日～4日 雲取山

(アイウエオ順 敬称略)

五十嵐順子	往復バス…地元から麓まで行けて良かった。下山してすぐ乗れて良かった。
	1日目～2日目…よいルートだった。突然の天候の変化に驚いたが安心だった。個人で登っていたらうろたえていたことと思う。2日目はどしどし山を下りるのがもったいなかったです。
	おふろにも入れて最高でした。
	山小屋…山小屋は最上級。水もあり、ふとんもよく、助かりました。
	岳人あびこ…皆さんによくしていただきありがとうございます。C班よかったです。
力五十嵐	その他…1日目の霧も、2日目の前白岩山からみえた富士山もよかった。お世話になりました。
	1日目～2日目…天候、参加者レベルからは限度だったか。ぶな、ミズナラの新緑が最高。
	山小屋…文句なし。極楽・極楽。
宇佐美孝	岳人あびこ…いつも良い公開登山の計画をしていただき感謝します。
	往復バス…往復同じバスを使用し、無駄な荷物はバスに置けるとよいです。
	1日目～2日目…班行動ですので年齢・経験を考慮して決めると良いと思います。
	山小屋…山小屋泊は三度目の経験ですが、設備が優れ全てに想像以上で驚きました。
佐藤丙	岳人あびこ…和気あいあい。ただ初めての参加ですので良く分かりません。
	1日目～2日目…2000mから高くなると、その配分上、この形になると思います。
	山小屋…2日からなるとほかの方法は難しいと感じ、良いと思います。
	岳人あびこ…気分的に良い人達がそろっているのではないですか。
柴裕一	1日目～2日目…アクシデント（天候）で様々な経験できました。ペース配分よかったです。
	山小屋…快適でした。
	岳人あびこ…楽しそうな会ですね。長く続けて下さい。
	その他…お世話になりました。
鈴木順次	往復バス…特に問題なし。
	1日目～2日目…1日目は少々雨に降られたが、時間的にもベストで気持ちよい山行でした。
	山小屋…山小屋らしくないきれいな小屋ということなし。
	岳人あびこ…大変気持ちよい会ですので、是非入会させて下さい。
高橋潔	その他…幹事の皆さんご苦労さまでした。
	往復バス…ゆったりと座れました。
	1日目～2日目…途中の降雨が余分でしたが、距離もほどほどでした。晴天に恵まれ、あまり無理もなく十分楽しいものとなりました。
	山小屋…きれいな小屋で、与えられたスペースも十分でした。
高橋裕子	岳人あびこ…このような企画をご苦労さまでした。同行の皆さんに感謝しております。一人では無理なことも可能となりました。
	その他…一般公開登山としては、この程度の難易度でお続け下さい。
	説明会には参加できませんでしたが、資料をお送りいただき有り難うございました。
	往復バス…快適でした。
	1日目～2日目…しばらく山に行かず山欠状態でしたので、1日目はちょっとたいへんでした。山は間をあけずに登らないと、心肺機能も筋力も簡単に落ちてしまうことを痛感しました。雲取山山頂を過ぎたあたりから調子を取り戻しました。2日目の朝、御来光のあと雲取山山頂で富士山を見て感激。東京側と埼玉側の植物の違いも少しわかりました。ホトトギスとハルゼミの音が特に印象に残りました。
	山小屋…新しくてきれいで快適でした。更衣室があればなお良かった。
	岳人あびこ…素晴らしい会だと思います。
	その他…目と耳に入った動植物（山の鳥や山の植物花々の名前を70種近く記入していただきましたが、紙面の都合で割愛させていただきます。…申しわけありません。）



高山和彦	<p>1日目～2日目…1泊2日ということを考えると、バランスがとれている山行だったと思います。</p> <p>山小屋…宿泊した山小屋は想像していたものより快適なものだった。一般的にはこういうものではないと思いつつ楽しみました。</p> <p>岳人あびこ…他の山岳会のことはあまり知らないのですが、面倒見て頂いて感謝しております。</p>
山田ひさ子、外岡とよ子	<p>1日位申し込みが遅くなったと思いますが、名簿に載らなくて残念。</p> <p>1日目～2日目…ゆっくりしたペースだった。昼食タイムは良かった。</p> <p>山小屋…きれいで良かった。</p> <p>岳人あびこ…ビールワインがおいしくて良かった。</p> <p>楽しく参加できて感謝いたします。会員でなくてもたまに参加したいです。</p> <p>その他…一緒に申し込んだ者同士一緒にしてほしかった。</p> <p>朝の山小屋前での写真に参加できなかったのが非常～に残念。集合時間過ぎていなかったのに。</p>
戸山光晴	<p>往復バス…登山の起点・終点までバスなので楽な山行ができたように思います。但し、2日目のランチタイム（バスと関係ないかもしれませんが）をもうけて欲しかったと思います。</p> <p>1日目～2日目…3グループともスピードが違ったように思います。初心の方がいるグループを中心としたスピードが、必要ではないでしょうか。事前のリーダー、サブリーダー間の調整が必要だと感じました。</p> <p>岳人あびこ…やってらっしゃるかも知れませんが、登山に関する「総合的な講座(一般向け)」を計画して欲しいと思います。</p> <p>その他…説明会の席ないしは登山の始まる前（例えばバスの中）に、各人の簡単な自己紹介をやったらどうでしょう（登山歴、山行形態などを含め）。</p>
本多まき子	<p>説明会は大変わかりやすく説明していただき意欲をかきたてられました。中級以上の雲取山は、初心者のため不安で一杯でしたが、申し込むことにしました。</p> <p>往復バス…大変良かったと思います。重いリュックを持ちの電車でしたら断念していました。</p> <p>1日目～2日目…1日目は本当に辛かったと思います。10日前に筑波山に登り一応体験は致しましたが、その3倍以上きつかったと思います。走行中の雷電は驚きました。その後の右足のけいれんでは班の皆様大変御迷惑を掛けてしまい申しわけございませんでした。</p> <p>昨日の事もあり万全を尽くしての2日目は、意外にも楽に下山する事が出来ました。リーダーに一生懸命ついて行きました。</p> <p>山小屋…初めての山小屋泊でした。とても楽しくすごす事が出来ました。</p> <p>岳人あびこ…今回の公開登山に参加して初めて知りました。</p>
山根憲吾	<p>1日目～2日目…1日目は雨具の重要性が痛感できて良かった</p> <p>岳人あびこ…公開登山の数を増やして下さい</p>

貴重なご意見ありがとうございました。今後の公開登山や会の運営に役立てて、地域に親しまれる会になるよう努力したいと思います。

#### <参考> 公開登山 記録

	山 行 日	形 式	山 名	参加者 (うち、テント泊)	
				一般	会員
第1回	平成 9年 3月16日	日帰り	石老山	40名	8名
第2回	平成 9年10月25日 ～26日	山小屋泊	丹沢主脈縦走	3名	11名
第3回	平成10年 3月 8日	日帰り	扇山	36名	26名
第4回	平成10年10月10日 ～11日	山小屋泊 または テント泊	八ヶ岳	10名 ( 1名)	38名 (13名)
第5回	平成11年 6月 5日 ～ 6日		両神山	13名 (なし)	20名 (11名)
第6回	平成12年 6月 3日 ～ 4日		雲取山	14名 (1名)	17名 (9名)

## 雲取山山頂

6月3日

上からA班、  
B班、C班





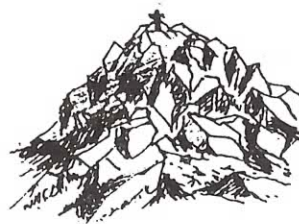
<159>

西上州 たかいわ

## 高 岩

1084m

清家 三保子



### 一瞬の残像が鮮やかに残る高岩

重い雲の横川駅には9:10分過ぎに着く。タクシーで碓氷峠の軽井沢I.Cに9:40分。西毛野外教育センターへ入る道がなかなか見つからず、地図を見たり、案内書を読んだりする。この間一瞬であるが、重い雲が切れ、合間にそそり立つ岩が見えた。何もない所に現れた岩に驚く。どうやら高岩らしいと気が逸る。

野外センター近辺は、キャンプ場施設などあるが、人の気はなく風もなく、木の葉も動かず、全く静かである。センターの管理人さんがいてトイレをお借りする。「お茶を飲んで行け」と言って下さるが時間は10:00を過ぎていたので遠慮する。

センターを過ぎ、やがて急登と共に何やら道も不明瞭になってくる。しかし僅かながら踏み跡はある。それにしても難路すぎる。どうも高岩の右側に廻り込んでいる様である。左側でなければならぬと引き返し始める。こんな場所で、大きな梯子を担いだ体格の良い男の人が登って来た。「何をするんですか?」と聞いたら「山菜採り」と言う。あれはきっと山野草盗りだろうなと腹が立つ。危険だろうし、こういった事は無くなりたいのだろうか。道があったの

は、きつとこんな人達が付けた道だろう。

雄岳への分岐に着き休憩を取る。そこでテープ結び、エイト結びで簡易ハーネスを準備する。講習等で、一本のテープやロープの結び方の練習をしても、実際にはなかなか使わない。今日こそ、その出番だ。真剣に取り組む。

鎖場には10分弱で着いた。30m2段とある。下から見上げると、殆ど垂直だ。偉大なる尻の引っかかる岩を抜けたりしながら登る。幸いにしっかりしたホールドがあり、登り易い。細かい雨が時折パラつき心配だったが、無事小さな山頂に着く。12:40分である。細い道づたいの雌岳の山頂は、既に14:20分になってしまった。雨も小止みなく降り、道もさらに分かりづらい。見通しもつかない。稲村山はルートを探しながらの道となる。ここで断念し、国道に15時20分に出る。生憎の天候ではあったが、ほぼ目的を達した。西上州の山は、実に面白い。

#### <概要>

高岩	山行形式	日帰り
平成12年6月10日(土)	費用概算	6000円
西上州	地形図	南軽井沢
スリルを味わう岩場・新緑		
我孫子5:30-上野6:05/6:16-高崎8:02/8:40- 横川9:13/9:20(タクシー)-うす氷軽井沢IC9:40- 西毛野外センター10:05/10:10-雄岳分岐10:55/11:22- 鎖場11:30-山頂12:40/12:45-分岐13:45/14:05(昼食) -雌岳山頂14:20/14:24-稲村山への分岐15:15- 国道15:20-恩賀15:25/16:00(タクシー)-横川16:53- 高崎17:23/17:50-上野19:35/19:43-我孫子20:17		

定例山行 <160>

## リーダー研修 in 丹沢

(ボッカ訓練・沢登り&藪漕ぎ)

2000年6月17日～18日  
細野清子

### 沢歩きは涼しい・楽しい

#### そしてちょっと怖い

#### でもやみつきになりそう

昔懐かしい大倉のバス停はすっかり現代風に様変わりしていて、ビックリ。長～い橋ができていて橋の下には川の流れを利用した公園が広がっていた。その橋を渡り登山口へと向かう。登山口がいまいちはっきりせず、少し行き過ぎてしまうがそこはさすが丹沢通の今日のリーダーの村松さんのことすぐ気がつき戻る。

リーダー研修にはずっと参加してきているが今回の研修は気合が入っている。

目的は

1. 安全登山のための技術の習得
2. 夏山にむけてのリーダーとしての体力の保持
3. リーダー部のコミュニケーションを計り、将来に向けての山の会としての方向を探る。
4. テント生活を楽しむ

の4点である。

その実践としてボッカ訓練として女子は15キロ、男子は18キロ以上の荷物を担いで大倉の尾根を登るのである。自分がリーダーとして果たしてふさわしい体力・知識があるかどうかをためすよい機会である。自宅を出る時は13キロあつ

た荷物も食料が加わり15キロは完全にある。久しぶりの15キロなので不安であったが、歩き始めると自信もでてきた。バカ尾根の登りの途中から雨がパラツキ雨具をつける。君子さんがバテ気味なので少し荷物を持つ。三ノ塔・烏尾山からの展望も残念ながらきかず、予定変更で烏尾山から新茅山荘に下ることになる。この下りは雨で足もとが悪く非常に苦労する。しかも、新茅山荘から戸沢テント場まで30分の登り。わたしはみんなに遅れまいと必死でした。…ククク

テントを張り終わるとますます雨足が強まり夕飯の用意をする場所がない。けれど、清家さんが山荘の軒下をチャーターしてくれた。

乾杯がすむとリーダーから、一言。「今日の山行を振りかえって見て、リーダー研修として気がついたことは？」と聞かれたがまともに答えられず、いつの間にかいつもの山行に参加している立場になってしまっている自分に反省する。

夕飯の用意しがてら一杯やっていると山荘のおかみさん「夕飯の用意に貸したのであって…」と叱られてしまった。調子にのりすぎた私たちが悪かった、とまた反省。「ウン、待てよここには確か東屋があったはず。」とリーダーが、思い出した。さっそく探しに行くが、すぐ見つかる。これがまた快適な所で、水はさきほどのお店まで行かなければならないが、トイレ完備・テーブル・イスつきなのだ。ビールを買いがてら清家さんの持ち前の笑顔と人の良さでおこごとを頂戴したお店のおばさんとはすっかり仲直りできたし、夕飯の野菜タップリ鳥団子のスープもお



いしくいただいたし、十分に飲み食いしシアワセ気分。

女性達は早くにおやすみなさい。男性軍はいま少し飲み足りないのかとっておきをザックから取りだし、このランタンはいいなァ、とか誰々のイビキがどうかとか話しが弾んでいた。

翌朝4時頃まだ雨がぱらついていた。すこしはなれた場所でテントを張っていた学生たちがテントを撤収している。その最中また大粒の雨が降ってきた。今日の沢はダメかなァとあきらめていたところリーダーの決断は予定どおり決行。6時50分出発。となると嬉しいような、増水は大丈夫か心配なのか変な気分。ともかく用意しよう！と溪流シューズ・ハーネス・カラビナを身につける。自宅につけてみたはずのハーネスがうまくつけられずモタモタしてしまう。ヘルメットをつけて準備万端、みなかっこいい。出発する頃には雨は気にならない程度に上がっていた。歩きはじめて5分ほどしてから下山時に履く靴下を忘れてしまいもどる。ハーネスといい靴下といい（それも人に言われて気がつくなんて）リーダーとして参加の昨日の反省はなんだったのか、三浦さんも今回参加していないし（というのは今年の沢で2メートルくらいすべり落ち三浦さんに抱きとめられて無傷ですんだ。）気を引き締める。今回の新茅ノ沢は水量もほどほどで途中から日も射し楽しく快適な遡行が楽しめた。何番ホールドかわからないが30分ほど全員通過にかかってしまったが、先行者のホールド先を見ているととても勉強になった。またここはよく落ちちるからと捲き道をみんなで捜したり良い

勉強になりました。

それにしてもリーダーの助手をつとめる清家さんのかっこいい事。経験が豊富に加えリーダーと息が合い教えられたことがしっかり身についているところがエライ。これらの素晴らしい技術を、これからの岳人あびこを担っていく川下さんはじめ若い北川君・飯高君にしっかりと受け継いでほしいと切に願わずにいられない。

去年は慣れた頃におしまいでもチョト物足りない気がしたが、今年は充分沢歩きが楽しめた。《もうダメ落っこちる。あわやザイルの世話になりそうな》所が1箇所あったが……。

遡行が終了地点は昨日通った、烏尾山の頂上に続く登山道。登山靴に履き替え5分ほどで頂上へ。昨日の雨に煙る烏尾山から一変して、快晴の山頂。丹沢山・花立山荘が青空に映えていました。一息いれてから下山する。下山ルートは仲尾根。藪道で背丈以上ある笹を漕いで降りるのです。ヘルメットをかぶっているから頭は快適。長袖を着てなかった私は腕が傷だらけでした。もう終わりかと安心しているとまた笹の連続でした。私にはトトロの森をくぐっているようで結構楽しい下りでした。昼食は冷たい水で冷やされたソ・メン。下山中摘んだ山椒の新芽も薬味に加わり、さらにおいしいソ・メンでした。

晴れたお陰でテントもすっかり乾きました。帰りは荷物がすこしは軽いと期待したのは間違いでした。なぜかしっかり重いザック。大倉バス停も遠かった。

いしくいたいたし、充分に飲み食いしシアワセ気分。

女性達は早くにおやすみなさい。男性軍はいま少し飲み足りないのかとっておきをザックから取りだし、このランタンはいいなァ、とか誰々のイビキがどうのとか話しが弾んでいた。

翌朝4時頃まだ雨がぱらついていた。すこしはなれた場所でテントを張っていた学生たちがテントを撤収している。その最中また大粒の雨が降ってきた。今日の沢はダメかなァとあきらめていたところリーダーの決断は予定どおり決行。6時50分出発。となると嬉しいような、増水は大丈夫か心配なのか変な気分。ともかく用意しよう！と溪流シューズ・ハーネス・カラビナを身につける。自宅でつけてみたはずのハーネスがうまくつけられずモタモタしてしまう。ヘルメットをつけて準備万端、みなかっこいい。出発する頃には雨は気にならない程度に上がっていた。歩きはじめて5分ほどしてから下山時に履く靴下を忘れてしまいもどる。ハーネスといい靴下といい（それも人に言われて気がつくなんて）リーダーとして参加の昨日の反省はなんだったのか、三浦さんも今回参加していないし（というのは昨年の沢で2メートルくらいすべり落ち三浦さんに抱きとめられて無傷ですんだ。）気を引き締める。今回の新茅ノ沢は水量もほどほどで途中から日も射し楽しく快適な遡行が楽しめた。何番ホールかわからないが30分ほど全員通過にかかってしまったが、先行者のホールド先を見ているととても勉強になった。ま

たここはよく落っこちるからと捲き道をみんなで搜したり良い勉強になりました。

それにしてもリーダーの助手をつとめる清家さんのかっこいい事。経験が豊富に加えリーダーと息が合い教えられたことがしっかり身についているところがエライ。これらの素晴らしい技術を、これからの岳人あびこを担っていく川下さんはじめ若い北川君・飯高君にしっかりと受け継いでほしいと切に願わずにいられない。

去年は慣れた頃におしまいでチョト物足りない気がしたが、今年は充分沢歩きが楽しめた。《もうダメ落っこちる。あわやザイルの世話になりそう》所が1箇所あったが……。

遡行が終了地点は昨日通った、烏尾山の頂上に続く登山道。登山靴に履き替え5分ほどで頂上へ。昨日の雨に煙る烏尾山から一変して、快晴の山頂。丹沢山・花立山荘が青空に映えていました。一息いれてから下山する。下山ルートは仲尾根。藪道で背丈以上ある笹を漕いで降りるのです。ヘルメットをかぶっているから頭は快適。長袖を着てなかった私は腕が傷だらけでした。もう終わりかと安心してるとまた笹の連続でした。私にはトトロの森をくぐっているようで結構楽しい下りでした。昼食は冷たい水で冷やされたソ－メン。下山中摘んだ山椒の新芽も薬味に加わり、さらにおいしいソ－メンでした。

晴れたお陰でテントもすっかり乾きました。帰りは荷物がすこしは軽いと期待したのは間違いでした。なぜかしっかり重いザック。大倉バス停も遠かった。



# リーダー研修 in 丹沢

(ボッカ訓練、沢登り&藪漕ぎ)

リーダー: 村松(敏)      グレード: B

日時: 平成12年 6月17日(土) ~ 18日(日)

- 目的: 1. 安全登山のための技術の習得。  
2. 夏山に向けてのリーダーとしての体力保持  
3. リーダー部のコミュニケーションを計り、将来に向けての山の会としての方向を探る。  
4. テント生活を楽しむ。

山行形式: テント泊、ボッカ(三ノ塔尾根)、沢(新茅ノ沢)、藪(仲尾根)

参加者: L 村松敏、SL 柴、清家、細野清、外崎、大串秀、高橋英、  
榊原、原田君、安田、川下 (計11名)

コース: 17日(土) 曇りのち雨

我孫子 5:30=渋沢-大倉 8:30/ 8:50...牛首 10:25/10:40  
... (昼食 11:50/12:10) ... 三ノ塔 13:00/13:10 ... 烏尾山 13:40/13:50  
... 新茅山荘 15:35 ... 戸沢テント場 16:00 (泊)

18日(日) 曇りのち晴れ

テント場 6:50... 新茅橋 7:05... 【沢登り】... 烏尾山 11:00/11:20  
... 【藪】... テント場 12:30/14:00... 大倉 15:20=渋沢=我孫子

- メモ: 1. 大倉からの登りでは途中から天気が崩れる。三ノ塔・烏尾山からの展望も残念、新茅山荘への下りは雨で足下が悪く非常に苦勞する。しかも、麓のテント場に泊まるのに20kgも担いでいるのだ(普通の山行ならば、置いていくはずだ)。リーダー研修ならではの、**買ってでもする苦勞**を楽しむことが出来た?
2. 雨のためテント生活は惨めな思いをしそうになったが、県立の休憩場を占領し、美味しい夕食で盛り上がった。食坦の方、有難うございました。
3. 今回のメイン新茅ノ沢は、途中から日も差し楽しく快適な遡行を味わえた。先頭に行く村松さん、清家さんに感謝!
4. 途中の滝で通過に30分費やしてしまった。11人が上るのだから仕方ない。沢は1人2人では出来ないが、大人数になるほど時間のロスが大きくなってしまう。先行者のホールド先を見ていることで充分勉強になったので良い面もあったのですが。
5. 2日続けて登った烏尾山から、今度は仲尾根(藪、昭文社等の山の地図には赤線が引いていない)を下る、**誰でも行ける丹沢ではない丹沢**を味わえたようで上り下りとも大満足でした。(川下)









<161>

## ウスユキソウと温泉 早池峰山（北上山域）

榊原文子  
原田和昭

### 薬師岳登山 7月1日(土)

“長年の夢であった早池峰うすゆき草に逢いに行く”、リーダーの斎藤さんの計画にすぐ申込みをしたが、用事が出来てやむなくキャンセルをした。神様が私に見方をしてくれたのか、申込みをしていた小川さんが、体調悪く代わりを必要としていたので、代って私が行けることになった。

7月1日早朝、珍しく満員の新幹線で新花巻へ、駅よりローカルバスに乗り約一時間で河原ノ坊着。シャトルバスに乗り換えて小田越へ。あいにく小雨が降り、視界は悪い。道路をはさんで早池峰登山口と本日登る薬師岳登山口は右と左。明日の晴天を祈って、我々は左側の薬師への道を進む。

初めからオサバ草とマイズル草が、真白いかわいい花を咲かせて大歓迎してくれている。途中、光ゴケを見ることが出来、感激。去年会津駒ヶ岳でブヨの大群に悩まされた体験から、今回は頭からすっぽりかぶるアミ状の小物を持参していたので、早速使用。風通しも良く、非常に快適であった。樹林帯でじめじめした所は、この季節にはやぶ蚊、ブヨが多いのでこれは大変役に立ちます。

さて、いよいよ樹林帯を抜け頂上近くになってきたら、強風が吹き始めた。まわり四方は何もさえぎる物がなく、晴天ならば36

0°の展望であろうが、目の前に見えるはずの早池峰さえも見る事が出来ない。益々、風は強くなるばかり、吹き飛ばされそう。雨はさほど気にならなくなり、晴れて来そうな様子だが、頂上まであと30分位という所で下山することにした。まだまだ、ガスが厚く早池峰の姿は見る事が出来ない。心残りだが明日に期待する。

岳温泉にある今夜の宿、大和坊へと急ぐ、この辺りの宿はすべて～坊と名がついている。早めに宿に着き、ゆっくりくつろぐ。一番風呂に入り、すぐ下を流れる沢の音に心安らぐ。夕食はどこでも味わえない山菜づくし。八種類（むきたけ、ウド、イタドリ、ブナマイタケ、ミズ、ワラビ、フキ、マイタケ、ハツカダイコン）の山のものとヤマメ。

最後に出た汁物の中にもたっぷり3～4種類のキノコが入っており、実に美味しい。おまけに宿からのサービスとしてさし入れの地酒一升。心のこもったお料理に満足、満足。さて、明日はどうなるのだろう、期待に胸ふくらませ温かい布団で熟睡。（記；榊原）

### 早池峰山登山 7月2日(日)

朝5時全員起床、昨夜からの雨はあがっているが、山は雲とガスで覆われ何も見えない状態でした。

大和坊の朝食は山菜をふんだんに使用した料理で全員元気で食欲旺盛。6時過ぎにはバス停に集合、臨時バスに乗車し小田越到着。小田越登山口は全体がガスに包まれ遠くは見えないが、地元の自然保護監視員の情報では山頂は明るくなっており、雨の心配は無いと言われ安心する。

登山開始にあたっての準備運動と諸注意を聞いて登山開始。入口付近の木道を抜けア



オモリトドマツの樹林帯の中を進む、昨日からの雨で山道には水溜りがあり、足元はすべる場所が続いた。歩き始めてから約30分後に一合目標識に到着する、ウスユキソウとアズマギクの可愛い花が咲き始めていた。

道は段々と急登になり、花崗岩の大きな石の間を這うように登って行く、三合目から五合目にかけて両側は歩行を示すロープがはられ、足元には可愛い小さな花が沢山咲いていた。特にウスユキソウがまとまって咲いている姿に感動をした。

五合目御金蔵を通過すると両側にあった岩は無くなり一帯はハイマツ風衝帯が広がって来た。ゆっくりした歩行で七合目の標識を過ぎて、八合目になると大きな石の前に出る。この場所がハシゴ場である。気持ちを落ち着かせてハシゴに挑戦する。高さ約20m位を全員が一列で一気に登る。

ハシゴを登った上は緩やかな道が続き九合目の分岐点に到着した。そこから2本の木道があり、両側の湿地帯は御田植場と呼ばれ、高山植物の小さな花が一面に咲いていた。ハクサンチドリ、イワカガミ、ミツバオーレン、四葉シオガマ、チングルマなど、きれいな花に見とれて足が自然に止まってしまった。仲間から少し遅れて目的の早池峰山頂上に到着し一等三角点の御影石にタッチする。

山頂は早池峰山神社の奥宮の小祠や避難小屋があり、多くの登山者で賑わっていた。山は雲で覆われ遠景は望めなかったが、時々、雲が切れ青い空が一瞬広がる時があった。昼食と休憩を充分に取った後下山開始する。

下山ルートは大小の石に囲まれた急降下で、登ってくる登山者と声を掛け合い、最善の注意をしながらゆっくり下山する。急降下の連続で足元の石は蛇紋岩でつるつるして

表面は滑りやすい、一度、足を滑らし周りの石を落としたら大事故になるような危険な所で、再度、身を引き締めると共に足元に注意しながら下山する。

下山途中にも多くの高山植物の花が咲いていたが、緊張していたためかゆっくりと花を楽しむ余裕はなかった。約2時間30分位下山するとコメガモリ沢に下りる。沢を何度か渡り返して亜高山樹林帯をゆっくり進むと河原坊登山口に無事到着する。

河原坊から岳温泉までシャトルバスに乗り、停留所前にある峰南荘の風呂で汗を流し、新花巻駅から東北新幹線やまびこ号で帰る。念願の山に登り、美しい花に会えて満足する。(記；原田)

山名	早池峰山・薬師岳	山行形式	民宿泊
期日	平成12年7月1日(土)～2日(日)		
山域	北上山域	地図	早池峰山・高松山(2万5千図)
目的	ハヤチネウスユキソウと初夏の東北の山を訪ねる。	交通機関	東北新幹線・バス
日程コース	一日目	我孫子 5:10＝上野 6:10＝新花巻 9:16/9:30⇒川原ノ坊 10:53～小田越 11:30/11:33～薬師岳頂上手前で強風の為折り返す～小田越 14:20/14:27(シャトルバス)⇒岳 15:05着、民宿大和坊泊り	
	二日目	岳 6:40(シャトルバス)⇒小田越 7:05/7:15～御門口 7:50/7:55～御金蔵 9:05～八合目 9:40～御田植場 9:50～早池峰山頂上 10:20/11:20～河原ノ坊 14:30/14:40⇒岳 15:00(温泉) 17:08発⇒新花巻 18:08/18:20＝上野駅 21:38＝我孫子駅 22:20着	



<162>

## 岩山(鹿沼)

<新人研修山行>

箕輪 完二

### 三点確保を学ぶ

岩山は鹿沼市の郊外にあって交通の便が良いため、岩登りのゲレンデとして有名だそうです。東部日光線の新鹿沼駅から20分ほど歩くと登山口はあった。その近くにある日吉神社で「ハイキングA, B, C」を読み合わせ、山歩きの基本を学んだ。食糧や水分の取り方、登山者とすれ違う時の体の位置、ザックの調整や靴の目印等、そして特に新人研修の目標である「三点確保」を学習した。休憩の後さっそく実践に移る。

岩山は森のすぐ奥にあった。昨夜の雨で岩肌が湿っており、滑りやすいので歩幅を小さくするようにとの注意がある。緊張しながら三つの峰を上り下りするなかで三点確保をしっかりと実践。厳しい登山では岩にガッチリ四点確保したまま固まってしまう人、急斜面では0点確保のまま飛び降りるベテランもいる。山頂は日光連山等が望め素晴らしい眺めだ。早めの昼食をとり、食後は細野講師からロープ、シュリングの使い方の講習を受ける。ロープの結び方も様々教えてもらったが、時間がたつにつれ忘れてしまう。実際の現場で、あるいは日常的に活用したいものだ。

岩山から下山した時、山行計画書では南に向かうべきところを北に向かった。さらにT字路が有り、ここを東に向かうべきを西に進んだ。暗雲たち込める中、雨もポツリポツリと降ってきた。北上を続け20分程して方向

違いに気づき、引き返す。方角は山の上より下のほうが難しいようだ。北鹿沼駅で飲んだ缶ビールはすごく美味かった。

今回の新人研修では高橋L, 安田L, 諸先輩から三点確保をはじめ山登りの基本を手取り足取り初歩から教えていただいた。実践の面でも同行した女性会員の中から「20回以上山行しているが今回の岩山が一番たのしかった」と感想が聞かれたほどで、童心にもどれて楽しかった。新人一同、感謝しています。



山名	岩山	山行形式	日帰り
期日	平成12年7月2日(日) 晴れ		
山域	鹿沼	交通機関	東武日光線
目的	新人研修(三点確保の練習)		
人数	16名	リーダー	高橋英、安田
コース	我孫子 5:30⇒北千住 6:31⇒新鹿沼 7:58 ~日吉神社 8:30/945~岩山・昼食 10:45/11:35~ゴルフ倶楽部 13:07~北鹿沼 14:10/14:39⇒我孫子 17:25		



エイトノット(ザイルの連結)



<163>

籠ノ登山(2227m)、  
水ノ塔山(2202m)

松村 雅子

### 登山道は高山植物の宝庫

上野駅から長野新幹線あさまに乗車し、  
1時間で。あーという間の速さで到着。

そこから(しなの鉄道)に乗り換えて、小諸へと向かう。やっぱり汽車の旅はローカル線にゆられて車窓からの風景をのんびり楽しむに限ると思っている。私の今日の山行目的の一つはローカル線のしなの鉄道に乗ること。初めて乗る鉄道は、嬉しくてなんだかワクワクする。そんな充実した気分で揺られていると前夜の大雨がうそのように浅間山が姿を現す頃には快晴となった。

小諸駅でジャンボタクシー2台に分乗し、登山口の地蔵峠までの高原ドライブ。道にはアヤメの群落が出迎えてくれた。地蔵峠の登山口から三方見晴歩道に入り見晴台へ。途中の登山道は高山植物のお花畑だった。まだ少し早いようでつぼみが大半だったが両側にいっぱい。持参した高山植物の本を片手に花の名前を探しながら歩く。あまりにもたくさんのお花に、登っていることも忘れてしまいそう。グンナイフウロの紫が美しい。残念なことにもう一方は、つぼみなので一面のピンクを想像して進む。

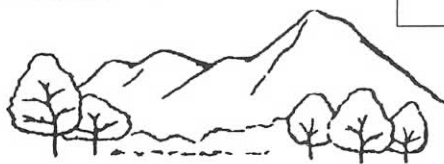
見晴台(2095m)からは八ヶ岳、富士山、遠く北アルプスの槍ヶ岳も見えた。池ノ平を左側に見送り、三方が峰(2040m)では小諸の町並みが一望でき、脇には鉄条網に守られてコマク

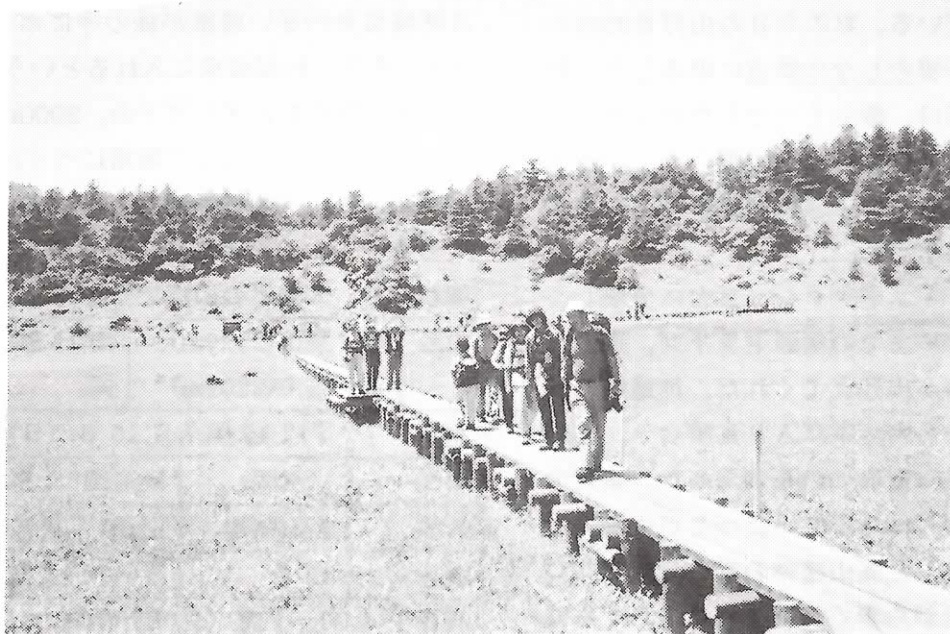
サが自生している。三方が峰から池ノ平自然園の木道に入ると、紫色の小さなアヤメの群落、ピンク色のハクサンチドリが湿原に色を添えている。たくさんのツアーの人々が木道をうずめて進んでくる。

そんなにぎわう池ノ平駐車場で昼食。

今日の目的の山、東麓ノ登山、水ノ塔山の登りにはいる。カラマツ林の中を進み、広い砂礫の広がる山頂、360度の展望と煙がたなびく浅間山の姿が印象的だった。そこから水ノ塔山に向かう尾根道は右側がガレて細い。注意しながらゆっくり進む。そんなところもよく目をこらせばツガザクラ、ゴゼンタチバナ、シャジクソウなど小さな高山植物を見つけることができた。いくつかのアップダウンを繰り返して、岩山の水ノ塔山の山頂。眼下には高峰温泉の赤い屋根が緑の中にポツンと見える。今下りれば温泉に入れるということで、一路赤い屋根を目ざして下山。2000mのさわやかな高原で汗を流して帰路につく。山あり、お花畑あり、高原の温泉ありと三拍子そろってもう一つ、しなの鉄道のローカル線の旅も加わって、大満足の山行でした。

山名	籠ノ登山(2227m)、 水ノ塔山(2202m)		山行形 式	日帰り
期日	平成12年7月16日(日) 晴れ			
山城	(浅間)	地形図	車坂峠	
目的	高山植物	交通	新幹線・ほか	
参加者	15名	リーダー	安田	
我孫子 5.30＝上野(長野新幹線) 6.32＝軽井沢 7.33/7.38(しなの鉄道)＝小諸駅 8.10－タクシー地蔵峠 8.40/9.00～見晴岳 10.30～三方が峰 10.45～池ノ平駐車場 11.45/昼食 12.00～東麓ノ登山 12.35/12.50～水ノ塔山 13.30～高峰温泉 14.30(入浴・休憩) 15.30(高峰高原発バス)－佐久平 16.50/17.26(長野新幹線)＝上野 18.44＝我孫子駅 19.30				







< 164 >

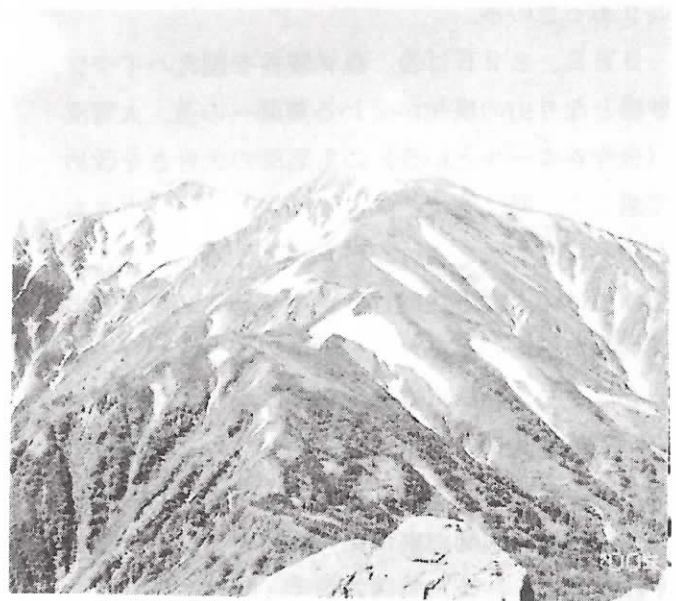
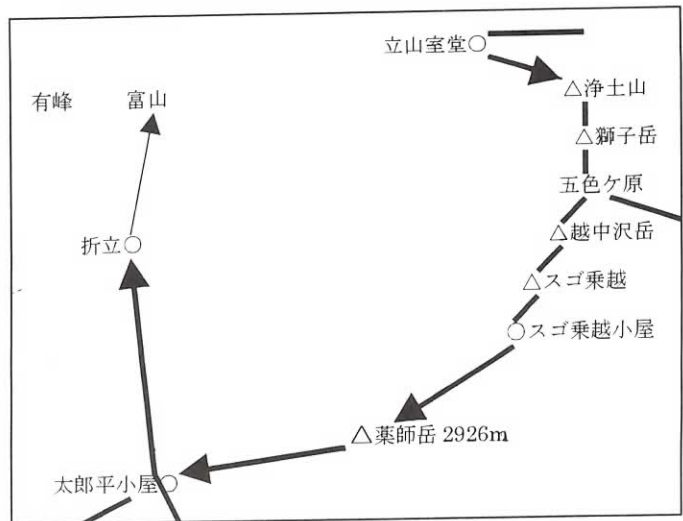
## 立山—五色ヶ原—薬師岳 (2,926m)

安田 みづほ

### 雄大な自然と花！花！花！の山旅

新宿のバスターミナル。梅雨明けのこの日は例年、多くの登山者が北アルプスや尾瀬をめざす。夏山のスタート。翌朝、立山室堂にて大阪支部の佐々木さんと偶然バッタリ！白山以来の懐かしい、相変わらず精悍な佐々木さん。メンバーは佐々木さんを入れてL村松敏さん、SL細野清さん、大串秀さん、大串恵さん、私の6人。かなり雪が残っている室堂をさて、いよいよ出発。立山雄山へ行く人の列を背に我々は五色ヶ原に向かう。浄土山～ザラ峠～五色ヶ原山荘まで6時間の1日目の行程である。天気恵まれハクサンイチゲやチングルマの群落の中、残雪を（といっても大雪渓だ）トラバース。青々とした黒部湖が小さい。清子さんと村松さんは麦藁帽子である。さすが山慣れしている。五色ヶ原の方に向かう人はそれほど多くなく、あれはハクサンイチゲ、この花はシナノキンバイ、と花の大群落。赤紫のシオガマも負けずと咲いている。獅子岳、ザラ峠までのアップダウンを過ぎるとひろーい五色ヶ原。今年は雪が多くもう少しつと一面のお花畑であろう。五色ヶ原山荘では思いがけない歓待を受け、リーダーはじめ皆感激。なにしろ生ビール、スイカがサービスされたんですから。そしてこの山荘はお風呂まで入れる。贅沢なことです。（私はダウン、情けなや）

2日目、21日は一番楽しかった山旅だった。越中沢乗越では烏帽子、針の木、野口五郎岳やこ

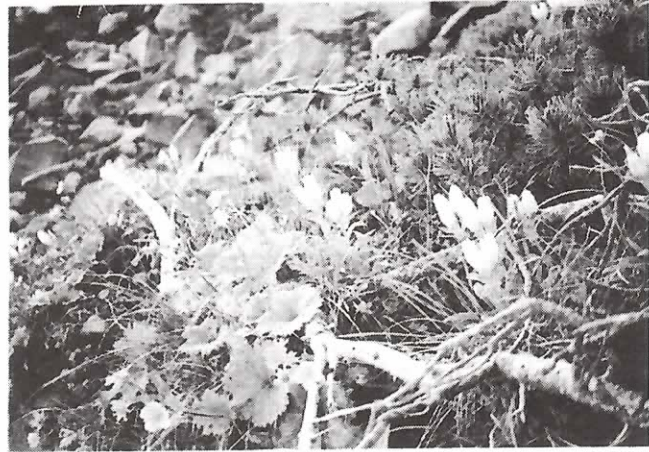


#### 薬師岳をのぞむ

これから向かう薬師岳が大きいし、雪を被った白山まで見える。ぐるーと一級品の山々に囲まれてコバイケイソウ、ベニバナイチゴ、サンカヨウ、イワイチョウと花、花である。越中沢岳を過ぎると目の前にひときわ大きい薬師岳がそびえており、しが「薬師は大きいなー！」と感慨深げ。それぞれカップラーメンで美味しい昼食に、明日登る薬師岳への想いを膨らませていた。

さて、いよいよスゴ乗越。名前の通りすごい急坂の下りで（高度差100m）緊張するが、トウヤクリンドウやハクサンフウロ、ミヤマキンバイ、ミヤマキンボウゲなどのお花に慰められながら

スゴ乗越小屋に到着。ログハウス調のこじんまりした山小屋はあれよ、あれよという間に人がいっぱい。この日は50人定員のところ3倍近い登山者で小屋も私たちも悲鳴を上げた。薬師と立山の中間地点という貴重な小屋と晴天も重なり例年になく混雑。夕飯前のひと時小屋前の広場は山男、山女で賑やかである。大阪方面から来たグループは佐々木さんのお友達？話が弾む。こんな語らいがまた、山の魅力だ。登山靴の底が抜けると言うアクシデントに見舞われた登山客2名。小屋主の修理の手際よさに感心。最近こうしたことがけっこうあるとの事。



3日目、22日は曇。森林限界を超えハイマツ、砂礫となり山の様相が変わる薬師への道。大雪渓（金作谷カールという）にも薬師の大きさを改めて感じる。風は強く、吹き飛ばされそう。ガスもかかってきて風をよけながら雨具を身につけた。あれだけの人はどこへ行ったの？皆、五色が原方面へ向かったのか？ガスと強風の為、北薬師のピークは？左、黒部川方面はガケになって切れ落ちていて風は強いし岩もごろごろしていて緊張する。小屋を出てから約4時間半、やっと薬師岳の頂上に到着。薬師如来が祀られている。リーダーや佐々木さん、皆と感激の握手。晴れていれば北アルプスを一望できるという360度の景観を想像して記念撮影。寒いので頂上をあとにする。

薬師岳山荘へはざらざらしてるが歩きやすい下り道を40分。頭が痛く（高山病？）食欲がない。他のメンバーは元気いっぱい。愛知大遭難碑のケルンが薬師平に立っていた。ガスが取れてきたせいか頭のガスも消えてきたようだ。沢沿いの道にもキヌガサソウやサンカヨウ、イワヒゲと花は続く。薬師平キャンプ場にはたくさんのテントが張っており若者がくつろいでいる。Lがちょっと足を痛めたが、清子さんが雪で湿布する手際よさに改めて感心。さあ、あとひと登りで最後の宿泊地、太郎平小屋。小高い丘の上のその小屋は黒部五郎や雲ノ平への分岐の為登山客は多い。下山口の折立へはニッコウキスゲの大群落のお見送り。有峰湖がみえて花、花、花の旅は終わった。

山名：立山、五色が原、薬師岳 山域 立山連峰 地図 立山、薬師、有峰湖（2万5千図）

日時：平成12年7月19日（木）夜～7月23日（日） 山行形式：山小屋泊

目的：①山上の楽園、五色が原と高山植物 ②歴史と信仰に満ち溢れた北アルプスの名峰に登る。

参加者：リーダー村松（敏）、細野（清）、大串（秀）、大串（恵）、佐々木、安田 計6名

コース：1日目（20日）我孫子 19日夜 20：30＝新宿 23：00－室堂 20日 7：55～浄土山 9：10～獅子岳 12：10～五色が原山荘 14：10（泊）

2日目（21日）五色が原山荘 6：00～越中沢岳 9：10～スゴ乗越 11：55～スゴ乗越小屋 12：55（泊）

3日目（22日）スゴ乗越小屋 6：05～北薬師岳 9：35～薬師岳 10：40～太郎平テント場 14：00～太郎平小屋 14：20

4日目（23日）太郎平小屋 6：00～三角点 7：25～折立 8：40～有峰口－立山駅 12：54＝富山駅 14：35＝越後湯沢＝我孫子



< 165 >

## 朝日連峰縦走

清家、柴、外崎

(1日目): 池袋駅の雑踏から静寂の大鳥池テント場へ

夜 10:00 過ぎの池袋西口は、ネオンと人込みと暑さでむせかえり、大きな荷を背負った私達は、はぐれない様列を作って人の間をすり抜ける。バス停で、良き山旅を折りビールで乾杯し、夜行バスの人となる。23:10 分発である。いつもの如く眠れない車中を過ごし、バスから降りれば早鶴岡である。思い思いに朝食を取り路線バスに乗る。車窓から見えるわらび畑、そして乗降案内のアナウンスの、標準語ではあるが、東北なまりのイントネーションがぐんぐん東北ムードに引き込んでいく。

宿風小屋よりすぐに小型バスに乗り換えて泡滝ダムに向かう。大鳥川沿いを奥へ奥へと進みながら、こんな奥迄バスが入ってくれるのを有難く思う。泡滝ダムには 9:25 分。ちらほら見える若者は、大鳥池でタキタロウを釣ろうとする人だろうか。

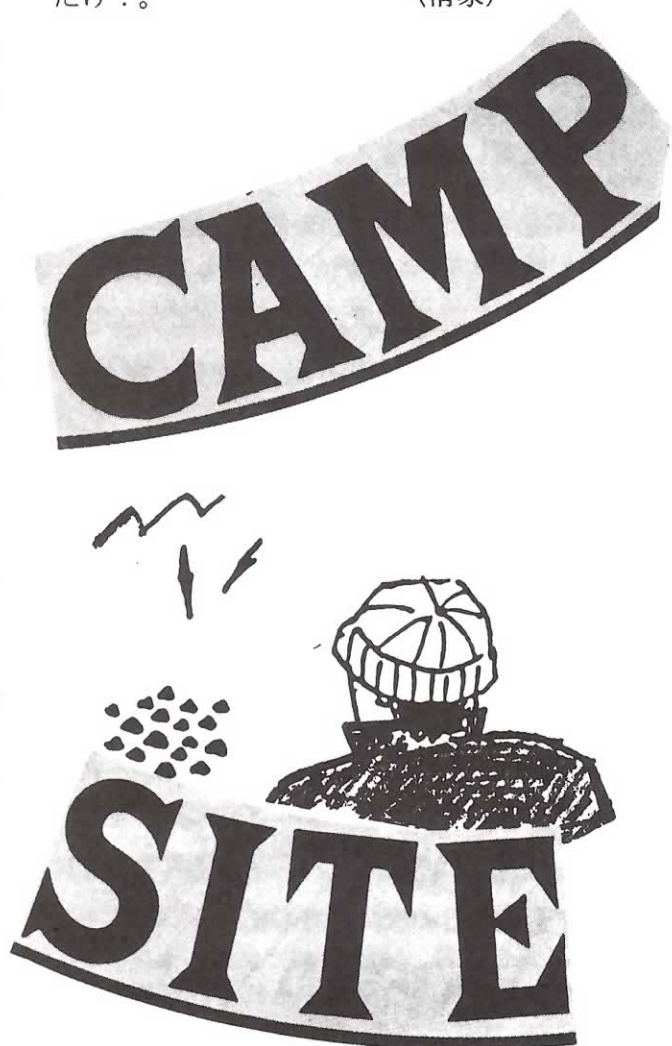
長い乗物から解放されて、いよいよ自分の足での第一歩を踏み出す。7月中旬風で、ほんの1週間程前迄通行止めだったと言う。登山道は至る所修理されたばかりの黒々した土が見えている。沢も大荒れだった様子で、折れた木々や根が溜まっている。草刈りボランティアにも今日は何度か出会う。大荒れ台風から10日後位で入山できて本

当に有難いと感謝する。

テント泊の1日目で荷物は重い、ブナの美しい緑、なだらかな登りに気分も大らかに、それほど苦しくは感じない。やがて木々の間に大鳥池の水面が時々、見え始める。ここ迄来れば最早、着いたも同然と安心する。

大鳥小屋には 1:45 分。早速今宵の宿を物色する。選り取り見取りと言った感じ。テントは草地に張る。目の前に湖、後ろには灌木、これ以上ない場所だ。恋人たちの場所だ。おじん、おぼんの変人たちは、焼肉だ。武内さんのお陰で私にとって山中テントで初めて食べる焼肉だ。小粒ニンニク丸ごと炒め、ウマイ、ウマイと食べる。

～恋もない、ムードもない!、ウマイだけ!。  
(清家)



## 朝日連峰縦走

(2日目)

大鳥小屋テント場を3:30分に起床。ヘッドランプを点けて朝食の準備を始めたが、昨夜も悩まされた「ブヨ」がランプをめがけてたくさん集まり、払い除けながらの支度は大変なものでした。特にM・K子さんはブヨにも好かれ大変。苦労した朝食を済ませ、2日目最初の目標大きな以東岳を目指し出発。

水門の橋を渡り分岐を左に入る。すぐに樹林帯の急登が始まる。森林限界を抜けるまできつい登りが続く。三角峰に近づくにつれ視界が広がり、以東岳の重量感ある巨大な山容が目に見え込んできた。そのあまりの迫力に圧倒される。

急登が終わると、お花畑がオツボ峰付近まで一面に展開されていた。以前TVで見た薄紅色の愛らしいヒメサユリの群落に感激し、いつか自分の目と足でと思った花の群落を目前に見、満足、大満足。

ヒナユキソウ・タカネマツムシソウ・タカネナデシコ・キンコウカ・ハクサンフウロ・ニッコウキスゲ・ミヤマキンバイ・トウゲブキなど数え切れないほどの花々が咲き揃い、出来るだけゆっくりしたい所です。

オツボ峰から小さなピークを幾つか超え2日目目標の以東岳山頂に到着。連峰一番と言われる展望、峰峰の最奥に鎮座する大朝日岳の鋭鋒が目にとまる。

頂上から広広とした縦走路を南下、お花畑や笹原の明るい稜線を歩く。山腹や谷の厳しさに反し、広大な平原状の尾根筋は朝日連峰の特徴の一つで、登りの大変さを忘れさせて呉れる。

狐穴小屋に到着。ガスが出る。風が強く寒さを感じる。温かい飲み物で一服休憩。

寒江山を目指す。寒江山は北寒河江山、寒江山、南寒江山の三峰から成る。峰峰はヒナウスユキソウ・タカネマツムシソウの大群落で埋め尽くされ、花々に励まされ乍ら急斜面下る。鞍部をしばらく進み竜門小屋に到着。大鳥小屋から10時間(食事・休憩含む)の歩き。

「昨夜と同じようなテント泊が絶対いいね」。「マイペースで楽しみたいわ」。「きっとテント泊もOKよ」。全員でテント泊を大期待。しかし小屋の親爺さんに「最近テント場が荒れ使用不可です」更に「未だ充分収容できる人数ですから、テントの使用はダメです」と言われ全員に報告。テント希望が根強く再度交渉の結果、「小屋が一杯になり、学生を優先しその次に」でOK。

テント2張を設営。雪渓の水で夕食の支度。メニューはうな井・海藻サラダ・それぞれが持ち寄

った食べ物で山では豪華なディナーでした。

闇に囲まれた頃には般若湯も進み、登山した充実感と開放感が溢れ出し楽しい時間を過ごし、明日の無事を祈り峠にもどる。



山頂は、なんとって いい気持ち、  
みんないい顔しています。

(寒江山にて)



入山して3日目。

やっとお目にかかる

ことができました。

【大朝日岳と朝日小屋を背にして】





12 年 7 月 30 日（日）

3 日目

外崎 蓮

今朝は 3 時起床、頭上に大きな星が瞬いている。微風が心地よい。お湯を沸かしながらテントをたたみ、ザックを整える。今朝はパンとスープ。私達が出発する時、名古屋大のワンゲル部の学生達は、自分の身体を健康観察中で静かだった。竜門小屋からすぐ竜門山の登りとなる。竜門山の山頂には、柱が 1 本立っているのみ。次の西朝日岳は、その本峰が縦走路から少し離れたところにあり、寄らずに先を進む。この辺りに来ると、大朝日岳の山頂部が見えてくる。中岳は山頂部を左に巻いて下っていく。完全に下り終わらないうちに前方に、ピラミッド型の大朝日岳がその全容をあらわしてくる。ここから大朝日岳に向かってのびる登山道の突端には、マッチ箱のような大朝日小屋が建っている。眼下には広大な残雪が広がり、その下には金玉水が流れているということで、皆は水を探しに下って行ったが見つからずに戻ってきた。笹原の中を小屋にたどり着くと、小屋番の人が布団と毛布を外に広げて干しているところだった。

小屋にザックを置き、小屋の右手から大朝日岳へ登る。わけなく山頂に着き、細長い山頂を標識のあるところまで進んで、ついに朝日連峰最高峰の三角点を踏む。そこからは雪の残る月山や、その左肩付近に鳥海山が、光って見えるのは蔵王のロープウェイ乗り場とか。屏風のように横に長く連なって見えるのは飯豊連峰だ。ゆっくりと見回していたところだが先があるので早々に小屋に戻る。

この後、北東に向かい小朝日岳を目指す。途中朝日岳の名水といわれる銀玉水に寄り、ポリ容器と胃にうまい水をいっぱい流し込む。

本日は山に入って 3 日目。そろそろ足の方も疲れてきている。しかし、目の前にはまだ

小朝日岳が立ちはだかっている。坂道を下れば下る程、それは大きく立ちふさがっていく。先頭を歩いていた人が、鞍部の熊越から直登する道を運良く間違い、小朝日岳を巻いて反対側にたどり着く。巻き道を歩いている途中、体調の悪い人が出てきて不安になるが、大事に至らなくてホッとする。分岐にザックを置き、空身で、小朝日岳に登る。こちらは急登ではあるが道もよく、この方が結果的によかった。山頂から大朝日岳をしっかりと見届けて、分岐に戻る。

この後、計画では鳥原山に下るのを変更して、古寺鉱泉に向かう。一服清水で休憩した後は、鉱泉に向かってひたすら下る。道は歩きよく、足はかなり疲れているのに足並みが揃い、14 時 20 分、川のそばの一軒宿、古寺鉱泉に着く。一般客で賑わっている中、1 つしかない風呂を、男女交互に使わせてもらう。

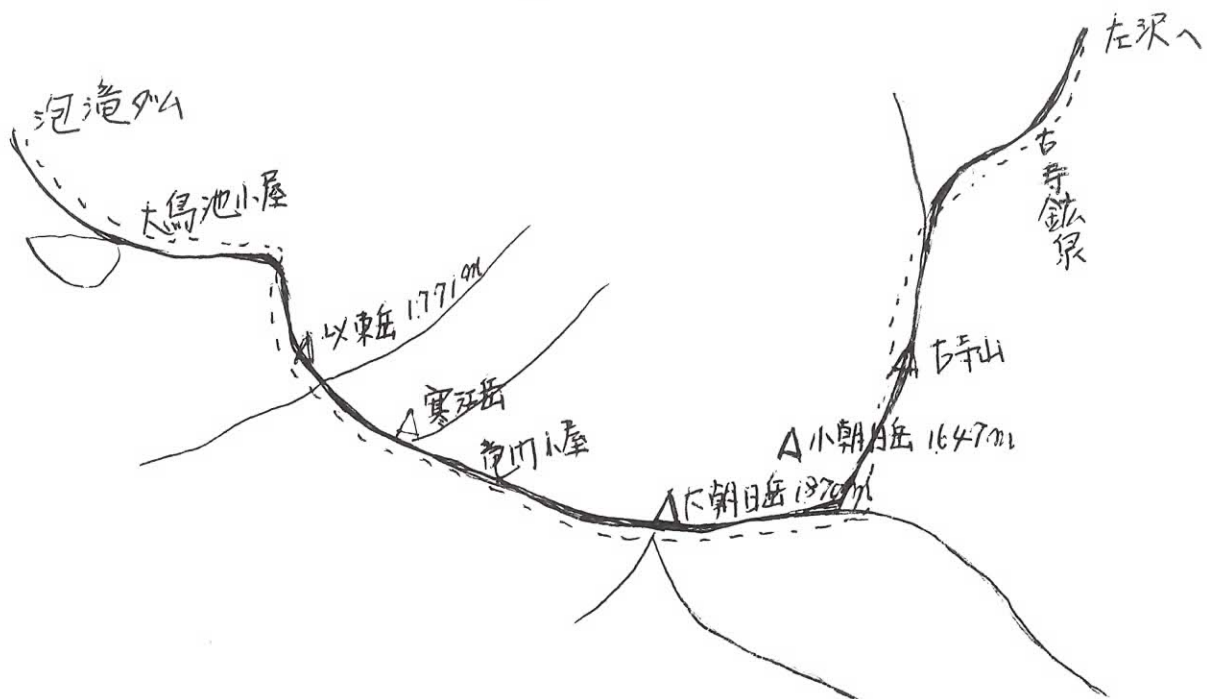
鉄錆のような鉱泉が 2 つの湯舟に張ってあり、1 つは冷たくて、あとの 1 つは熱めの湯。タオルも身体も染まりそうで、両方の鉱泉を割って身体に掛けるだけにした。それでもさっぱりして、庭のテーブルで乾杯。私はたてつけコップ 3 杯のビールで、皆の声が遠くに聞こえだし、猛烈に眠くなって座敷で横にならせてもらう。

左沢駅への足が無く、戻ってくるマイクロバスを待って、鉱泉を出たのは 17 時。40 分バスに揺られ、小さな左沢駅から、左沢線で山形に出る。駅前で紅花ソバを食べ、20:03 山形新幹線に乗る。我が家にたどり着いた時には、夜中の 12 時を回っていた。



<概要>

山名	朝日連峰	山行形式	テント泊
期日	平成12年7月27日(木)～30(日)	費用概算	30000円
山域	山形、新潟県境	地形図	朝日岳、大鳥池5万分の1
目的	雄大な山の縦走とブナの森とお花畑		
日程 及び コース	<p>1日目:3時間20分  我孫子21:22ー池袋西口22:20/23:10(夜行バス)ー鶴岡(朝食)6:40/7:30  路線バスー大鳥8:45/9:00(小型バス)ー泡滝ダム9:25/9:45…冷水沢(昼食)  11:10/11:50…大鳥小屋1:45 テント泊</p> <p>2日目:8時間55分  大鳥小屋3:30/5:00…三角峰7:00…おっぼ峰7:40…以東岳9:10/9:15  …以東小屋(昼食)9:20/9:50…以東岳9:55…中先峰11:20…狐穴小屋  12:15/12:50…北寒江山1:25…寒江山1:50…南寒江山2:15…竜門小屋3:05  テント泊</p> <p>3日目:8時間  竜門小屋3:00/4:30…西朝日岳6:00…中岳7:00…金玉水7:25/7:45  …大朝日小屋8:00…大朝日岳8:20/8:30…大朝日小屋8:35/8:50…銀玉水  9:10/9:30…小朝日岳への分岐10:55…小朝日岳11:10/11:30…ハナヌキ峰へ  分岐12:45…水場12:50/1:00…小寺鉱泉(入浴)2:20/5:00タクシー  左沢駅5:40/6:05-山形駅6:46/8:03-新幹線上野10:50/11:06我孫子</p>		

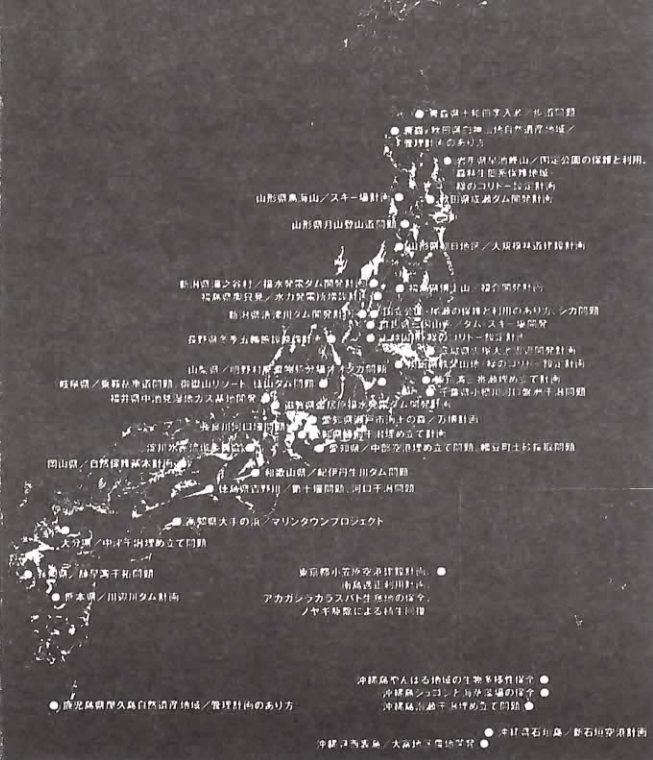




〈お願い〉日本自然保護協会の  
サポーターになってください。

過去3年間に取り組んだ、  
全国の問題！

(2001年8月現在)  
日本地図(北海道大学情報科学センター)



年会費は5000円、月コ-ヒ-1杯分。

日本自然保護協会

THE NATURE CONSERVATION SOCIETY OF JAPAN

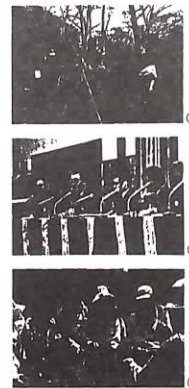
自然を守りたい。  
あなたの思いを政策に反映させるのが  
日本自然保護協会の役目です。

日本は豊かな自然に恵まれた国でした。  
これからもずっとそうであってほしい、  
と思います。私たちの毎日の生活は、  
たくさんのものを必要としています。  
そのために大きな飛行場や高速道路を  
作ってきました。山を削ったり、  
川をせき止めたりして。でもこの頃は、  
本当に必要なんでしょうか  
と思う計画が増えました。そのために  
消える自然と、新しくできるものと。  
長い目で見ると、どっちがほんとに  
私たちのためになるんだろう。



現場の知識と実行力で、  
日本の自然を守る。  
それが日本自然保護協会  
(NACS-J/ナックス・ジェイ)です。

- 科学的な調査に基づいて  
生態系と生物の多様性を守ります。
- 自然の仕組みを生かした  
社会づくりを提案します。
- だれでも気軽に参加できる自然と  
親しむ会をすすめています。
- 年5000円の会費や、寄付という  
貴重な志で運営されています。
- ボランティアの方たちに支えられ、  
力強いNGO活動を展開しています。



①青森・秋田県境の白神山地を分断する予定だった青森林道建設先頭部  
②群馬・栃木県境のイヌワシ生息状況調査 ③日本に生物多様性の概念を紹介した生物多様性国際セミナー  
④からだの不自由な人も参加、五感を使った自然観察会「ネイチャー・フィーリング」

< 1 6 6 >

## 白馬三山

白馬岳、杓子岳、鑓ヶ岳  
(2933m) (2812m) (2903m)

1 日目 中村美智子  
2 日目 高橋芳恵  
3 日目 外崎蓮

### 人気抜群

#### 花と雪溪の山へ

白馬連峰は北アルプスの北端に位置し、白馬岳、杓子岳、白馬鑓ヶ岳の3山を白馬三山と呼ばれている。山名は残雪期に雪形で黒い馬が現れることに由来する。山麓の農家ではこの雪形が見える頃に苗代をつくった。「代かき馬」が「代馬」になり「白馬」に変化したそうで、ハクバとは呼ばない。白馬大雪溪は日本三大雪溪のひとつ。

1 日目 (8 月 5 日)

我孫子を成田線の2番電車でゆっくり出発。天気予報は3日間とも晴れと小さい曇りマークのまずまずの予報。新宿からスーパーあずさの指定席で楽々山行。ひとしきりおしゃべりして、うつらうつらしている時にアナウンス、「小糸線信号機故障による不通」とか、今日は行程がゆっくりなので気分的に余裕。

電車は穂高駅にストップ。皆ホームに下り9月山行予定の常念岳をバックにパチリ。この時は快晴だった。目的の白馬駅に1時間40分遅れの13時20分に着く。ちなみにこの電車、白馬駅で打ちきり。危うし。

白馬駅からバスに乗り、外の風景に目をやっていると空が急に暗くなり、ポツポツと雨が降ってくる。

猿倉でバスを降り、雨やどりをしていると急に雷雨となり、誰か曰く、「白糸の滝みたい」波板の屋根から滝のように流れる。小康状態になり、リーダー方の相談の末、雨具を着けて出発する。

猿倉荘左手の広葉樹林の中をゆるやかに登り始め、林道を通り、やや急な岩の道に入り、小沢

沿いに登って行くと1時間ほどで今日宿泊の村営の白馬尻荘に着く。

小屋の前には黄色のキヌガサソウの群落があり、その前で集合写真をパチリ。

雨はやみ、明日登る大雪溪を見にちょっと上の白馬尻小屋まで行く。そこにあった赤い郵便ポストが印象的だった。ポストは村営頂上宿舎にもあった。日本一高い所だそう。

明日の大雪溪、白馬岳、高山植物の花々を楽しむに床に就く。(中村美智子)

2 日目 (8 月 6 日)

充分な睡眠をとり気持ちよく目覚めた。雪溪を眺めながら冷たい水での洗面が心地よい。5時朝食、小屋の食事が年々良くなっている事に感謝。

5時40分白馬尻荘出発、30分程で大雪溪入り口に着いた。アイゼン着装時、初めて使う手に手間取り時間がかかったが、3大雪溪の一つ、これが白馬大雪溪かと感慨ひとしお。空はどこまでも青く、山の緑、雪の白さ、吹き降りる風の心地よさ、雪溪の上には落石のため大小の石が転がっていた。二班が一行になり登った。途中、松本さんのアイゼンが何度かはずれ紐で縛る。その後は快適な雪溪歩き。1時間30分で葱平、ハクサンフウロウ、イワギキョウ、タカネシオガマ等、高山植物が次々と顔を出してお出迎え。

小雪溪ではアイゼンなしで慎重に登り切る。さらに高山植物の数と種類が増えウルップ草も確認できた。村営頂上宿舎が視界に入る頃にはミヤマキンポウゲ、ヨツバシオガマ、ハクサンイチゲ、イワギキョウ、タカネツメクサ等々、覚え立ての花の名前をそれぞれ口にしながら歩いた。

頂上宿舎の個室に荷物をおき、白馬岳頂上を目指した。さすがに北アルプスの峰々のスケールの大きさに感激！頂上で見つけた美しい蝶はかのギフチョウか？

帰りに白馬山荘のレストランで昼食。味もまあまあ。よくまあ頂上にこれだけの施設を作ったものと思った。

今夜の夕食は何とステーキのディナーで、白馬ワインで乾杯！想像していた以上においしいお肉で3000mの山頂での最高の贅沢を味わった。ワインとストーブで火照った後は稜線に出て朝



日岳に沈む夕日のすばらしさを思いっきり堪能した。ここでも高山植物が咲き乱れており、まさに花はな花の一日だった。

この頂上宿舎の中には昭和医大の診療所がありボランティアのドクターが診察していたが、来年からは正式に開設する予定とのことだった。

(高橋芳恵)

3日目(8月7日)

3日目の本日は行程が長いので、3時30分起床。朝食は昨夜のうちにもらっておいた。

4時5分、頂上宿舎を出る。宿舎裏手の窪地にあるテント場の横を通り、昨夕散策した稜線に出る。右手に連なる黒い山並みを眺めたり、昨日登ってきた大雪渓を左手に、目を凝らしながら歩いて行くうちに、白々と夜が明け、最低鞍部の平坦地で朝食中に日の出となる。雪渓の登りで仰ぎ見た天狗菱の迫力は、稜線上から見ればあまり大したことではない。杓子岳は登らずに山腹を巻いて行く。下から見上げる杓子岳は、山頂部が平らで細長く、傾斜角度からみても屋根を思わせるような特異な形をしている。杓子岳の鞍部でB班が休憩している間に、A班は小鑪の登りにかかる。小鑪のちょっとした岩稜帯を越えると、鑪ヶ岳がお待ちかねだ。草木一本ない瓦礫帯をジグザグに登って山頂へ。山頂は想像以上に広く、特に東西に長い。ここからは鹿島槍から針ノ木方面、剣岳、槍ヶ岳から穂高連峰、振り返れば戸隠、妙高方面が見渡せる。

先に来ていた親子連れのその母親は68才とか、娘にも劣らない確かな足取りで、鑪ヶ岳を軽快に下って行く。30分程ゆっくりした後、私達も後に続く。鑪温泉の分岐に着くと方向を東に変え、お花畑の中を下る。稜線がどんどん高くなっていく。雷鳥の親子にも会い、広々とした大出原を後に林の中に入る。鎖場を過ぎると右手が沢になり、雪渓があがってきている。

登山道は切れ込みが浅いので、雪渓に落ち込まないように注意しながら、8時40分ついに鑪温泉に到着。何と先程の親子は既にここで入浴を済ませ、早々と猿倉に下山して行った。B班も到着したが、猿倉まではまだ4時間もかかるため、入浴せずにA、B揃って出発する。下っていくと、雪

渓に突き当たった。ガスが湧いてきて、見通しが利かない。アイゼンをつける。ベンガラをたどって下ると、コースは大きく左へカーブし、北に向かって雪渓を登り気味に行く。がレ場に出たところでアイゼンを脱ぐ。この後も、がレ場と雪渓を交互に3つも越える。三次郎沢を11時20分に通過。小日向のコルを12時に通過。小さな草原に出て休憩している最中に、雨が降り出す。雨具をつけて先を急ぐ。雨足は次第に強くなり、雷も鳴り始める。道はいつの間にか小川となる。雷にヒヤヒヤしながら歩いて歩いて、ついに14時林道に出る。2日前も雨の中、この林道を白馬尻荘へ登って行ったが、下山の今も雨の中。急ぎ足で猿倉へ下る。バスより100円安いタクシー4台に分乗し、白馬駅に向かうが、雨と汗でぐっしょり濡れたままではとても帰れず、駅前で見つけた岳の湯の送迎バスに頼み込み、温泉へ連れて行ってもらう。湯につかりながら、ホッと息をつく。(外崎 蓮)

#### 概要

山名	白馬三山(B)	山行形式	山小屋
期日	平成12年8月5日～7日(月) 2泊3日		
山域	北アルプス	地形図	白馬町、白馬岳
目的	ウルップ草を求めて		
交通機関	JR(ス-パ-あずさ)、バス、タクシー		
参加数	14名(内ゲスト1)	リーダー	斎藤
歩行時間	1日目:1:00、2日目5:20、3日目9:15	費用	40,000円
日程コース	5日	我孫子 6:09(成田線、常磐線)=新宿駅 8:00=白馬駅 13:20/13:30(ス-パ-)-猿倉 14:10/15:10=白馬尻 16:10	
	6日	白馬荘 5:40～大雪渓 6:20～小雪渓 9:10～村営頂上宿舎 10:30～白馬山荘 11:30～白馬岳 12:13/12:35～白馬スカイレストラン 12:45/13:30～村営頂上宿舎 13:45	
	7日	村営頂上宿舎 4:10～丸山 4:15～杓子岳 5:00～鑪ヶ岳 6:30/6:50～鑪温泉分岐 7:10～鎖場 8:30/8:55～鑪温泉 9:15/9:35～雪渓 9:58/10:03～雪渓 10:45/10:48～雷岩 11:45～小日向山 13:30～猿倉 14:05/14:10⇒白馬駅 14:20=岳の湯 14:30/16:30=白馬駅 17:07⇒新宿駅 21:06⇒上野 22:03⇒我孫子駅 22:36	





大雪渓へ挑む心の準備はできた。



白馬岳と白馬山荘(スカイレストラン)をバックに

白馬岳山頂にて





<167>

## 木曾駒ヶ岳・宝剣岳

(2956m 2931m)

中野弘子

### 広々とした美しい花園

#### 1日目

7時30分新宿発の高速バスが渋滞のため到着が1時間遅れ、さらに、しらび平からのロープウェイが2時間待ちの大混雑、千畳敷駅に着いたのが午後3時40分。

カールの美しい景色は日本の山と思えないほど。全員でストレッチをして出発。天気予報があたりゴロゴロと雷が時々聞こえる。登山者が多く、八丁坂あたりまで人々の行列であるが、花の多いのにもビックリ。黄色の花が多く、シナノキンバイ、ミヤマキンポウゲ、ダイコンソウと黄色のジュウタンの中に白のイチゲがまたかわいい。カール一面が高山植物に埋もれている。

乗越浄土まで1時間ほどだがかなりの急登である。着くころにはガスも出てきて黒い雲もあり、山荘の人から宝剣岳はカミナリが落ちやすいと言われリーダーの決断で今日は中止。5時頃には山荘に入っている。

私たちは3階の屋根裏部屋で他のパーティーがいなくてゆっくりくつろいだ。柴田さんにストレッチの指導を受け、食事をして皆早めに寝

てしまっていた。

#### 2日目 3時半起床、4時出発

頭が痛い1人をおいて出発。夜中雨が降っていたのがウソのように満天の星空の中、宝剣山荘の裏側より中岳へ。まだ暗くてヘッドランプの明かりを頼りにごろごろした石を踏み外さぬように登る。中岳に着くころには空が白々と明るくなり、丸みのある女性らしい木曾駒ヶ岳が見えてきた。

中岳を下り始めるとテントがいくつか見えてきた。ランプもいらなくなり、テントを横目に木曾駒の登りになる。山頂にはもう人がいるのが見える。あっという間に頂上についた。ご来光を待つ人やカメラを構える人が30人ほどいた。山頂からの眺望は360度見渡せ、目の前には雲海に浮かぶ御岳山が墨絵を見ているようだ。

東の空は雲が明るみ、八ヶ岳のあたりよりご来光、バンザイの声とともに皆手を合わせる。清家さんが戻ってきた。

宝剣山荘で朝食をとり、宝剣岳へは全員で登る。リーダーは「三点確保」を繰り返す。鎖のかかるところの下は身のすくむほど底が深い。頂上は10人立てばいっぱい狭さであるが、360度のパノラマ。無事下山、乗越浄土へ。

午後の天気が雷の予報、予定を変更して伊那前岳へ。宝剣岳を背にして、ハイマツの間の尾根をゆるく登って行く。下を見れば千畳敷カールが見事に望める。

清水平へ行く尾根では、コマウスユキソウ、チシマギキョウに出会え感激した。カミナリが

時々鳴るので早めに下り、カールのお花畑を一回りして午前中にしらび平まで下りた。こまくさの湯に入浴して、駒ヶ根バスターミナルに着くやピカッ ゴロゴロ ザーときた。早く下りてきてよかった。

渋滞のバスやロープウェイ、カミナリさんまでがお出まして、予定通りの行動ができなかったが、でも素晴らしい山行でした。

#### 咲いていた花

ミヤマガラシ（小さい黄）

モミジカラマツ（白）

コイワカカミ

クロユリ

#### 概要

山名	木曾駒ヶ岳・宝剣岳		山行形式	山小屋泊
期日	平成12年8月6日(日)～7日(月)			
山域	中央アルプス	地形図		
目的	高山植物、中央アルプス核心部を巡る。		費用	20,000 円
歩行時間	1 日目 1 時間、2 日目 6 時間 20 分			
リーダー	清家	参加数	14 名	
日程コード	1 日目	我孫子 5:30＝新宿 7:30 高速バス－駒ヶ根バスターミナル 12:10－しらび平 1:15／3:17 ロープウェイの千畳敷 3:40／3:50～乗越浄土 4:40～宝剣山荘 4:50(泊)		
	2 日目	宝剣山荘 4:00～中岳 4:15～駒ヶ岳 4:50／5:30～宝剣山荘 6:05 朝食 6:40～宝剣岳 7:00／7:10～乗越浄土 7:35／7:50～伊那前岳 8:05～勒銘石 8:20～乗越浄土 9:00／9:20～千畳敷カール 10:20 イタム 11:00～しらび平こまくさの湯入浴－駒ヶ根バスターミナル 4:00－新宿 9:00＝我孫子		

#### 夕陽に輝く





<168>

## 雲の平～槍ヶ岳

3180m



雲の平＝榊原文子  
槍ヶ岳＝高橋英雄

### 夢にまで見た雲の平へ

(1日目～2日目)

#### 1日目

密かにあこがれていた北アルプス、雲の平への旅がとうとう実現した。

8月11日、新宿より夜行バス利用一富山県有峰ロー(タクシー)折立。登山口駐車場には乗用車があふれている。人気の山がここ折立から出発なのだと知らされる。期待と不安で胸が高鳴る。

最初からの急登で、夜行バスの疲れと、テント泊の荷物でリックも重い。三角点一太郎平小屋まではさほどの急坂ではないが、ダラダラと長いので結構疲れる。降り返ると有峰湖が良く見える。周りの山々もくっきりと青空に映えている。

約4時間で太郎平小屋に到着。昼食後、いよいよ右側に大きく聳える薬師岳を見ながら左方向薬師沢小屋をめざす。どんどん下る。お花があちこちに、見え始めそして薬師岳がますます大きくすがたをあらわしてくれる。もうこれだけで満足しあわせ一杯なのに、さらにお花がどんどん顔をだしてくれる。

見とれているうち、大きな沢に挟まれた薬師沢小屋に到着。手続をすませ、リュックを部屋に置き、コップとつまみを持って、小屋の前の



薬師沢のせせらぎを肴に、乾杯！

吊り橋横、大岩に席を陣取り、冷たいビールで本日の反省会、全てよかった、よかった。

#### 2日目

早朝より薬師沢を登る。最初から急登で息が切れる。大きな石が、ゴロゴロあり足場も悪く、ジメジメして、プヨも多い。早く抜け出したいと、そればかり思い、2時間頑張る。

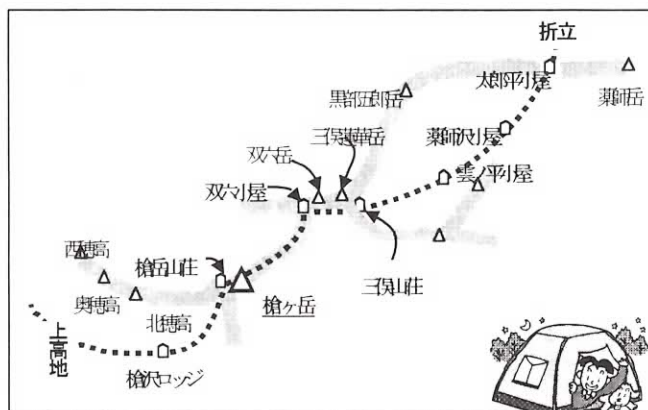


いよいよ憧れの雲の平に近づく時、薬師はやさしく見守ってくれていた。(薬師岳をバックに)

やっと明るい場所に出たと思ったら、そこは雲の平の始まり、アラスカ庭園であった。広い緑の絨毯を敷き詰めたような素敵なところ、思わず立ち止まりカメラを向ける。スイス庭園、ギリシャ庭園、日本庭園、と、見渡す限りの淡い緑が広がっている。一日中此处で過ごしたい。



黒部五郎が、雲の平によこそと大歓迎してくれているようだ。(黒部五郎岳をバックに)





雲の平、ほぼ中心にある、雲の平荘で一休み、記念に、テレカ、バンダナ、を買う。売店の彼の頭の手ぬぐいには、彼そっくりの顔が印刷されており、買いたい、と申し出た我々のなか、熱烈なまなざしを向けた柴田さんにプレゼントされた。なんと、非売品なのである・・・いいナー。



やったぜ、雲の平の真っ只中。笠ヶ岳も直ぐ近くに…。

夢のような美しい雲の平、憧れの、水昌岳、赤牛岳、黒部五郎岳、鷲羽岳、祖父岳、三俣蓮華岳、などぐるり見回せば手に届くよう。いつの日か、あなたの懷に、・・・と密かに願う私であった。

小さく山小屋が見える。三俣小屋だ。谷を挟んだ向こうの山、近くに見えても遠い。黒部の源流となる雪渓を横切り、ドーンと切れ落ちたような急斜面を谷底まで下り、源流の滴でお湯を沸かし昼食。



黒部源流の滴で、美味しい昼食を食べ、皆満足。

元気を取り戻し、三俣山荘に向かい一気に谷底より登り出す。両側には相変わらずの花、花、花、動かないでここに留まりたい。そう思ったのは私一人ではないと思う。

12時半頃山荘に到着したので、予定を変更して双六小屋に向かう。シオガマ、チングルマ、片斜面一面アオノツガザクラ、その他、多種、ものすごい花、疲れはピークなのに花達に励まされ、いつのまにか双六小屋に到着していた。

15時半テント設営。夕食は小屋に依頼済みであったが、宿泊以外の利用時間は PM.:7:00

からと聴き、ランチタイム用メニューの牛丼に変更。混雑していて食べる場所もなく、テントに持ち込む。味、量、ともベリイグウー。小屋の混雑を横目に、我々はテントの中、手、足、を伸ばしてゆうゆうと、熟睡。テントを担いでくださった、L 大串さん、SL 高橋英さんに心より感謝申し上げたい。

夢にまで見たあこがれの“雲の平”。やっと願いがかなった北アルプスの台地。最高の天気と仲間に恵まれたこの山行は明日からの、槍ヶ岳へと続く。どんなコースと花が待っていてくれるのだろうか?・・・英さんにバトンタッチします。  
(榊原)

## 5年越しの恋人 槍ヶ岳 へ

(3日目～4日目)

### 3日目

双六小屋テント村3時半起床。朝食を済ませテントの片付け、いよいよ今日は5年越しの恋人に会えると思うと何だか胸がわくわくする。

双六小屋の前でご来光を拝んで出発。小屋から縦沢岳へすぐ登り、山腹を巻きながら、下りきると正面に待望の槍ヶ岳が目の前に見え、一行の気分は昂揚するが、千丈沢乗越まではなんと長いこと。

小休止をとりながら足を進める。意外に大きく見えた小槍と本尊に励まされ、やっと肩の小屋を見つけたときは体中の力が抜けたような気がした。



岩峰を見上げる。さあ登るぞ。(槍ヶ岳山荘前で)



ティタイムの後、テント張りを終え、いよいよ山頂へ…。山頂への道中の混雑は大変でしたが何とか登りつめ到着。ついに5年越しの恋人に会えた気分は最高でした、バンザ〜イ。



ついにやったあ、バンザ〜イ(槍ヶ岳山頂で)

写真を撮りすぐ下山。テント場からの眺めは、目の前に大喰岳、中岳、前岳、その奥に穂高連峰(はっきりみえない)と贅沢なロケーションを眺めながら話は尽きない。

明日は長い槍沢の下り。夕食を済ませ早々白河夜舟となる。

#### 4日目

朝、目が覚めたときは、ガスにおおわれ星一つ見えず、もしやと思われたが…恋人に会ったせいか出発前にはご来光にも恵まれその為予定より15分遅れの出発となった。

いよいよ上高地を目指して長い長い下り、一目散に下り続ける事7時間余り、上高地に着いたのは12時20分でした。



槍沢を下る。朝日に映える槍ヶ岳、サヨナラ…。

(殺生小屋分岐付近で)

可愛い花を見ながら頑張り抜いて、かつば橋から1km位の所で4日ぶりの温泉は本当に最高でした。

お盆の帰省の影響があり、新島々までは倍の

時間を要し、電車も遅れたりして我孫子駅に着いたのは23時30分でした。

夏、北アルプスの風景にどっぷりとひたった4日間でした。又、メンバーにも恵まれ幸せの6人でした。

或る人にとっては夢だった雲の平へ、また或る人にとっては憧れだった槍ヶ岳へ…一人一人の熱き思いが遂に叶った。

長い急登が終るとそこが雲の平。何故、北ア最奥にこんな楽園があるのだろうか。槍ヶ岳山荘からはオカリナ(鳩笛)の奏でる叙情歌が流れていた。哀愁を帯びた調べは、山頂を極めた感激を更に昂揚させた。山頂のテントから眺めた、月明かりに浮かび上がる笠ヶ岳の幻想的な光景は決して忘れないだろう。

励まし合いながら、頑張り通した素晴らしい仲間感謝。感動の4日間は終わった。

(高橋英)

山名	雲ノ平〜槍ヶ岳 (グレートC)	山域	北アルプス
月日	平成12年8月12日〜15日	費用	41千円
地図	有峰湖・薬師岳・三俣蓮華岳・槍ヶ岳・穂高岳・上高地	交通機関	中央本線
目的	北ア最奥部縦走 …雲上庭園から岩峰へ	山行形式	山小屋1泊 テント2泊
参加者	柴田、大串秀(L)、大串恵、榊原、高橋英(SL)、安田		
歩行時間	1日目:7時間20分、2日目:10時間40分、3日目:7時間40分、4日目:7時間05分		
日程コース	12日	我孫子駅(前夜)20:30⇒新宿都庁(前夜)22:00/22:50⇒(アルピコ夜行バス)⇒有峰口 6:15/6:20⇒(タクシー)⇒折立(朝食)7:10/7:45⇒1871m 三角点 9:25/9:40⇒太郎平小屋(昼食)12:00/12:30⇒薬師沢源流⇒薬師沢小屋 15:05(小屋泊)	
	13日	薬師沢小屋(起床 3:30 朝食)4:50⇒アラスカ庭園 7:50⇒アルプス庭園分岐 8:00⇒雲ノ平山荘 8:10/8:30⇒スイス庭園 8:50⇒祖父岳・日本庭園分岐 9:45⇒黒部川源流分岐(昼食)11:15/11:55⇒三俣山荘 12:35/12:50⇒三俣蓮華岳分岐 13:35⇒双六岳分岐 15:10⇒双六小屋 15:30(テント設営・泊)	
	14日	双六小屋(起床 3:30 朝食)5:15⇒樺沢岳 5:55⇒硫黄沢乗越 6:40/6:45⇒千丈沢乗越 9:00⇒槍ヶ岳山荘(テント設営・昼食)10:25/11:35⇒槍ヶ岳山頂 12:00⇒槍ヶ岳山荘 12:55(テント泊)	
	15日	槍ヶ岳山荘(起床 3:30 朝食)5:15⇒上人修行場 6:00⇒水の沢 6:15⇒石見沢 6:30⇒中の沢 6:45⇒曲沢 7:05⇒テント場 7:35⇒槍沢ロッジ 8:00⇒二の俣 8:20⇒一の俣 8:30⇒槍見河原 8:35/8:40⇒横尾 9:25/9:30⇒徳沢 10:20/10:35⇒明神(昼食)11:25/11:45⇒上高地(入浴)12:20/15:10⇒(バス)⇒新島々 17:25/17:58⇒(松本電鉄)⇒松本駅 18:27/18:50⇒(特急あずさ)⇒新宿駅 22:26(延着)⇒我孫子 23:30	

< 1 6 9 >

## 鳥 海 山

(2,236m)

斎藤 清一

### みちのくの名峰と 越年雪を踏みしめて！

前夜発（平成 12 年 8 月 18 日）

東京駅を 21 時 10 分に象潟駅行きバス（ドリーム鳥海号）が静かに滑り出した。東京の夜景を後にしながら暗闇の中を一路日本海へと進む。この夜行バスは階段を降りると喫煙室兼休憩室脇にトイレがある。リクライニングはかなり水平に近い。今夜は充分に睡眠が取れるぞ！

空が白んできた頃バスは奈曾の滝駐車場で時間待機中だ。最上川沿いである。今年の秋には山形道路が酒田まで全面開通の予定。その時は湯殿山を貫通した道路を夜行バスは走り抜けるであろう。

うとうととしていると車窓のカーテンが開けられる。まぶしい晩夏の光が登り始めたのだ。左側には象潟の海岸すなわち日本海である。バスの左前方上に鳥海山が聳え立っているはずだ。右には夜行寝台特急“あけぼの”が平行して走っている。象潟駅に同時到着だ。バス乗客とあけぼの乗客を乗せて鉾立行きのバスが出発だ。

第 1 日目（平成 12 年 8 月 19 日）

1 時間の登りを視界が利くので堪能させてもらった。眼下に日本海が朝日に照らされて輝いて見える。飛島が手に取れるほど

近くに見える。鳥海山は裾野が長く日本海に浸されている。

バスが登るに従い山は秋が忍び寄っている。東北の秋は足早にやってくる。終点の鉾立でメンバー 4 人が日本海を眺めながらの朝食を取る。鉾立は観光客も大勢押し寄せる。高山植物は東北一であるため鳥海湖とお花畑を見たさに歩いてしまう。登山者にとっては歩きやすく道も意外と整備されている。

犀の河原に差し掛かったところ、ここまでは秋田県、ここから山形県、の道標が立っていた。数分にして秋田県と山形県を行ったり来たりする。鳥海山は秋田県と山形県の県境に位置するのである。ちなみに鳥海山は出羽富士、鳥海富士、秋田富士、と呼ばれている。山形富士？

犀の河原を登るともう登山者の道であると同時に信仰の山でもあるため信仰の道でもある。御浜神社に着く。御浜小屋の管理人はヘリコプターで飲食物を上げるので割高ですまないねとソフトドリンクを買ったら話し掛けてきた。東北人らしい人だ！

扇子森までは残雪に覆われた鳥海湖とその付近に咲き乱れているニッコウキスゲを眼下にしなが御田が原を通過して階段状の坂道を登れり七五三掛（しめかけ）についた。60 代の女性 2 人が後から付いていって云いと訪ねられたのでどうぞと応える。

千蛇谷の雪渓はアイゼン無しで渡れるとの外崎リーダーの判断で登山靴で雪を踏みしめながら登る。われわれ 4 人に付いて来た 2 人はこの雪渓でを前にして外輪山経由とするとかれる。外輪山から見るとすり鉢の中の雪渓を歩いている我々を元気付け様とヤッホー、ヤッホーの声が掛かる。メン



バーの吉岡さんが「Yahoo」と上に向かって応える。後で彼らと出会うことにはなるとその時は思いもしなかった。

鳥海山大物忌神社の鳥居の前にザックを置き、新山に向かう(2,236m)。私の記憶によると 20 数年前火山活動が激しくなり噴火して、現在の新山が形成されたのだ。鳥海山は成層火山である。大きな岩を飛び越え飛び越え進んで行くと洞窟のよな処を下がって行く。眼前に更におおきな岩、岩がくつきあってゴロゴロとあるそれをよじ登り飛び越えて頂上に立つ。皆が見ている前で岩の上に立ち 4 人われら 岳人あびこ、の旗を手にシャッターの音。

大物忌神社に詣でて外輪山最高峰の七高山(2,229m)に向かう。外輪山から声をかけた人々と会う。互いに挨拶を交わす。ゴロゴロとした岩、岩、石道を登る。ガスが出てきた。サアー明るいうちに小屋へ行こう。行者岳で酒田経由で上ってきた埼玉の家族に記念写真を撮ってもらう。昨夜酒田で岩牡蠣を家族で食べたとの話が出る。今年 NHK 放送 ためしてガッテン番組で岩牡蠣の放映が 2 回もあり岩牡蠣の値段が酒田でも跳ね上がっているとの話を聞く。

アザミ坂を急降下すると下る一方だ。心字

雪渓をアイゼンつけて下る。途中で雪渓が切れアイゼンを外して山を下る。ニッコウキスゲがずうと続いて咲いている。越年雪の心字雪渓が再度始まりアイゼンを付けてしばらく下ると小屋がはるか彼方に小さくみえた。もうすぐだ。外崎リーダーの声で高橋芳江さんと私は頑張ろう！と共に叫ぶ！もう一人の声がない。はるか後方を付いて来る吉岡さん頑張れ小屋が見えるぞ！

お花畑の真中に河原宿小屋がある。小屋の前には小川が流れている。小屋の管理人が双眼鏡で我々 4 人のメンバーの足取を見ていたとのこと。安心して待っていたとのこと。小屋の前での夕暮れの一時、小川の水で沸かしたお茶を飲みながら、越年雪の心字雪渓と周りに咲いているお花を眺めながら談を弾ませる。

第 2 日目 (平成 12 年 8 月 20 日)

早立ちだ、昨日の宿泊者は 20 名程。京都のメンバー他大半は頂上を目指して雪渓



夜行バスの疲れもなんのその、よく歩きました。

をのぼり始めた。眼下に開ける日本海と酒田港を見ながら降りる。本日も朝から晴天だ、残暑が来る前に距離を稼ごう！酒田南高校の避難小屋を通過、今年の甲子園高校野球の山形県代表校である。ことさら新鮮さを感じる。

鳥海荘に立ち寄る。山の中での温泉は気持ちが良い。昼になっていないのが良い。一息を入れている所にタクシーが着た酒田の町下って行く。昼食と反省会は本間様の御殿の隣の割烹で。岩牡蠣は目が無いよ。珍味、珍味。

#### 鳥海山 概要

山 名	鳥海山 (2236m)
期 日	平成 12 年 8 月 18 日夜～8 月 20 日 (晴れ)
形式	夜行バス 山小屋泊
山 域	出羽山地
地形図	鳥海山 1/2.5 万

目 的		花、残雪、岩峰のみちのくのの名峰を訪ねて
リーダー		外崎 蓮 参加数 4 名
費 用		概算 30,000 円
1	18 日	我孫子 19:30⇒東京駅 21:20⇒
	19 日	象潟 5:40/5:50⇒鉾立 6:40/7:15 ～賽の河原 8:40～御浜神社 9:15/9:20 ～ 七 五 三 掛 け 10:13/10:25～千蛇谷～大物忌 神 社 12:20/12:40 ～ 新 山 13:05/13:15 ～ 大 物 忌 神 社 13:35～七高山 14:00 ～伏拝岳 14:50/15:00 ～ 河 原 宿 小 屋 16:50 着 (泊)
	20 日	河原宿小屋 6:20～滝の小屋分 岐 7:00 横堂 8:30～沢追分キャン プ 場 9:40/9:50 ～ 鳥 海 荘 10:20/11:30 (タクシー) ⇒酒田駅 13:18/13:24⇒新潟 15:31/15:54 ⇒上野 18:04/18:16⇒我孫子 18:50 着



鳥海山山頂



<170>

**奥穂高岳～北穂高岳**

3190m

3106m

山西澄子

**あれがジャンダルム！！**

穂高に登るなど夢にも思っていなかった私が穂高に立っている。不思議な感動でした。

8月25日上高地の河童橋たもとに立ち穂高の山を見た時、はたして登れるかという不安とジャンダルムを見てみたいという期待でかなり興奮しました。

松本から新島々迄約30分、新島々から上高地までのバスは稲核(いねこき)ダム、水殿(みどの)ダム、奈川渡(ながわと)ダムを経て約1時間。河童橋から明日登る穂高の山々をカメラに納め、近くのキャンプ場で昼食を取り、いよいよ出発。梓川沿いに明神岳を左に眺めながら明神館まで約1時間、明神池に立ち寄り、さらに1時間で徳沢、さらに1時間程で最初の宿泊予定の横尾山荘に4時頃到着。

この約3時間の足慣らしは、途中鴨の親子に会ったり、秋を早くも感じている御前橋の赤い実、サンカヨウ・ツバメオモトの青い実、ノコンギク、ツリフネソウ、クサボタンなど、楽しいハイキング気分だった。横尾山荘からの屏風の頭、前穂高の眺めを楽しんだ。

2日目、秋の空を思わせるような澄んだ青空の中快調な足取りでスタート。屏風の頭をまく登山道を歩き出して45分頃、明日登る北穂高山頂小

屋の赤い屋根が見えた。本谷橋河原で小休止、さわやかな風が気持ち良い。ここから少し登りがきびしくなり、横尾山荘から約3時間で涸沢ヒュッテに辿り着いた。フワーとひらけた雄大な涸沢カール、前穂高、奥穂高、北穂高に抱かれたような感じ。すばらしい眺めに感動「来てよかった！」。これから登るパノラマコースも見える。ずーとこの雄大なすばらしい景色の中を登って行く幸せ「来てよかった！！」。



来てよかった！—(涸沢大カールと奥穂高岳)

お花畑を通り、雪渓を横切り、よく整備されている石を敷き詰めているような歩きやすい道から岩尾根に取り付く。時折雪渓を渡ってくる涼しい風が気持ち良い。つらい岩尾根の急登も雄大な景色がやわらいでくれる。山荘迄20分の標しがあって、やっと穂高岳山荘に辿り着いたが、この最後の20分が今回の山行で一番苦しかった。横尾山荘から約6時間だった。

山荘前で昼食を取り、サブザックで奥穂高山頂を目指す。いきなりのハンゴ、クサリの岩場、さらに浮き石に気をつけながら登る。朝は雲一つないような良い天気だったのに、ガスが発生しはじめた。お社の祭られた頂上は2畳ほどで8人全員が登ると一杯。感動的なジャンダルムがガスの間に間に見えかくれするたびに歓声上がる。



お社の祭られた奥穂高岳山頂は2畳ほど

下山途中雷鳥の親と子5羽に会う思いがけない出会いに感謝。下りは登りより大変、ハシゴ、クサリ場で後方にいた恵子さんからの指示が飛ぶ。私など自分のことだけで精一杯なのに、前方の人たちの顔色のことまでちゃんと見ていて下さったのだ。この方たちのお陰で安全登山ができていることを改めて知る、ありがとうございます。



あれがジャンダルム！！

奥穂高山荘まで下ってきて時間のある事だからと、涸沢岳に登る。結構浮き石が多くきびしい。頂上から北穂高へのルートを見るが、恐ろしくてとてもこの世のものでないようだ。穂高岳山荘に再度下ってきて広いテラスで乾杯。どこからかケーナの快いひびき(ペルーで修行したという登山客の独奏)が山々に染み込むような音色で大勢の登山客を酔わせてくれた。来月山行予定の大

天井岳, 常念岳, 蝶ヶ岳がくっきり見えた。常念岳はこの後の山行中ずーと“友だち”。

穂高山荘は1部屋30人位で、畳1枚で2人程度。この位ならまあ良い方らしいが、自分の手の置き場所に困った。ほとんどの人が「眠れなかった」を訴えていた。この夜遅く激しい夕立ちがあった。明日は大丈夫かしら…

3日目 昨夜の雨は嘘のよう、日の出が楽しめる程の良い天気。5時50分出発。厳しい岩尾根を下り涸沢小屋へ、ここからサブザックに変えて北穂高へ向かう。お花畑の中をぐんぐん登っていく。振り向くと雄大な涸沢カールが、常念岳が、前穂高が、雷鳥のお迎えが…そして心地よい風が疲れを癒してくれる。山は厳しさと優しさをいつも同時に与えてくれる。

昨夜「眠れなかった」人たち全員元気だ。最初のハシゴ場辺から急登になり、さらに2度目のクサリ、ハシゴ場で尾根にでるがここからが慎重に慎重に、少し下り一気に登ると北穂高山頂。「わー、槍だー！」皆一番に目に飛び込む、感動の一瞬。



わー、槍だー！（北穂高岳山頂より）

山頂では、ガスが行方不明だったり、トイレを開けられたりと、お腹を抱えるような楽しいハプニ



ングがあり、どの顔にも疲れの色はない。餅入り  
コーヒーのお味は如何でしたか？ 下山はいつ  
も慎重に、早い夕立ちに少し降られたけれど涸  
沢カール、涸沢ヒュッテ、カラフルなテント、山々  
が手に取るように見えて気持ち良かった。涸沢小  
屋のテラスの椅子にもたれて静かな夕暮れの景  
色を心行く迄楽しんだ。いい山行だったとすべて  
に感謝。「来て良かった!!!」と…。

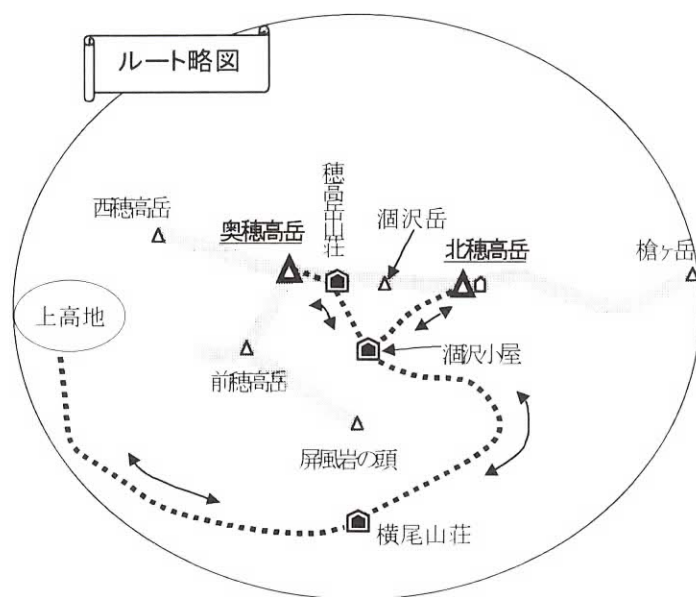
4日目 この日も晴天なり。穂高の山々、涸沢  
カール、常念岳…にお別れの日です。何度も何  
度も振り返りながら、また来る日迄(そんな日なん  
てあるかしら)。涸沢から横尾山荘までの下山も  
皆快調。横尾山荘からの3時間は整備体操のつ  
もりで。人ごみの上高地に帰って来ると急に汗臭  
さが気になる。温泉に入って汗だけ落とし、思い  
出はしっかりと持ち帰った。

4日間天候に恵まれ、惜しみ無く大きな感動を  
与えて下さったリーダーをはじめ、同行の方々と  
穂高の山々に深く感謝致します。



北穂高岳をバックに

この日は穂高岳山荘から涸沢小屋まで下りて、  
北穂高岳を目指した。涸沢を1往復半、雄大な  
カールを存分に堪能



山名	奥穂高岳・北穂高岳 (グレードB+)	山城	北アルプス
地図	穂高岳・上高地・笠ヶ岳	交通機関	中央本線・バス
日時	平成12年8月25日(金)～28日(月)	山小屋3泊	
目的	北アルプス最高峰登頂		
参加者	大串秀(L)、斎藤(SL)、中村隆(カメラ)、中村美(会計)、大串恵(記録)、佐藤、山西(やまなみ)、高橋潔(ゲスト)		
費用	44千円 …上高地フリーきっぷ 13,500+山小屋(2食付) 3泊料金 25,900+雑費 4,600		
日程・行程	1日目	我孫子駅 5:30⇒新宿駅 6:30/7:00⇒(スーパーあずさ)⇒松本駅 9:38/9:58⇒(松本電鉄)⇒新島々 10:28/10:40⇒(バス)⇒上高地(昼食) 11:50/12:30⇒明神分岐(奥宮参拝) 1:30/2:00⇒徳沢 2:55⇒横尾山荘 3:40(泊) 歩行時間:3時間10分	
	2日目	横尾山荘(起床 4:30) 6:15⇒本谷橋 7:15/7:25⇒ヒュッテ涸沢 9:10/9:30⇒穂高岳山荘(昼食) 12:25/1:50⇒奥穂高岳 2:30/3:00⇒穂高岳山荘 3:55(泊) 歩行時間:9時間40分	
	3日目	穂高岳山荘(起床 4:30) 5:50⇒涸沢小屋 7:40/8:20⇒北穂高岳(昼食) 11:30/1:00⇒涸沢小屋 3:30(泊) 歩行時間:9時間40分	
	4日目	涸沢小屋(起床 4:30) 5:40⇒本谷橋 7:15⇒横尾山荘 8:20/8:30⇒徳沢 9:15/9:35⇒明神(昼食) 10:20/11:00⇒上高地(入浴) 12:00/2:30⇒(バス)⇒新島々 3:40/3:58⇒(松本電鉄)⇒松本駅(反省会) 4:28/6:31⇒(スーパーあずさ)⇒新宿駅 9:06⇒我孫子 10:00 歩行時間:6時間20分	

< 171 >

## 榛名山(1449M)

細野清子

「8・9 月と日帰り山行がひとつもなくてがっかりした。」と会員さんの声が耳にはいった。では、ということで計画することにする。けれど低山は暑いし、涼しく行ける山はないかと山の本をひっくり返し、やっと見つけた山は「榛名山」でした。やまたんには掲載がまにあわず連絡網でまわす。その二日後アクシデント発生。8 月上旬に後立山連峰を縦走中、ヒザがガクンとなったのが今ごろになって痛み出し、水がたまって通院。さて中止にするか、決行するか前日まで悩んでしまう。私が行けなかったら省二さんが替わりにリーダーを引きうけてくれるということでホットする。

朝どんよりと曇り「ひょっとしたら雨かな」とちょっと心配になるが、天気予報は降るとしても夕方との事。

予定より 1 台早い電車に乗れたのでバスの発車まで充分時間があつたが、トイレが遠くてギリギリの時間にセーフでした。高崎からは 1 時間 30 分バスに揺られなければならない。高崎駅を出てすぐの路上で骨董市をやっていた。帰り寄りたいね！と意見一致。興味のそそられる品々に、ワクワクしてくる。

「あれが榛名山かしら？」と省二さんとはなしていると、前の席の老婦人が「榛名山はあっちの方向です。」と教えてくれた。

それがきっかけで、山の話しがはずむ。

「この夏は八方尾根から唐松岳に登った。」

「私達も白馬から鹿島槍まで縦走したんです。」

「不帰ノキレットで 8 月の初め頃滑落事故があつたでしょう。」

「すごいキレットで気が抜けなかった。」

「ウルップ草見ました？」

「行ける時に行きたい山に行っておいた方がいいですよ。年々体力が落ちて山で何泊も出来なくなるから。」等々。

「ところで今日はどちらへ登られるんですか」

「今日は天狗に登るんです。高山植物がまだまだ咲いているから。」

「相馬山には咲いているかしら。」

「咲いてますよ、沼の原に降りるといいですよ。昔は湿原だったんだけどもう干からびて湿原は跡形もないんだけどね。」

「このバスあとすこしすると車庫で 30 分間休憩するの。トイレはここが最後で、回数券を購入すると良いよ。」と、親切にいろいろのことを教えてくれた。

地元の人に聞くのが一番。

ここまではよかったのにこのあとバスに酔ってしまい「薬は飲んでいたので…」バスを降りた時は最悪でした。

トップは省二さんにやってもらい、わたしは一番うしろからゆっくりいくことにする。

登山口からさっそくゲンノショウコ・タイツリソウ・色の濃い萩など花が咲いている。そしてブナのはやしの中をのぼっていくのです。

このあたりの山では掃ゲ岳が一番たかく榛名湖の外輪山として相馬山・天目山な



ど総称して《榛名山》という。榛名湖の真中には《榛名富士》がポツカリと浮いていて、ロープウェイもかかっているのです。そして今日は外輪山を歩こうというわけです。

「関東ふれあい道路」だけあって、道標と登山道はキチンと整備されている。

木道で階段の登山道は「歩きにくい」「イヤだなあ」とみんなは文句をいっているが、きょうのわたしには、足がフラットに置け、ラッキーでした。いつもは私も苦手なだけけれど。

「参加者が少ないといいね。リーダーの声が後ろまでちゃんと通るし、みんなの話し声も聞こえて。こんなに少ない山行始めてだわ。」と会話を楽しみながら歩く。そして、昇り降りを繰り返すうちに、階段がだんだん少なくなっていました。

スルス峠からは沼の原に向かい、高山植物を見ることにする。マツムシ草がたくさん咲いていたが、なぜか非常に背高のっぽで高いのは胸近いたかさでした。もうすこし低い方が、可憐でわたしは、好きだなあと思いましたが、初めて見る人はとても感激していました。

スルス岩は峠から見ました。《奇峰》の一言です。

相馬山の分岐に荷物をデポして、ピストンする。相馬山への登りは急登。直角にかかった梯子を登っている最中に「こわーい、下で待ってるー」と、喚いてる原さん「大丈夫、三点確保、しっかりつかまって」と叱咤激励する場面もあったが、全員が頂上に立つことができた。展望はないが石仏と社が奉ってある。心配していた下りは梯子より《ミミズ》の方がこわかった、という

う原さんでした。分岐のところには、始めて見るはながたくさん咲いていました。《タマユラ》ではないかと思ったのですが、下山して図鑑をみたのですがのっていませんでした。下向きの白いスズランを数倍大きくしたようなとても可憐できれいな花で、日陰にさいっていました。

ヤセオネ峠からバス停までは樹林帯の中で平坦な道でした。バスの時間に間に合うかもと少々急ぎ足。思ったより近くでした。

タイミングよく伊香保温泉行きのバスはすぐきました。一本のがすと約一時間半待たなければならぬバスなのでほとんど満員でした。

伊香保温泉は500円で、県営の女性風呂の方が、広くてきれいなお風呂に入れました。

伊香保からまたバスに揺られて渋川へ。30分に1本あるので、全員座れて、指定席並でした。

渋川から高崎間の電車は超満員。多くの乗客は登山客なのか、網だにはリュックがいっぱいでした。高崎～上野はドンコ利用で長ーい旅。やっと上野に到着。目の前に常磐線の電車。グッドタイミングと飛び乗ったのは良かったが、我孫子・天王台通過で、ついた所は《取手》と言う落ちまでついて、日帰り山行は無事終了した。

夏は低山は暑いと敬遠していたが、捜せば日帰りで涼しくいける山もあるもんだ。

泊まりで行けない人のためにも、夏の日帰り山行も必要かな？

でも、1年に1回泊の夏のアルプス山行も思いついて、経験してみたいかがでしょうか？きっと良い事があります！！

《細野清子》



相馬山の山頂のある石像は三者三様で見事に整列して安置されている。



### 定例山行

榛名山 (1449m)

リーダー:細野清  
グレード:A

期 日:平成12年8月27日(日) 天気:曇りのち晴れ

目的:カルデラを取り囲む外輪山の縦走・高山植物の鑑賞

山行形式:日帰り 費用:約 6,000 円(ホリデーパス利用)

参加者:L細野清、SL細野省、品田、庄司、大畠、原 6名

コース:我孫子駅 5:30=上野6:16=高崎8:30-榛名湖9:45…登山口10:00…氷室山  
10:35…天目山11:00…スルス峠13:00…相馬山13:35…分岐14:20…ヤセオ  
ネ峠バス停14:35/14:45-伊香保温泉15:58/16:36-渋川=高崎17:10  
=上野

メ モ: 関東ふれあい道路で道標は整備されている。

この時期マツムシソウが見ごろ

高崎～榛名湖間のバスは車庫で 30 分の休憩時間あり。回数券購入するとよい。トイレもここが最終。



< 172 - 1 >

## 燕岳・常念岳・蝶ヶ岳

(2857m) (2664m)

(北アルプス)

原 田 和 昭

### 急登の合戦尾根に登る

第一日目、9月14日(木) 天候 晴れ。  
台風14号が沖縄諸島を北上しており、今回の山行は完全踏破出来ないかも知れない不安を持って出発。参加者の都合により2班に分かれる。中村リーダー他5名がA班として新宿発7:00のスーパーあずさ号に乗る。

列車は定刻に松本駅を經由して穂高駅着、駅からはタクシーで中房温泉登山口に到着する。天気は心配することもなく、準備運動で事前の体勢を整え登山開始。

私は今回と同じ合戦尾根を7月下旬にも登っており、その時のイメージを思いだしながら歩く。登山口から急登であるが、空気が乾燥して周りの木々を見ながら、気持ち良くゆったりしたペースで確実に前進する。

第一ベンチ、第二ベンチで小休止、一気に第三ベンチまで登り昼食にする。このころから、明るくなり青い空が見えることがあった。昼食後は元氣を取り戻し合戦小屋まで登るが名物のスイカは売ってなくて残念。平日で登山者は少なく、休憩時間もそこそこに歩き始める。

最後の急登を頑張ると見晴らしの良い稜線に出る。白砂の中に突き出た花崗岩帯の奇岩を潜り抜け、元氣で燕山荘に到着する。燕山荘は見晴らしの良い場所に有るが、全体に強いガスが流れて眺望はあまり良くない。

宿泊手続きを済ませ、今日のうちに燕岳を制覇するために小屋を出発。稜線は強い風に注意しながら登頂に成功するが、前方に見えるはずの槍ヶ岳の容姿は何も見えない、明日に楽しみを残して小屋に帰る。小屋では夕食后に行われる名物のホルン演奏は主人が留守のため聞くことが出来なかった。

### 快晴のアルプス尾根を歩く

第二日目、9月15日(金)、天候 快晴

早朝4時30分起床、昨日の天気とは全く変わり、空は雲一つなく、大きな満月の月が西の空に残っている。山小屋から400m位下に真白い雲海が一面に広がり、雲海の中にまわりの山々が島のように浮いて見える。

気温はあまり寒くなく、乾いた空気が肌に気持ち良い、槍ヶ岳連峰が面前に大きく見える。槍ヶ岳の穂先が子槍を従えて空に突き出ている、二ヶ月前にあの頂上に登れなかった無念の気持が思い出された。

午前5時29分、東の空に大きな太陽が輝き始め、登山者のカメラが一斉にシャッターを切る。一面の山が朝の光にあたり赤く染まる一瞬がある。この時を自分の目で見る事が出来れば、登る時の苦しみは一度に飛んでしまう。

感激の日の出を楽しんだ後に、朝食を済ませ、大天井岳にむけて表銀座コースを出発。前面に大天井岳から槍ヶ岳の全容、右手には深く切れ込んだ高瀬の谷を挟んで裏銀座コースの山並み、左手には安曇野平野から、はるか遠くに八ヶ岳、富士山、南アルプスの山々を望むことが出来る。こんな幸せを感じることが出来て感激、爽快な縦走路。

蛙岩の岩峰群を抜け、切通岩のクサリとハシゴを下りた鞍部に、小林喜作のレリーフが巨岩の上にはめ込まれていた。レリーフをバックに記念写真を取り、大天井岳山頂に至る道を進む。道はず



遥かに槍ヶ岳をバックに(大天井岳山頂で)



れた急な登りで一步一步を慎重に進める。

途中休憩をはさんで大天井荘に到着。そこにザックを置いて、大天井岳の頂上に10分で登頂。頂上は狭いが他の登山者がいないのでゆっくりと、360度の絶景に見とれる。面前に槍ヶ岳の山、その南には穂高の山々が一面に広がっている。この感激は苦勞して登ったことなど一瞬にして忘れて、最大の喜びを感じる時です。

頂上から大天井荘に下り、エネルギーを補給して今夜の宿泊地の常念小屋に向って歩き始める。道はなだらかな稜線歩きで良く整備され、両側の山並みを心ゆくまで眺めながら満足な歩行です。

東大天井岳に近くなった所で、昔は避難小屋として利用された建物の基礎部分が残っている場所に到着。三方が石垣で囲まれ風除けを兼ねて休憩には最適の場所、ここで昼食を楽しむ。

昼食からは東大天井岳を左に折れて、大きなピークを巻きながらなだらかな稜線を下り、一度あん部に降りて横道岳に登ると、そこからは今夜泊る常念小屋が見えてきた。一気に常念乗越に向けて急勾配な道を慎重に降りる。久しぶりに樹林帯の中を歩き、間もなく常念小屋に到着する所でB班の竹内さんからの携帯電話がかかってきた。

B班も元気に登って来ているので全員が歓声と共に明るい顔になる。常念小屋での宿泊手続きをとり、B班の到着を待つこと約一時間半、全員が元気に揃う。夕食前に簡単な懇親会を楽しむ。今夜からテント泊の人と、小屋に泊る人に別れる。夕方からは雲の動きが活発で明日からの天気が心配される。

山小屋は多くの登山者で賑わっており、TVはシドニーオリンピックの開会式の放送で、心配している天気予報は見送られてしまいました。

## 霧と風の常念岳

第三日目9月16日(土) 天候曇りのち雨 朝6時前に小屋前に集合、気温は暖かく風が強く吹いている。山全体がガスと雲に覆われ視界は利かない状況、昨日の天気とは全く変わり雨を心配しなければならない天気。

常念岳に向って全員元気に登山開始、大小の石に囲まれた急な登山道を、浮石を注意しながらゆっくりと登る。約一時間半後に待望の常念岳の頂



常念岳、この美しさに魅せられて  
(16日常念小屋テント場で)

上に到着したが、頂上は強い風が吹いており、周りの山は雲に隠れて何も見えない。頂上直下の大きな岩で風除けをしながら小休止をとる。

残念ながら期待した展望は無く下山開始。岩と岩の重なる道を急降下する。時々ガスに囲まれる時があり、緊張の続く中で約一時間半後に無事にあん部へ降りてほっとする。そこから樹林帯の中を大きなこぶの山に登る。二つ目のピーク 2592に登頂した所で昼食にする。

昼食中に本格的な雨が降り始めたので、完全装備をして蝶ヶ岳に向って出発。樹林帯を抜けると風は一層強くなるが、蝶ヶ岳の狭い頂上に全員登頂して記念写真を撮ることが出来た。まもなく蝶ヶ岳の頂上にも到着したが、まわりはガスに囲まれて二重山稜の優美な雰囲気を楽しむことなど出来ないのが残念でした。

本格的な雨に打たれながら計画した時間に小屋に到着する。荷物を整理してから全員が食堂室に集合して、今回一緒に登った仲間、原田君子さんの還暦祝いをする。事前の行き届いた準備と、





常念岳山頂 美しい三角錐も岩、岩。

この高地まで重い荷物を背負ってこられた仲間の心配りに驚きました。

お祝いのケーキとワインで元気に乾杯。赤いシャツに赤い帽子、記念品を片手に感激で一杯。楽しいひと時があつという間に過ぎてしまいました。夕方からは一段と風雨は強く、テント班の方は雨のなかでの作業で大変苦労されていました。

談話室のTVは、シドニーオリンピック柔道、女子48<sup>kg</sup>級のヤワラちゃんこと田村亮子選手と、男子60<sup>kg</sup>級の野村選手の二人がめでたく金メダルを獲得した。多くの登山者の応援と歓声で興奮していた。

## 雨の蝶ヶ岳に別れを告げて

第四日目9月17日(日) 天候雨のち曇り 昨夜からの雨は止まず雨足は強いが定刻に集合。残念ながら蝶ヶ岳からの展望は何も見ることが出来ないまま下山開始する。出発から10分位歩いた所を左に折れて三股方面に向けて急降下が始まる。樹林帯の中に入ると風が吹くのが和らいで来る。道は雨で滑りやすい、まわりの草花や樹木等、ゆっくり見ることもなく足元を確認しながら歩く。

約一時間歩いた所に水場があり、そこで小休止をとる。何組かのパーティーが同じコースを下山しているが、我隊の歩行速度は順調で他のパーティーを追越しながら下山する。途中、まめうち平附近からは雨も止み、約3時間で三股登山口に無事下山する。

大駐車場からタクシーで“ほりでい四季の郷”のお風呂に行き、四日間の汗と土をきれいに流し、ビールで乾杯の後、楽しい思い出を残してスーパーあずさ10号で新宿に帰る。今年的大型山行が緊張と興奮の内に無事に完歩でき、満足の気持で家路についた。

< 172 - 2 >

## 常念岳・蝶ヶ岳

(2857m) (2664m)

(北アルプス)

B班 斉藤清一

9月15日 B班

9月15日早朝、昨朝先発組と途中まで同行程で武内さんと共に立つ。先発組A班との待ち合わせを常念岳の小屋付近と示し合わせての我孫子立ちである。

リーダー中村さん(先発組)が用意したチケットを使用し松本で乗り換える。大糸線豊科駅で下車するが本日は敬老の日、今日を含んでの三連休、絶好の登山日和松本駅からの30分間、車中にはぎやかに登山談義あちこちで語られていた。

先発組は昨日さらにひとつ先の穂高駅まで乗っている。

タクシーに乗り込みヒエ平(一の沢)までとばす。残暑がきびしい。大糸線の車中の込み具合とは正反対ヒエ平からの常念岳コースはまばらである。

2泊3日のキャンパー泊目は豪華にやろうと武内さんとの話で二人ともザックがいつもより重い。太陽は照りつけるが、沢沿いを歩いているので何時でも冷たい水を飲めるとの安心感がある。

小1時間ほどで大滝水場に出る水を飲みながら、A班に携帯電話をする。この携帯電話の使い方は武内さんも斎藤も不案内でとりあえずあちこちのボタンを操作する。

中村美智子さんに通じた気配であるが切れてしまう。烏帽子沢で昼食時に通じる。これから胸

突き八丁にとりかかると伝える。A班は常念小屋を目前にしているとの事。

胸突き八丁と名づけられているくらいキツイ。汗を拭き拭き登る。

第一ベンチ、第二、第三、となんぼベンチがあるのか？A班が常念小屋で待っていると思うと足早になる。

我々の先を越していったパーティが立ち止まって応急処置をしている。足の筋を伸ばしたらしい。痛くて蹲っている。横目にしながら登りつづける。

第四ベンチで一本とろうと武内さんと話しながら角を曲がったところ、頑張れ、頑張れの声が頭上から降ってきた。顔を上げると見なれた6名の顔が二人を覗き込んでいるのが見える。5分後笑顔で合流だ。

小屋組とテント組にわかれての夕食 武内さんと斎藤に加えて大串秀雄さんがテント泊。

武内さんの焼肉パーティが始まる。今日は疲れた、明日も明後日もある。とニンニクをたっぷり食べさせられる。

#### 9月16日 A班 B班 混成

朝からどんより曇っている、テント組は常念小屋へ小屋泊組を迎えに行きながら合流する。

目前にそそり立っている。急登だ！大天井、西岳ヒュッテから眺めた常念岳、穂高連邦から眺めた常念岳、蝶ヶ岳の柔らかい稜線が印象に残り、それぞれの仲間がさぞビックリしているだろうと思いながら、岩、岩、を登りつめる。山頂の祠の前でそれぞれの思いを語り合う。

あまりにも男性的な山であると！ 小雨交じりの風が吹く、寒い、ザックを背負うのが暖かい。登った分 岩、岩、の荒々しい道を下る。

最鞍部を越して視界の利かない穂高連邦を眺めながらモクモクと歩く。還暦を迎えようとしている私にはキツイ山だと原田君子さんグチル。メンバー全員年齢の話題には乗らない。本日君子さんの誕生祝いを計画しているからだ。

2592mのピークで昼食（誕生祝の前菜だ）デザートにお汁粉で暖を取る。君子さん未だきづかない。これで重い水がだいぶ減った軽くなったぞ！私は とぼける！

蝶ヶ山頂だ。昨年槍ヶ岳頂上に立った時、四方

八方霧の中、念願の蝶ヶ岳の蝶ヶ槍も霧の中。又来るさ？気分転換。

14:00に蝶ヶ岳ヒュッテに到着。

食堂を夕食前まで貸してくれるとの事早速君子さんの還暦祝いだ。

本人エエーとビックリ、紅い帽子を被ってもらいケーキとワインでのさやかな、気分は豪華なパーティの始まり。ケーキの上には太い6本のローソクが赤々と幸多かれと灯す。



Happy Birthday Kimiko san! 赤いシャツに、赤い帽子、赤ワイン ケーキの上に大きなローソクが6本 (16日蝶ヶ岳ヒュッテで)

#### 9月17日

テントの中本日は晴れているかと顔を出す。残念雨だ雨具を始めから着けての下りだ。

小屋泊を迎えにヒュッテに行く。オリンピックで柔道の田村が金メダルを取ったとの事。

サー本日も元気に下ろう。1300mを下りに下るぞ！

喉を潤す時だけ休憩だ、温泉でゆっくり時間をとろうと小雨の中浮石に気を配りながら降りる。10時頃三股下山口に着く。視界が利かずただただ足元を見ながらの下山でした。

今回の山行までの時間楽しい夢を見つづけました。実現できて良かった。

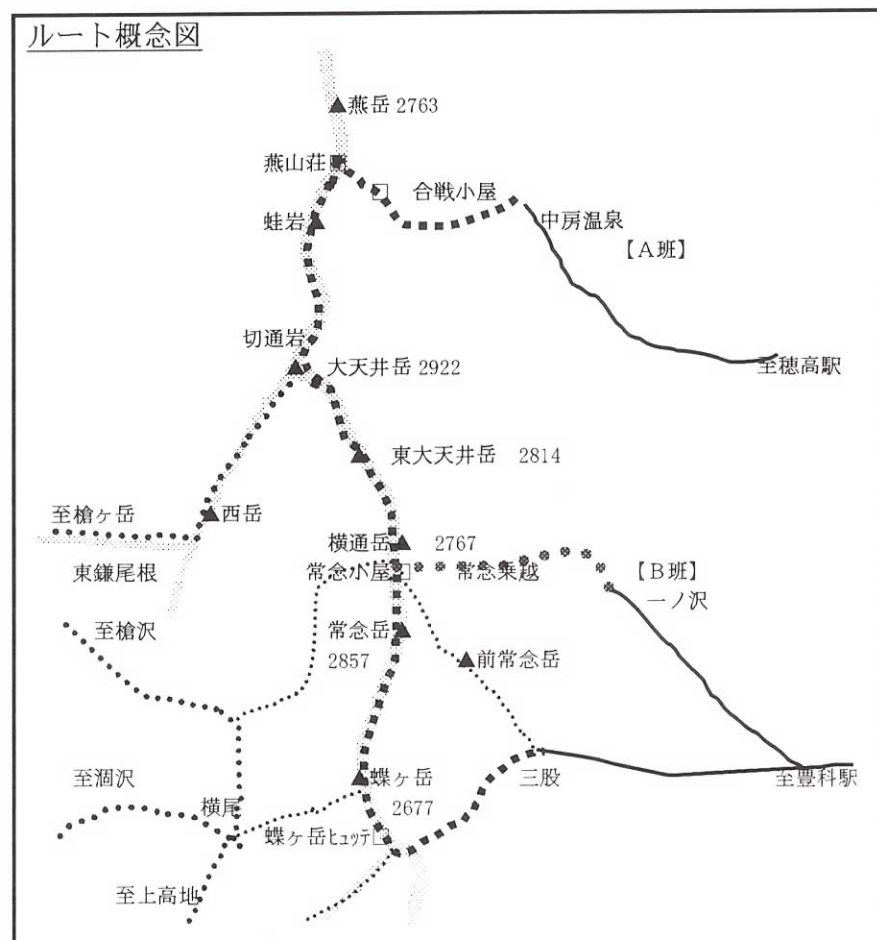


# 概要

山名	表銀座～常念岳～蝶ヶ岳	山行形式	小屋／テント (グレート B/B+)
期日	A班 2000年9月14日(木)～17日(日)、 B班 15日(金)～17日(日)		
山域	北アルプス	地形図	槍ヶ岳、穂高岳、信濃小倉(2万5千図)
目的	たおやかな稜線を歩いて槍・穂高の展望	費用	小屋泊 38,300円 テント泊 19,000円
歩行時間	一日目 A班行動6:10(歩行4:45) 晴 二日目 A班 7:30(5:40) B班 4:45(4:00) 晴 三日目 7:45(5:30) 曇のち雨 四日目 3:30(3:00) 雨のち晴		
リター	中村(隆)	参加数	8名(A6名,B2名)

日程コース	1日	【A班】我孫子 5:30=新宿 6:25/7:00=(スハ°-あずさ1号指定席)=松本駅 9:38/9:46=穂高駅 10:11/10:15-(ジャンボタクシー)-中房温泉 登山口 10:55/11:15～第一ベンチ 11:50～第二ベンチ 12:25～第三ベンチ 13:00/13:35(昼食)～富士ベンチ 14:05～合戦小屋 14:45～合戦の頭 15:35～燕山荘 16:10(宿泊手続き)/16:30～燕岳山頂 17:05～燕山荘 17:45
	4日	【A班】燕山荘発 6:15～蛙岩 6:50～大下りの頭 7:10～切通岩 8:30～大天井荘 9:20～大天井岳山頂 9:40～大天井荘 10:05～休憩(昼食) 11:05/11:50～東天井岳 11:55～常念小屋 着 13:45 【B班】我孫子駅 5:30=新宿駅 7:00=松本駅 9:38/9:46=大糸線豊科駅 10:06/10:10(タクシー)-ヒエ平(一の沢) 10:40～王滝水場 11:40～烏帽子沢 12:20～最後の水場 14:27～第二ベンチ 15:00～常念小屋 15:30

## ルート概念図



## 16日

【AB班】常念小屋発 6:15～常念岳山頂 7:45/8:10～最鞍部 9:35～2592mピーク(昼食) 10:50/11:45～最鞍部 12:10～蝶ヶ岳山頂 12:55～蝶ヶ岳山頂 13:10～蝶ヶ岳ヒュッテ 14:00 誕生パーティー15:00

## 17日

蝶ヶ岳ヒュッテ 6:50～水場 8:00～まめうち平 8:45～最後の水場 9:40～三股下山口 10:05～大駐車場 10:20/10:50-ジャンボタクシー-ほりでいゆ四季の里(入浴)-豊科駅発 15:48(スハ°-あずさ10号指定席)=新宿駅 18:36/18:50=我孫子駅 19:45

山にはそれぞれ御ヒイキがある。常念には若い勇敢なクライマーを誘い寄せる岸壁や困難な沢はないが、その美しい形をもって、芸術家気質の人々を惹きつける。深田久弥

<173>

## 八 幡 平 ・ 焼 山 (1、613m) (1、366m)

由 布 仁 子

### 東北の火山が造った別天地

東北新幹線・盛岡からバスで1時間半。私たち15名は、八幡平の手前、茶臼岳登山口についた。我孫子から5時間ちょっとの早さに驚く。天気も上々、さあこれから楽しみにしていた山行の始まりだ。何せ平と名の付くところだから、少しは楽かなあ…と既に軟弱登山のモードである。

今回の山行の魅力は、私にとって馴染みの薄い東北の山と温泉を訪ねる事と、川下さんの初リーダー山行であるという点だ。川下さんは東北の山がテリトリーだからきっといい山旅をリードしてくれるだろう。

A班B班に別れ、まず茶臼岳へ。標高は600m以上なのに、登り始めるとすぐに汗が噴き出してきた。今日は9月15日、東北といえども秋用のシャツは暑く感じられ、両袖をまくり上げて日焼け止めを塗る。今年は夏が長いようだ。

先に行くA班から「見て見て」の声が上がった。リンドウの花が咲いているのだ。あちらでもこちらでも。そのうち群になってまさに今が盛り。濃い青紫色が昼の日差しにまばゆく揺れている。このリンドウの花はこれから先の道で、ずっと私たちの目を楽しませてくれた。

茶臼岳の山頂はパスして、すぐ下の避難小屋でトイレ休憩をとる。冬の降雪量が多いため、2階に出入り口とトイレがつけられているが、その高さが半端じゃない。九州育ちの私には想像のつかない雪景色なのだろう。

次は八幡平三展望の一つ、源太森へ向かう。川下リーダーから「少しペースを上げて行きましょう」と控えめに声が掛かった。穏やかな天気と、同じく穏やかな山容に皆のんびり気分で話に花が咲いている。私も今日はきつい登りが無いせいか気合いが入らない。でもこういうのも楽しいな。

途中には美しい黒谷地湿原があり、観察ポイントには木道から張り出してテラスがつけられ、ここで全員写真をパチリ。さすが国立公園だ。一面のニッコウキスゲは種ばかりなのが残念だけど。さらに進むとしだいに木々の背が低くなり、やがて青森トドマツの森に変わる。着実に歩を進め、青森トドマツの中に消えてゆくA班に遅れまいと、B班の面々は得意のダジャレも謹んでひたすら歩く。B班の私はもう汗だく。

源太森展望台では八幡平の大湿原の向こうに見える山々を、秋田駒はあれかこれかで一談義。ここはまだ低いのにハイマツ帯の始まりで、まわりがぐるりと見渡せる。風に吹かれながら、改めて北の自然の厳しさを思った。汗が冷えて寒くなった。さあ八幡平の核心部へ入っていこう。

八幡平はゆるやかな起伏が湿性植物群と青森トドマツに覆われ、たくさんの火口が地下でつながった同水面の湖沼が点在し、まるで山上の楽園になっている。私たちも木道をたどりながら、黄葉が始まりだした草もみじを楽しむ。湿原の真ん中に立つ鉄塔の高い道標は冬用だそう。川下リーダーによると、冬はスキーツアーの盛んなところで、そのころは青森トドマツがモンスターに変身し一面の銀世界になるとか。でもすぐ近くまで道路が開発され、一般の観光客と行き交う今のシーズンは、やっぱりどこことなく野性味に欠けるのが残念。

下りは時間の関係でコースを変更、アスピーテライン沿いに後生掛温泉まで約2時間半で到着し



た。火山帯らしく、川からは湯気が上がり、熱湯が噴き出す源泉は、その名前の由来となる悲しい昔話もある。宿には七つの湯があつて、全部入っていたら、いいかげんゆだってしまった。最後の露天風呂で夜風に吹かれ星を見て、明日の天気も上々と見た。（川下さんは晴れリーダーかな?）

別棟の湯治宿舎は、暖かい地面にシートと花ござを重ね、オンドルのようにになっている。ちょっと失礼してのぞいてみると昔の山小屋のようなつくりだ。両側の仕切り部屋はタオルと服が掛けられて、ふんわりと空気が暖かい。私がおばあちゃんになったら、湯治に来て一日オンドルで寝たい！

翌朝、8時出発。宿の裏から毛せん峠まで登りが続く。ブナの森を抜け高度が上がると、眼下に後生掛けの湯煙が見え、向かいには昨日の山々が望まれる。振り返る皆の顔もさわやかだ。

今日は、下山地の玉川温泉でバスに乗る時間があるのでノンビリはしてられない。しかし毛せん峠を越えるとそこは思いもよらない景色が広がっていた。

標高1300メートル台の焼山一帯は、硫黄の山肌と美しい草原とアオノツガザクラの群落が織り成す別天地だった。広々と遠くの山まで見渡せ、吹き渡ってくる強い風が一面の草をなびかせている。感激で足取りも軽く、B班は楽しいおしゃべりの花盛り。オーイ、A班待ってくれー。

焼山非難小屋で全員トイレ休憩。ここも分厚い木をがっちりと組んだ小さな冬の要塞のようで、何よりも清潔で、大切に使われているのがうらやましい。その後、不思議な岩が重なる地帯や硫黄の吹き出る火口跡を巡り、次々に変化する景色に一同また感激。焼山は、山好きの仲間にはお勧めのいい山だと思った。

A班の牽引力で、今日は時間通り名残峠から玉川温泉へ向かう。

玉川温泉は大勢の人で賑わっていた。地熱が高く、噴気の上がるところは地面に寝て湯治をする人がゴロゴロしている。公衆浴場も面白い。透明なお湯は泉質が強酸性なので、薄めてあるお風呂から順に入り、最後に源泉100パーセントの湯に入るようにとリーダーから教えてもらう。最後の源泉はホントに強烈だった。虫刺されの古傷や切り傷にピリピリしみる。地元のおばちゃんが「肌をさすらないで、ジッと浸かるだけ」と注意してくれる。たっぷりの上がり湯で流して出るとさっぱりと気持ちいい。ここから後は、秋田駒ヶ岳の担当、山西さんへバトンタッチ。田沢湖へ向かうバスでは、すっかり眠りに入りました。

山 名		八幡平・焼岳	山行形式	旅館泊 1泊2日
期 日		平成12年9月15日～16日		天気 晴れ
山 域		八幡平	地形図	
目 的		秋の静けさと 秘湯を味わう	交通機関	新幹線 バス
参加数		15名	リーダー	川下
日程 コース	15 日	我孫子6:09＝盛岡9:18―茶臼口11:26…茶臼避難小屋12:20…黒谷地13:05…源太森13:47…八幡沼14:00…ガマ沼14:25…八幡平頂上14:50…後生掛温泉17:35 歩行6時間		
	16 日	後生掛温泉8:00…毛せん峠9:50…焼山避難小屋10:15…名残峠10:40…玉川温泉12:20 歩行4時間20分		
ル ー ト 状 況	良く整備されている アスピーテラインから後生掛温泉への分岐に注意、バス停から林の中の遊歩道を下る。 地図のコースタイムには余裕がない感じがした。			

<174>

## 秋田駒ヶ岳

外崎 蓮

9月17日

建物のあちこちから白い湯煙を上げている黒湯温泉は、まだ他の湯治客が眠っているらしく静かだ。本日は秋田駒ヶ岳に向かう。宿の主人は私達にバスで行くことを勧めてくれたが、それでは普通の観光客と同じになってしまう。

昨夜の内におにぎりを作ってもらい、会計も済ませてあったので、5:30 黒湯温泉を出る。昨日来た方角とは反対の坂を上がると狭い駐車場があり、広い車道へ出て坂道を下っていく。田沢湖高原国民休暇村の建物の横の広い芝生の中を、横切って向こう岸まで歩き、そこからリフトの下を登る。登り切った林の前に、頼りなげに細い柱が1本立っていて、笹森山と書いてある。矢印方向の藪をかき分け林の中に入ると、木の枝に赤いリボンがぶら下がり、道もついていてホッとする。

今にも泣き出しそうな空模様のため、林の中は薄暗く蒸し暑い。平坦な道を大分歩いたところで朝食。腰を下ろす気にもなれず、立っておにぎりを食べる。

じめっとした林を抜けると、霧雨状のガスが出てきて、じっとりと濡れてしまう。道は殆ど歩かれてはいないらしく、伸びきった笹の切り株が横に這っていたり、立ち上がっていたりで、非常に歩きづらい。登山道は笹森山山頂には行かず、標注が立っている辺りからそちら側は遊歩道となり、必要以上に整備されてあった。

2 時間半ほどかかって駒ヶ岳の 8 合目の広い駐車場に着く。その脇に、避難小屋と呼ぶにはあまりにも立派なガラス張りの建物があり、そこに荷物を置いて駒ヶ岳に向かう。整備された広い道を緩やかに登っていく。相変わらずガスが立ちこめ、阿弥陀池のほとりに近づいても、池を取り巻く山々の姿が見えない。鈍く光る池の水面を右手に見ながら木道をしばらく行くと、女目岳（男女岳）の分岐にさしかかり、左手へざらざらした砂状の階段を登りつめるが、1367m の山頂はガスの中で、早々に下りてしまう。池の隅に朽ちた避難小屋があった。もと来た木道を引き返し、大分下りてきてから女目岳の斜面をバックに写真を撮る。秋田駒ヶ岳はその全貌を見せてはくれなかったが、それはそれでよしとしよう。8 合目に戻り、12 時 20 分のバスで田沢湖駅へ出る。



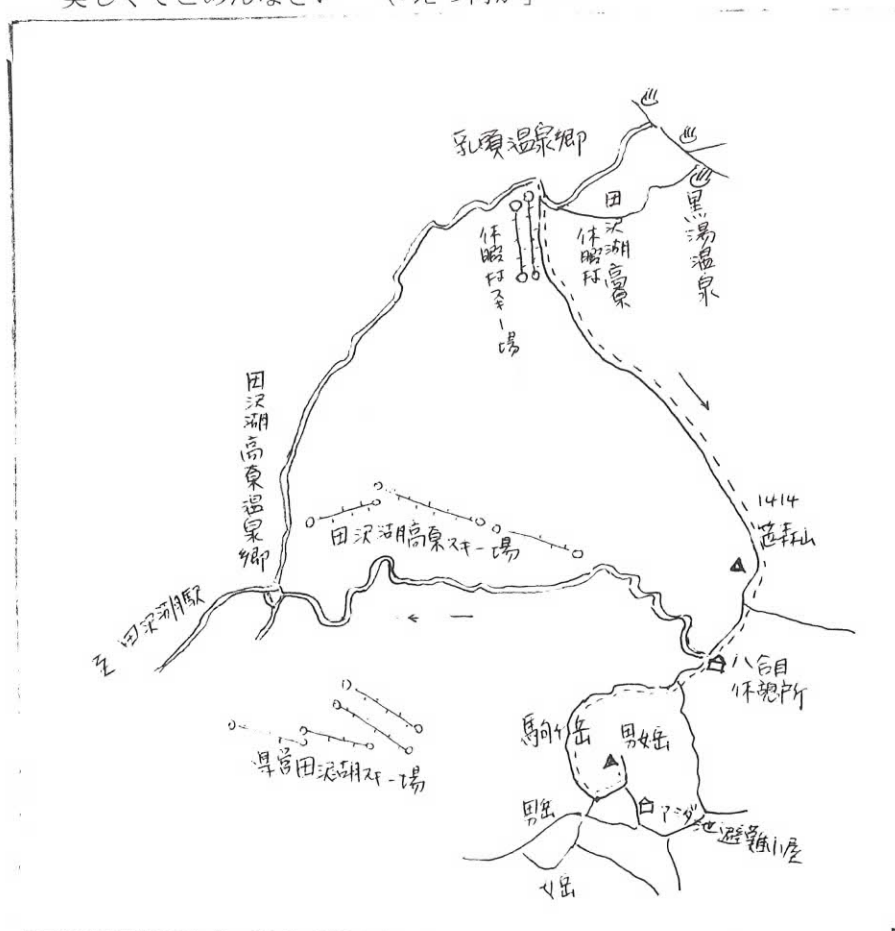
山名	笹森山～秋田駒ヶ岳		
期日	平成12年9月17日 霧雨のち曇		
山域	秋田	地形図	秋田駒ヶ岳・篠崎
目的	東北の名峰を訪ねる		
リーダー	外崎 蓮	参加数	15名
日程 コース	17日	黒湯温泉 5:30～笹森山登山口 6:15	
		～笹森山 8:00/8:10～八合目駐車場	
		8:40/9:00～阿弥陀池小屋分岐 10:15～女目岳（男女岳） 10:30/10:35	
		～八合目駐車場 12:00/12:20～田沢湖駅	
ルート 状況		①笹森山登山口は藪化している	
		②阿弥陀池避難小屋は朽ちていて使用できない	



# たぬくびさんま



美女だった！昔、おとめの7人は写真撮影の時つい力が入り  
ロープ杭が傾いた。？！、（前から傾いていたそうです。）  
美しくてごめんなさい（「えっ何が」...



下りは速い。山を下りながら、行きとは違った山模様に「紅葉」を錯覚した。日光沢の宿に立ち寄り、荷物をまとめてバスの待つ女夫淵に急ぐ。栗山村の共同風呂「上人一休の湯」に入り山の汗を流す。そして、バスを進めて

今回の総リーダーの武内さん、山の歌を集めて歌集を作って持ってきた。榊原さんが山の歌特集のカセットテープを用意していた。行きのバスでも帰りのバスでも歌声は武内さんに始まり、今回の山行は、武内さんの功労で終わった。写真のみんなも、いい顔をしている。楽しい山行であった。



=上人一休みの湯 15:20/16:10=  
(バス) =我孫子 20:20



<175>

## 奥鬼怒沼

箕輪 カオル

### 仲秋、鬼怒沼に行く

仲秋に入り、山の紅葉はいかばかりかと思われる頃。日本一高い地点にある湿原、鬼怒沼山行に参加した。宿泊しての山行は、これで2回目である。

貸し切りバスは、とても便利である。今回、一日目は予定外の竜王峡に立ち寄ってくれた。水爆を横切りしばらくは散策を楽しむ。

女夫淵のパーキングにバスを駐車して、バスの運転手さんも一緒に日光沢温泉に向かった。日光沢温泉までの道のりは、鬼怒川沿いのほとんど平坦な遊歩道を進む。一日目の昼食はこの静かな河原でとる。楽しいお昼の一時である。

女夫淵から1時間30分ほどすると八丁ノ湯がある。さらにその上流に加仁湯があり、その先に私たちの宿、日光沢温泉である。ここに1時に到着した。時間はたっぷりあった。

宿に荷物を置いてヒナタオソロシの滝展望台に向かう。途中橋が架かっていて、その橋の下の清流にクレソンがびつしり生えていた。宿に入った時間は3時前である。みんな歩き足りな

かったに違いない。夕飯は、5時なのでそれまではゆっくりと入浴である。露天風呂は混浴で、7時からでないと女性専用にならない。それでも、女性のパワーは強い！「みんなで行けば怖くない」のである。川音を聞きながら一日の汗を流す。

夕飯のメニューは、ニジマスの塩焼き、クレソンの天ぷら、クレソンのおひたし、煮物、なめこおろし、煮豆、ポテトサラダである。クレソンは、橋の下の清流に育てていた物だった。この宿の灯りは、笠をかぶった裸電球である。手でスイッチをひねるのだ。こんな灯火の下で、勉学に励んだ頃の遠い昔の記憶を辿った人もいたに違いない。

食事後は、みんなで山談義。白馬、穂高、常念、燕岳等々の山の経験者ならではの話題が出て私などは話題について行かれない。けれど、山の魅力は伝わってくる。想像するだけで行ってみたい焦燥に駆られる。「ご来光は山の頂上でなくても小屋でみても同じだそうだと、原田さんから話題提供があった。「同じ太陽かもしれないが頂上で見るのとでは気分が違うでしょう」と、武内さん。「雲海の向こうから出るご来光は素晴らしいよ」ということに落ち着いたようだった。ヒヤリハットのことは宝剣岳の滑落事故の話題にも及び、この夏行って来たばかりの宝剣岳の経験が恐怖となり頭をかすめた。いつの間にか外は音を立てて雨となっていた。

次の日の朝は霧雨。6時の朝食は、





9/30  
日光沢温泉



10/1  
眼前に広がる湿  
原の草紅葉に歓  
声





《 1 7 6 》

## 燧ヶ岳

( 2 , 3 5 6 m )

松本 豊

### 湿原を囲む山

0 : 0 0 北千住発の尾瀬行き夜行列車は全席指定で着席できるものの車両は4人掛のボックスシートのため狭くて眠るには不適。メンバーの中にはしっかり寝たツワモノもいたが眠れないまま会津高原駅に到着。電車はホームに停車したままバスがでるまでの30～40分仮眠タイムを提供してくれるが車内は下車の準備をする人の動きでまた寝そびれる。

会津高原駅を出ると駅前にバスが並んで待っている。空には満天の星がきれいにまたたいている。冷気のなか沼山峠行のバスに乗り込む。バスは暗闇のなか目的地沼山峠にむけ出発。

ごめんなさい。ここから先睡眠時間となり峠につくまで全く記憶にありません。バスは御池によって希望者を降ろしてから峠に向かったそうである。

沼山峠バス停には立派なトイレ、売店、休憩所があり各パーティーが出発に向けて混雑している。

バス停からは緩やかな登りとなりまもなく木道になる。沼山峠を過ぎると下りとなり下りきったところが大江湿原である。木道は歩行者が一杯で渋滞している。2本の木道を有効に利用して団体さんを追い抜いて進む。湿原はすっかり秋の気配がただよい草もみじ、枯キスゲが主役になっている。やがて右側に小高い丘がみえ

てくる。ヤナギランの丘とよばれ尾瀬の功労者平野家3代の墓が安置され、夏にはヤナギランが綺麗な花を付けるそうである。時間の関係で丘には寄らず尾瀬沼ビジターセンター方向に直進する。右側に今日登る燧ヶ岳の全容がみえる。センターの手前で木道を右に向い沼尻方面に進み長英新道を目指す。

沼尻への道を左に送り長英新道にはいる。道は針葉樹林の鬱蒼としたところより始まる。足元はぬかるみが多く滑らないよう注意しながらゆるやかな登りをいく。徐々に傾斜はきつくなりやがて林相もダケカンバ、ナナカマド等の広葉樹林となり紅葉のはじまった木々を眺めながら登っていく。やがて左側に展望が開け眼下に尾瀬沼、対岸に至仏山等の山が見える。急斜面を登りきるとミノブチ岳に到着する。右に進みシャクナゲ、ハイマツの木々の間を抜けて俎岳へ向かう。俎岳は登り付きから岩のゴロゴロした所を一気に登る。山頂も岩の重なった所で多数の登山者で賑わっていた。360度の展望を確認し西に見える最高峰柴安岳へと向かう。俎岳からは急坂を一気に下り鞍部より又急坂を登り返す。柴安岳は山頂も広くゆったりくつろげる。昼食を山頂脇でとり全身に太陽を浴びながら休憩。幸せな一時である。

尾瀬ヶ原へ向かう。尾瀬ヶ原への道は砂礫の滑りやすい急坂から始まる。やがて道は左右に分かれ左の見晴新道へ進む。右の道は温泉新道である。道はあいかわらずの急坂で足元を確認しながら注意して下る。樹林帯に入ると展望もなくなる。やがて傾斜も緩やかになり枯れた沢を下り終えると足元がぬかるみはじめる。十字路へ向かう木道もまもなくである。木道に交叉したら右に折れて十字路へ進む。十字路は小屋、トイレがあり人が多い。十字路より今日の宿泊地の温泉小屋へ向かう。右手には今登ってきた燧ヶ岳が見える。朝眺めた時より親近感がある。温泉小屋近辺の方での紅葉が進んでいる。

温泉小屋近辺の方が紅葉が進んでいる。  
温泉小屋に到着した。

山小屋の主人に明日のコースの情報を聞く。  
尾瀬口へのコースはバスが少なく時間もかかる  
ので平滑ノ滝、三条ノ滝によっていくのはきつ  
いとのアドバイスをうけ行程変更し夕食前の時  
間を利用して平滑ノ滝を見に行き、明日の三条  
ノ滝は割愛することにした。

平滑ノ滝は尾瀬の水を集めて流れる只見川の  
途中にあり川全体が大きな岩盤になっていてそ  
の上を水が名前のおり滑り落ちている。眺め  
を満喫して夕闇せまるなか小屋へと戻る。部屋  
は新築されて綺麗であった。また布団も新しく  
今日の疲れをとるには最適である。残念なのは  
温泉の休みの日であったことだ。温泉の休みは  
多忙日に合わせてあるようだ。自然保護のため  
であり、まあ仕方ないか。

翌朝目覚めると木道の上は1面の霜で真っ白。  
また尾瀬ヶ原は煙っていて幻想的だ。霜に滑ら  
ないように注意して本日の行動開始。小屋より昨  
日行った平滑ノ滝方向へ向い途中から右へ折れ  
て裏燧林道へ入る。入口に熊注意の看板あり。  
御池、小沢平の分岐の小屋で作ってもらった弁  
当で朝食にした。

分岐より小沢平へ向かう。

渋沢温泉小屋で休憩。利用者談によると渋沢温  
泉小屋のトイレは入ると傾くとのことであり興  
味のある人は一度試してみては。

温泉小屋からは只見川沿いの道になる。尾瀬  
口からの登山者は少なく2～3パーティーに会  
っただけである。また熊よけの鈴をつけている  
人が多い。静かなコースである所以か。  
道のすぐ横に川が流れるようになると小沢平の  
バス停はすぐである。

本日のコースのお勧めは広大なブナ林の中を  
思う存分歩けることである。

小沢平の尾瀬口山荘前のバス停よりバスで尾  
瀬口へ向かう。バス便は少ないので発車時刻の  
事前確認と余裕をもったコースの時間設定が必  
要かと思う。

尾瀬口で下車し渡船で奥只見へむかう。船上  
より眺めた山々の木々はまだ紅葉の手前であつ  
た。奥只見のバスターミナルより栃尾又温泉へ  
向かう。温泉で汗を流し小出駅より帰路に着く。  
広大な尾瀬の湿原、眺望の燧ヶ岳、そして静か  
なブナ林を歩く奥只見への道。

十分に満足できた思い出深い山行となった。

山名	燧ヶ岳	山行形式	小屋 A+	
期日	H12.10.7.～8, 天気 快晴			
山域	尾瀬	地形図		
目的	尾瀬の名峰、草紅葉		費用	13000
リーダー 外崎		参加数 13名		
日程 コース 下記				

6日(前日) 我孫子22:55―北千住23:20  
／00:00―

7日(土) 会津高原駅3:40／4:25(バス)～  
沼山峠休憩所6:15／6:30～大江湿原入口  
7:00～長英新道分岐7:40／7:45～ミノブ  
チ岳10:50～俎岳11:10／11:25～柴安  
岳11:55／12:35～見晴十字路15:30／  
15:50～温泉小屋16:20／16:50～平滑  
ノ滝～温泉小屋17:25

8日(日) 温泉小屋5:45～燧裏林道御池分岐6:





10/7

長く厳しい、そして寝不足の行程も間もなく終り、温泉小屋へ。温泉はなかったが、旅館並みのピッカピカ、フワフワ。

尾瀬ヶ原にて



↓ 10/8

ブナの大木に囲まれて





<177>

# 雨 飾 山

1963m



大 串 秀 雄

## 「辰の会」還暦記念山行

### 山は秋 人生もまた秋

秋は何となく心寂しい。  
自分自身の馬齢の重なり具合を連想してしまい、私にとって、秋は待ちどおしい季節とはいえない。  
枯れ葉の散り様を見ていると、人生の終焉が徐々に近づきつつあることを告げられているように感じる。私一人だけのひがみだらうか。やはり、私は、今もって春の息吹きや、夏の光輝く活動的な季節の方が好きである。  
ところで、昭和15年生まれの私は、今年、還暦を



迎えることになった。還暦はそもそも長寿の祝いである。しかし、平均寿命がのびた今日、人生を四季に例えれば、漸く秋の季節に入った頃ではなかろうか。私もいよいよ人生の秋を過ごすことになりそうだ。

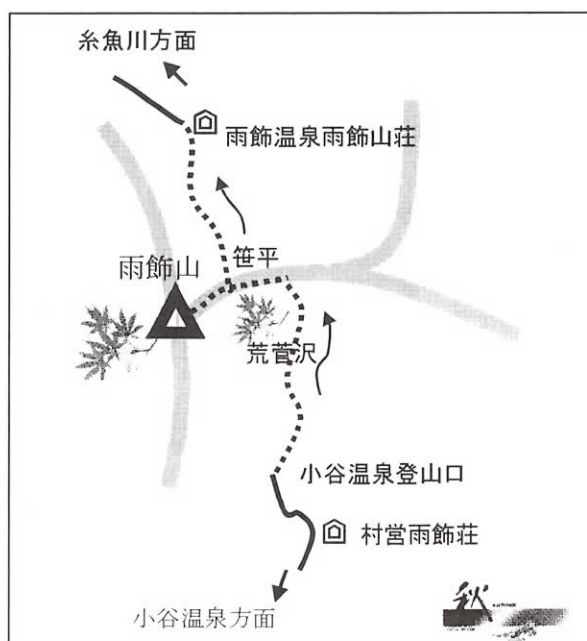
私は、岳人あびこに入会当初、高年齢や山の経験の少なさに、一抹の不安を持っていた。最初に配布された会員名簿の中に、同年生まれのいわば同級生を見つけ、非常に心強く思い、何となく親しみを覚えたのは、記憶に新しい。

同期生には、昭和15年の辰年生まれが5人いた。暫くして、山行に参加するようになってから、同年会「辰の会」で一緒に山行しよう、との話がでていたが、実現しないまま今日に至っていた。

「辰の会」5人は、今年、揃って還暦を迎える。これを記念して、5人誘い合わせて還暦山行に出掛けることになった。もう直ぐ還暦を迎える人、還暦までにもう少し間のある人にも同行願い、紅葉のトップシーズンに、紅葉の名山、雨飾山に出掛けることに相成った次第。

私は心寂しい秋の季節を好まないが、艶やかな紅葉の山と秋の味覚だけは別格。前々から、山装う季節に、秋の名山に登りたいと思っていた。雨飾山は、その候補の筆頭にある山だった。加えて、「雨」と「飾」…何となく熟年を連想するようなしっとりした山名で、還暦山行には格好の山のようにも思えた。

山 名	雨飾山 (グレードB)	山 域	頸城山塊 西端
地図図	雨飾山、越後大野	交通機関	中央本線・大糸線
日 時	平成12年10月8日(日)~9日(祝) 前夜発 民宿1泊		
目 的	① 北信濃の名峰で秋山を存分に楽しむ。 ② 名湯都わすれの湯で夏山の疲れを癒す。		
参加者	大串秀 (Lやまなみ)、高橋英 (SL)、大串恵、榊原、中野 (カメ)、中村美、原田君、安田、飯沼		
費 用	約26千円 (交通費16千円・民宿8千円)		
日程・行程	1日目	我孫子駅(前夜)21:57⇒日暮里駅⇒新宿駅(前夜)23:00/23:50⇒(急行アルプス)⇒南小谷駅 5:55/6:10⇒(タクシー)⇒雨飾山登山口(小谷温泉口)6:35/7:05⇒(休憩2回)⇒荒菅沢 8:47⇒(休憩1回)⇒笹平(軽食)10:30/11:05⇒雨飾山頂 11:30/11:40⇒笹平 12:10⇒中ノ池(昼食)12:30/13:00⇒(休憩2回)⇒雨飾温泉雨飾山荘 16:40/16:50⇒(タクシー)⇒糸魚川民宿「割烹魚がし」17:15 <泊>	
	2日目	糸魚川民宿 10:10⇒(民宿車)⇒糸魚川駅(駅前散策・昼食)10:15/12:58⇒南小谷駅 13:51/14:50⇒(スーパーあずさ)⇒新宿駅 18:36⇒我孫子 19:40	





新宿駅発の夜行列車に乗り込み、勇んで還暦山行に出発。お年寄り扱いされることには抵抗感を持って、「本当に還暦を迎えたの？」と言われるくらい若々しい(と思っている)5人である。

ところが、車内の冷房が効きすぎ、なかなか寝けない。やはりお年寄りは寒さが苦手(…おっと、お年寄り扱いをしてしまった)。なお、同行の若手組(とはいっても熟年の方々)には、寒さなんぞ感じなかったようです。大糸線に入り冷房が切れてから、南小谷駅まで、どうにか一眠りできた始末。

小谷温泉雨飾山登山口で入念に準備運動。若干寝不足気味ながら、お年寄りは(同行の若手組とはいっても熟年の方々も)目覚めが早い。還暦山行であることなどすっかり忘れて、全員元気いっぱい。

登山口からしばらくの間は緑の木々の中。あたりの風景を見廻しても、まだ秋の気配は全くなし。しかし、澄みわたる山気には、ひんやりとした秋の風情が漂い、実に気持ち良く登れた。

樹林帯の中の緩やかな登り道を通り抜けると、目の前が突然明るくなった。漸く視界が開け、行く手にやっと秋の色を見つけた。紅葉に染まる山肌が秋の陽射しに映えていた。荒菅沢あたりからは、左に雨飾山山頂、右に布団菱の岩峰を仰ぎ見、一斉に歓喜の声。

いよいよ急登、鼓動が一段と高まった。中腹から山頂にかけて、高度を増す毎に、段々と秋の彩りが深まってきた。秋真っ盛りには少し早い感じもしたが、一面に艶やか黄赤緑の衣装をまとった山腹は、紅葉の名山の面目躍如。秋色の大自然に感動しながら、一気に登り切った。

主稜線を少し行くと、広々とした笹平に出た。錦秋の雨飾山がお椀を伏せたような形で横たわり、我々を手招きしていた。赤や黄色と緑の織りなす錦模様は暫し見惚れた。これぞ雨飾山の紅葉。先ずは記念撮影の後、男料理のお汁粉パーティで一服(…お粗末さまでした)。

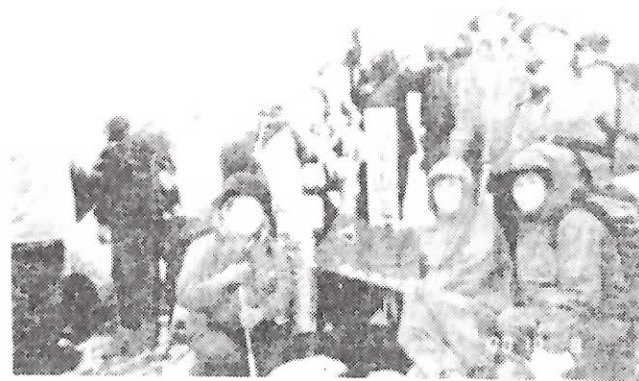
笹平から山頂へはひと登り。登山者が多く、細い登山道での行き交えには難儀するほど混雑していた。



笹平から雨飾山山頂にかけては秋一色

山頂からの大展望は、残念ながら得られなかった。周囲の山々にガスがかかり、楽しみにしていた白馬連峰も霧に覆われたまま。焼山・火打・妙高と続く頸城山塊や、戸隠の山々も、時折、薄霧の中から顔を覗かせた程度だった。しかし、眼下の笹平、それに続く周囲の山腹にかけては、黄色や赤に彩られた鮮やかな秋が輝いていた。

早速、頂上を踏んだ満足感いっぱいの顔で記念撮影。山頂は強風が吹き荒び、雨具をつけても寒く感じたほど。長居は禁物。名残は尽きなかったが、直ちに笹平へと下ることとなった。



山頂からの大展望は、残念ながら…

風がなく人も少ない広場はなかなか見つからず、結局、分岐まで行ってから昼食。眼下には、今宵の宿、糸魚川の街や日本海の海岸線が大きく広がっていた。山上で海の気が感じられるほど、間近に見えた。

いよいよ、薬師尾根の下り。急下降が長く続くこと、斜度が半端でないこと、ゴロゴロの石ころ道であるこ



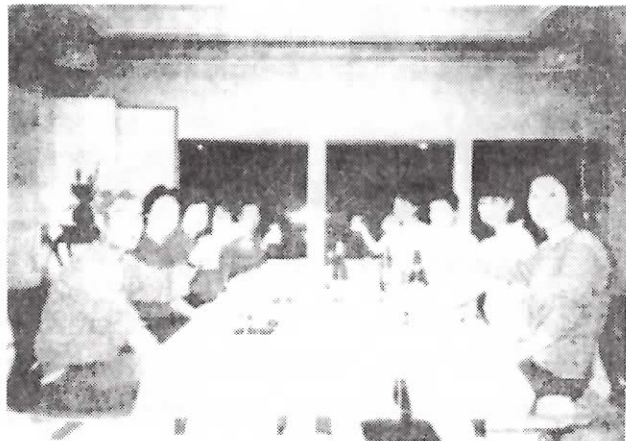
と、しっかりしたロープや鎖が少ないことなど、噂どおりの難路に大苦戦。見晴らしのない樹林の中の急下降路を、落石をしないようにお互い声をかけあいながら、慎重に通過。時折、色づいたナナカマドの実の美しさに、ほっと一息をついた。ほぼ、下山路の中間点まで続いた急下降も一段落。それでも下山口の雨飾山荘までは、滑りやすい岩や石の多い、気の抜けない険路が続いていた。

雨飾山荘は登山客や登山者風観光客で賑わっていた。山荘の前庭までタクシーが乗り入れていたのには、咂然。往年の秘湯も、その面影は全くなし。我々は時間の関係もあり、名湯「都わすれの湯」の看板を横目に、タクシーに乗り、直ちに糸魚川へ向かった。



今夜の宿は日本海に面した糸魚川の民宿。ここでは、「辰の会」5人と、ご相伴いただいた若手組4人ともども、ささやかに還暦祝いの宴。還暦もまた人生の一つの節目。一興に、還暦組5人はうち揃って、赤シャツ赤ずきんの還暦装束をまとい記念撮影。日本海の魚料理を前に、酒処糸魚川の美酒で乾杯！

若手組からいただいた、お祝い半分、冷やかし半分の温かな拍手が今もって耳に残る。人生、健康、山、秋…話題は尽きず。赤ワインで笑顔が赤く昂揚。糸魚川の宿にも秋が満ちていた。昼も夜も秋を満喫。そろそろ夜も更けた。年寄りそろそろ寝よう…と。



糸魚川の夜も秋真っ盛り

ところで、「辰の会」としては、今時、還暦に達したからといって長寿のお祝いをされるのは真っ平御免。お祝いは喜寿か米寿までお待ちいただくよう(当然

ながら、古希の祝も辞退)、この場をお借りして、お願い申し上げる次第である。

…因みに、「辰の会」5人の誕生日は、「急登(9月・10月)いろいろ(16日×2)、やっと自由に(8月・10月・12月)、イチ・ニツ・サン(1日・2日・3日)」。  
=大串秀8月1日、KH9月16日、HN10月2日、MN10月16日、高橋英12月3日(女性の方々の名前は明かせません)。  
なにかにつけて、今後ともお忘れなきように。



還暦記念…山は秋、人生もまた秋

我が人生は初秋を迎えたばかり。冬の到来はおろか、晩秋までにも、まだまだたっぷり時間がある。秋の日暮れは釣瓶落しと言われるが、私には、人生の秋時計があたかも停止しているかの如く、ゆったりと時を刻んでいるように思える。秋は冬の使者ではあっても、使者の役割を果たしてもらうのはまだまだず～っと先の話である。

私は、常日頃、「辰の会」5人の同年仲間、人生の先輩やほんの少しだけ若い岳友と一緒に、素晴らしい山の思い出を、一つでも多く共有しておきたいと思っている。達者なうちに一つでも多くの山を、との思いを一層強くしている今日この頃である。

そして、いつの日にか多くの岳友とともに、山の温泉に浸かりながら、共有の思い出話に耽るのが夢である。



悠々と、人生の秋を過ごすことができれば幸甚である。山は秋、人生もまた秋。秋が光る。もみじだつて散る前が一番美しいのよ…とか。





<178>

# 御前山

1405m

原 妙子

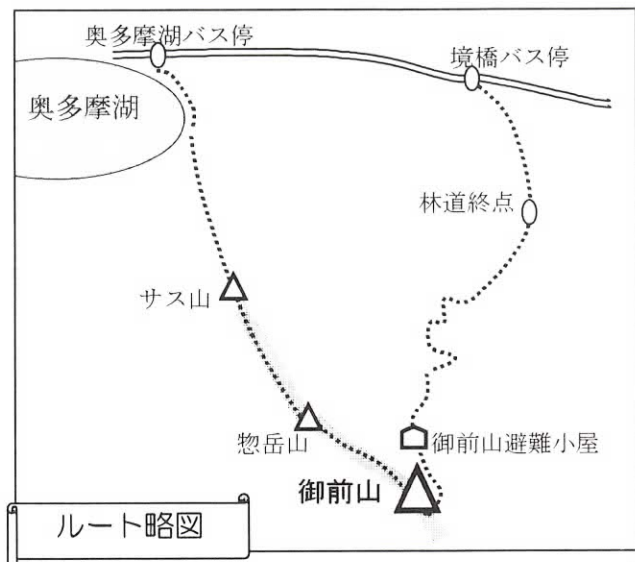
## 雨の秋山

秋晴を期待していたのに残念ながら雨。中止にならないかと少々期待もしたが…。小雨の中、カップに見を包み登山開始。急登の連続で滑りやすく大変でした。

惣岳山をすぎて警察の方と逢った。昨日から69才の方が単独登山で御前山方面の山に行くと言ったきり帰宅していないらしい。登山届けも出していないので捜索もむずかしいとこぼしていた。登山する人は必ず駅のそばにある届け出箱に必要事項を書き入れてほしいとの事。岳人の人も単独行動する人は駅の届け出だけでも提出して下さい。

御前山には立派な避難小屋があるけれど心配だ。我々は小屋で昼食をとった。カップをぬぎ、座布団あり毛布ありの、山ではぜいたくな時間を過した。

下山は体験の森を通り、すべる急坂を一気に降りてきた。ころぶ人もなく無事下山してきた。いつものようにそば屋に入り、今度は高橋英リーダーと又、御前山に登りたいと話しをして、本日の登山は終了した。



高橋リーダー、早く良くなって又一緒に登りましょう。

奥多摩三山の一つである御前山には早く登りたい山でした。今回の山行は高橋英雄さんが計画されて、リーダーとして一緒に登ることになっていたが、思わぬことで参加できなくて残念でした。一刻も早く全快されることを祈っています。

(原田和 やまなみ山行報告より抜粋)

英さんとは雨飾山山行で一緒だったことから、御前山山行リーダー代行のご指名をいただきましたので、引き受けました。御前山は英さんの思い入れの山。来年には、御前山避難小屋泊での奥多摩三山縦走を計画されることと思います。楽しみにしています。

(大串秀)



御前山の頂上は残念ながらガス

山名	御前山 (グレードA)	山域	奥多摩
地図	奥多摩湖	交通機関	JR・バス
日時	平成12年10月22日(日) 日帰り		
目的	奥多摩三山の一つ		
参加者	<企画:高橋英>、大串秀(L)、松本(SL)、大串恵、斉藤、中村美(カメラ)、安田、高橋芳、原(やまなみ) 原田和(記録やまたん)、山本紫(会計)、山本正		
日程・行程	我孫子 5:33⇒新松戸⇒西国分寺⇒立川⇒奥多摩駅 8:24/8:34⇒(バス)⇒奥多摩湖畔 8:50/9:10⇒サス山 10:35/10:45⇒惣岳山 12:00⇒御前山山頂 12:20/12:25⇒避難小屋(昼食) 12:40/13:25⇒栃ノ木平 14:25/14:30⇒林道終点 15:25⇒堺橋 15:40/15:46⇒(バス)⇒奥多摩駅(反省会) 16:00/16:50⇒立川⇒秋葉原⇒上野 18:40/18:54⇒我孫子 19:32(着) <歩行時間:5時間10分>		

<179>

御坂 黒岳

(1793m)

庄司 洋子

富士山が見えるかな？

今日は全国的に雨模様の天気、晴れは望まないまでもせめて雨がやんでほしいとの願いはかなわず、雨具の離せない山行となった。

「富士には月見草がよく似合う」と彫られた太宰治の文学碑のある天下茶屋から登りはじめる。そぼ降る雨に濡れてはいるがこの付近の木々は紅葉していた。

ひとのぼりして稜線にでる。右へ行くと清八峠へ、私たちは左の黒岳のコースを行く。ブナの原生林のなかを登って行くと御坂山(1596m)についた。山頂は雑木林に覆われているのでお天気でも展望は良くないであろう。ここから下りとなって、やがて御坂峠。ここで立ちながらの昼食をとる。

御坂峠から指導標にしたがって雑木林のなかの急坂を紅葉の終わった落ち葉を踏みしめて登り切ると黒岳の頂上(1793m)。黒岳のブナ、ミズナラは最近山梨県の森林百選に選ばれ、自然保護地区に指定されているそうだ。

黒岳の山頂から5分ほどの展望台からは、それは見事な富士山が見えるそうですが生憎と霧の中。足元を見ると辺り一面花の終わったトリカブト、名残のトリカブト、リンドウに会えた。

一等三角点の置かれた山頂を後に西へと尾根道を行く。下り切ったところがスズラ

ン峠で再びゆるい登りとなって、やがて破風山。さらに尾根道を行くと新道峠についた。

新道峠から中沢林道口に向かって下りていったが、植林されたやや急な道で、午後3時頃でもう薄暗く足元が危なっかしい。日が短くなるこの時期はヘッドランプを必ず持っておかなければいけないことを改めて思った。

林道にでて、やがて別荘地のなかをぬけて、なおも下って行くと河口湖が見え隠れしバス停にやっとついた。雨具をはずし、タクシーで河口湖駅へ向かい帰路についた。



#### 概要

山名	御坂 黒岳 グレードA		
日時	H12年10月29日(日)		
目的	富士の展望		
歩行時間	5時間		
地形図	河口湖西部・東部2万5千図		
費用	5,700円(ホリデーパス利用)		
リーダー	原田(君)	参加者	13名
コース	我孫子 5:33-松戸-西国分寺-高尾 7:22/7:26-大月駅 8:13/8:35-河口湖 9:28/9:40-天下茶屋 10:10/10:30-御坂山 11:35/11:45-御坂峠(昼食) 12:15/13:00-御坂黒岳 14:00/14:20-新道峠 15:15-中沢林道口 15:55-河口湖 16:40-河口湖駅 17:08/17:12-大月-我孫子 20:45着		



--定例山行

## 御坂 黒 岳

日 時：H12年10月29日（日）

- ・全国的に雨模様、大降りではないが雨具が一日中離せませんでした。
- ・天下茶屋付近は紅葉、山の上に行くにしたがって紅葉の終わった落ち葉



< 180 >

## 小野子山～十二ガ岳

(1208m) (1201m)

山本紫津子

### 上越国境の山々の展望と温泉

JR 渋川駅から小野子山の登山口までは、交通の便が悪いためタクシー利用となる。霧雨のあいにくのお天気で、タクシーは町をはずれ子持牧場に行く頃は、少し前も見えないほどガスがたちこめている。30 分ほど乗って赤芝登山口で下車すると、後からマイカーの夫婦連れが来た。

9 時 35 分、小野子山へ向かって出発。はじめは草が刈られたゆるやかな坂道だが、しだいに雨でえぐられた道になり、胸突き八丁のような急坂となる。尾根に出て落ち葉の敷かれた道を登って行くと、「姉ツツジ」の標識がある。直進すれば小野子山の山頂へ行けるが、右折して「姉ツツジ」を見に行く。姉ツツジはシロヤシオのことで、群馬県の天然記念物に指定されているとか。5 月中旬には真っ白い花を咲かせるらしい。急斜面に大木となったシロヤシオの木が大きく枝を伸ばしていた。妹ツツジは枯れてしまったらしい。今は花の時期ではないので、咲いている時に会いたかったな……少し残念！

小野子山の山頂は北側だけが開け、晴れていれば谷川連峰がバッチリと見えるらしい。三角点がちょこんとあるだけの地味な山だ。

中ノ岳へは、右手の伐採地と左手の雑木林の境を鞍部までいっきに下り、再び登る。山頂は全くの林の中で薄暗いほど。丁度 12 時に着いたのでここで昼食にする。今回は吉岡さんが食

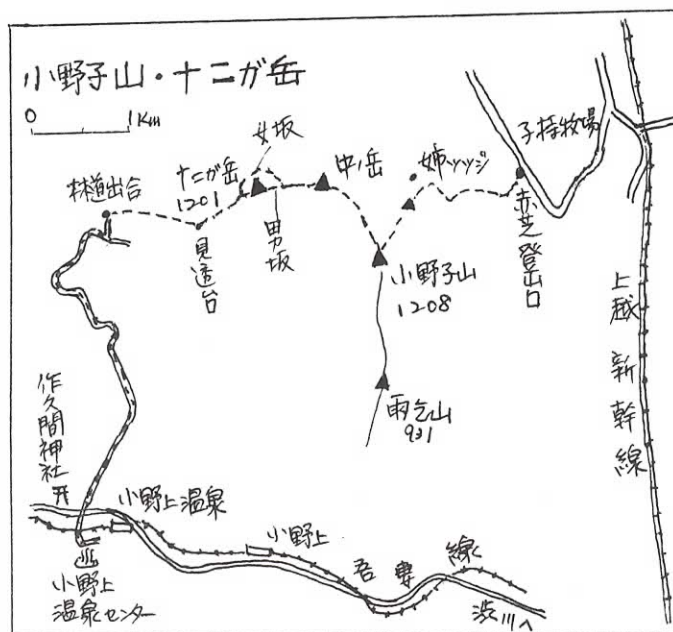
担を引き受けて下さり、温かな豚汁を頂いた。腹ごしらえも整い十二ガ岳へ向かう。この辺りの山は時間は短い、激しいアップダウンの連続。その上、雨で足元が滑るためかなりの苦戦を強いられる。いったん鞍部に下り、直進すると男坂と女坂の分岐に出る。リーダーは当然のように男坂へ。もの凄い急坂を木や根につかまり、それすらも見つからない場所では、わずかな石の角につかまったりして高度をあげていく。やっとの思いで着いた十二ガ岳の山頂はカヤトの明るいピーク。晴れていれば、ここからは浅間山、四阿山、谷川連峰など 360 度の展望があるはずなのに、今は濃いガスの中だ。方位盤を見て想像するのみ。ここを 2 時に発ち西方へ下って行くと、右手から女坂が登って来る。そのまま進むと Y 字路にぶつかり、右手に行くことにした。リーダーは一旦左手の小道に入り、木の枝にあちら向きにぶらさがった小さな標識を見に行った。そしてすぐ戻ってきた。右手の広い道は、赤いペンキ印でことさらにこちらを強調していた。ところが急斜面を下って行くと、突然に道は倒木で通せんぼされている。ここでリーダーは地図を見るなり、皆に詫びを入れながら先程の Y 字路へ引き返した。標識には塩川温泉とあった。実は私達がこれから下山する小野上温泉は、そこら辺一体を総称した塩川温泉の中の一つなのだった。

左手の道を下って行くと、まもなく植林した桧林となり、20 分ほどで林道突端に出てホッとする。アップダウンのきつい山だった。今度はここから約 1 時間林道歩きとなる。T 字路に出てさらに右手の採石場の脇を下って行くと、ようやく人家があらわれ、佐久間神社の前から杉林の暗い階段を下る。下方には、車道に沿って吾妻線の線路が見えてくる。杉林からぬけると、大きな黄色いタンクが目に見え込んできた。温泉センターのお湯を汲み上げているタンクのようなうだ。私達はお互いの姿を見て笑いあった。足



を引きずったりしてみんなヨレヨレに疲れ果てていた。小野上温泉センターの玄関に着くころは、厳しかった～と思わず口から出ていた。

山 行	小野子山・十二ガ岳	山行形式	日帰り
期 日	平成 12 年 11 月 3 日 (祭)	天 気	霧雨～曇り
山 域	群馬県中央部	交通費	5500 円
地形図	上野中山・金井 (1/25000)		
目 的	上越国境の山々の展望と温泉		
リーダー	外崎 蓮	参加数	9 名
コース	我孫子 5:30＝上野 6:04/6:16＝高崎 8:02/8:25＝渋川 8:51/9:00 (タクシー)～赤芝登山口 9:25/9:35～小野子山 11:00/11:10～中岳 12:00/13:05 (昼食)～十二ガ岳 13:45/14:00～林道 15:10/15:30～小野上温泉 16:40/18:00～小野上温泉駅 18:05/18:16＝高崎＝上野＝我孫子 21:32		



< 181 >

## 『丹沢』塔ノ岳～鍋割山

(1491m)

(1273m)

石垣吉朗

### 久しぶりの丹沢

### 東京の夜景が素晴らしい

岳人あびこに入会して初めての山行。久しぶりの山小屋泊まり。天気も良く久しぶりの山登りで汗が噴き出てくる。

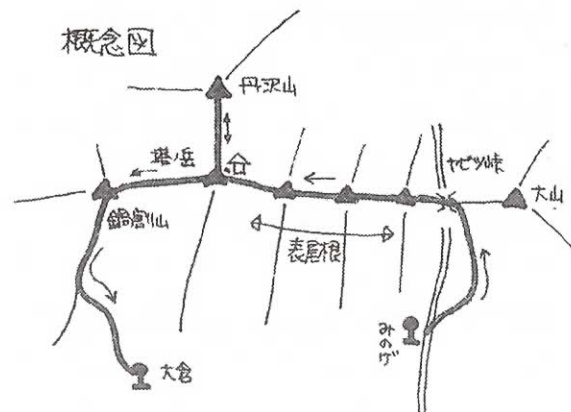
富士見峠から本格的な縦走路に入る。二ノ塔で朝食。稜線からの展望を楽しみながらのアップダウン。塔ノ岳が近づき、メンバーに少々疲れが見える頃、ゆっくり休まず山頂を目指す。

小屋は超満員。外に出ると東京の夜景がまばゆく見える。今秋、初めて綺麗に見えたそうである。(ラッキー!)

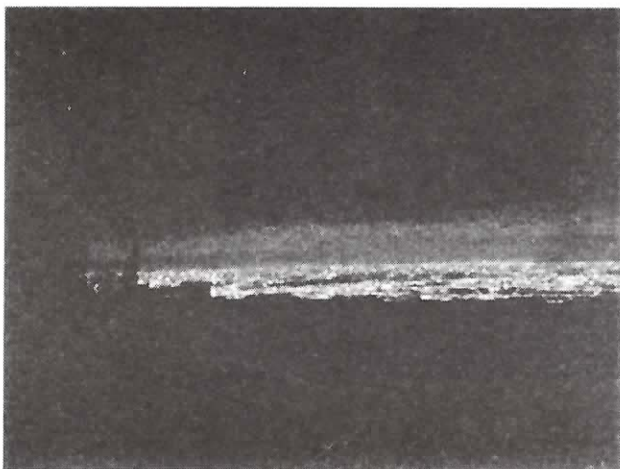
朝食を食べて丹沢山の往復。頂上から一気に下り、それから霧と木々に囲まれた緩やかな登りを経て丹沢山へ。戻る途中に富士山の頭が顔を覗かせる。鍋割山頂で富士山を正面に昼食昼食。二俣の明るい広場で大休止。その後、それぞれが車道を思い思いに大倉のバス停まで歩く。



表尾根縦走路



山名		塔ノ岳～ 鍋割山(B)		山行形式	1泊2日	
期日		平成13年11月11日～12日 天気 晴				
山城		丹沢	地形図			
目的		新人研修		交通機関	電車・バス	
リーダー		安田	参加数		¥14,000・	
日程 コース	11日	秦野 08:05 → 08:20 蓑毛 08:40 → 10:05 ヤビツ峠 10:10 → 10:30 富士見峠 → 11:45 二ノ塔 11:50 → 12:10 三ノ塔 12:45 → 14:38 書策小屋 → 15:00 新大日 → 15:41 塔ノ岳山頂 (泊)				
	12日	06:36 塔ノ岳出発 → 07:20 竜ヶ馬場 → 07:38 丹沢山 07:55 → 08:55 塔ノ岳 09:35 → 09:48 金冷し → 09:58 大丸 → 10:21 小丸 → 10:50 鍋割山 11:45 → 12:33 後沢乗越 → 13:13 二俣 13:13 → 14:38 大倉バス停 → 15:00 渋沢				
ルート 状況		① トイレは蓑毛、ヤビツ峠にある ② 表尾根中に岩場1カ所有り。注意すれば危険なし ③ 水場は塔ノ岳山頂から10分下ったところにあり				



横浜の夜景





2日目の朝  
塔ノ岳の山頂にて  
(鍋ヶ岳へ出発の前)

2日目  
朝霧の中、丹沢山へ  
往復



【新人の皆さんの感想】

- 新人研修の課題の一つは、15kgの荷物を背負うことであった。登山装備も込みでクイヤーと自分で納得して出発。雨模様の丹沢が、やっぱり晴れとなった。富士も雲の上からチリと顔を見せてくれた。高橋英雄さんに参加いただければ、富士さんも全容を現してくれたかも。残念 箕輪完二
- すっかり陽が落ちた塔ノ岳の山頂から見下ろした関東平野の夜景は、とても新鮮で疲れと寒さをしばらく忘れさせてくれました。 武藤邦芳
- 山を麓から見ると、あの山に自分が自分の足で登り着くとは考えられないことです。また、下りて来て、山を振り返ると、あの山に行ってきたとは信じられないことです。でも実際に登って下りて来たのですから感激です。山小屋でヘッドランプで地図や時刻表を見て、山を下りる計画をあれこれ考えましたが、勉強になりました。必要品、不要品(食糧、着替え)など、勉強になりました。ベテラン新人の石垣さんのお話や荷造りなどに感心しました。ハラの中で山を好むムシが元気をつけているみたいです。今後とも御指導をよろしくお願い申し上げます。有難うございました。 小川誠二郎
- 入会して初めての山行。また久しぶりの丹沢は、天候にも恵まれ、また親切な仲間に出会えてとても楽しい山行でした。蓑毛からの登り、表尾根のアップダウン、塔ヶ岳頂上から見た東京の夜景、丹沢山頂の濃霧、それぞれが若い頃の時には気付かない味わいがありました。また、普段の不摂生がたたると言うように足が上がらないのには反省しきりです。まだ入り立てで少々生意気かもしれませんが、これからよろしくお願いいたします。 石垣吉朗



<182>

## 権現山

(1312m)

柴田節子

上野原駅からタクシーで約15分、「和見入口」の道標地点に到着。緩やかな山道をしばらく登る。道筋には古い石垣などが見られ往時の人々の生活が想い偲ばれる。

今年の秋は天候不順で雨の日も多かったが、今日は幸運にも暖かな晴天に恵まれ、また朝早い出発が効を奏しコナラ・ハウノキ・エゴノキ等の落葉した雑木林は陽光で明るく、落ち葉で埋もれた登山道にも日が降り注いでいた。落ち葉の香りに包まれた道に晩秋を満喫しながら歩く。途中、文字もはっきりしない小さな石碑が馬頭観音だと斎藤さんに教えられカメラに収める。

しばらくすると展望が開けてきた。雄大な冠雪の富士山が見える。来年計画されている富士山集中登山を思うと感慨もひとしお。鉄塔を過ぎ雨降山（あふりやま）を確認できないまま進むと、新しく建て替えられた竜王権現社に到着。ここから山頂は未だ遠いと思われていたが急登すること約10分山頂に着く。皆狐につつまれた感じでした。

今回の山行では道標が少なく、実際の登山道と地図上の道が判りにくい所が2ヶ所あり、小さな山で地図を広げ確認したのは珍しい事でした。

少し広くなった権現山山頂は静かな小春日和、存分に手足を伸ばしリフレッシュ。ワイワイ・ガヤガヤのパーティと入れ替わりに下山開始。程なく登りで見落とした雨降山を確認し通過。1時間ほど杉林の中等を歩く。北側に雲取山、三頭山、大岳が見える場所でおむすびタイム。

足元の落ち葉の間に2・3mm 発芽した大き

なドングリたくさんあった。これから厳冬を向かえる時期に発芽し育っていく自然の営みに感服。やがて美しい森にと祈る。

下山路は紅色のもみじ、茶色のナラ・ハウノキ、強風で落とされた緑の落ち葉が敷き詰められた鮮やかな晩秋の道。しかし滑りに気を使う。途中休憩、全員りんごタイム。程なく用竹バス停到着。

バス停近くに酒饅頭の製造販売の店があり、テーブル・椅子完備。陽射しは未だ高いが無事の下山を喜ぶ打ち上げ会を開始。酒饅頭、地元名物豆腐、渋柿を肴にビールで晩秋の山行に乾杯。

### 概要

山名	権現山		
期日	平成12年11月12日（日）晴れ		
山域	中央沿線		
目的	静かな山歩き	地図	上野原
交通	JR 上野原—タクシー—和見入口		
コース	我孫子駅4:45—立川6:43—上野原駅7:25—和見入口7:40／7:50—権現山—9:50／11:00—用竹分岐11:27—雨降山11:33—用竹入口13:50		
総費用	3500円		





<183>

## 陣場山

(857m)

大島 清江

### 神奈川50週の間へ

#### あきの紅葉を楽しむ

藤野駅より陣場登山口まで30分ほど歩くと無人野菜販売所があった。頂上でのトン汁にダイコンを一本買うために立ち寄ったところ、裏側の台の上に熟した渋柿がゴロゴロ並べてあり、“どうぞお好きな方、ご自由にお持ちください”と私達に呼びかけている。当然何個か頂戴し、歩きながらパクついた。でもチョット渋みも残った。

登山道に入ると立派な桜の木が目につく。春にも来たいなア〜と思う。

モミジ、イチョウ等、紅葉が素晴らしい。歩き初めから結構きつい登りで皆さん暑い暑いと汗をかいている。でも休憩すると風が冷たく、やはり冬の足音を感じる。きついのはりの後は平坦な道が続き一息つけるのが有難い。やがて頂上に着いた。

晴れ渡った青空に浮かぶ山々に茶屋の主がガイドに忙しい。めったにみられない日光連山、白根山が白く輝いていた。丹沢の山々もお出ましです。富士山もチョッピリ雲の中から顔を出した。ぐるり360度の展望に皆満足でした。頂上は非常に寒く、冷えきった体にトン汁の温かさ…。

昼食を楽しんでいよいよ下山だ。皆さんに写真のサービスをする。

足取りも軽く眼下に雄大な相模湖と大きくそそり立つ石老山を見ながら、与瀬神社の石段を下り相模湖駅へ向かった

秋の素晴らしい青空と紅葉を楽しんだ一日でした。

2000年11月19日(日)



コース：我孫子 5:33 発＝松戸＝西国分寺＝高尾＝藤野駅 7:51／8:12～陣場登山口  
8:42／8:50～陣場山 10:52／12:45～明王峠 13:20／13:30～与瀬神社 14:53  
～相模湖駅 15:12／15:59＝西国分寺＝新松戸＝我孫子 18:00 着

< 184 >

## 高反山・諏訪山

(1,130m) (1,549m)

武藤 邦芳

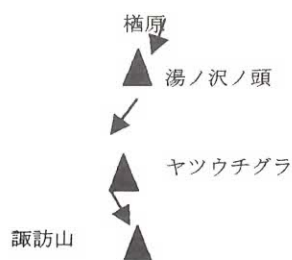
### “泣きっ面に蜂”の高反山

沢から尾根に向って、急斜面に取付く。積った落葉を払っても、下は風化した礫混じりのふかふかの土で、じっとしていても足下から崩れていきそうである。へばりつくように生えている木を頼りに何とか尾根に近づくと、今度は頭上で、「ブーン」と不吉な音が。抱きついてる木を見上げると、なんとスズメバチが数匹、樹液に群がっている。あわてて上着のフードを被り、その場を逃出した。やっとの思いで尾根にたどり着く。しかし偵察にいったリーダーの判断でこれ以上の行動は断念、引返すことに。地形図では点線の山道は辿る人が絶えたのか、入口すら分からずじまい。取付きと思われるあたりは新しい砂防ダムが出来ていて、昔の名残も消えてしまったのだろう。短時間ではあったが肉体的にかなり疲れた。早々にしょっぱい思いを味う。登り口で会った地元のおじさんが諏訪山で「熊がいた」と言っていたが、“にぎやか集団”の前には現れなかった。

その後、日航機墜落の慰霊碑に行き、皆で手を合わせ、明日の為に登山口を確認し、今晚の野営地を捜す。先輩の女性方の交渉力と鍛えた臭覚で(?) 地元の人を捜し、水道・トイレ完備、しかも車のすぐ横にテントを張れるすばらしい場所に到着した。夜食は鍋料理で満腹し、満天の星空の下静かに夜は更けていく。

### 途中で引返したくなった諏訪山

すっかり葉を落した広葉樹の間を縫うようにほぼ南北に走る尾根道をたどる。沢沿いの登山口から尾根筋に出るまでの急登で少し喘いだ後は、右に左に尾根を巻きながら、静かで明るい道が続く。予想に反した好天で、逆光の下に御巢鷹山や天丸山方面もよく見える。前方に諏訪山の”山の字”が見え出す頃から難所が続く。梯子や鎖、ロープに頼りながら手足を総動員して、登り降りを繰り返す。だんだん息が上ってきて、なかなか戻らない。地図では山頂が近づいているが、ペースは落ちている。既に昼近い。とにかく前に追いつこうと気を取り直すと、静かな木立に囲まれた山頂がやっと現れた。荒い息のまま、細野リーダーと握手をかわし、ほっとする。昼食後、気の抜けない道を引返していくと、秋の午後の日射しを浴びた西上州の山々が目の前に広がっていた。



山名	高反山・諏訪山	山行形式	テント泊
月日	平成 12 年 11 月 25 日～26 日		
山域	西上州	地図	神ヶ原, 両神山
目的	ジョッパイ山と静かな急登 8 時間の山	交通機関	レンタカー
日程コース	我孫子 5:45→上野村尾附 12:00→高反山登山口(?)→引き返し下山 14:00→テント設営 檜原登山口 6:35→湯ノ沢の頭 9:40→三笠山 11:05→諏訪山 11:40/12:00→三笠山 12:30→湯ノ沢の頭 13:40→檜原登山口 15:40→駐車場 16:00→我孫子 21:15		
参加者	L:細野省、SL:清家、榊原、安田、外崎、武藤		



< 185 >

## 高畑山・倉岳山

(982 m) (990 m)

増田 喜久子

### 忘年山行 と 百人一首

我孫子駅から貸切りバスで出発。参加回数の少ない私には初めてのバス利用の山行だったが、極めてラクチン。地球温暖化や公共輸送機関の充足問題、自然に接する姿勢エトセトラと、とかくの批判があるとか聞きながらも、ゆったり座って、乗り換えの心配も無しに、寝不足を補ってボーッとしているうちに目的地の鳥沢駅に着いてしまう。その楽なこと！

忘年山行とあって参加者は30名に及ぶ。駅前でバスを降りて、3班に別れて出発。20分あまり住宅街の坂道を歩く。随所に「高畑山」を示す手製の案内板がある。登山者に道を聞かれることが如何に多いかを物語っているのだろうが、親切な町だ。この登山口までの道で、急行せつち班は駅での先発班を追い抜いて、元気に先を急ぐ。

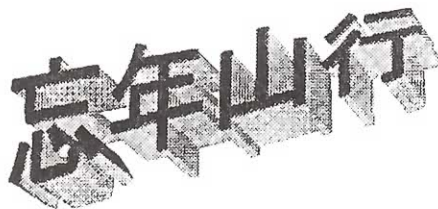
登山道に入って30分程沢沿いを進んだ後、谷川と別れて雑木林の急登に行く。陽だまりハイケルいい景色で、久しぶりの登山は快適。やがて深い杉林に入って1時間も行ったかと思う頃、高畑山頂上に到着。班ごとに記念撮影して、10時半過ぎと時刻は早いが軽い食事をする。富士山が雪の帽子をかぶっているのが見える。

ここから穴路峠へ下り、尾根を進んで倉岳山頂へは1時間足らずで着く。頂上の雑木は葉を落と

していたので360度の展望が得られたが、木が繁っている夏だったら何も見えない山頂ではないかと思う。

今日は忘年山行。下山後の楽しみが待っている。各班ごとの記念撮影を済ませてサッサと山頂を後にする。

落ち葉の山道を下る。みんな余裕の足どり。周囲の草木を愛でながら話が弾む。百人一首に詳しい清家さんが、優雅に詠っている和歌に秘められている本当の意味を解説してくれる。「名にしおはば逢坂山のさねかずら人にしられでくるもよしがな」の「さねかずら」は別名「美人かずら」だか「美男かずら」とかいうそうで、また「さね」は「さあ、寝ましょう」という艶っぽい懸け言葉だとか。勿体無いことに、この後の忘年会で美酒に溺れてしまったわけでも無いのに、たくさんきたい話を忘れてしまったが、清家さんの百人一首に造詣が深いことには敬服。そして、子供の頃からつい最近まで「坊主めくり」も含めて百人一首でよく遊びよく学んだ筈なのに、どの歌も確信をもって思い出せない自分にながかり。年とったかなア〜。



### 手づくりの料理に大満足

1時過ぎに高金山麓キャンプ場に下り忘年会。食担は2期生で、それを4期生が手伝っている様子。無責任な話だが、ずっと山行も例会も休んでいたの、当てにされていないのもあって、よくわからない。何やら取り込んで大変そうなので、2期生の私も「せめて何かのお役に・・・」とウロウロしたが、何もできない。仕事にあぶれて「お客さん」



を決め込むことにする。

手作りのキリタンポと汁、豚汁、お汁粉、盛り沢山で大変なわけ。どれも美味しく、ご苦労に感謝しながらご馳走になる。アルコールもビールのほか「夜明け前」とか「舞姫」とか何故か文学的銘柄の日本酒が揃っていた。最後は武藤さんの特製コーヒーで締める。山でこんなに美味しいコーヒーを味わえるなんて！と感激。

帰りのバスはビデオ鑑賞あり、宴会あり、宵寝ありの 3 時間余りで我孫子に帰着。バス利用は無駄な疲労が少ない上に、勉強ができるし、親睦ははかれるし、なかなか良き哉と喜びながら足どり軽く家路を辿る。

リーダーの皆様はじめお世話下さった方々のご尽力で、世紀を締めくくるに相応しい忘年山行ができ、深く感謝いたします。



山 名	倉岳山	山行形式	日帰り
期 日	平成 12 年 12 月 3 日 (日)		
目 的	忘年山行	参加人数	30 名
コ ー ス	我孫子駅北口 5:30 (バス) - 鳥沢駅 7:55 / 8:15 出発 ~ 登山口 8:35 / 8:40 ~ 高畑山分岐 9:10 / 9:20 ~ 高畑山山頂 10:25 / 10:50 ~ 倉岳山山頂 11:40 / 11:55 ~ 立野峠 ~ 高金山麓キャンプ場 13:00 / 15:20 (バス) - 我孫子駅 18:40		

我孫子から山頂への道





<186>

## 六ツ石山

(1,479m)

飯沼トミ子

### 明るい雰囲気の 冬枯れた尾根歩き

花も温泉も紅葉もない六ツ石山行き。12月半ばといえば主婦は大変な時期ではありますが、師走の一日をのんびりと山歩きができたかと思いつつ参加しました。5時30分、我孫子駅集合、奥多摩駅よりバスにて境橋まで向かう。

登山口前にてリーダーからコンパスの使い方について再指導を受ける。準備運動も整い、さあいよいよ出発です。

境橋よりハンノキ尾根を通るコースを進む。地図の上では「点線」の表示がされており、一般のコースではなさそうである。歩いていくうちに眺められた境集落の山村風景は至極楽しい。

登っても登っても段々畑は続く。そのうち現れる一軒家が目に留まる。人が生活している様子も見られない。いや生活しているらしい。そんな自問自答をしながら…。

こんなのどかな風景を楽しみながら高度を上げていく。トオノクボまで指導標はあまりない。しかし、リーダーはコンパスをチェックしながらの先導。崩れそうな斜面をトラバース、緊張の連続であった。

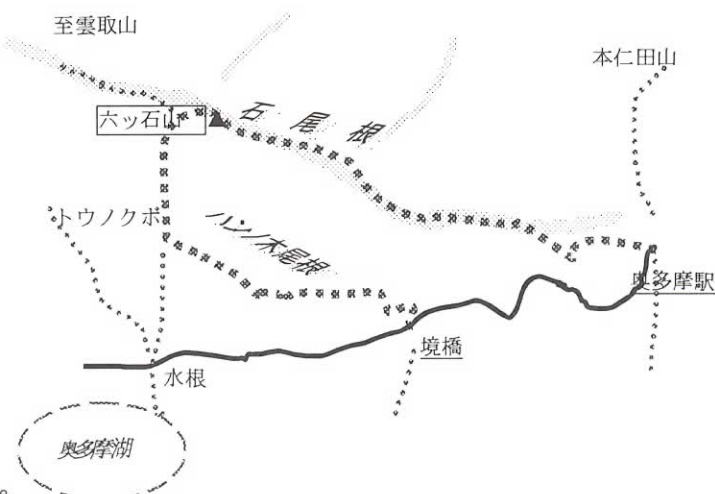
山行での緊張は一時間程度が限度といわれている。自分自身の足元の不安を感じながら真剣に前進。リーダーの「尾根に出た」という声にほっとする。しばらく登りに入り六ツ石山に到着した。

師走の陽だまりをゆっくり浴びながらの昼食は格別であった。昼食後は、足元も軽やかに「石尾根」を一路羽黒神社経由奥多摩駅へ向かう。

年の瀬も押し詰まった一日、とても楽しくテーマのごとく「明るくいい雰囲気の冬枯れた尾根歩き」にぴったりの2000年最後の山行でした。2001年への大きな期待を抱きながら…。

### 概 要

山 名	六ツ石山 (奥多摩) 1479m		
期 日	平成12年12月17日 (日) 晴		
山行形式	日帰り	グレード	A+
目 的	明るくいい雰囲気の冬枯れた尾根歩き		
費 用	2,300円 ホリデーバス利用	地形図	奥多摩湖、武蔵日原 1/2万5千
歩行時間	5時間30分	行動時間	7時間
リ-ダ-	中村隆泰	参加数	14名
日 程 コ- ー ス	17日 我孫子駅(千代田線)5:33=新松戸=西国分寺=立川7:03/7:08=奥多摩駅8:22/8:34(バス)-境橋8:55~山ノ神(榛ノ木尾根)10:40~トオノクボ11:40~六ツ石山(1,479m)12:20/13:20~(三ノ木戸山)~羽黒神社15:30~奥多摩駅16:00/16:50=我孫子(19:30)		



<187>

クリスマス山行  
八ヶ岳  
(2,899m)

武内 勇二

第1日(2000年12月23日)

我孫子～茅野～美濃戸口～赤岳鉦泉へ

我孫子発5:30、日暮里乗換で新宿へ、山手線は早朝のこととて空いてはいるがそれでもこれから仕事という格好の人もちらほら見える。どんな仕事かはわからないが師走で忙しいのだろう。ちょっぴり申し訳ない気持ちになりながらも、すぐに山行前のうきうきした気分にもどった。まだ、夜は明けきらないが、空気は冷たくすっきりしている。今日は晴天まちがいない。列車がホームに入るのを待って、スーパーあずさ1号に乗りこむ。全員9名(村松敏、村松峰、細野省、柴、清家、外崎、斉藤、武内、武藤)の席は悠々と確保できた。残る2名は、茅野で由布、美濃戸口で三浦さんと落ち合う予定である。

笹子トンネルをぬけて甲府盆地に入ると、車窓より南アルプスの山々が遠望できるようになる。快晴の下、鳳凰三山その奥に白峰三山、そして来年夏に計画している甲斐駒もピラミダルな容姿で聳え立っている。明日の赤岳山頂からの大パノラマに期待がつのる。

茅野駅で由布さんと合流した。由布さんは岳人あびこ4期の同期生だが、この秋福岡へ転居、今回ははるばる九州は博多からの参加である。

タクシー3台に分乗、美濃戸口に向った。山には雪が少なく黒々としている。

運転手によれば、近年は正月前には以前ほど雪が降らないが、特に今年は少なく、雪目当ての若者のが来ないので商売上がったりとのことである。

美濃戸口で、予定通り三浦さんに合流。

三浦さんは、この夏住み慣れた我孫子を離れ、茅野で学生寮の舎監として新しい人生を歩むこととなったが、引き続き岳人あびこの山行にご参加頂けるのは嬉しい。

これまでは予定通りだったが、ここで、ハッピングがおきた。武藤君がピッケルを茅野駅で忘れたという。聞けば、この山行用に買ったばかりの新品だという。電話で照会の結果、タクシー乗り場での忘れ物として駅の遺失物係に届けられていることが判明し一安心した。雪の状況からストックがあれば赤岳鉦泉までは大丈夫との村松リーダーの判断もあり、ピッケルの受取は帰りに行うこととして、美濃戸口を出発した。

美濃戸山荘までの約1時間は殆ど車道を行くことになる。日陰の道は雪が踏み固められてアイスパーンになっており、滑らない様注意して行かねばならないが、アイゼンを着けるほどのこともない。美濃戸山荘で昼食。ストーブには薪がくべられ、温かいお茶をご馳走になった。山荘を後にほんのしばらく林道を行くとやがて柳沢に架かる橋に出る。ここからようやく山道に入る。北沢に沿って小さな木の橋を渡ったり渡り返したりしながら緩やかに登って行く。雪はあるにはあるが、足元が気になるほどではない。天気は引き続き快晴で、歩く正面に大同心・小同心の巨岩群が見え隠れする。小さな林を抜けると眼前に赤岳鉦泉小屋がとびこんできた。

ここで積雪は約7～8センチ。20～30センチはあるだろうと予想してきたがはるかに少なかった。

早速テント設営、  
夕食準備のあと、  
3時半頃より  
1つのテントに  
集まりかんばあ～い。

5～6名用の広い  
テントとはいえ、総勢11名がぐるりと輪をかくとやはりきつい。ジングルベルジングルベル…、きい～よしこのよる…、等と唄いながらプレゼント交換。そして山





談議、酒談議。三浦さんが信州の銘酒を持ってきてくれた。詰め替えたペットボトルの蓋がゆるんでザックにかなり飲まれてしまったとのこと。おいしいお酒だっただけにおいしいことをした。いつのまにか夕方になりそして小雪がちらつき出した。風もやや出てきたようだ。風よ、雲を吹き飛ばしておくれ。あした天気になぁ〜れ。

第2日(2000年12月23日)

**赤岳鉱泉～行者小屋～赤岳～行者小屋～赤岳鉱泉**(Aコース、L柴、村松峰、清家、外崎、斎藤、武内)

6時40分出発。かなり明るくなりヘッドランプは必要ない。この冬初めてのアイゼン着用ということもあってか、装着点検のため何回かの小休止をやむ無くされ、かならずしも滑り出し順調とはいえなかった。

シラビソ林の中のゆったりとした雪の道を行くこと約40分で行者小屋に到着。昨夜の雪が木々の梢にうっすらと積もり、まさにホワイトクリスマス。金銀の飾りやイルミネーションのないまさに清らかなクリスマスツリーの林をバックに記念撮影の後、リーダーの柴さんよりアイゼンバンドの再点検の指示があった。

行者小屋をあとに雪の道を辿ると程なく中岳・阿弥陀岳との分岐に出る。岳人あびこ入会前の公開登山(赤岳・阿弥陀岳コース)に参加した時はここに降りてきたのだ。

文三郎尾根道は、赤岳への道標に従いここから始まる。登りがやや急になり、息づかいもやや荒くなる。しかし、みな着実に歩み高度を稼ぐ。やがて、金網の階段を登るようになる。ピッケルの石突きが金網に食い込むため杖としては用を成さない。約1時間ばかりの登りで赤岳と中岳・阿弥陀岳をむすぶ主稜線にでた。風が急に強くなった。大きな岩の陰を求めてしばしの休憩をとり、テルモスの熱い湯で生き返った気分

となる。斎藤さんはアイゼンの具合がしっくりこないのか、バンドの締め具合を入念に点検している。約10分の休憩後出発。程なく行くと赤岳ピークとキレット小屋の分岐の標識があり、赤岳へはここから30分と記されている。愈々ここから岩の間を縫って急峻な登りが始まった。雪はほとんどついていないため、アイゼンは歩きにくい。岩場にかかった梯子を登るとほどなく赤岳南峰のピークに出た(9:45)。

全員で握手、登頂を喜び合った。しかし、期待していた富士も南アもまぼろしに終わった。濃いガスに妨げられ北峰にある頂上小屋もかすんでいた。風も強い。登頂記念の写真も鼻水垂らしながらの情けない顔をしていることは必定だ。

柴さんが硫黄岳方面に向っているBコース組(L村松、三浦、細野、由布、武藤)を呼び出そうと携帯を試みたが反応なし。蜜柑を口に含んだが凍ってジャリジャリで美味しくない。約15分の滞在中ふるえていた。

「下山はより慎重に」とリーダーから注意があり、気を引き締めて下りにかかった。梯子を過ぎしばらく下った所で大きく右に曲がらねばならないところを直進したため竜頭峰あたりでキレット方面に迷いこんだ。すぐおかしいと気がつき10分程のロスで済んだ。この辺りの風が最も強く、体勢を低く保っておかないと身体が持って行かれそうになる。ガスが次第に薄くなり時折下山路下方を行く登山者も見え隠れしている。約30分程で文三郎尾根に入り、ようやく風から逃れられた。尾根道も中程まで下るとガスがとれてきた。行者小屋が真下に見え、赤岳のピークや中岳、阿弥陀岳も時折顔をみせるようになった。午後からは晴れるのだろう。半日ずれたら良かったのにと

思うが、こればかりはどうしようもない。  
長い階段を過ぎ、雪道に行くこと約1時間  
弱で行者小屋到着。

休みなしで先を急ぎ赤岳鉱泉に12時少し  
前に着いた。

### 赤岳鉱泉～赤岩の頭～赤岳鉱泉

(Bコース、L村松敏、三浦、細野省、由  
布、武藤)

7時10分出発、行動中、アイゼン、ピッ  
ケルの使い方等習いながら赤岩の頭まで樹  
林帯の急騰にあえぐ。途中で盲目の登山者  
とサポートのパーティに会い、そのチャレ  
ンジ精神とサポートされる方々との息の合  
った下りの早さに驚く。稜線上は強風で頬  
がシビれる。硫黄岳へは、リーダーの判断  
でとりやめとなった。10時40分、テ  
ント場へ戻り、今朝のうどんを温めてAコ  
ース組の帰りを待つ。(この項、行動中、ア  
イゼン、ピッケルの使い方等習いながら赤  
岩の頭まで樹林帯の急騰にあえぐ。途中で  
盲目の登山者とサポートのパーティに会い、  
そのチャレンジ精神とサポートされる方々  
との息の合った下りの早さに驚く。  
稜線上は強風で頬がシビれる。硫黄岳へは、  
リーダーの判断でとりやめとなった。  
テント場へ戻り、今朝のうどんを温めてA  
コース組の帰りを待つ。

(この項は由布さんのメモ、やまたんより  
転載)

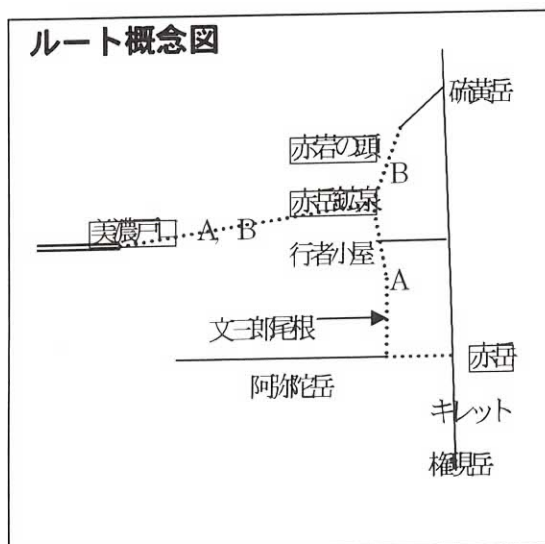
### 赤岳鉱泉～美濃戸山荘～美濃戸口 ～茅野～我孫子

美濃戸山荘で小休止。お茶、野沢菜のつ  
けものおつまみサービスに甘えた。

アイゼンを外したものの、舗装道路は氷の  
張っているところもあり引き続き慎重にな  
らざるをえない。1時間の道路歩きはこた  
える。特に美濃戸口近くなって揺るやかに  
登る坂はうんざりする。

美濃戸口の山荘で乾杯、三浦さんと別れを  
告げる。茅野で由布さんと別れる。

あずさ千葉行の指定券がとれた。秋葉原  
経由我孫子へ、9:30予想より早く我孫  
子に帰ることが出来た。



### 山行データ

山名	赤岳 (八ヶ岳)
日時	平成12年(2000年)12月23日(土) ～24日(日)
形式	テント
目的	雪山、テント技術の習得と挑戦
行程	(第1日) 我孫子 5:30＝茅野 9:08＝ 美濃戸口 9:35/9:50～美濃戸山荘 11:00/11:30～赤岳鉱泉 13:50 (第2日) Aコース 赤岳鉱泉 6:40～行者小屋 7:15/7:40～赤岳山頂 9:45/10:00～ 行者小屋 11:30～赤岳鉱泉 12:00/13:10 Bコース 赤岳鉱泉 7:10～赤岩の頭 9:30～赤岳鉱泉 10:40/13:10 A, B共 ～美濃戸山荘 14:40/15:00 ～美濃戸口 15:50/16:50＝茅野 17:49＝我孫子 21:30 歩行時間(除く、休憩): (1日目) 3時間40分、 (2日目) Aコース7時間40分、 Bコース5時間50分
参加者	Aコース 男3名、女3名 Bコース 男4名、女1名



<188>

## 石老山

富士周辺シリーズ No.1

<189>

## 三ッ峠山～黒岳

富士周辺シリーズ No.2

### 『富士山と富士周辺の山々』

五周年記念山行文集

をご覧ください。



朝日に輝く富士山（三ッ峠山より）

<190>

## 荒 船 山 (西上州)

(1423m)

高 橋 潔

### 「軍艦」岳人あびこの

#### 搭乗を拒絶

我孫子発 5 時 34 分。途中、高坂で小休憩。バスは内山峠登山口に 8 時 20 分着、8 時 45 分に登山開始。のっけから相当の積雪があるものの最初のしばらくは人の跡もあった。しかし、程なく人跡はなくなり、カモシカと思わしきものあるいはウサギの跡など「雪上の獣道」に代わる。9 時 20 分に小休憩。積雪量は次第に増し、前途多難の様相がさらに加わり、処女峰を目指すごとくになり始める。

先頭を交替しつつ、ラッセル行進を続ける。小生ごときオンボロ機関車にも先頭が回ること数回。膝までもぐる藪こぎは高校以来 40 年ぶりのことで、さびついたエンジンや老化腐食の目立つ肉体にはことのほか堪えることとなった。一杯水をすぎて登りがきつくなり、積雪がさらに増すと行軍は難航。かの漱石先生は、山道を登りながら人生の真理を考えたようだが、「このような雪をかき分けて山に登るはなに故なるか？これぞまさに物好き・暇人が時になす愚挙・妄動ならん」などと、こちらはレベルがいささか異なる裏真理を想う。

山頂のトモ岩展望台に近い平地と思われるところに達するや、積雪はさらに深く、

ルートファインディングもままならなくなった。「おい、引き返すぞ」と遂にリーダー部長の御裁断。時に 12 時 10 分。一同無念（一部に、安堵？）の下山開始。ふさわしい食事場所を求めて、岩陰で 1 時 10 分昼食の準備にかかる。食担の用意したカレーうどんをすすりながら、持参した半冷凍となった握り飯を詰め込む。

記念撮影後 1 時 50 分、下山を再開。歩き出してまもなく足がつるものも出て、同伴者二人をつけて、一行 17 名はバスの待つ内山峠へと先行する。2 時 50 分峠に戻るも、バスは見あたらない。携帯がうまく機能せずバスとの連絡もままならず、健脚者が内山大橋まで迎えに出向く。3 時 45 分過ぎほぼ時を同じくしてバスとさきの延着組が到着合流。一路荒船の湯へと向かう。入浴後飲食となり、帰途の渋滞を考慮して時間を調整してゆっくり「反省会」。我孫子駅北口へは 9 時に到着。

さて、今回は曇りで時に日差しもある天候ではあったが、積雪が多すぎた。いくつかの学習事項があり、リーダー部長のまとめも入れ若干の整理をしておきたい。

- ・汗をかかなくてよいように衣服調整を怠らない。
- ・用便は仲間に告げて通り過ぎた方向に戻り行う。
- ・不調者が発生したら、付き添いは 2 名つけ、再度のアクシデントに備える。
- ・厳冬期のガス使用には、ガスの揮発性の確保に十分に留意。
- ・ロープは巻くのではなく、折って束ねる。
- ・トラバースには山足加重。
- ・雪中の急登では、膝を押し込みその跡



につま先を入れる。

あまりにも平凡、と侮るなかれ。人は平凡なところにこそ過ちを犯すものなり。

#### 概 要

山 名：荒船山（西上州）(1423m)

山行期間：平成 13 年 2 月 4 日（日）

山行種別：日帰り

目 的：冬枯れの航空母艦から山並みを眺める

グレード：B

ルート：内山峠～荒船山～荒船不動

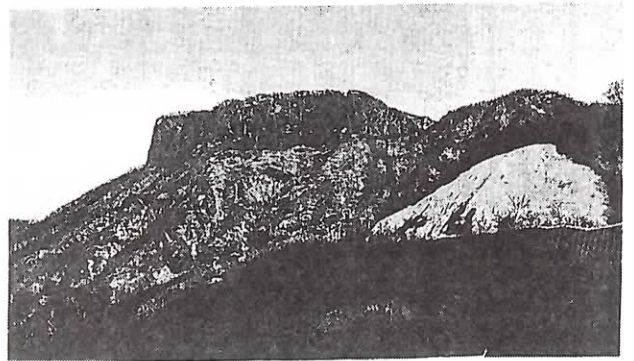
リーダー：C L 川下、A 班 L 北川、B 班 S L 長木、 参加者 20 名

費 用：4500 円（貸し切りバス利用）

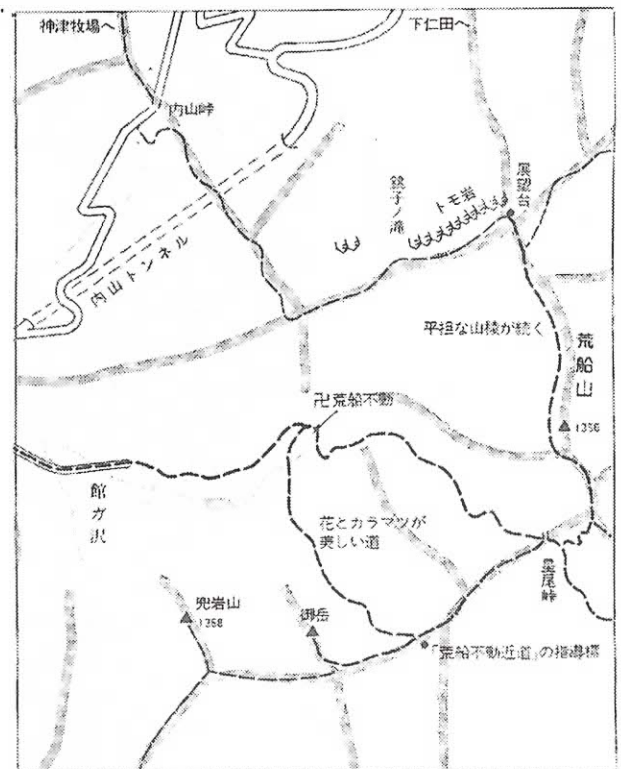
歩行時間：5 時間 45 分

#### コ ー ス：

我孫子駅北口発 05:35 貸切バスー上里 PA07:10/07:20ー下仁田 IC 通過 07:45ー内山峠登山口着 8:20、アイゼン着用など登山準備内山峠発 08:45ー小休止 09:20/09:25ー大きな岩通過 10:30ートモ岩展望台付近着、引返し決定 12:05、引返し下山出発 12:15ー大きな岩着 13:00、昼食、記念撮影、下山出発 13:50ー内山峠登山口帰着 14:55、バスと最終同行者到着 15:35、バス出発 15:45ー荒船の湯 16:05/18:00ー下仁田 IC 通過 18:20ー三芳 IC19:40/20:00ー我孫子駅北着 21:00。



国道254号内山トンネル手前から見た荒船山のトモ岩



一首：荒船の思はぬ雪に難儀して兎の跡を辿る道かな 清家三保子

一句：踏み締める雪の崩るる山の道 小川誠二郎

## 雪に苦しめられた荒船山



パウダー状の雪  
は踏みしめても  
固まらない。ま  
るで布団の上を  
歩くようだ。



登頂を断念して下山。  
ロープダウン→  
昼にはカレーうどんで  
満足。



雪に苦しめられた荒船山



<191>

## 金時山

富士周辺シリーズ No.3

<192>

## 御正体山

富士周辺シリーズ No.4

### 『富士山と富士周辺の山々』

五周年記念山行文集

をご覧ください。



頂上では富士山は雲の中だったが、下山途中から大きく姿を見せた。(金時山)

<193>

## 笹尾根

丸山1098m

長木 加代子

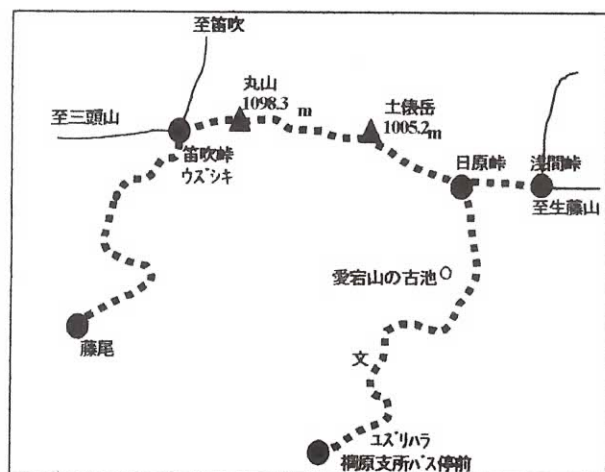
昔日の峠道は、前回（H10年2月）郷原から笛吹峠―笛吹の続きのコースで、今回も又雪、細い道が曲りくねり、昔、荷馬車（？）や旅人は結構大変な峠越えだったと思われる。

雪の道をゆっくり登り、薄暗いケヤキか杉林の中を抜け、明るい尾根に出ると笛吹の峠である。

リーダーによると、雪を座布団に昼食「ホント、ホント」感性をくすぐる表現には感心しきり。大岳山から御前山・三頭山の素晴らしい眺めは尽きることがない。「近いうち御前山に登ろう」と心にきめる。座布団は冷たいが心は暖かい。血行も良くなると言うものです。

雪も吹き留りは深く、ラッセルするリーダーは大変。タイムも少々オーバー気味。リーダーの判断で、日原峠から桐原へ下ることになる。浅間峠・生藤山へは次回に楽しみを残して。

学校の側を抜け、急な石段を下り、桐原のバス停



へ。橋のそばの「橋本屋」の前に笑顔の暖かい好々爺。

誘われて店内へ新そばを注文。彼は常連客のようで、我々一行に大いに好意を寄せて下さり、ビールを差し入れて下さった。ビックリするやら、うれしいやら、リュックの中をかき回してつまみをテーブルへ。

店主、おかみさん共々、話に花を咲かせる。壁には彼の描いた顔彩のコスモス。何とも心がなごむ。

店主はそれとなくバスに遅れない様に見張りをして下さっていた。心優しき桐原の人々に送られて車中へ。

上野原では、すぐに「新宿行臨時快速」のアナウンス。この一日は、ゆったりのんびり笑いの絶えない山行で、本当に佳い日でした。

又再び旅の続きをしたいと思います。

山名	笹尾根	グレード：A		
期日	2001 年（平成 13 年）2 月 18 日（日）			
形式	日帰り	山域	中央線沿線	
目的	昔日の峠道 を行く			
リーダー	中村(隆)	人数	6 名	
コース & タイム	我孫子----西国分寺----高尾-----上野原 5:33        6:47            7:26        7:55 			

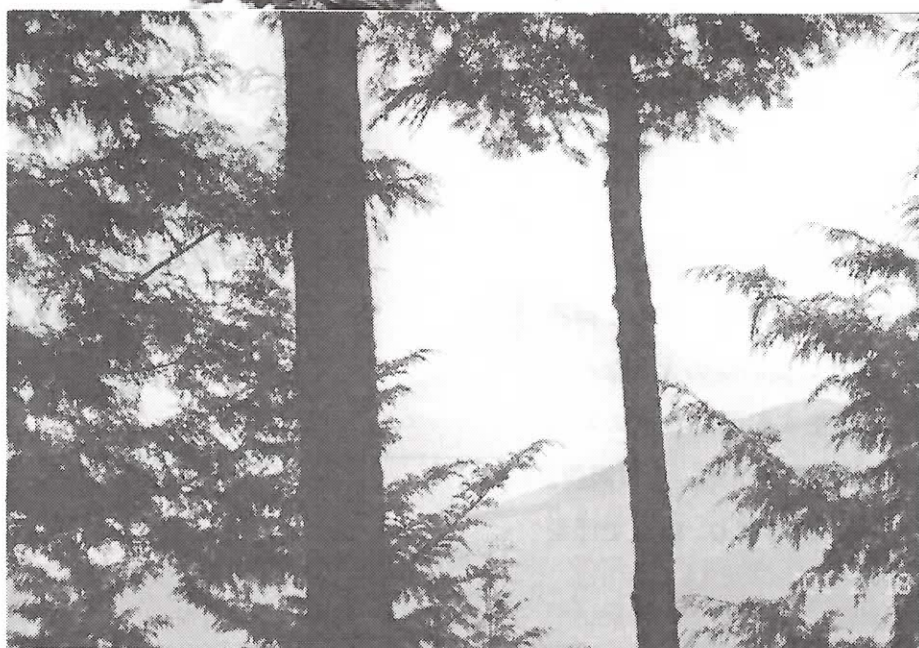






1,000mにも満た  
ない尾根にもこ  
んなに深い雪が  
...  
陽だまりで昼食

丸山山頂にて



中央の窓に富士山が  
見えるのですが...

<194>

## 石割山 (1,410m)

日下 芳十

### 山中湖を見下ろす山稜 大きな富士の眺望

今回は、いつもの山行より早く我孫子駅に午前 4:45 分に集合する。北柏、新三郷からそれぞれ乗り込み全員揃う。目的駅富士急吉田駅に予定時刻どおり到着。さすがに寒い。バスにて山中湖まで乗車、湖畔沿いを大出山入り口まで歩くが空は日本晴れ気持ちがいよいよ空気もうまい。勿論富士山はクッキリ 大きい。

年始めに雪が多く降ったため山の中は雪だらけ。車道の雪は解けていたが、登山道に入ると雪が 30cm～50cm 程度石割山頂上まで続く、アップダウンを繰り返し右に凍結した山中湖を見ながら登る。立ち止まって後ろを振り返り富士山を眺望する。

大平山で昼食、早起きをしたので腹がすいておいしい。食担の高橋潔さんから甘酒が振りまわれる。正面に富士山が見え山頂の雲が北風に流されている。昼食後、登山再開、平尾山に向け積雪の中歩く。

石割山山頂直下急登を雪に足を取られたり、もぐったりしながら頂上に立つ。すぐに神社に向け下り一休み。神社の奥の院の大きな石をくぐりぬけながら参拝をする間に食担の箕輪完さんによるお汁粉が出来あがる。全員満腹。

下る途中で石割の湯へ立ち寄り、温泉で汗を

流しビールで乾杯、登山の醍醐味を味わうことが出来た。

バス停で夕日をバックにする富士山を眺め家路につく。

#### 概 要

山 名	石割山		
期 日	平成 13 年 2 月 25 日 (日) 晴		
山行形式	日帰り	グレード	A
目 的	富士山展望		
企 画	ハイキング部	歩行時間	ネット 6 時間
費 用	6,200 円	地形図	御正体山 1/2 万 5 千
歩行時間	4:40	行動時間	6:20
リ-ダ-	斎藤	参加数	16 名
日 程 コ- ー ス	25 日	我孫子 4:53⇒新松戸⇒立川⇒大月⇒富士急吉田 6:43 バス 8:45⇒ホテルマウント富士入り口 9:05/9:10 大出山入り口～長池山～太平山～石割山 13:45/13:55 石割神社～石割の湯 15:30/16:55 平野バス・ミナル 17:22⇒富士急吉田 18:05/18:27 大月⇒新松戸⇒我孫子駅 31:30	





定例山行 2号未掲載分<No,115>

## 烏帽子岳～奥穂高岳縦走

細野清子

～ブナ立て尾根の苦しみ、快晴の北アの縦走～

1999年8月6日夜～12日



山に魅せられ、  
花に魅せられひた歩く

パソコンに入れるばかりになっていた原稿が行方不明。あちこち捜したがとうとう見つからない。1年近く放ったらかしていたからしょうがないか!! さて1年前の山行をどのくらい覚えているものだろうか? もう1度山行しなすわけもできないしとにかく書くしかない。

「大阪から佐々木さんも来る」と、聞いたのは出発の2時間前であった。偶然の計画とのこと、逢えるのが楽しみである。車内は満席状態で、まるでスイカのように冷やされ眠ったかどうか判らない。

『信濃大町』には私達の方が先に到着した。朝食の買出しに行っている間に佐々木さんは到着し、すでに弁当を食べていた。

佐々木さんの職場の若い葛西さんと一緒であった。

彼はテント泊で大きな荷物を背負っていた。

やはり、奈良労山に加入していて親しみを覚える。なかなかの好青年である。

今、行ってもゲートが開かないからと駅で、ゲート前で2時間近く待つ。ゲートが開いても4～5台ずつのタクシーしか入れず戻ってくるまで待っているのだから時間がかかってしまうのである。

やっと七倉ダムの堰堤に立てたのは7時過ぎであった。空は青く太陽は輝いていた。暑くなりそうだ。初めから急登で蒸し暑く

樹林帯の中にかかわらず汗がしたたり落ちてくる。やはり3大急登の1つといわれるだけある。5時間の夜行列車に揺れての急登はこたえる。樹林帯をぬけしばらく行くと、やっと烏帽子小屋に到着。

ザックを置いてそのまま烏帽子岳に登る。小屋を出てすぐ『コマサ』が登山道すぐ近くに咲いている。何年ぶりになるのだろう。久しく見なかった『コマサ』に逢え感激である。ロープや柵がしてあって「人入らないで」とかいてあるにもかかわらず道はずして、写真を撮っている人がいる。「コマサは芽がでるのに何年かかるか知っていますか? 2～3年かかると言われているのです。今あなたの踏みしめている下でコマサが芽を出そうとしているかも知れないですよ!!」と、佐々木さん。さすがアー

烏帽子岳は遠くから見るととんがっていてキリのような山で、どこから登れるのだろうか? と、思われたが大きな岩石の間をぬいながらの登頂は意外と簡単であった。北方の立山、薬師がはるか望まれた。

小屋は満室で1畳に2人の込み具合でした。夕食後ロビーでテレビのニュースに見入る女性ばかり6人のグループがいた。

話を聞いてみると、『毎月積み立ててアルプス行きをはじめて今年で3年目。もう明日は下りる予定だが、熊本地方に台風が上陸したとニュースで知り、家は大丈夫か見ている』とのこと。遠路九州から日本アルプスに登りにきたのだと知り、この女性達のファイトに脱帽する。ヨーシいつか私も女性だけでアルプスをめざすぞ--。

夜中雨が降ってきた。テントの葛西さんは大丈夫かなア。

#### <2日目>

朝、雨も上がり今日も良い天気だ。4人揃っての出発。ゆっくりタイプの佐々木さん達が、後から登ってきて『マカ見た?』『気がつかなかったどこに?残念』と悔しがっていると、ナ、ナントあるではないか。あそこにもここにも眼下に広がるザレ場の斜面いっぱい。もう感激——、嬉しい——どこまでも続く『マカ』。本当にすばらしかった。

『マカ』の群落が過ぎると、めざすは『野口五郎岳』。この山に向かう人はわずか2-3組静かな山行である。『自然保護監視員』の腕章をつけた男性に出会った。

五郎の小屋では客用布団が干されてのどかな風景。この小屋は稜線上の小屋のため水集めに苦労している。ペットボトル1本200円であった。これから行く『水晶岳』は水を分けてもらえないためここで買う。ますますザックが重くなるが『水は命』。

水晶小屋までは三の岳や幾多の山の上り下りの繰り返し。小屋が見えているのになかなか着かない。最後の急登に誰もくたばる寸前のつらい登りであった。三俣から登ってきた人で小屋付近はごったかえしていた。小屋はとても小さく、「1畳に4人」の込み具合と以前聞いたことがある今日もそうかもしれない。すぐ側にはトイレがある。やはり水は分けてもらえず、売っているのはジュース類のみ。「水は下の沢で汲んで下さい」と何人も言われていた。

小屋に荷物を置いて水晶岳に向かう。水晶岳へは快適な稜線歩き。見る方向によっては真っ黒に見えるので『黒岳』とも言わ

れるわけだ。頂上からは『赤牛岳』への道が続いていた。魅力的な山容で北アでも最奥の山。いつか行ってみたい山の1つに入れておこう。

1時間後水晶岳からもどるとちょうど佐々木さんが登ってきたところ。暑さでだいぶバテているようだ。

『鷲羽岳』には以前登ったことがあるので水源地のあるワリモ沢に行く。分岐にはザックがたくさん置いてある。沢に水を汲みに降りてくるのだ。沢沿いの道はトリカブトがたくさん咲いていてとても涼しく快適。三俣山荘が見えると『黒部源流の碑』が建てられていた。

三俣山荘の外見はみすぼらしいが中はキッチンとしている。国と裁判をしている、伊藤正一さんの姿も見えた。雨がポツンときた頃佐々木さんも到着した。降りそこないの蒸し暑い外のテラスでビールで乾杯し、明日は新穂高に下る佐々木さんと夕食までのひとときを過ごす。シアワセ!

#### <3日目>

今日も晴天。先を急ぐ私達は一足先に小屋をでる。双六小屋までは快適な歩き。今年は水が不足気味なのでしょうか、水のタンクがズラリと並んでいて、豊富に出ていた水量に勢いがないようだ。これからが長い私達はゆっくりもできず西鎌尾根を槍へとめざす。沢があったり、花が咲いていたりでなぐさめにはなるがさえぎるものがないもなく、暑くてながいづらい歩きでした。急登を登りきると槍岳山荘。どこから集まってきたのかいっぱいの人でした。槍岳への道にも人がアリのごとく並んでいる。

槍への行列に並ぶ。ハシゴ・クサリ場があるのに初心者に近い人もいて登って下り



てくるのに2時間かかった。しかし、眺望は良く、360度の大パノラマでした。

葛西さんとはここでさようならです。楽しい山行をありがとう。夕日が沈むまで『大喰岳』に登る。槍の頂上には夕日の沈むのを見る人なのかまだ行列は続いていた。

『大喰岳』の頂上は平坦でわかりにくかった。小屋近くでちょうど夕日が沈む時で、感動的でした。テン場は色とりどりのテンとが張られているが、下から吹き上げるかぜに煽られパタパタと激しく音を発てていた。2張りのテントが今にも飛んでいきそう。夕日を見に行ってしまったのか一人の学生さんがその2張のテントを必死におさえている。『テントが飛びそうですよー』と大声でさけんで知らせてあげる。するとすぐに数人の学生が慌てて戻ってきた。小屋食は山でこんなに豪華な食事が必要なのと考えるくらい豪華な物でした。でもおいしかった。



#### <4日目>

槍から北穂に向かう予定が大袈裟のクサリがグラグラで危険の情報が入り予定を変更。

槍沢を下りて横尾経由・洞沢ヒュッテ(泊)北穂岳に変更した。今日もまた長い1日の始まりです。槍見河原の下り1時間ほどは昔懐かしい散歩道。♪春の小川はサラサラ行くよー♪と唄いたい気分でした。

洞沢ヒュッテは前述のコースで長い道のりですが、今までの疲れも吹っ飛ばすように快適。ホールも良し、屋上テラスに出て穂高岳を眺めながらビールを呑むも良し、すっかり気に入ってしまった。村松さんが「穂高は山の原点だね」と言っていたが同感である。

省二さんは、これでもか、これでもかと洞沢槍の写真をテラスから撮っている

#### <5日目>

《この夏の今日までの遭難死亡事故2名》と書かれた掲示板の前を通して北穂高に向かう。「気をつけて行って下さい。」と女性の救助隊の声。今回1番危険な個所を通過する。気をさらに引き締める。山の中腹で後ろを振り返るとテンバが赤・青・黄と光ってまるで花が咲いているようでした。分岐近くで小雨が降ってきた。北穂高の小屋は別棟ができ木の香りがプンプン。断崖ギリギリに建っていて下を覗くと怖いようだ。

コーヒーを飲んでいるうちに雨もやむ。北穂高～奥穂高、今日1番の難所。<三点確保>と何度もいいきかせながら動く。ドームを過ぎると2～3メートルの視界がきかず眼下が見えないのが幸いしてか、あまり怖くなかった。だが、最低コルから洞沢槍までは緊張する。奥穂高から若い男女が登ってきた。女性の方がなんとなく危なしくて「大丈夫だろうか?」と心配している自分がおかしくなる。霧とはいえ奥穂高山荘に着くころには髪やカッパは結構ぬれていた。

奥穂高山荘のラーメンのおいしかったこと。山荘で同席の母親と娘の2人連れ。穂高岳に魅せられ7年前転職までして、九州から引越してきたのに父親が『高山病』で念願の穂高に登れず毎年洞沢でお留守番とのこと。世間にはいろんな話があるものだ。気の毒に。

奥穂に向かうが、前回梯子のところで渋滞と台風の接近でここまできたのにと悔しい思いをした、奥穂高岳の頂上にやっと立つ

ことができた。 感激!!

感激を胸に前穂高岳に向かうこれがなかなかの難所続き! やや谷側に傾いた下山道は北穂より難しいのではと思われる個所もあった。紀美子平の大きな石の所でどこに足を架けたらいいのかモタモタしていると、30分ほど前から近くを飛んでいたヘリコプターが目の前に降りてきてビックリ。そして人が引き上げられていくのが見えた。後で聞いた話しだが夫婦2人連れの夫の方が下山中スリップし足骨折顔面裂傷で救助を求めたらしい。私がちょうどモタモタしていたあの大きな石のところらしい。その後も道が悪く歩きにくくもういいかげんくたびれた頃ようやく岳沢ヒュッテに到着した。

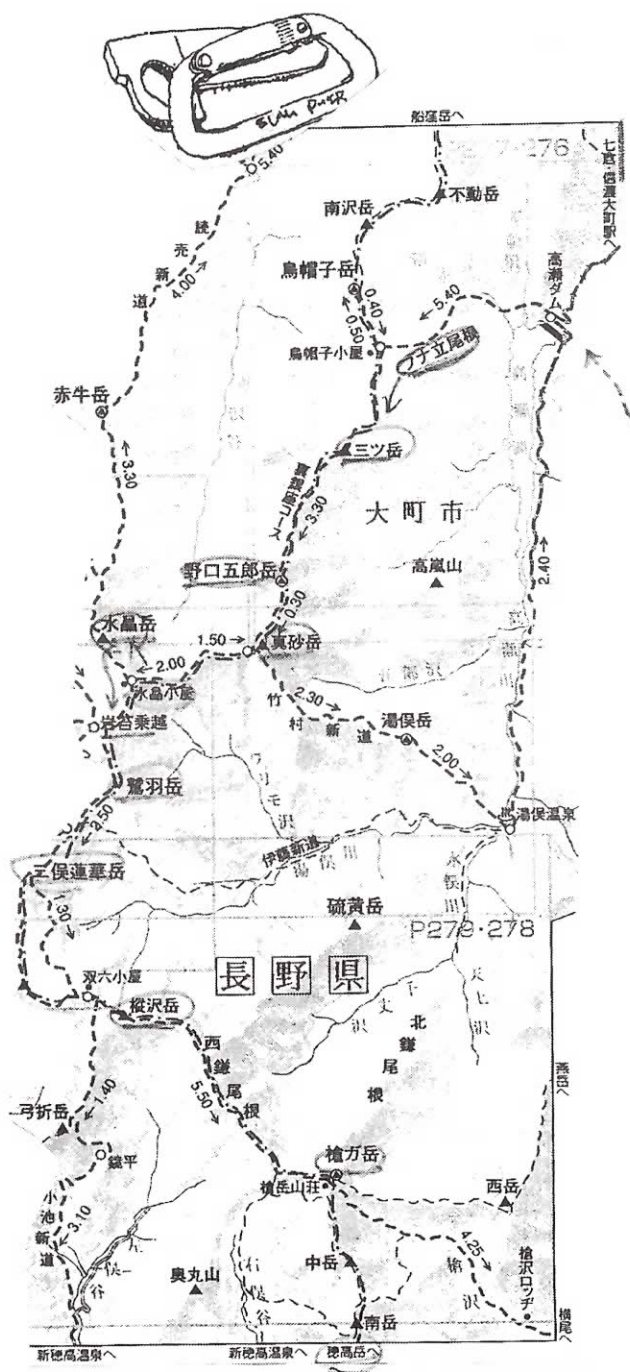
最終バスに間に合うかどうかきわどい時間でここに泊まるかそれとも上高地まで降りるか話し合った末に下山する事になった。バスに間に合うようまたまたひた降りる。最終バスは5時30分と聞いていた。河童橋の所で時刻になってしまう。『西糸屋』にかけこむが、「空部屋はありません。」と、宿では「バスは未だ有ります。充分間に合います。」との事。お礼の言葉もそこそこに、またまたバス停目指してひた歩く。最終の1本前のバスに乗れた。これでようやく長い山行は終了。ヤレヤレ。

1年後の夏《2000年》立山～薬師岳に登った。烏帽子～槍～穂高岳が見えた。今さらながら良く歩いたものだと思いをほめてやっている。

《山行中多く見られた花》

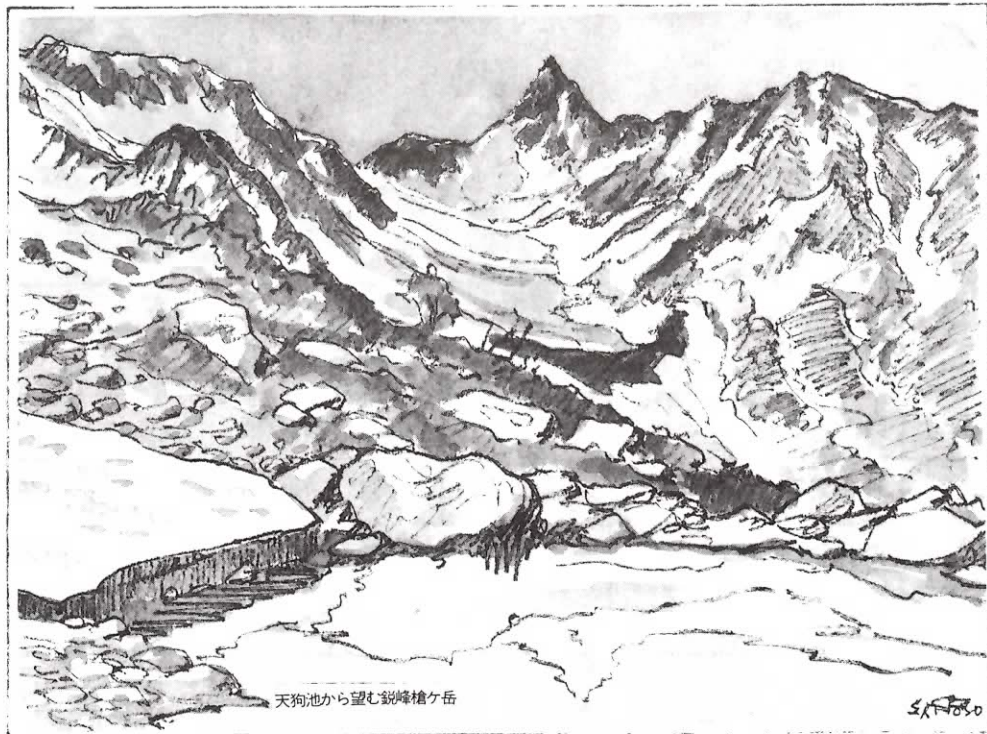
コマクサ・ウサギギク・カニコウモリ・

コガネギク・イワギキョウ・ヨツバシオガマ・エゾシオガマ・イワオトギリ・イワオオギ・ミヤマダイコンソウ・チングルマ・オニシモツケ・オンタデ・イワツメクサ・ムカゴトラノオ・ミヤマトリカブト・モミジカラマツ・イワベンケイ・ミヤマコゴメグサ





# 星空の涸沢



天狗池から望む鋭峰槍ヶ岳

SXT-1050

## 第2期登山学校報告（1）

榑 原

期 日：平成12年4月15日(土)～16日(日)

場 所：清和県民の森（君津市）

参加者：大串(恵)、榑原

15日(土) 森林館

1. 開校式 10:00

2. 講義 ①主体性のある登山 ②登山の歴史 ③パーティー リーダー  
④計画から下山 ⑤房総の山と自然 ⑥富士山への準備

3. 夕食準備

今期男7名、女7名で、3班に分かれ森林館より車で10分ほど離れたロッジ村のバンガローにて宿泊。

16日(日)

朝食後、各自リュックの重さを12～13kgに調整し、高宕山(315m)登山口に向け出発。各班、講師3名を含む8名で行動。新緑がもえるような木々の中、いたるところミツバツツジがパーツとまわりを明るくしている。足元にはワラビ、山セリ、ヤブレガサがいたるところ目につく。時々生シイタケも取りながら、約4時間のハイキング。

高宕山の頂上からは360度、房総の山なみが見渡せ、千葉県人でありながらはじめて見る素晴らしい景色に大感激。

来年1月の閉校式までいっしょに行動する仲間14名と講師は、ずっと前からの知り合いのような親しみを感じてその日は終了しました。



登山学校日程表

月	内 容	場 所	月	内 容	場 所
4 月	開校式、ウォーキング 1	房 総	9 月	クライミング	茨 城
5 月	ウォーキング 2、雪上	富 士 山	10 月	沢 登 り	奥 多 摩
6 月	ウォーキング 2、テント生活	雲 取 山	11 月	ウォーキング 4、岩稜帯	庚 申 山
7 月	山の救急法	青少年女性会館	12 月	ウォーキング 5、冬山	安達太良山
8 月	ウォーキング 3、夏山全般	白馬岳	1 月	運動生理学、閉校式	青少年女性会館



## 登山学校 参加報告(2)

1.目的	ウォーキング技術（その2） “雪上の歩行”	
2.実施日	5月20日(土)～21日(日)……テント泊、往復とも観光バス利用	
3.場所	谷川岳 一ノ倉沢周辺(1日目)、および、谷川岳 幽ノ沢周辺(2日目)	
4.参加者	受講生 15名(榊原・大串恵) 講師 9名 合計 24名	
5.講義	(1)雪の種類・性質、および雪崩の発生条件（質問形式）など。 (2)その他…雨具の洗濯方法、ガス使用上の注意事項など。	
6.実習	(1)冬用テントの張り方。 (テント食の作り方、トイレ設営なども。)	一ノ倉沢 駐車場
	(2)雪上歩行技術（1日目） ①アイゼンを使用せず、キックステップ（膝を使って）のみによる登り方。 ②ピッケルの使い方。	一ノ倉沢 駐車場近くの急斜面
	(3)雪上歩行技術（2日目） ①アイゼンをつけ、ピッケルを使って、急斜面の登下降、トラバース、歩行方向の転換などの歩行技術。 ピッケルの使い方。（滑落停止については説明のみで、実習なし。）	幽ノ沢
7.その他	故 吉尾会長 追悼式……参加者全員で黙とう。	一ノ倉沢
6.感想	(1)急斜面で繰り返し行った、雪上歩行実習が勉強になりました。	

(報告 大串恵)

## 第2期登山学校報告 (NO. 3)

6月10日～11日(日) 雲取山 テント泊 24名

2日とも雨天のため、2日目下山ルート変更となり、雲取山山頂に立つことが出来なかった。予定されていたウォーキング3実技講習は歩きながらそれぞれの班の講師より指導を受けた。テントの中では各人の持ち物を点検し、必要、不必要品の確認を受けた。

下山路は唐松谷に沿った細い道で危険なところも数ヶ所あったが、時々現れるつつじの花と新緑のまばゆい若葉に励まされ、全員無事下山することが出来た。

回を重ねるたびに新しい発見と出会いがあり、次回7月は"山の救急法"の勉強会を楽しみに、奥多摩の駅で解散した。

榊原

## 登山学校 参加報告(4)

1.目的	山の救急法
2.実施日	7月8日(土)～9日(日) 両日とも9時15分～。
3.場所	千葉市弁天町会館
4.参加者	榊原・大串恵

5.講 義	救急法全般	講義
	三角布と四脚帯	①三角布の作り方・結び方・使用法などの実習 日本手拭を、三角布の代用とする方法（四脚帯）の実習
	止血法・心臓蘇生法	消防署の講義と人形を使つての実習
	山でのセルフレスキュー	事故発生から救助要請まで …状況確認、安全確保、応急手当、救助要請などの講義
	捻挫・骨折	テーピング・三角布使用などの実習
	熱中症	症状、手当などの講義
	低体温症	見分け方、手当などの講義
	搬出	事故者の搬出方法の実習
6.感想	安全登山を常に心がけていても、山では何が起こるかわかりません。万一、山で事故が発生した時、会員同志、お互いに助け合えるように、山の救急法を会員全員で勉強できる機会があれば良いと思います。私自身も今回の講習を機会にもっと勉強したいと考えています。本当に良い経験をさせていただきました。	

(報告 大串恵)

## 登山学校 参加報告

1.目 的	ウォーキング その5 岩場の歩行
2.実施日	講義 8月29日(火) 19:00～20:30 実技 9月9日(土)～10日(日)
3.場 所	講義 県連事務所(下総中山) 実技 茨城県 御岩山 (宿泊:日立市青少年の家)
4.参加者	榊原・大串恵
5.講 義	<p>岩登りの確保の実際</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 岩登りの技術知識を学ぶ意義</li> <li>2. 確保技術と知識</li> <li>3. 岩登りのための道具 クライミングシューズ・ハーネス・ヘルメット・確保器(エイト環など)・カラビナ・スリング(シュリング)</li> <li>4. ロープの結び方 エイトノット・インクノット・マッシャー結び</li> <li>5. 確保の考え方</li> <li>6. 具体的な確保の方法 セルフビレイ・相手のビレイ</li> <li>7. 懸垂下降</li> </ol>
6.実 技	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 初 日(10:30～16:30) 短いコースで岩登りの基本練習(懸垂下降も練習)</li> <li>2. 2日目(8:00～14:00) 難所付きの高さのあるコース3ヶ所で、懸垂下降などを含む岩登りの練習</li> </ol>



6.実 技	①ツエルトの設営 ②岩稜の縦走
7.感 想	<p>今回の実技は、鋸山で90°位の岩稜を懸垂下降する計画だったので、朝から緊張気味で出発。しかし、悪天候のため懸垂下降が中止となり、せっかく持参したハーネスとヘルメットも不要となってしまった。私にとってレベルの高い懸垂下降だったと思うと、チャレンジできなかった残念さと、半面ホッとした、複雑な気持ちです。</p> <p>初日の庚申山荘までの山道にはまだ紅葉が残っており、気持ちをリラックスさせてくれました。</p> <p>2日目は曇りで気温零下。木々には樹氷がいっぱい。ガスのため山頂からの展望は悪く、また雪が降る心配もあるため、鋸山での懸垂下降を中止し、手前の薬師岳山頂から戻ることとなりました。</p> <p>12月は最終回で、新雪の安達太良山の予定です。冬山を勉強してきたいと思います。</p>

(報告 大串恵)

## 県連 登山学校 参加報告

(報告 榊原)

目 的：ウォーキング雪山

実施日：12月16日(土)～17日(日)

場 所：安達太良山

1日目 バス、車中約3時間、3人の講師による講義

①冬山の雑学 “登山と今、昔”

ザック、テント、衣類、防寒の変化、フリースと羽毛、雨具、食事等

②“雪山で事故を起こさないための必要な知識、技術とは”

まず、テストがあり、一通り上記の講義。

③ イ、生理学(凍傷、低体温症、紫外線、雪盲)

ロ、安達太良をめぐる近代史の話

2日目 ①誰も歩いていない新雪を交代でラッセルすることの大変さの経験。

②雪崩を予測するテスト イ、ハンドテスト、ロ、シャベルテスト

雪崩を起こす雪の種類

①新雪、②しまり雪、③しもざらめ、④ざらめ

③雪ですべての道は消えてしまい、地図とコンパスで確認しながら目的地に向かうこと。迷ったら尾根に登り目的の山を探すこと。

④リーダーはどんな時にも冷静に、落ち着いて行動する。

⑤必要と思うものは身につけておくこと。(ゴーグル、カラビナ、シュリング、地図等)

感 想 今回で実習最後となりました。ほとんどの生徒は雪山初体験、期待と不安で出かけましたが、中身の濃い学習ができました。毎回テント山行が原則でしたが、今回はあのくろがね小屋泊でした。暖かい温泉とストーブ、寝具もきれいで気持ちよく眠れました。

小屋の主人がハーモニカでサービスしてくれ、全員で大合唱、とても盛り上がりました。

白銀の世界は今まで登った山とは一味もふた味も違った大変さと面白さがあり、また宝物を手に入れた心地です。来月は地図の見方と登山生理学の勉強の後、閉校式で終了となります。

## 登山学校参加報告

報告者 大串（恵）

1. 日時 ・ 場所	平成13年1月21日（日）8時50分～15時 青少年女性会館（千葉市稲毛区）	
2. 参加者	榊原・大串恵	
3. 講義	(1) 運動生理学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目標…自分の登山生理学を理解する。</li> <li>・ 運動生理学の内容を理解し、登山ウォーク の特性を知る。</li> <li>・ 登山ウォークによる疲労や傷病を知り、その 対策を理解する。</li> </ul>
	(2) 地図の見方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地図の種類。</li> <li>・ 等高線の意味。</li> <li>・ 読図とは先を読むこと。</li> <li>・ 尾根を読む。</li> <li>・ 稜線を読む。</li> <li>・ コンパスの使い方。</li> </ul>
4. 閉校式	(1) 校長挨拶 (2) 評価発表 (3) 修了書授与…14名中11名修了 (4) 修了生代表挨拶…桑原さん（松戸） (5) 懇親会…1時15分～3時	
5. 感想	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 運動生理学の講義では、いままで全く知らなかったことを教えて いただきました。 難しい内容でしたが、疲れないウォーク、安全な登山のために役立てる ようにしたいと思います。</li> <li>・ 地図の勉強は室内で行いました。自分で実際に何回か経験を重ね、これからは他 人に頼らず自分の頭と足で歩けるように、1/25000の地図に早く慣れてお きたいと思います。又、その場に着いてから地図を開いて現在位置を確 かめる のでは遅いこと、迷わないためには先を読むことの大事さを教わりました。実行 してみたいと思います。</li> <li>・ 閉校式も無事終え、感慨一入です。この1年間、いろいろ勉強させていただきました。入校同期生との楽しい交流も広がりました。これからは、この経験を岳人 あびこのために、少しでもお返しできるように頑張りたいと思います。本当にあ りがとうございました。</li> </ul>	

◎卒業？おめでとうございます。長期間(H12/5～13/1)ご苦労様でした。





## 岳人祭

9月9日(土)～10日(日)

### クリーン作戦 (1:30～2:30)

週初より雨模様の天気が続いたため、岳人祭を予定通り開催できるか当日まで気を揉みましたが、昼前には雲もとれて気温もぐんと上昇し真夏を思わせる天気となり、クリーン作戦は炎天下での作業となりました。

谷津を愛する会の坂下さんから、「地主さんより土地を借り受け、蜻蛉や螢の飛び交う自然を取り戻したいとの願いを込めて池を掘ったものの、草刈り等メンテが大変」との説明をお聞きしクリーン作戦の意義を認識した後、草刈りの場所を指定してもらい、鎌・草切り鋏を駆使してザクザク・チョキチョキ。1時間ほどの作業でしたがさすが25名のマンパワーは強力、背丈以上の草地が見事に刈り上げられ、蜻蛉や螢の宿となる池も顔を出しました。岳人あびこの総力をあげてのクリーン作戦により、良好な自然環境の維持・復元活動に少しでもお役にたつことが出来てよかったと思います。

谷津を愛する会の活動は、定期的に行われているとの

こと、岳人あびこの皆さん、今後も地元のボランティア活動に協力してあげてね！(武内記)

### 岳人祭 (4:00～7:40)

9月定例集会は手際よく進められ、ほぼ予定時間通りに岳人祭が始まりました。大串さん(会長)の挨拶もそこそこにはまずビールで乾杯、クリーン作戦で乾いた喉を潤しました。しかし、ここではビールは一杯だけに制限、



広範囲に刈れたと自画自賛しながら、草の山を前に記念撮影。



楽しみは後に残しつつ登山実技の講習に移りました。

清家さんを講師としたパッキングの方法は、合理的かつ美しい仕上がりでこれまでの豊富な山の経験に裏打ちされた実践的な方法でした。山でゴミを出さない工夫や持参するものの選択は参考になります。“一応は化粧品も”のユーモアある説明は爆笑を誘いました。

次いで、細野（清）さんからザックの担ぎ方について、下から上へ順番に締めてゆく実技指導がありました。パッキングを上手にやり、担ぎ方をきちっとすれば楽しい山歩きが出来ること疑いなし、講習内容を参考に次回の山行から実践してみてください。

実技講習2時限目は柴さんによる“8の字結び”の実習、3時限目は村松（敏）さんを講師とした飯盒飯の炊き方、4時限目は川下さんによるテント設営の実習と盛りだくさんでした。高い山では、気圧が低く低温で沸騰しますので、メッコ飯にしないためにも3・10・3の原則は憶えておきましょう。最もバック商品の普及した昨今では、山で飯を炊くこと自体殆どないのが実態ではありますが……。

茅ヶ崎から坪井さんが来てくれました。槍・北鎌尾根登攀がやまたん9月号で紹介されておりましたので、まだお会いしたことはありませんでした。が身近に感ぜら

れました。坪井さんにご挨拶戴いた後、いよいよお祭りの始まりです。2度目の乾杯の後、「バーベキューO.K.」の声がかかりました。いただきま〜す。準備していただいた原田さん、松本さん、松村さん、佐藤さん、中村（八）さん、吉岡さん、原さん、その他の皆さん、ありがとう。メニュー豊富で量もたっぷり、堪能しました。お酒も都合によりご出席いただけなかった三浦さんより長野の銘酒の差し入れがあったのをはじめ、出席会員からも沢山の寄贈をいただき、まさに飲み放題、食べ放題。食べながら飲みながら山の唄を歌い、炭坑節の輪が出来、大いに盛り上がりました。

お天気は良好、寒くなく暑くなく、まさにアウトドアの行事日和でした。

7時40分中締め一本。テント泊約15名を残して散会、2000年岳人祭は幕をとじました。（武内 記）



一夜明けて、テント組はさわやかに朝食。清家さんの差し入れもあって、盛り沢山。

写真左から2番目が8月入会の石垣さん、3番目が坪井さん（会友、茅ヶ崎在住）



## 岳人あびこ登山教室



(岳人あびこ) 講師 村松敏彦

岳人あびこ登山教室（中級者向）

村松敏彦

本号から何回かに分けて登山の形式別に登山教室を開講します。

会員の皆様の何かの参考になればと思います。内容は

1. 沢登り、3回
  2. バリエーションルート、3回
  3. テント、3回
  4. 雪山、3回
- 計 12回の予定です。今回はこの3回、ない沢登りからはじめます。

1 時限 沢登りのオリエンテーション

— 沢登りの魅力 —

縦走しか経験のない人にとって沢登りなんてどこが面白いのだろうかと思うでしょうが沢登りは滝ありナメありゴルジュありと実に変化に富んだ自然の妙を楽しむ事が出来ます。夏の暑い時期に渓谷を遡行するのはなんとも快いものです。始めたら完全にはまっています。尾根ルートからのピークハントとは違った魅力があります。

— 沢登りの基本 —

沢登りには登山道がありません。自分でルートを切り開いて山頂に向かっていかなければなりません。しっかりとルートを引きわめなければなりません。又滝があったりゴルジュ等があったら直登しますので三点支持の岩場通過の基本をマスターしておく必要があります。それに尚かつ気象条件を確実に把握しておくのも大切です。沢に入ってから天候が悪くなり沢の水が増水して大きな事故になりかねないからです。要するに登山の総合力が沢登りには必要なのです。

— 沢登りの用語 —

沢登りには聞かれない言葉があります。それを解説しますと

右岸：上流から下流に向かって右側が右岸、左側が左岸。

釜：滝によって深くえぐられた滝壺。

ガレ：山腹が崩壊して碎石が不完全に堆積した急斜面。源頭近くに多い。

草付（くさつき）：草の生えた斜面。源頭や滝場でよく現れる。

ゴロ：大きな石がゴロゴロと沢山転がっている広く平らな河原。

ゴルジュ：フランス語でノドの意味。両岸の岸壁がせままった谷筋のこと。滝や釜が連続し通過が困難な所が多い。

スラブ

：一枚岩の事で、一般的になめらかな斜面をいう。

滝

：傾斜の急な所を流れ落ちる水流。一枚岩の上を流れ落ちる滝をナメ（滑）という。

二保

：同規模の二本の沢が合流している地点。上流にむかって右を右保、左を左保という。

ルンゼ

：上流域や枝沢に多い急峻な岩溝。ガリーともいう

— 沢のグレード —

1 級 入門者向け、日帰りでできる短い沢が多い。

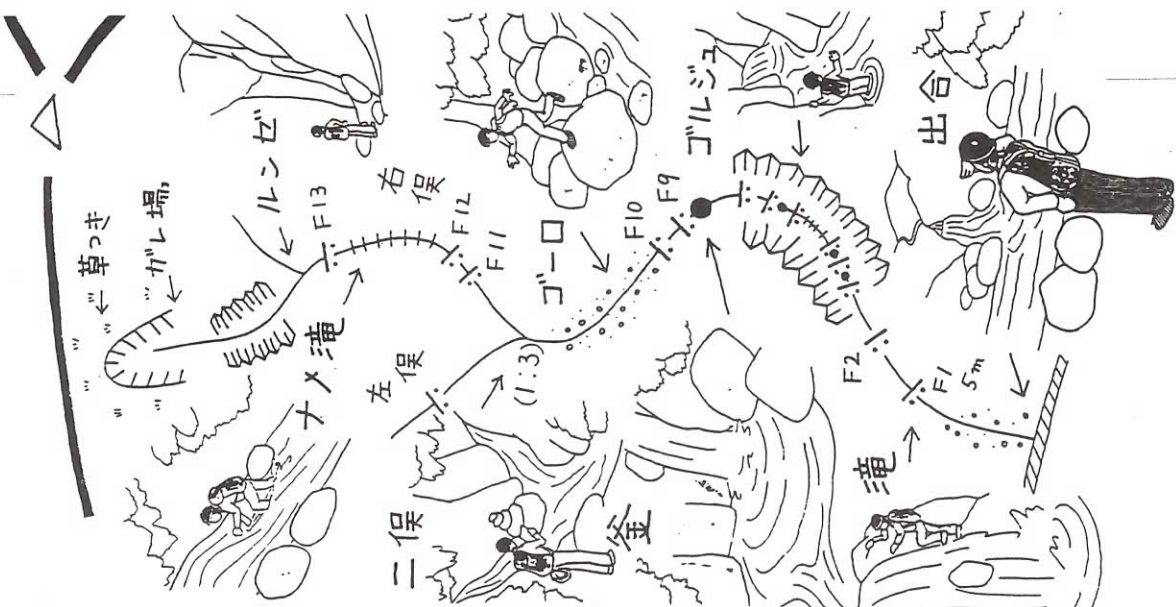
2 級 滝の直登にはロープを要する所もある。初級者のみでの入渓はひかえる。

3 級 中級者向け。滝の直登、ゴルジュの通過にも高度な技術を要する。

4 級 上級者向け。沢のなかでピバグする長い谷。

5 級 熟達者向け。徒渉や高巻きなどで失敗すると命取りになる場所がある。

次回二時限は沢登りに必要な装備についてです。



沢登りの遡行図



## 2 時間 沢登りに必要な装備

沢登りする場合は当然ルートを沢に求めるので水に濡れる事を考慮した装備が必要です。

一足ごしらえは大切なポイントー

沢登りは水際を歩いたり、水の中に入ったり、滝を登ったりするため濡れた岩等の上を歩いてもフリクション（摩擦）がきいて滑りにくい事が大切です。

現在沢登り用としては

### 1、地下たび+ワラジ

沢登りの定番中の定番、ワラジはへったり破損するので予備を1足必ず持参するようにしよう。地下たびは素足ではなくと足指の股がすれて痛くなるので先われした靴下をはくと痛くない。

### 2、溪流タビ

地下タビの底にフエルトが貼ってあるもの靴下は先われのものがいい。

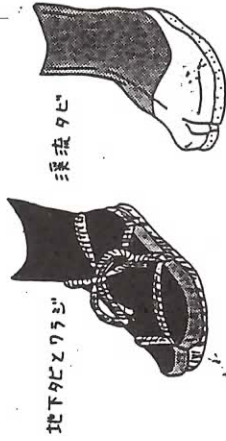
### 3、溪流シューズ

沢登り用のシューズといつてよく、丈夫なナイロン地のアップパーに、化繊のフエルトを底貼りしてあるものと、純毛のフエルト底のものがある。

これらのものはよく、濡れた岩の上を歩いてもワラジやフエルト底のフリクション効果で滑りにくい。足ごしらえの仕上げは、ひざ下をすっきりまとめて歩きやすくするために、沢登り用のスッパツをはこう。これは岩角にすねをぶつけたときのプロテクターにもなる。

ネオプレンで作られているので、濡れても足を冷やさない。

### 足回りの足ごしらえ



ーウェアは速乾性の高いものをー

沢の徒渉や滝などで全身がぬれることを前提に、服装を用意しよう。

進行中の行動着としては、下着のシャツとパンツ、その上に長そでシャツとズボンを重ねるのが一般的です。シャツとズボンは水が濡れがよく、乾きのはやい化繊のものを選ぶとよい。防寒具としてはセーターを1枚用意したい。

雨具は透湿性防水素材を使ったセパレート式のもの、しぶきを浴びて滝を直登する時などには全身ぬれから防いでくれる。

ーパッキング仕方と登山用具ー

パッキングでは、中身を濡らさないようにする工夫が大切。足を滑らしてドボンという可能性があるから、防水性は厳重にした方がいい。まずザックの大きさにちがひスツツバックかポリ袋を用意して中にいれる。

さらに装備（着替えや食料）を個々にビニール袋できちんと包み、大小とりまぜたスタップバックにまとめて収納する。

沢登りでは岩登りで使う登山用具も必要となる。最低限そろえるものとしては、ヘルメット、シットハーネス、安全環付カラビナ、エイト環等が必要だ。

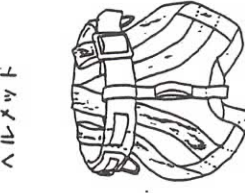
この他、地形図、コンパス、ヘッドランプ、ホイッスル、水筒、軍手、救急薬品、などである。ホイッスルは声とどかない場所での合図に使い、軍手は源泉部でのヤブこぎの際に手を保護するためのものです。

ササの葉で手を切ることもあるからです。今回は沢の廻りの仕方です。



### 登山用具

安全環付カラビナ



シットハーネス



### 一般携行品



### 3 時限 沢登りの技術

沢登りはルートを谷に求めるので登山道がないため、登山の総合力が必要な登山形式と言える。その中から現場に即した技術をマスターしよう。

－河原歩きは小幅でスムーズに－  
河原歩きの手、下手はスピードや疲労に関係してくる。河原歩きをマスターしたものは沢を制すと言われるように沢登りの中の河原歩きはかなりの部分を占めています。石のゴロゴロした河原歩きのコツは1、おなじ高さの石を選ぶ事2、歩く石の距離を自分の歩幅にあった幅でなるべく小歩幅がよい。（歩くための基本は沢登りでも同じ）多少の高低差は足首と膝、腰のフリクションでカバーする事が必要だ。先を見てルートを読む。一定のリズム出てくれば河原歩きは卒業に近い。

－徒渉はスリ足で－  
徒渉は流れのゆるい浅いところを選ぶ。進む方向は上流からやや下流に向かって流れに逆らわずにジャブジャブ渡って沢歩きを楽しむ。水が膝を越える場合にはスリ足で確実な体重移動する事が必要だ。又初心者の場合不安を感じたなら手をつなぎ一緒に渡る事も良い方法だ。

－ルートファインディング－  
現在地と自分の進方向の確認は2万5千分の1の地形図で確認する。最も確認しやすいのは大きな支流の合流点だ。本流と支流の方位をコンパスで知らべ地図と照合する。

進行図は概念図なので正確な現在地の確認には向かない。

－高巻きは低く巻くのがポイント－  
登れない滝、又は技術的に登れそうもない場合は高巻きをする。登りやすい場所から滝の上へ出るのだが低く巻くのが原則、落石、浮石には十分に注意したい。高巻きでの滑落は致命的となるので不安を感じたようだったらザイルを出して対処しよう。

－滝登り－

豪快な滝登りは、沢登りのハイライト。しかしむやみやたらと取り付いて危険に陥る様なことはしてはならない。

まず滝をよく観察し、ルートを読む、岩の濡れ具合、苔の付き具合も見ておく。その上で自分に登れるかどうか判断する。不安ならザイルを使用しよう。

瀑水を浴びて登ることをシャワークライミングというのが瀑水の圧力と水の冷たさに負けない体力と精神力が必要だ。

－三点確保－

沢でも岩場でも安全かつスムーズに登るためには3点確保の技術が必要だ。両手両足の4点のうち1点だけ動かし、あとの3点で支える。岩登りの基本技術だ。動作自体は易しいが、問題は体重のかけ方である。

体重は常に足に乗せ、手はバランスの保持とする。そのためには、上体を岩から充分に離す。高度感からくる恐怖心で身体が岩にへばりついてしまうが、これを取り去るには慣れるしかない。

－ホールドの取り方－

滝、釜、草付き、ガレ場、沢歩きで登る場所は実に変化に富んでいる。

だからこそ面白いのだが、ホールドの取り方にしても、対応はさまざまだ。浮き石も時として使わざ得ない状況もある。

こうゆうときは押さえ付けたり、束ねたりする技術が要求される。沢登りの世界に飛びこんだら身につけなくてはならない重要な技術だ。

－ザイルワーク－

ザイルワークは、確実なことが最大の条件だ。[フェイス・エイトノット]

①

②

③

④

⑤

⑥

⑦

⑧

⑨

⑩

⑪

⑫

⑬

⑭

⑮

⑯

⑰

⑱

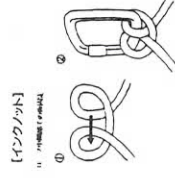
⑲

⑳

㉑

㉒

㉓



【インクノット】

①

②

③

④

⑤

⑥

⑦

⑧

⑨

⑩

⑪

⑫

⑬

⑭

⑮

⑯

⑰

⑱

⑲

⑳

㉑

㉒

㉓

ロープの結び方



## テント山行のオリエンテーション

### —テント山行の魅力—

テント山行の魅力のひとつということだと自然との一体感ではないだろうか。大自然の中にどっぷりつかると満足感は小屋泊まりでは味わえない素晴らしさだ。雨の音、風のささやき、鳥や動物の鳴き声、大地に抱かれて眠る感覚は人が自然のごく一部であることを実感させるだろう。

しかし、自然を身近に感じると云う事は雨や風、気温等の影響をまともに受ける事も意味する。自然は機嫌のいいときばかりではない。雨、風、雪等の中での設営及び撤収は大変な労力である。又豪雨や強風、寒さで眠れない様な事もあるがこれも自然の一部として受入れ、楽しむ心構えが必要だ。

悪条件を最小限にとどめる知識や技術を身につけて楽しいテント生活を送りたい。

### —テントと寝るための装備—

大地の上で寝たり、自分達で食事を作ったりするテント生活は自然との一体感が得られる反面山小屋利用と比べると多くの装備が必要になって来る。

まず最も重要になるテント、その選び方としてはオートキャンプ用に作られたものと登山用では形、大きさ、生地やフレームの材質等に違いがあるので登山用を選ぶようにしたい。

形は現在ではドーム型が主流でほとんどがこの形になって来ている。又ゴアテックスの生地を使って快適性を向上させているテントも近年数多く販売されている。

テント本体の生地は防水加工されていないので、防水加工しているフライシートとの組合せが一般的だ。(この組合せがテントの軽量化、防水性を飛躍的に向上させた技術である。)このフライシートは雨や風、雪、直射日光を防いでテント内を快適に保ってくれる。

### —テントマットとシュラフの選び方—

快適なテント生活を送るためにはテントマットが必要だ。マットを敷くことで地面からの冷えや湿気の侵入を防いでくれる。

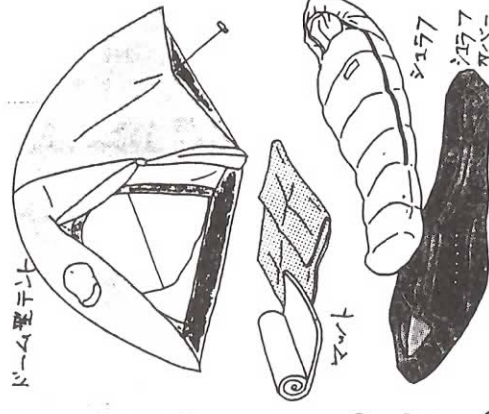
さらに、一日の疲れをとり充分な睡眠を得るためには登る山や季節にあったシュラフ(寝袋)を持っていかなくてはならない。

シュラフは大きく分けて天然素材の羽毛を使ったものとダクロンなどポリエステル中綿を使ったものがあるがポリエステル中綿のものは値段も手ごろで濡れても乾きやすいという特徴がある。羽毛シュラフは、軽量で小さくため、耐久性もポリエステル中綿の数倍ある。デメリットとしては、値段が高いこと、濡れた場合に乾きにくいことである。

シュラフは、ザックにつめる前に防水性のあるスタックバック及び丈夫なビニール袋に入れて、濡らさないように充分注意する。また、ゴアテックスなどの素材のシュラフカバーを併用すれば、濡れ防止や保温に効果があり、シュラフもよごさずすむ。夏などはこのシュラフカバーのみで充分シュラフ(寝袋)の役目ははたしてくれる。

テント場は必ずしも平らとは限らない。逆にほとんどでこぼこの場合が多い。そのために、個人用マットが必要になってくる(厚さが1cm位)種類もあり、各々メリット、デメリットがある。軽くて安いがかさばるアルミ箔のものや、値段が高いが小さく折りたためる空気充填式のものがある。これらのマットは、多少のでこぼこを吸収してくれ、断熱効果も高い。

次回はテント生活の技術です。



テントと寝るための装備

## 5 時限 テント山行の生活技術

―食事に必要な用具―

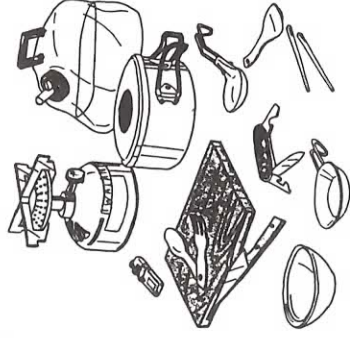
山行の中で最も楽しいのは食事の時ではないだろうか。

雄大な景色の中での昼食、ランタンを囲みながら仲間と山を、人生を語り合う夕食。しかし、これ等の用具や材料は自分で運ばなければならない。パーティーで用意する共同装備はコンロ、コッヘル、まな板、おたま、しゃもじ、水タンクなどがある。

コンロにはガス、灯油、ガソリンなどの燃料として使うものがあるが、現在ではガスコンロが最も使われている。理由は取扱いが簡単で手を汚さないからである。ガスカートリッジには普通用、低温用、超低温用等があるので、季節、目指す山の高さに応じて選ぶべきである。

コッヘルにはアルミ製とステンレス製のものがある。アルミ製のは軽く、熱伝導率が高いので山での調理用には最適だ。まな板には木製とプラスチック製があり、又汁ものなどよそようおたまには、アルミ製とステンレス製がある。しゃもじにはプラスチック製のコンパクトなものがある。

炊事、飲料用の水を入れておく水タンクも必要だ。以上の共同装備のほかに個人が用意するものは食器、カップ、スプーン、フォーク、箸がある。食器にはアルミ製ボールやアルマイトの組み食器でご飯、スープ、おかず用にセットされたものが使いやすいく携帯しやすい。熱いスープなどを飲むときヤケドしないように断熱性のあるものを選んで方がよい。また、お茶やコーヒーを飲むためのカップも必要だ。断熱性のあるステンレス、チタン製やプラスチック製のカップがよいだろう。



食事に必要な用具

―その他必要な小物―

テント内の照明としては昔はロウソクだったが、現在はコンロがガスが主力になった関係でガスを燃料としたランタンを使用する人が多い。ランタンの明るさは約80Wで、ランタンといっしょに発光マンテルの予備、ホヤガラスの破損を防ぐためにランタンケースを必ず持参しよう。

夏場のテント場には蚊などの虫が多い。蚊とり線香や虫よけスプレーを1パティにひとつずつ持っているとか適なテント生活が出来る。

このほか必要なものは軍手、トイレ用のロールペーパー、かペーパータオル、ゴミ袋がある。軍手は歩行中の手の保護や、保温用として使い、また調理のときには熱いコッヘルを持ったりするのにも役立つ。

ロールペーパーやペーパータオルは炊事と食事とで汚れたコッヘルや食器をふきとるに使う。またテント山行は自炊なのでゴミが多く出る。ゴミ袋は多めに持って山にはゴミは絶対に残さないようにしよう。

―パッキングのコツを覚える―

テント山行は生活のすべての物を背負っていくわけだから、当然、小屋泊まりの場合よりも荷物は増える。そこでパッキングの技術が必要になる。

一般に縦走の場合は、軽いものはザックの下の方、重いものは上の方に入れるのがパッキングの基本だ。これは、荷重の中心がボソノクボのあたりにあると、体感重量がいちばん軽く感じられるからだ。但し、最近の中、大型ザックは、昔ほどパッキングのバランスに気をつかわなくても、荷重が分散されるよう設計されている。むしろ、行動中に取り出すもの、テント内でしか使わないものなどに分けて、取り出しやすさを考慮したパッキングが実用的だ。シュラフ（寝袋）や着替えなど軽くてかさばるものなどで、ザックのいちばん下に入れるのがよいだろう。

バランスと同時に大切なのが防水の配慮。多くのザックには防水加工してあるが、完璧ではないので、長時間雨にあたれば水はしみてくる。ザックカバーを併用するのは勿論だが、パッキングの際にも工夫したい。手順としては、まず、ザックの中に大きなビニール袋（なるべく厚手で丈夫なもの）をいれる。そして、この中にパッキングしていくわけだが、シュラフは絶対に濡らしたくないので、さらにビニール袋からスタップ袋にいれてザックにつめる。

着替え防寒着、小物類などもそれぞれ防水のタフバッグに入れるとぬれないし、ザック内やテント内が整理しやすく、翌日の出発の際のパッキングがしやすい。

次回はテント山行の生活技術その2です。



## テント山行の生活技術（その2）

### テント設営のポイント

テント場に当たらずキャンプ指定地かどうか確認する必要がある。。  
国立公園等ではキャンプ指定地が決められている。誰れもが好き勝手な場所にテントを張ってしまったら高山植物のお花畑があと云うまに裸地になってしまう。

まず指定地を管理する山小屋又は管理事務所等に行き受付けをすませてからテントを張る事になる。又テント山行等で最も重要な事は、団体生活のため共同作業が最優先する。共同で行うテント設営、撤収、食事の用意等担当にならなくても積極的に手伝う様にしよう。個人の事は後回しにする事がチームワークを支える重要な要素だ。

### 〇下地を整備する

手続きがすんだら設営の場所を決めてテントの床面積分の小石や枯れ木など丁寧に除去地面を整備する。いざ寝て見たら腰や背中あたりにゴツゴツ当たった様だと快適な睡眠は確保出来ない。又傾斜や凸凹の少ない場所を選ぶのは勿論だがどうしても避けられない場合はこれも自然の一部と思っって順応するしかない。

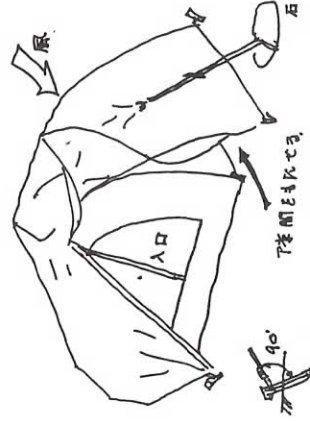
### テントの向きを考えよう

まず入口は風下側に向ける。これは風があるとき自立式のテントは入口から風が中に入ると設営の途中で飛んでいきやすいし風雨の時でも出入りをしやすくするためだ。

### 〇フライシートをピンと張る

フライシートは張り綱をはって出来ただけ本体と離しシワのないようにピンと張る事が大切だ。フライシートと本体とが接触しているところから浸水する原因になり、通気性も悪くなる。

又、フライシートから落下した水滴がなるべく本体に影響しない遠くへ落ちる様にするためだ。



ペグの打ち方とテントの張り方

### 〇ペグの打ち方と石などの利用法

自立式のテントは張り綱やペグを使わなくても組み立てられるので固定せず張りっぱなしのテントもあるが一寸トイレに行ってもどってきたらテントがなくなっている事がある。（実際経験したことがあります。）

風に強いドーム型テントも、底に風がはいるといとも簡単に飛んでいく。本体四隅とフライの張り綱はしっかり固定しておこう。その際ペグは前ページの図の様に地面に直角に打つのでなく、張り綱に直角にすると効果的だ。又その場にある石や立木などを利用して張り綱を固定するとペグより確実な固定法だ。

### 〇ボールの取扱い

テントボールのジョイント部分はなるべく地面につけない習慣を身につけておこう。ジョイント部分に土や砂が入り込むとトラブルの原因になりやすい。

又ボールを折りたたむときは、まずまんなか、次にそのまた真ん中という順で折っていく。こうすると中のコードの伸びが均一になり長持ちする。

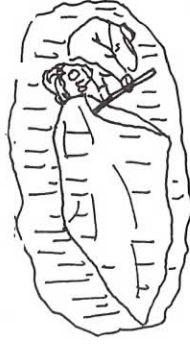
その他ボールは必ず押して使う様にする。決して設営の時も撤収の時も引っ張って使用しないようにする事がかんじんだ。

### 〇風雨（雪）時の設営

防水透湿材（ゴアテックス）のテントを除いて本体にはフライシート以外防水加工されていないので設営の時はなるべく本体を濡らさない様にしたい。そこで雨（雪）の中で設営する時はまずフライシートを地面に広げる。そしてその下に本体を広げ、ボールをセットする。撤収する時はその逆でフライシートをかけたままボールをはずし、下の本体を抜き取ってすばやくたたむとよい。

### 〇風が強い時の設営

風がない時ならフライシートを張り綱できちんと固定するだけで充分だが、風がある時には、まず本体の角のループなどをペグで固定する。さらに細引きを使って固定場所を増やす様に工夫にする。またボールをセットしたらすぐにテントの中に荷物を入れないと設営中に飛ばされやすい。片付ける時はボールを抜いてから荷物を出すときよい。



風雨（雪）時のテントの張り方

## 雪山登山のオリエンテーション

雪山の魅力は、まずなによりも雪の織りなす白さの世界ではないだろうか。冬の多量の雪は、人間が山に残したあらゆる汚れ、醜さをおおい尽くす。登山道も草木の植物も、沢も雪の下に隠れ、樹林や草木、動物たちもみな深い眠りに入って、夏の喧騒を忘れて山は静寂に包まれる。

そして、ひと雪ごとに山々は冬の装いを重ね、夏とはまったく違った姿になっていく。降り続いた雪がやんで、太陽の光が新雪の山々に輝いた時、誰もがその神々しい風景に感激せずにはいられないだろう。

雪山は危険、雪山は寒いと、二の足を踏んでいる人も沢山いるのではないだろうか。確かに雪山の自然条件は厳しいが、自然を甘く見ずに無理のない行動をとるなら、雪山も安全に楽しむことができる。雪山の自然的条件は今も昔も変わらない。きちんとした知識と技術を身につけて、安全に雪山を楽しもう。

### 一雪山のシーズン

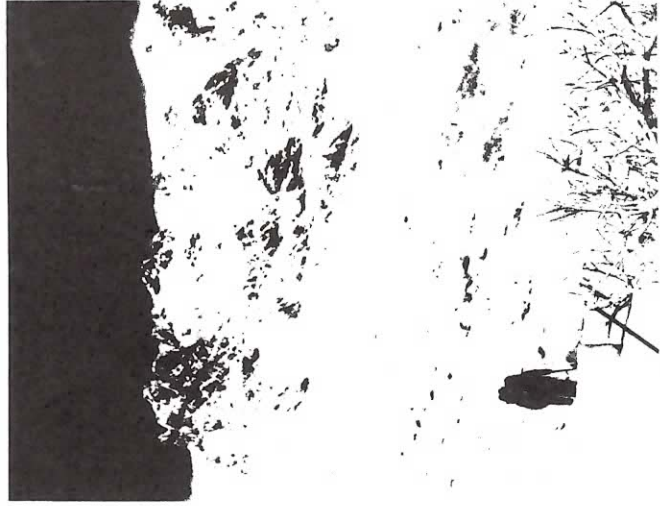
初冬期(11月～12月中旬)

10月下旬には、すでに3000m級の山々には新雪が見られ、本格的な冬の訪れを待っている。一部の山域では吹雪やみぞれに見舞われるので、山域によっては冬山の完全装備を用意すべきだ。

厳冬期(12月下旬～2月)

12月下旬から年末にかけて大陸の高気圧は本格的に発達し、西高東低の冬型の気圧配置によって、日本付近に強い寒波がもたらされる。

季節風のために、太平洋側の山は連日好天になるが、高い山では厳しい強風と低温に見舞われる。



ピークを指して

日本快側の山では対照的に強風と猛吹雪の荒天が続き、季節風の合間ときおり訪れる好天も、半日か一日しか続かないことが多い。

残雪期(3月～5月上旬)

春の訪れを告げるのは、日本海で猛烈に発達する低気圧がもたらす南風、いわゆる「春一番」だ。これを境に、日本付近を発達しながら通過する低気圧が多くなると、日本海側の山でも好天に恵まれる回数が増えてくる。

この時期には大きな移動性高気圧におおわれて、絶好の登山日和に恵まれることある。日照時間が長く、気温も上がって、春山のすばらしさを満喫できる。しかし、好天の後に低気圧が通過すると、再び冬型の天気に戻ってしまうのがこの時期の怖さでもある。

一雪山経験のステップ

### 雪山ハイキング

太平洋側なら降雪直後の近郊の山に雪景色を見に出かける。あるいは、内陸部の山で、森林限界を抜けない範囲のコースなら、割合気軽に雪山を楽しむ。しっかりと靴さえあれば特別な装備が不要な山もあるし、雪の量によってはストックと軽アイゼンくらい用意したほうがいい場合もある。雪上歩行のコツや天候判断、ルートの読み方など基本的な経験ができるでしょう。

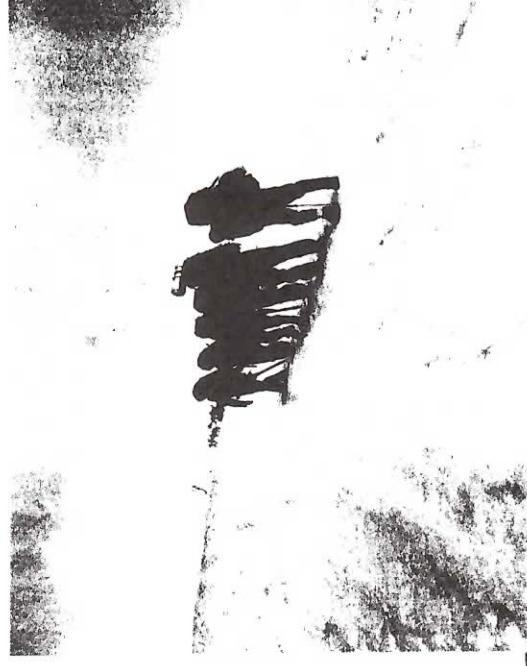
### 2000m級の雪山

本格的な雪のピークをめざす第一歩は、比較的積雪が少なく、森林限界をわずかに越えるくらい雪山が良い。晴天の確率も高く、雪山のすばらしさを充分堪能できる。

この段階では、雪山登山の基本技術は知っていなければならない。特にピッケルとアイゼンは正確な技術を身につけておく必要がある。

### 3000m級の雪山

このクラスになると、森林現快以上では、ピッケルとアイゼンを駆使する世界になる。稜線では強風で雪が吹き飛ばされ、残った雪は固く氷化している。岩と雪が断続して出てくる上を転倒せずに歩くには、正確なアイゼンワークが必要だ。





## 岳人 あびこ登山教室 (中級者向)

村松敏彦

### 8 時限 雪山登山の装備

#### -登山靴-

雪山用の靴に求められる機能はおもに堅牢性、防水性、保温性ではないだろうか。厳しい自然条件から足を守ってくれることはもちろん、硬いソールは雪面への食い込みがよく、雪上歩行のさいスリップしにくい。また、アイゼンを付ける際にも堅いソールは不可欠だ。

#### 皮革製軽登山靴

オールレザ-製の軽登山靴は防水性、保温性が高いので、スノーハイク程度の雪山なら充分使える。雪山を一寸見に行こうと思っている程度なら、取り合えず皮革製軽登山靴で出掛けて見てもよいでしょう。その際、ウールのソックスがはけて、ロングスバツをびったり着ける事が出来なければならぬ。

但し、軽登山靴には12本爪のアイゼンをつけることはできないし、寒気や風当たりの厳しい雪山では、やはり不安がある。濡れにも万全ではないから、基本的には雪の少ない低山までにしたほうがよい。

#### 皮革製重登山靴

皮革製登山靴のメリットは、足になじみやすいこと、ムレにくいこと、そして、質の悪いプラスチックスのようにひび割れることがないといった点だ。

その他、皮革製登山靴はオールラウンドに使えるということです。雪の少ない山、雪道と土の道を交互に歩かなければならない場合には便利だ。

#### プラスチックスブーツ

雪山用として現在最も一般的。完全な防水性と高い保温性が特徴だ。欠点は、足型に合わないことがあり、選択を誤ると非常に歩きにくく足が疲れる。しかも、後から修正する事は困難だ。また、シェルが完全防水のため、インナーがムレることもある程度さけられない。

厳しい条件下では、わずかなぬれが凍傷の原因になることがある。プラスチックスブーツはインナーのいいものを選ぶべきである。

#### -雪山用のウェア-

雪山で快適に行動するためには、風雪に対する防風、防水、寒気に対する保温、発汗による内側からのぬれの防止がポイントです。自然条件が厳しいだけに、ウェアに求められる機能も、無雪期に比べてシビアなものになる。

#### アンダーウェア

行動着の下に着る長袖のアンダーシャツとタイツ。

厳冬の山でも行動中には大量の汗をかいている。アンダーウェアにこの汗が残ったままだと、体熱を急速に奪い、やがて寒さにふるえあがる。そこで、アンダーウェアにはぬれても冷たく感じないものが良い。

現在ぬれを感じない点ですぐれているのがクロロファイバーやポリプロピレン、新しいものではウィックロン、ダクロンといった新素材だ。いずれも吸水率が低く、熱を伝えにくいという特徴を持っており、汗は繊維の隙間をとって外に放出されるが、体温を外に逃がさないという性質を持っている。

これらの素材でできたアンダーウェアは、着ていてほとんどぬれを感じない。

#### 行動着

行動着は、保温性とある程度吸湿性がある行動着を用意しよう。

行動着の素材としては、ウールがベスト。良好な吸湿性もち、アンダーウェアから放出される水分をいったん蓄えて、バランスよくアウト-に放出する。しかも、ぬれても繊維が変形しないので、デッドエア層が保たれて暖かい。

オ-ロンやウィックロン製品もいろいろあるが、吸湿性がないのでアンダーウェアからの水分を受け止められないのが欠点だ。

#### 保温着

行動着の上に重ねるウェアで、目的は保温である。素材はウールかオ-ロンのセ-ター、フリースジャケットなどがある。特にフリース製品は種類も多く、保温性と速乾性、軽さのため多くの人に愛用されている。

#### その他の装備

手袋、ソックス、キャップ(帽子)、などはケミカル製品もあるが一般的にはウール製品を使用している人が多い。その他風の強い稜線歩き等には、目出帽が必要だ。

## 9 時限 雪山登山の装備と基本技術

雪山登山の代表的な用具と言えばピッケルとアイゼンではないだろうか。単純な構造であるが、永い歴史のなから考えられた、素晴らしい道具である。山登りを目指すものにとっては、ピッケルとアイゼンを駆使して雪山へ行く事を目標にして頑張っている人も多い、

### ピッケル

ピッケルの構造は、右図の様に3つの部分が一体となったシンブルなものだがその用途は広い。ヘッドの部分は、ピックとブレードからなる。ブレードは主に氷雪を削るときに使う。ピックは氷雪に突き刺して、一時的なホールドや確保支点とする。シャフトは杖としての用途の他に、雪上確保のアンカーにする事が多いため、丈夫な造りになっている。シャフトの先端には石突きを取り付けられており、杖として使うときには氷雪を確実にとらえるいっぽう、硬い雪でも確保点として打ち込みやすい形になっている。

### 購入時のチェックポイント

ピッケルは、一般縦走用と登攀用、アイスクライミング用の3種類がある。一般縦走用のピッケルを選ぶポイントは・・・

#### シャフトの長さ

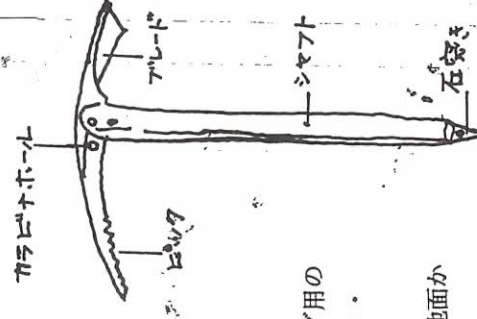
ヘッドをにぎってピッケルを持った時に、石突きが、地面から数センチ程度浮くものがよい。

#### シャフトの材質

シャフトは木製とメタル製があり、強度の面ではメタル製のほうが信頼できる。手袋やミトンをはめてにぎったときに安定感のあるものを選ぶ。

#### 重さ

重いピッケルはピックを打ち込みやすく、破壊力もおおきい。軽いピッケルはその逆だが、杖として使うぶんには軽いものが疲れにくい。腕力の弱い女性などは、軽めのものが使いやすい。



ピッケルの構造

### アイゼン

アイゼンの種類には、一般縦走用とアイスクライミング用がある。ポイント(爪)の数は8本・10本・12本があるが、雪山でオールラウンドに使えるものは12本爪のものだ。

#### 購入時のチェックポイント

ブーツとの相性 現在のアイゼンの固定方法は、ほとんどがバックルによるワンタッチ式である。コバの形があわなかったり、ソールがそり返っていると、アイゼンを固定出来ないことがある。特に、皮革製登山靴の場合は要注意だ。

アイゼンを購入するときは、必ず自分の登山靴を持参して、フィットするか確かめよう。

又、縦走用アイゼンのフロントポイント(前爪)は短めで、セカンドポイント(2番目の爪)は、ある程度前爪との間隔が広く、あまり前向きにでないものの方が良いだろう。

#### ジョイント部

この部分でアイゼンの前後の長さを調節する。どのような方式でも問題ないが、調節方法が簡単なもののがなにかと便利だ。バックルやフロント部でも調節機能をもつものが多いので、自分で調節できるようにしたい。

#### 一わかん

わかんは木製・藤製とアルミ製がある。いずれも使用勝手に大差はないので好みで選べばよい。

#### ピッケル・アイゼン技術

##### ピッケル、アイゼンを使う場面

雪山では、森林限界の上と下とで状況が大きく違う。森林帯では風当たりが弱いために、雪が締まっていないことが多く、トレールがなければ深い雪のラッセルとなる。

森林限界以上では状況は一変する。強風のために雪は硬く締まり、一部は氷化している。このような場所ではピッケルとアイゼンの使用が絶対の条件だ。

ピッケルとアイゼンは、まず、絶対に転倒しないために歩行のバランスを助ける。そして、2本足だけで歩くのが不安定な場面では、ピックを打ち込んでホールドしたり、ステップを切って足場をつくる。さらに、万一転倒したときには、ピッケルによって滑落を止めるのが最後の手段となる。



## 1 0 時限 雪の歩行技術の基本

### ピッケルの持ち方

ピッケルを持つ基本フォームは、1 図の様にピッケを前に向けて、ブレードの面にてのひらを当て、シャフト上部のホール付近に親指を添える。中指・薬指・小指の三本でブレードを握り、人指し指は自然に伸ばす。

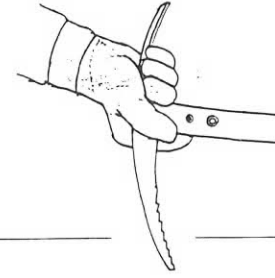


図 1

この基本フォームなら、グリップがしげんで、下方向に力が入りやすい。

ブレードを前にして、三本指でピッケのつけ根をにぎる持ち方も多く使われる。この持ち方は、ピッケを雪面に打ち込む滑落停止のフォームに入りやすいので、危険箇所ではこれに替えるといい。初心者は、思わぬ転倒しやすいためではブレードを前にして持つといいでしょう。(2 図参照)

### アイゼンの持ち方

アイゼンをはく時には、まず平らなところを探し、ない場合はピッケルで平らなテラスを掘り、アイゼンを置く。そして、ソールについていた雪をよく落とし、つま先とカカトのゴバの雪をきれいにとる。アイゼンはつま先から合わせ、キツチリさせてからバンドなりストラップを締める。

はじめて使うアイゼンは、山行前にサイズ調節と試しばきをしておくこと。又、ストラップが長すぎる場合は、良い長さに切って、切り口がほつれないように処理しておく。

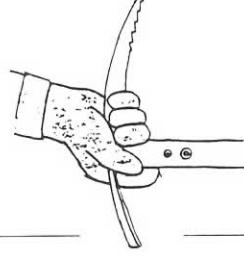


図 2

### 歩行技術の基本

ピッケル、アイゼンで歩くときにも、基本はふつうの山歩きと変わらない。背すじをまっすぐに伸ばして、小さな歩幅を心がけ、腰を中心にしてスムーズな体重移動する事が大切だ。

このほかに、アイゼン歩行に特有な注意点は・・・

\* アイゼンはフラットに

斜面に対してソール(靴底)をフラットにおくことがアイゼン歩行の基本だ。

こうすることで、アイゼンの爪をすべて雪面にきかせることができ、ステップが安定する。アイゼン歩行では、ソールをフラットにおくために、足首の角度をいろいろに変えてゆく。

\* 両足は揃きぎみ・・・

アイゼンの爪をひっかけた状態で転倒するというミスは、かなり多い。なかでもひっかけやすいのが、カカトの内側の爪だ。これを防ぐために、アイゼンをはいたら、両足の間にこぶしひとつぶんぐらいのすきまをとるように意識しよう。

\* 爪をひきぎみ・・・

アイゼンの爪をひきぎみするのは転倒のもとだ。疲れてくると足運びが無難化になりがちだが、アイゼンをはいているかぎりは、ステップをきちんと踏みつけて、爪を確実にきかせるようにしよう。

\* ピッケルの突き方・・・

ピッケルは、真上から真下へ確実に突く。あたりまえの事だがこれをしていない人が意外と多い。あいまいな突き方では、バランスを崩したときにピッケルで修正することはむずかしい。意識しなくても規則的で確実に突き方ができるまで練習することが大切だ。

\* 二点確保・・・

ピッケルの石突きやピッケと、アイゼンをはいた両足との3つの支持点のうち、ふたつをしっかりと確保しながら、一点ずつ移動していくのが二点確保だ。

雪山で、両足だけで移動するのが困難になれば、二点確保が必要になる。急な雪面や岩場などの難所に限らず、強風下の稜線などでも二点確保で慎重に歩くことがある。二点確保によって、ピッケルをより積極的に、ポイントとして使うことができる。

\* 耐風姿勢・・・

雪山では、瞬間的な強風や突風に足元が揺れることがある。歩行のバランスを崩され、転倒しそうなときには、即座にこの耐風姿勢をとって切り抜けるようにしておかなければならない。

利き腕でピッケルのピッケを下にして持ち、反対の手でシャフトを持って雪面に打ち込む。続いて、石突きと両足で正三角形をすばやく作り、ピッケルのヘッドに肩をかぶせ、シャフトを持った手は雪面近くで右突きを踏さえる。このとき、正三角形の辺が最大傾斜線にそるようにする。

## 1 1 時限

### バリエーション・ルート・ルートの登り方

バリエーション・ルートは、山頂や稜線をめざす時、敢えて困難性を追求して

登るルートで、山頂をめざすのに一般的に使われるルート即ち、その山に登るのに、技術、体力、アクセサなどの点でいちばん登りやすい尾根歩きなどのルートをノーマルルートと呼び、困難な岩稜や岩壁・滝のある沢などを登って、山頂や稜線に至るルートがバリエーションルートである。

岩登りや、沢登り、ヤブこぎなどより困難性があり、このより困難性を追求して達成された時の充実感、感動はほかでは味わえない深い魅力ある世界である。

登山の総合力をためられる登山形式である。今回は主に岩稜帯をルートとして選ぶ場合を想定してみよう。

バリエーション・ルートを登るための装備－

雨具、セーター、ヘッドランプ、水筒、食料など一般山行の装備のほかにロープ、ハーネス、ヘルメット、カラビナ、テープ、シュリンゲ、エイト環など岩登りの装備が必要である。これ等の装備の数、量などは登るルートにより違うので事前に十分に調査して、ルートに取りついたら必要な装備を持参しなったり、数が不足していた事がないよう充分注意したい。

又、ルートに沢登りがある場合は、この他に沢登りに必要な装備を持参しなくてはならない。（沢登りの装備は4時限の項参照の事）

登攀の注意点－

バリエーション・ルートは一般路と違って、道標やペンキ印があるわけではないのでルートファインディングに充分注意しよう。地図（25000分の1）は常に携帯して、現在地と登る方向を確認して進む事が重要だ。

取り付き点及び、登攀中に落石の危険がある場合は、ヘルメットを着用し、又後続パーティーのためにも石を落とさないように気をつける。石を落とさないゴツは、歩幅を小さくして、上から押さえつけるように足を運ぶことだ。大股でツマ先を蹴るような歩き方は決してしてはならない。

又、登攀に必要なカラビナやシュリンゲンは、登るときに邪魔にならないよう、かつ必要なきにすぐに取り出せるよう整理しておく。長いシュリンゲンはダブルに巻いてたすきがけにし、ズレないようにカラビナに通す。

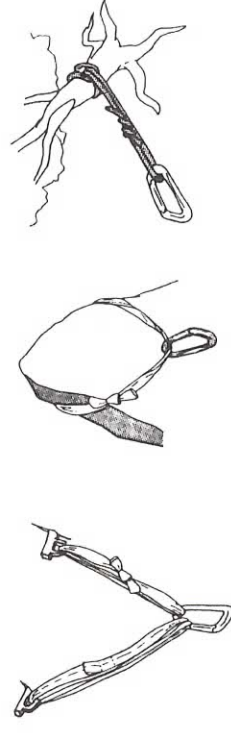
登攀用具の数、種類はルートの難易度や登山者の技術、経験によって変わるのでリーダーの指示にしたがい、決して重いからと言って不足する事のないようにすべきである。

高度感のあるところや急な岩場などで不安を少しでも感じたら、リーダーは躊躇なくロープを出して登るようにしよう。

ランニング・ビレイの取り方－

登攀中にロープで確保するために、さまざまなプロテクションを利用する。

図のようにランニング・ビレイは残置ハーケンまたは岩、木、ハイマツにシュリンゲンをかけてとるのが安全だが、ロープが無理なくまっすぐに流れるように注意してセットしよう。



(1) 残置ハーケン (2) 岩角 (3) 木の枝

又、もろそうな岩場では、いきなりホールドやスタンスに体重をあずけてはいけない。ホールドであれば、手のひら（親指のつけ根あたり）で、スタンスならツマ先で軽くたたき、カタカタと音がしないかチェックしてから静かに体重をかけるようにしよう。

長いバリエーション・ルートを登るときには、天候・疲労度・困難度・経過時間といったエスケープの判断材料をつねに計算しながら登ることが重要だ。この中で一つでも不安材料があったら躊躇なくエスケープ・ルートを下山しよう。そのためにも、登るまえに全てのルートの検討をしてアアシデントに対応出来るようにしておく事が大切だ。

今回はバリエーション・ルートの登り方（2）です。



## 岳人あびこ登山教室（中級者向）

村松敏彦

### 1 2 時 限

#### ノバリエーション・ルート・ルートの登り方（2）

##### ーやぶこぎー

バリエーション・ルートの中には、岩登り、沢歩き等の他にやぶこぎなどもある。やぶこぎのルートのなかには、登山道に草がぶさっている程度のものから、登山者を突き返したり、時にはひきずり倒すハイマツや石楠花などのやぶもあります。また、地面を歩けるものから、まったく地に足がつかず、からみあうバネのような細い枝上を渡り歩かねばならないやぶまで、困難度もさまざまです。体力の消耗は激しくルートファインディングを誤ると疲労凍死の危険がある。

##### ーやぶこぎの装備ー

バリエーション・ルートのやぶこぎの装備は岩登りの装備、一般登山の装備の他に衣類は丈夫なものをそろえ（上着は長袖）、軍手は必ず持参する。季節によっては虫よけ、虫さされの薬を用意する。又、戻りのルートの目印のために赤えふ、赤布、猛烈なやぶが予想される場合などは、なた、のこぎり等も準備しよう。緊急時のためにはホイッスルも必要だ。

##### ールートを取り方ー

やぶに入る前には、必ず地形図と現在地を照合する。そして進行方向を見定めた後、両手で枝や草をかき分けて進み、後続者は、はぐれないように間隔をつめて歩くようにしよう。

やぶ歩きはやみくもに進まず、やぶの隙間を縫ってぐぐり抜けるように歩く事が大切だ。ザックにはものをぶら下げず、ヒモ類も極力ザック内にしまおうようにしよう。ヒモ類がやぶに引っ掛かると著しく体力を消耗する。又、腕時計、カメラ等もザックの中に入れて身につけない様にしよう。紛失したり、傷をつけたりするからだ。急斜面や岩場などでは手がかりにする立木にも注意しよう。

太腿ぐらゐの太さの木が、手をついただけで折れることも珍しくなく、逆に細い木でも、枝先に葉がついていれば懸垂下降の支点にできるものもあります。立ち木を手がかりにしたり、ビレイや懸垂下降の支点にするときには、必ず強度を確認し、根もとに力をかけるようにしよう。

やむを得ず細い木や草をホールドにする場合は根本を地面に押さえつけるようにしてそっと力をかける事が大事だ。引っ張ると簡単に抜けてしまうからだ。五本の指をアイゼンの爪のように地面に突き刺して登る事も場所によっては出てくる。

##### ールートファインディングー

ルートファインディングは岩山、やぶ山等登山の重要な技術です。踏み跡に惑わされてルートミスをすることはしばしばあります。いままではっきりしていた踏み跡が急にかぼそくなったらまず疑い、確実な地点までもどる事が大事だ。しかし、間違った踏み跡は、このように気がつけばもどるので、二度歩かれることになり、本来の道より明瞭になることもある。踏み跡が分岐したら、最も確実そうな道は最後に残し、他の踏み跡を少し進んでみよう。それらが自分の求める方向でないことを確認してから本命の道に進めば、ルートミスの可能性は減ってくるだろう。

##### \*あとがき\*

昨年ある飲み会とき、ひよんな事から「やまたん」の編集長の横にすわったためこの様な事態になり、毎月締め切り日が近くなると後悔しきりでした。口は災いのもとといいいますが、今後、飲み会の時には、隣りに座る人を充分選択しなくてはと思います。

さて、12回連続で中級者向けという事で連載してみました。少しは参考になりましたでしょうか？・ほとんどの人がああ何かならない事が書いてあるなあ・・・という感じだとは思いますが。

しかし、より困難を、より高みを、より感性のある山行を求めなくなった山の会は単に旅行社のツアー・ハイキングの団体と何ら変わらないソーパーティーであり、団体だと思っています。確かに高い山ばかりが登山ではありません。低い山にも素晴らしいルートがあります。要は情熱と意欲だと思います。

岳人あびこの1人1人が感動を求めて、やぶをこぎ、岩稜をよじ登り、雪山にビッケルを突き、頂上に立つ時のかすかな緊張と興奮、このような山行がいつの日か来る日をかすかな期待と楽しみをもって、この登山教室をおわります。

読んでいただいた少数の人に感謝します。

簡潔な文章の中に、数多い経験が凝縮されていて、その行間に登山の奥深さが感じられます。長い間ありがとうございます。 会報部

資 料

山 行 一 覧 表

山 行 統 計

活 動 の 記 録

月刊会報「やまたん」内容



# 山行一覧表 その1

No.	山 名	山 域	期 日	山行形式	G	リーダー	参 加 者	人数
							名前の下線はリーダー又はサブリーダーを示す。	

平成12年（2000年）

145	高川山	中央沿線	2000年 3月12日(日)	日帰り	A	日下	sL斎藤、柴田、小川、大串恵、大串秀、高橋寿、高橋英、長木、中野、中村美、原田君、渡辺、安田、飯沼、松本、山西、小川誠(ゲスト)	18
146	浅間嶺	奥多摩	3月26日(日)	日帰り	A	高橋英、安田	A班:CL高橋英、sL安田、細野清、大串恵、中村美、品田、大畠、箕輪完、山西、武藤、小川誠 B班:L原田君、sL榊原、三浦、細野省、外崎、大串秀、小川洋、斎藤、高橋寿、庄司、飯合、松本 C班:L武内、sL高橋芳、柴、清家、柴田、日下、中村隆、中村八、飯沼、原田和、箕輪力	34
147	棒ノ折山	奥多摩	4月9日(日)	日帰り	B	三浦	原田和、外崎、大串恵、大串秀、榊原、高橋英、安田、武内、武藤	10
148	四ツ又山～鹿岳	西上州	4月16日(日)	日帰り	B	細野省	武内、細野清、柴田、外崎、斎藤、中村隆、原田君、安田、原田和、山西	11
149	蓑山	奥武蔵	4月22日(土)	日帰り	A	安田	A班:CL安田、sL高橋寿、大串恵、大串秀、大桃、中野、庄司、山本紫、山本正 B班:L吉岡、sL松本 斎藤、長木、中村美、原田君、品田、山西、箕輪力、箕輪完、	19
150	大菩薩嶺	大菩薩	4月23日(日)	日帰り	B	武内	sL榊原、加藤、柴田、宮坂、大串秀、小黒、斎藤、高橋芳、飯合、北川、飯高、松本	13
151	大塚山～中塚山	房総	4月29日(土)	日帰り	A	外崎	sL原田君、三浦、大串恵、大串秀、斎藤、榊原、長木、中野、中村美、安田、佐藤、北川、武内、原田和、箕輪力、山西、由布、箕輪完、大高(ゲスト)	20
152	天上山	東京都伊豆七島	5月3～5日(金)	民宿	A	細野清	sL外崎、細野省、柴田、斎藤、榊原、原田君、高橋芳、由布、飯高、原田和、会員外3名	14
153	浅草岳・守門岳	東北	5月3～6日(土)	テント/民宿	D	村松敏	柴、清家、村松峯、大串秀、北川	6
154	霧降高原	奥日光	5月7日(日)	日帰り	A	榊原	sL高橋英、加藤、小川洋、斎藤、中村隆、原田君、安田、飯沼、原、原田和、箕輪力、山西、山本紫、箕輪完、武藤、山本正、小川誠	18
155	景信山～高尾山	中央沿線	5月14日(日)	日帰り	A	斎藤	sL高橋芳、柴田、大桃、中野、高橋正、中村八、松村、飯合、吉岡、原、原田和、松本	13
156	子持山	上州	5月21日(日)	日帰り	A	細野清	sL外崎、大串秀、日下、斎藤、原田君、安田、佐藤	8
157	南月山～三本槍ヶ岳	那須	5月27～28日(日)	山小屋泊	B	三浦	sL中村隆、柴田、大串恵、大串秀、小黒、斎藤、榊原、中野、中村美、原田君、佐藤、松村、吉岡、由布、武藤	16
158	雲取山(公開登山)	奥秩父	6月3～4日(日)	山小屋/テント泊	B	日下	A班:CL日下、sL安田、品田、北川、松本 山西、箕輪完、一般5名 B班:L柴、sL柴田、飯高、飯沼、武藤、一般5名 C班:L斎藤、sL高橋英、武内、原、山本正、一般4名 計会員17、一般14、小屋泊21、テント泊10	31
159	高岩	上州	6月10日(土)	日帰り	B+	柴	清家、柴田、北川、中村八	5

# 山行一覧表 その2

No.	山名	山域	期日	山行形式	G	リーダー	参加者	人数
							名前の下線はリーダー又はサブリーダーを示す。	
160	リーダー研修in丹沢	丹沢	6月17-18日(日)	テント泊	B	村松敏	柴、sL清家、細野清、外崎、大串秀、高橋英、榊原、原田君、安田、川下	11
161	早池峰・薬師岳	北上山域	7月1-2日(日)	民宿泊	B	斎藤	A班:L大串秀、sL中村隆、榊原、原田君、品田、松本、山西 B班:L武内、sL原田和、大串恵、中村美、飯合、由布	14
162	岩山(新人研修)	新鹿沼	7月2日(日)	日帰り	A	高橋英、安田	清家、細野清、細野省、外崎、大桃、日下、渡辺、原、箕輪カ、山本紫、箕輪完、武藤、小川誠、山本正	16
163	籠ノ登山・水ノ塔山	浅間	7月16日(日)	日帰り	A	安田	A班:L安田、sL原田和、大串恵、榊原、中野、飯高、箕輪完、 B班:L柴田、sL松本、大串秀、原田君、庄司、松村、箕輪カ、山西	15
164	五色ヶ原～薬師岳	北アルプス	7月20-23日(日)	山小屋泊	C	村松敏	細野清、大串恵、大串秀、安田、佐々木	6
165	朝日連峰	羽越国境	7月28-30日(日)	テント泊	C	柴、清家	柴田、外崎、大串恵、大串秀、斎藤、武内、由布	9
166	白馬三山	北アルプス	8月5-7日(月)	山小屋泊	B	斎藤	A班:L日下、sL外崎、中村美、高橋芳、山西、松本 B班:L中村隆、sL大串秀、小黒、品田、飯合、飯沼、高橋潔(ゲスト)	14
167	木曾駒ヶ岳・宝剣岳	中央アルプス	8月6-7日(月)	山小屋泊	B	清家	sL原田和、渡辺、大桃、庄司、箕輪カ、山本紫、 B班:L原田君、sL柴田、小川洋、長木、中野、箕輪完、山本正、	14
168	雲ノ平～槍ヶ岳	北アルプス	8月12-16日(水)	山小屋/テント	C	大串秀	sL高橋英、柴田、大串恵、榊原、安田	6
169	鳥海山	山形秋田県境	8月18-20日(日)	山小屋泊	B	外崎	sL斎藤、高橋芳、吉岡	4
170	奥穂高岳・北穂高岳	北アルプス	8月25-28日(月)	山小屋泊	B+	大串秀	sL斎藤、大串恵、中村隆、中村美、佐藤、山西、高橋潔(ゲスト)	8
171	榛名山	上州	8月27日(日)	日帰り	A	細野清	sL細野省、品田、庄司、大島、原	6
172	燕岳～常念岳～蝶ヶ岳	北アルプス	9月14-17日(日)	山小屋/テント泊	B+	中村隆	A班:大串恵、大串秀、中村美、原田君、原田和、 B班:sL斎藤、武内	8
173	八幡平・焼山	八幡平	9月15-16日(日)	旅館	B	川下	A班:L外崎、sL長木、小川洋、安田、佐藤、庄司、飯沼、山西 B班:sL榊原、高橋正、高橋芳、松村、吉岡、由布	15
174	秋田駒ヶ岳	秋田	9月16-17日(日)	旅館	B	外崎	A班:sL安田、長木、小川洋、佐藤、庄司、飯沼、山西 B班:sL榊原、高橋正、高橋芳、松村、吉岡、由布	14
175	鬼怒沼	奥日光	9月30-10月1日	山小屋泊	B	武内	A班:L大串秀、sL原田君、柴田、大島、箕輪カ、高橋潔(ゲスト) B班:L斎藤、sL榊原、大串恵、小川洋、高橋芳、原田和、箕輪完、	14
176	燧ヶ岳	尾瀬	10月7-8日(日)	山小屋泊	A+	外崎	sL原田和、清家、柴田、大桃、斎藤、中村隆、中村八、飯合、吉岡、大島、松本、山西	13
177	雨飾山	頸城山塊	10月8-9日(祝)	民宿	B	大串秀	sL高橋英、大串恵、榊原、中野、中村美、原田君、安田、飯沼	9
178	御前山	奥多摩	10月22日(日)	日帰り	A	大串	sL松本、大串恵、斎藤、中村美、安田、高橋芳、原、原田和、山本紫、山本正	11
179	黒岳	富士周辺	10月29日(日)	日帰り	A	原田君	大串恵、大桃、斎藤、中野、中村隆、渡辺、安田、庄司、高橋芳、箕輪カ、箕輪完、小川誠	13



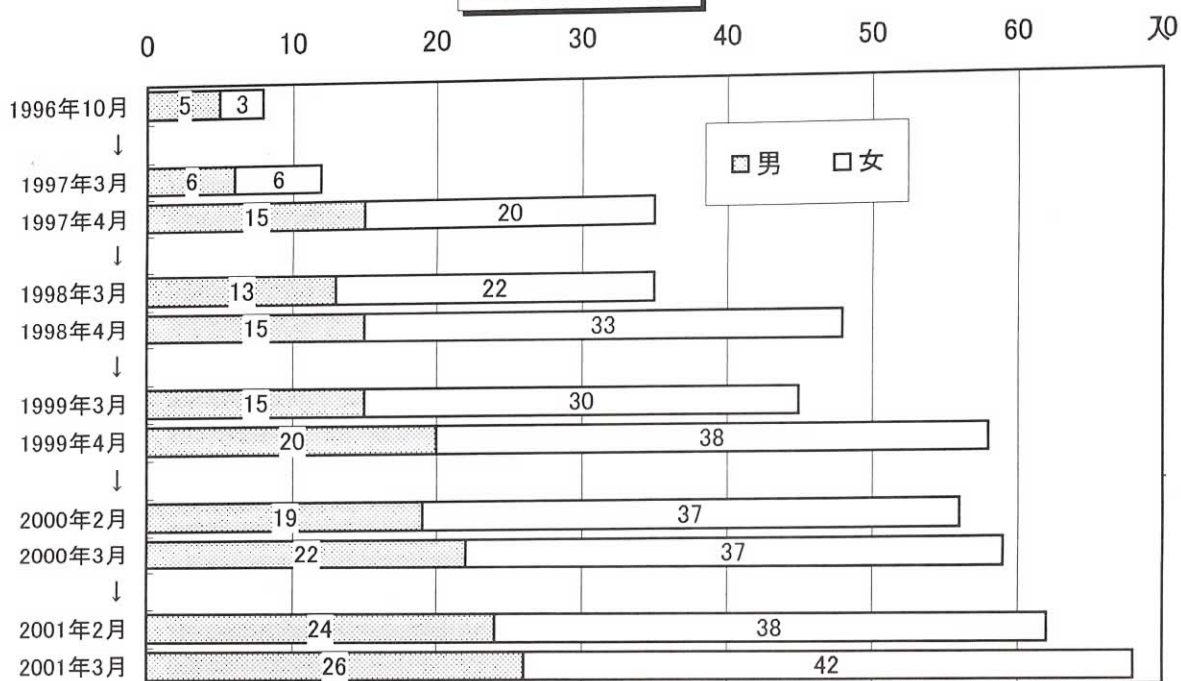
# 山行一覧表 その3

No.	山名	山域	期日	山行形式	G	リーダー	参加者	人数
							名前の下線はリーダー又はサブリーダーを示す。	
180	小野子山～十二ヶ岳	上州	11月3日(日)	日帰り	A+	外崎	sL大串恵、柴田、斉藤、榊原、安田、吉岡、飯高、山本紫	9
181	塔ノ岳～鍋割山(新人)	丹沢	11月11-12日(日)	山小屋泊	B	安田	中村隆、中野、中村美、高橋芳、箕輪カ、山西、箕輪完、武藤、小川誠、石垣	11
182	権現山	中央沿線	11月18日(土)	日帰り	B	柴	sL斉藤、清家、柴田	4
183	陣場山	中央沿線	11月19日(日)	日帰り	A	榊原	sL松本 大串恵、原田君、品田、庄司、飯沼、大畠、原、箕輪カ、箕輪完、山本正	12
184	高反山・諏訪山	西上州	11月25-26日(日)	テント泊	C+	細野省	sL清家、外崎、榊原、安田、武藤	6
185	倉岳山(忘年)	中央沿線	12月3日(日)	日帰り	A	原田君	sL斉藤、清家、村松敏、外崎、大桃、日下、榊原、長木、中野、中村隆、蜂谷、増田、渡辺、安田、庄司、中村八、飯合、川下、飯沼、大畠、武内、原、原田和、箕輪カ、山西、箕輪完、武藤、小川誠	30
186	六ツ石山	奥多摩	12月17日(日)	日帰り	A+	中村隆	sL松本、加藤、柴田、大桃、小黒、斎藤、中村美、原田君、増田、安田、佐藤、飯沼、原田和	14
187	ハヶ岳(X'mas)	ハヶ岳	12月23-24日(日)	テント泊	B,C	村松敏	Aコース:sL柴、清家、外崎、村松峯、斎藤、武内 Bコース:L村松敏、細野省、三浦、由布、武藤	11

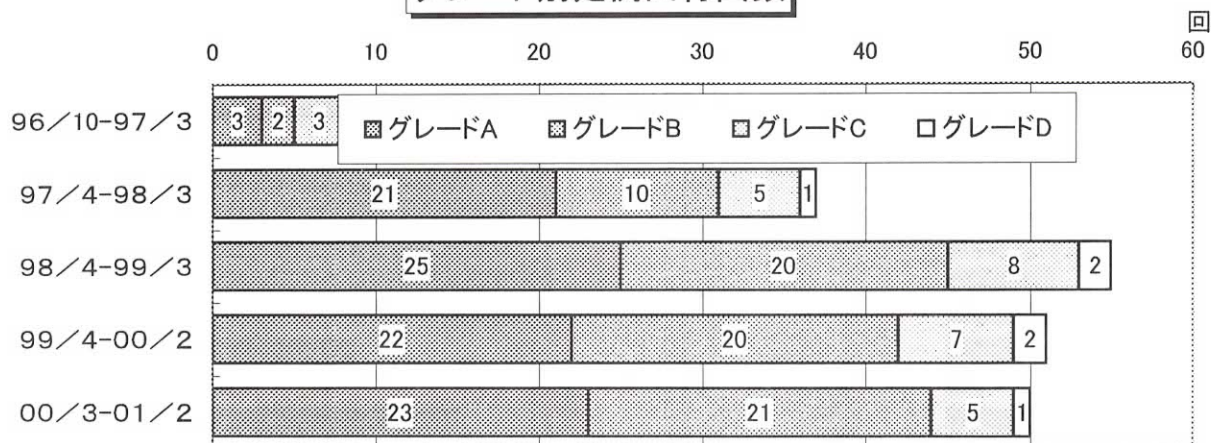
平成13年(2001年)

188	石老山(新年山行)<富士周辺の山シリーズ>	中央沿線	2001年1月14日(日)	日帰り	A	村松敏 sL安田	A班:L原田和、清家、細野省、柴田、外崎、高橋英、中村隆、原 B班:L松本 大桃、斎藤、高橋芳、中村八、大畠、箕輪カ、山本正、 C班:L加藤、細野清、日下、長木、中野、原田君、渡辺、武内、山西、箕輪完	28
189	三ッ峠山～黒岳<富士周辺の山シリーズ>	富士周辺	1月20-21日(日)	山小屋泊	B+	中村隆	sL武内、村松敏、柴田、外崎、斎藤、安田、高橋芳、飯合、武藤、石垣、高橋潔	12
190	荒船山	西上州	2月4日(日)	日帰り	A+	川下	A班:L北川、sL柴田、B班:sL長木、清家、村松敏、外崎、小川洋、斎藤、榊原、原田君、安田、品田、高橋正、高橋芳、中村八、武内、原田和、小川誠、高橋潔	20
191	金時山<富士周辺の山シリーズ>	箱根	2月11日(日)	日帰り	A	細野清	sL斉藤、細野省、柴田、小川洋、中野、中村隆、高橋芳、原、小川誠	10
192	御正体山<富士周辺の山シリーズ>	道志山塊	2月17日(土)	日帰り	B	安田	sL武藤、細野清、細野省、外崎、斎藤、高橋英、武内、原田和、山西、高橋潔	11
193	笹尾根	奥多摩	2月18日(日)	日帰り	A	中村隆	sL長木、斎藤、原田君、小黒、大畠	6
194	石割山	富士周辺	2月25日(日)	日帰り	A	斎藤	A班:L長木、sL日下、小黒、安田、箕輪完、石垣、 B班:L中野、sL高橋英、清家、大桃、原田君、増田、大畠、箕輪カ、高橋潔	16
2000年度 参加者延べ人数								656

## 会員数推移



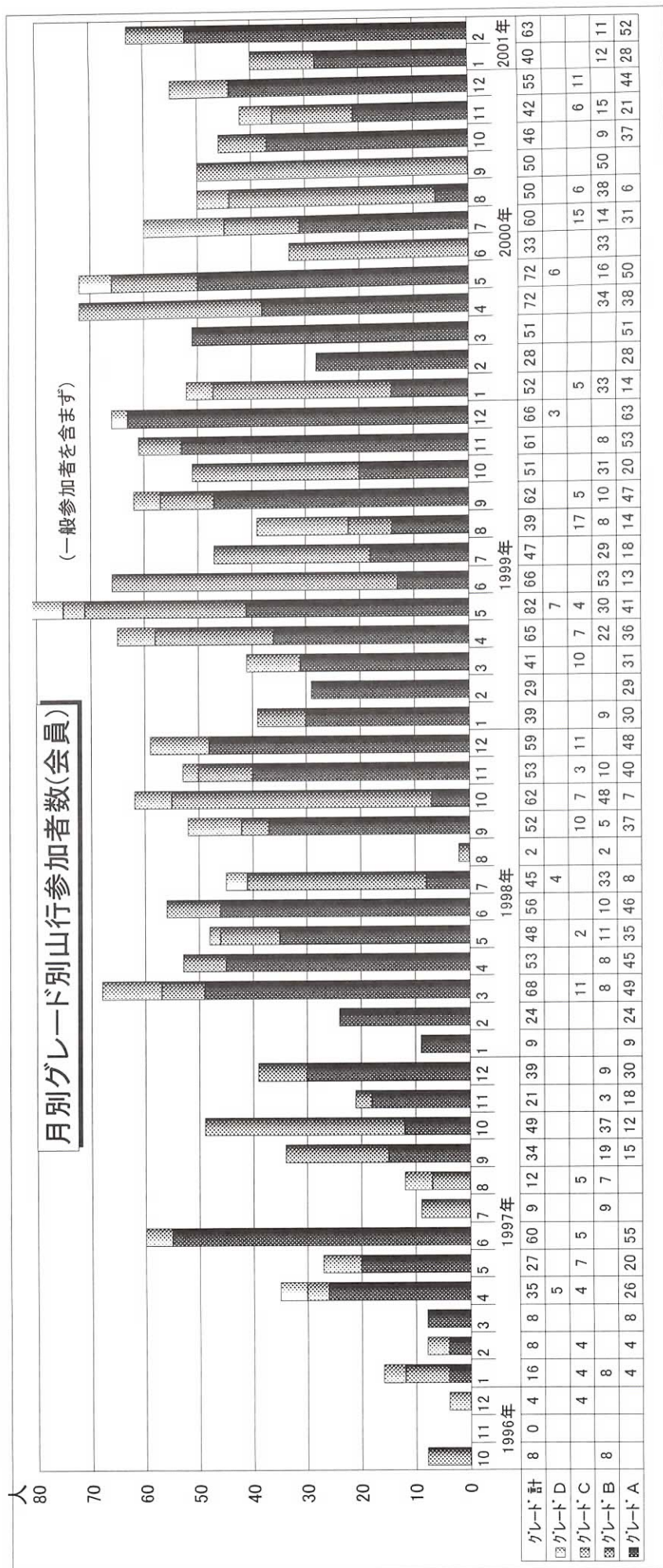
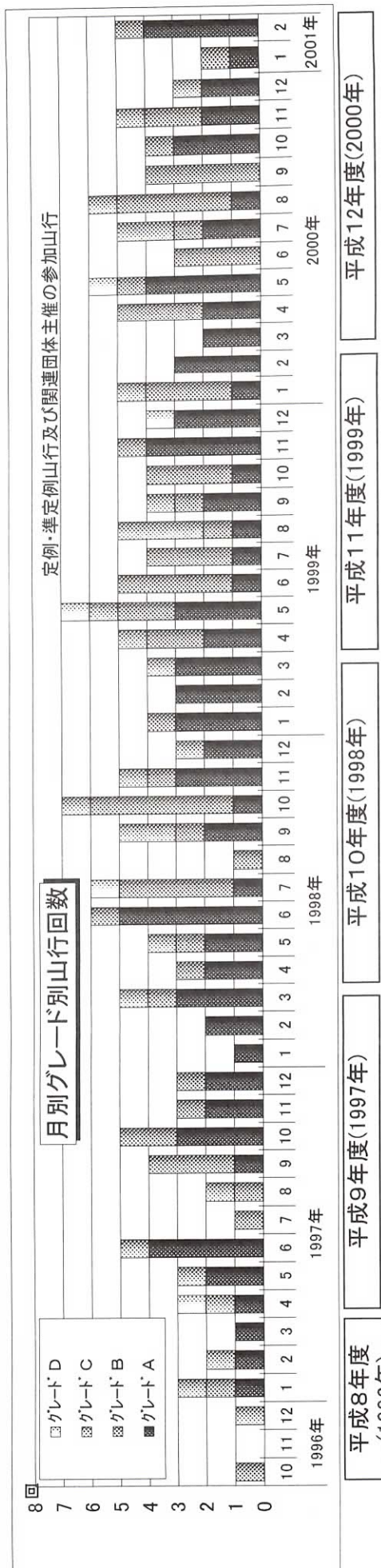
## グレード別定例山行回数



## 山行参加者数(延べ)









NO.		山 名	山 域	企画	実施日	形態	グレード	参加人数				リーダー
通算	今年度							計	ハイキング	登山	ゲスト	
145	1	高川山	中央沿線	定ハ	00/3/12(日)	日帰り	A	18	5	12	1	日下
146	2	浅間嶺(新人歓迎)	奥多摩	定合	3/26(日)	日帰り	A	34	12	22		高橋、安田
147	3	棒ノ折山	奥多摩	定登	4/9(日)	日帰り	B	10		10		三浦
148	4	カナ鹿岳～四ツ又山	西上州	定登	4/16(日)	日帰り	B	11		11		細野省
149	5	蓑山	奥武蔵	定ハ	4/22(土)	日帰り	A	19	9	10		安田
150	6	大菩薩嶺	大菩薩	定登	4/23(日)	日帰り	B	13	2	11		武内
151	7	大塚山～中塚山	房総	準合	4/29(土)	日帰り	A	20	2	17	1	外崎
152	8	天上山	東京都伊豆七島	準ハ	5/3-5(金)	民宿	A	14		11	3	細野清、外崎
153	9	浅草岳・守門岳	東北	準登	5/3-6(土)	テント/民宿	D	6		6		村松敏
154	10	霧降高原	奥日光	定ハ	5/7(日)	日帰り	A	18	8	10		榊原
155	11	景信山～高尾山	中央沿線	準ハ	5/14(日)	日帰り	A	13	7	6		斎藤
156	12	子持山	上州	定合	5/21(日)	日帰り	A	8		8		細野清
157	13	南月山～三本槍ヶ岳	那須	定登	5/27-28(日)	山小屋	B	16	1	15		三浦
158	14	雲取山(公開)	奥秩父	定合	6/3-4(日)	山小屋、テント	B	31	6	11	14	日下
159	15	高岩	上州	定登	6/10(土)	日帰り	B+	5	1	4		柴
160	16	リーダー研修in丹沢	丹沢	定登	6/17-18(日)	テント	B	11		11		村松敏
161	17	早池峰・薬師岳	北上山域	定合	7/1-2(日)	民宿	B	14	3	11		斎藤
162	18	岩山(新人研修)	鹿沼	定新	7/2(日)	日帰り	A	16	8	8		高橋、安田
163	19	籠ノ登山・水ノ塔山	浅間	定合	7/16(日)	日帰り	A	15	5	10		安田
164	20	五色ヶ原～薬師岳	北アルプス	定登	7/20-23(日)	山小屋	C	6		6		村松敏
165	21	朝日連峰	羽越国境	定登	7/28-30(日)	テント	C	9		9		柴、清家
166	22	白馬三山	北アルプス	定合	8/5-7(月)	山小屋	B	14	4	9	1	斎藤
167	23	木曾駒ヶ岳・宝剣岳	中央アルプス	定ハ	8/6-7(月)	山小屋	B	14	8	6		清家
168	24	雲ノ平～槍ヶ岳	北アルプス	定登	8/12-16(水)	山小屋、テント	C	6		6		大串
169	25	鳥海山	山形秋田県境	定登	8/18-20(日)	山小屋	B	4		4		外崎
170	26	奥穂高岳・北穂高岳	北アルプス	定登	8/25-28(月)	山小屋	B+	8		7	1	大串
171	27	榛名山	上州	準定	8/27(日)	日帰り	A	6	4	2		細野清
172	28	常念岳～蝶ヶ岳	北アルプス	定登	9/14-17(日)	山小屋、テント	B+	8		8		中村隆
173	29	八幡平・焼山	八幡平	定合	9/15-16(日)	旅館	B	15	5	10		川下
174	30	秋田駒ヶ岳	秋田	準合	9/16-17(日)	旅館	B	14	4	10		外崎
175	31	鬼怒沼	奥日光	定合	9/30-10/1	山小屋	B	14	4	9	1	武内
176	32	燧ヶ岳	尾瀬	定合	10/7-8(日)	山小屋	A+	13	5	8		外崎
177	33	雨飾山	頸城山塊	定合	10/8-9(祝)	民宿	B	9	1	8		大串秀
178	34	御前山	奥多摩	定ハ	10/22(日)	日帰り	A	11	4	7		大串
179	35	黒岳	富士周辺	定ハ	10/29(日)	日帰り	A	13	6	7		原田君
180	36	小野子山～十二ヶ岳	上州	定合	11/3(日)	日帰り	A+	9	1	8		外崎
181	37	塔ノ岳～鍋割山(新人)	丹沢	定合	11/11-12(日)	山小屋	B	11	3	8		安田
182	38	権現山	中央沿線	定合	11/18(土)	日帰り	B	4		4		柴
183	39	陣場山	中央沿線	定ハ	11/19(日)	日帰り	A	12	9	3		榊原
184	40	高反山・諏訪山	西上州	定登	11/25-26(日)	テント	C+	6		6		細野省
185	41	倉岳山(忘年)	中央沿線	定合	12/3(日)	日帰り	A	30	13	17		原田君
186	42	六ツ石山	奥多摩	定ハ	12/17(日)	日帰り	A+	14	3	11		中村隆
187	43	八ヶ岳(X'mas)	八ヶ岳	準登	12/23-24(日)	テント	B,C	11		11		村松敏
188	44	石老山(新年)	中央沿線	定合5	01/1/14(日)	日帰り	A	28	9	19		村松敏
189	45	三ッ峠山～黒岳	富士周辺	定合5	1/20-21(日)	山小屋	B+	12	1	11		中村隆
190	46	荒船山	西上州	定合	2/4(日)	日帰り	A+	20	5	15		川下
191	47	金時山	箱根	定合5	2/11(日)	日帰り	A	10	3	7		細野清
192	48	御正体山	道志山塊	定合5	2/17(日)	日帰り	B	11		11		安田
193	49	笹尾根	奥多摩	定ハ	2/18(日)	日帰り	A	6	1	5		中村隆
194	50	石割山	富士周辺	定合5	2/25(日)	日帰り	A	16	4	12		斎藤
合計		50 回						656	166	468	22	
						在籍		61	20	41		
						一人当り		10.4	8.3	11.4		
						月当り		0.87	0.69	0.95		



NO.		山 名	山 域	企画	実施日	形態	グレード	参加人数				リーダー
通算	今年度							計	ハイキング	登山	ゲスト	
145	1	高川山	中央沿線	定ハ	00/3/12(日)	日帰り	A	18	5	12	1	日下
146	2	浅間嶺(新人歓迎)	奥多摩	定合	3/26(日)	日帰り	A	34	12	22		高橋、安田
147	3	棒ノ折山	奥多摩	定登	4/9(日)	日帰り	B	10		10		三浦
148	4	四ッ又山～鹿岳	西上州	定登	4/16(日)	日帰り	B	11		11		細野省
149	5	蓑山	奥武蔵	定ハ	4/22(土)	日帰り	A	19	9	10		安田
150	6	大菩薩嶺	大菩薩	定登	4/23(日)	日帰り	B	13	2	11		武内
151	7	大塚山～中塚山	房総	準合	4/29(土)	日帰り	A	20	2	17	1	外崎
152	8	天上山	東京都伊豆七島	準ハ	5/3-5(金)	民宿	A	14		11	3	細野清、外崎
153	9	浅草岳・守門岳	東北	準登	5/3-6(土)	テント/民宿	D	6		6		村松敏
154	10	霧降高原	奥日光	定ハ	5/7(日)	日帰り	A	18	8	10		榊原
155	11	景信山～高尾山	中央沿線	準ハ	5/14(日)	日帰り	A	13	7	6		斎藤
156	12	子持山	上州	定合	5/21(日)	日帰り	A	8		8		細野清
157	13	南月山～三本槍ヶ岳	那須	定登	5/27-28(日)	山小屋	B	16	1	15		三浦
158	14	雲取山(公開)	奥秩父	定合	6/3-4(日)	山小屋、テント	B	31	6	11	14	日下
159	15	高岩	上州	定登	6/10(土)	日帰り	B+	5	1	4		柴
160	16	リーダー研修in丹沢	丹沢	定登	6/17-18(日)	テント	B	11		11		村松敏
161	17	早池峰・薬師岳	北上山域	定合	7/1-2(日)	民宿	B	14	3	11		斎藤
162	18	岩山(新人研修)	鹿沼	定新	7/2(日)	日帰り	A	16	8	8		高橋、安田
163	19	籠ノ登山・水ノ塔山	浅間	定合	7/16(日)	日帰り	A	15	5	10		安田
164	20	五色ヶ原～薬師岳	北アルプス	定登	7/20-23(日)	山小屋	C	6		6		村松敏
165	21	朝日連峰	羽越国境	定登	7/28-30(日)	テント	C	9		9		柴、清家
166	22	白馬三山	北アルプス	定合	8/5-7(月)	山小屋	B	14	4	9	1	斎藤
167	23	木曾駒ヶ岳・宝剣岳	中央アルプス	定ハ	8/6-7(月)	山小屋	B	14	8	6		清家
168	24	雲ノ平～槍ヶ岳	北アルプス	定登	8/12-16(水)	山小屋、テント	C	6		6		大串
169	25	鳥海山	山形秋田県境	定登	8/18-20(日)	山小屋	B	4		4		外崎
170	26	奥穂高岳・北穂高岳	北アルプス	定登	8/25-28(月)	山小屋	B+	8		7	1	大串
171	27	榛名山	上州	準定	8/27(日)	日帰り	A	6	4	2		細野清
172	28	常念岳～蝶ヶ岳	北アルプス	定登	9/14-17(日)	山小屋、テント	B+	8		8		中村隆
173	29	八幡平・焼山	八幡平	定合	9/15-16(日)	旅館	B	15	5	10		川下
174	30	秋田駒ヶ岳	秋田	準合	9/16-17(日)	旅館	B	14	4	10		外崎
175	31	鬼怒沼	奥日光	定合	9/30-10/1	山小屋	B	14	4	9	1	武内
176	32	燧ヶ岳	尾瀬	定合	10/7-8(日)	山小屋	A+	13	5	8		外崎
177	33	雨飾山	頸城山塊	定合	10/8-9(祝)	民宿	B	9	1	8		大串秀
178	34	御前山	奥多摩	定ハ	10/22(日)	日帰り	A	11	4	7		大串
179	35	黒岳	富士周辺	定ハ	10/29(日)	日帰り	A	13	6	7		原田君
180	36	小野子山～十二ヶ岳	上州	定合	11/3(日)	日帰り	A+	9	1	8		外崎
181	37	塔ノ岳～鍋割山(新人)	丹沢	定合	11/11-12(日)	山小屋	B	11	3	8		安田
182	38	権現山	中央沿線	定合	11/18(土)	日帰り	B	4		4		柴
183	39	陣場山	中央沿線	定ハ	11/19(日)	日帰り	A	12	9	3		榊原
184	40	高反山・諏訪山	西上州	定登	11/25-26(日)	テント	C+	6		6		細野省
185	41	倉岳山(忘年)	中央沿線	定合	12/3(日)	日帰り	A	30	13	17		原田君
186	42	六ツ石山	奥多摩	定ハ	12/17(日)	日帰り	A+	14	3	11		中村隆
187	43	八ヶ岳(X'mas)	八ヶ岳	準登	12/23-24(日)	テント	B,C	11		11		村松敏
188	44	石老山(新年)	中央沿線	定合5	01/1/14(日)	日帰り	A	28	9	19		村松敏
189	45	三ッ峠山～黒岳	富士周辺	定合5	1/20-21(日)	山小屋	B+	12	1	11		中村隆
190	46	荒船山	西上州	定合	2/4(日)	日帰り	A+	20	5	15		川下
191	47	金時山	箱根	定合5	2/11(日)	日帰り	A	10	3	7		細野清
192	48	御正体山	道志山塊	定合5	2/17(日)	日帰り	B	11		11		安田
193	49	笹尾根	奥多摩	定ハ	2/18(日)	日帰り	A	6	1	5		中村隆
194	50	石割山	富士周辺	定合5	2/25(日)	日帰り	A	16	4	12		斎藤
合計		50 回						656	166	468	22	
(参考)						在籍(12月末)		60	20	40		
						一人当り		10.6	8.3	11.7		

## 活 動 の 記 録

＜その1＞

年	月	日	行 事	場 所	備 考
1996 年 平成 8 年 創 立	10	2	定例集会	市民プラザ	会則の立案他
		12-13	創立記念山行	会津朝日岳	テント泊、自家用車利用
		17	県連理事会	千葉弁天会館	県連加盟の承認
	11	5	定例集会	市民プラザ	役割分担他
		12	定例集会	市民プラザ	山行計画、報告書式検討
	12	19	定例運営委員会	柴宅	今後のスケジュール他

年	月	定例集会		運営委員会		備 考
1997 年 平成 9 年	1	7日	市民プラザ	21日	市民プラザ	
	2	12	市民プラザ	25	市民プラザ	
	3	11	市民プラザ	25	市民プラザ	
	4	6	市民プラザ	22	市民プラザ	
	5	7	市民プラザ	27	市民プラザ	
	6	14	市民プラザ	24	市民プラザ	
	7	5	市民会館	22	市民プラザ	
	8	9	市民プラザ	26	市民プラザ	
	9	6	市民プラザ	6、19	市民プラザ	
	10	4	寿市民センター、	21	市民プラザ	
	11	8	市民プラザ	28	市民プラザ	
	12	13	市民プラザ	16	市民プラザ	

年	月	日	行 事	場 所	内 容
1997年 平成 9 年	1	11-13	雪崩講習会	谷川岳	県連(川名、清家、坪井参加)
		15	岩トレ	天覧山	
	2	15	公開市民登山発表		我孫子市広報掲載
	3	2	公開ハイキング及び会員募集説明会		市民プラザ
		16	公開ハイキング	石老山	一般 40 名参加
		26	新入会員決定通知		23 名入会
	4	1	臨時運営委員会	市民プラザ	予算作成、総会準備
		6	第2回総会	市民プラザ	
		13	新人装備購入ツアー	カモシカ	6名参加
		20	新入会員歓迎山行	大楠山	歓迎と親睦
	6	1	千葉県清掃ハイキング	養老溪谷	県連
		14	新人研修会	市民プラザ	山のマナー
	7	5	納涼祭	五本松公園	テント講習
	10	4	新人研修会	市民プラザ	地図の見方、折り方
		10-11	1 周年記念山行	尾瀬集中登山	3コース
		18	公開登山説明会		
		25-26	公開登山	丹沢	丹沢主脈縦走
	12	7	忘年山行	三頭山	
		20-21	クリスマス山行	笠取山	



## 活 動 の 記 録

＜その2＞

年	月	定例集会		運営委員会		備 考
1998年 平成 10 年	1	10日	市民プラザ	10、20	市民プラザ	
	2	11	市民プラザ	10、17	市民プラザ	
	3	14	市民プラザ	17	市民プラザ	
	4	5	市民プラザ	21	市民プラザ	
	5	9	市民会館	26	市民プラザ	
	6	13	市民会館	23	市民プラザ	
	7	11	湖北台近隣センター	21	市民プラザ	
	8	8	市民プラザ	19	市民プラザ	
	9	5	市民会館	18	市民プラザ	
	10	3	湖北近隣センター	20	市民プラザ	
	11	7	湖北近隣センター	24	久寺家通り会館	
	12	12	市民会館	22	市民プラザ	

年	月	日	行 事	場 所	内 容
平成 10 年	1	18	新年山行	鐘撞堂山	
	2	1	公開登山募集		市民広報掲載
		22	公開登山説明会	市民プラザ	
	3	8	公開登山	扇山	
	4	5	第3回総会	市民会館	
		5	新人研修	市民会館	ガイドンス、日帰り装備
		26	新人歓迎山行	棒ノ折山	
	5	2-5	ゴールデンウィーク合宿	蝶ヶ岳、常念岳	
		24	リーダー研修	岩山(鹿沼)	
	6	7	新人研修	伊豆ヶ岳	ロープワーク、三点確保
		9	救急法机上講習会	県連	
	7	11	岳人祭	湖北台中央公園	
		11	新人研修	湖北台	救急法、テント
	8	8	臨時運営委員会	市民プラザ	ハイキング部、ランキング制
	9	5	新人研修	市民会館	地図の読み方
		23	公開登山説明会	市民プラザ	
		27	ふれあいハイキング	神峰山	東葛地区
	10	10-11	公開登山	八ヶ岳(集中登山)	兼 創立記念山行
	12	6	忘年山行	裏筑波山	
		19-20	クリスマス山行	甲武信岳	

# 活 動 の 記 録

<その3>

年	月	定例集会		運営委員会		備 考
1999年 平成11年	1	9日	市民プラザ	9, 26日	市民プラザ	
	2	13	市民プラザ	23	市民プラザ	
	3	13	湖北台近隣センター	17, 27	市民プラザ	
	4	4	市民会館	20	市民プラザ	
	5	8	市民プラザ	25	市民プラザ	
	6	12	湖北台近隣センター	22	市民プラザ	
	7	10	五本松公園	21	市民プラザ	
	8	7	市民プラザ	24	市民プラザ	
	9	11	湖北近隣センター	17	市民プラザ	
	10	2	湖北近隣センター	22	市民プラザ	
	11	6	湖北近隣センター	24	市民プラザ	
	12	11	市民会館	21	市民プラザ	

年	月	日	行 事	場 所	内 容
1999年 平成11年	1	10	新年山行	鐘撞堂山	
		30-31	房総ロングハイキング	房総	県連主催
	2	16	会員募集広報掲載	我孫子市広報	
	3	7	入会希望者説明会	市民プラザ	
		13	公開登山実行委員会	湖北台近隣センター	
	4	4	第4回総会	市民会館	
		18	新人歓迎山行	大鹿山、笹子雁ヶ腹摺山	
	5	1-4	ゴールデンウィーク合宿		雪山
		22	公開登山説明会	市民プラザ	”両神山”
		23	登山学校開校式		県連主催(安田受講)
		30	リーダー研修	岩山(鹿沼)	
	6	5-6	公開登山	両神山	一般 13 名、会員 20 名
		13	新人研修	本社ヶ丸・鶴ヶ鳥屋山、高畑山	
	7	～2000 ／6	誌上「岳人あびこ登山教室」12回シリーズ	《やまたん》	講師:村松敏彦(リーダー部長)
		10-11	岳人祭	五本松公園	クリーン作戦、テント講習、宴会、テント泊
		21	山行文集「やまなみ」創刊号発行		96／10～98／12
	10	2	「ブナの山旅」講演会	湖北台近隣センター	(公開)講師:坪田和人氏
		3	岡発戸・都部の谷津を探索(我孫子市内)		
		24	第9回ふれあいハイク	筑波山	千葉県障害者交流登山
	11	13-14	新人研修山行	丹沢主脈縦走	
	12	5	忘年山行	百蔵山	
		23-25	クリスマス山行	甲武信岳一金峰山	
	12／28-2000 0／1／5		海外トレッキング(県連主催)	ネパール	外崎、細野清参加



## 活 動 の 記 録

＜その4＞

年	月	定例集会		運営委員会		備 考
2000年 平成 12 年	1	11	市民プラザ	21	市民プラザ	
	2	5	市民プラザ	18, 26	市民プラザ	
	3	5	湖北台近隣センター	22	市民プラザ	
	4	8	市民プラザ	18	市民プラザ	
	5	10	湖北台近隣センター	23	市民プラザ	
	6	10	市民会館	20	市民プラザ	
	7	12	湖北台近隣センター	18	市民プラザ	
	8	9	市民プラザ	22	市民プラザ	
	9	9	五本松公園	26	市民プラザ	
	10	11	市民プラザ	24	市民プラザ	
	11	11	湖北台近隣センター	21	市民プラザ	
	12	9	市民プラザ	19	市民プラザ	
2001年 平成 13 年	1	10	市民プラザ	19	市民プラザ	
	2	7	市民プラザ	16, 24	市民プラザ	
	3	4	湖北台近隣センター	21	市民プラザ	

年	月	日	行 事	場 所	内 容
2000年 平成 12 年	1	16	会員募集広報掲載	我孫子市広報	
		23	第1回県連登山学校開校式	千葉県青少年女性会館	修了者:安田みづほ
		29-30	房総ロングハイク	房総	県連主催
	2	6	入会希望者説明会	湖北台近隣 C	
	3	5	第5回総会	湖北台近隣 C	「はばたこう2000年」 自主的の山行を目指して 2000年度スローガン
		26	新人歓迎山行	浅間嶺	
	4	8	「5周年記念山行」 実行委員会	市民プラザ	
		15	登山学校開校式	県連	榊原、大串(恵)受講
	5	3-6	ゴールデンウィーク合宿	浅草岳・守門岳	
		20	公開登山説明会	市民プラザ	
	6	3-4	公開登山	雲取山	一般14名、会員17名
		10	新人研修	市民会館	
		17-18	リーダー研修	丹沢	
	8	～01/7	楽しい登山学 (机上講習会)	〈やまたん〉	講師:柴 勇(副会長)
	9	9-10	岳人祭	五本松公園	
	12	3	忘年山行	倉岳山	
		23-24	クリスマス山行	八ヶ岳	
2001年 平成13年	1	14	新年山行	石老山	
		創立 5 周年記念山行＜富士周辺の山シリーズ＞スタート			
	2	18	会員募集説明会	市民プラザ	





## 編集後記



「もうそろそろ第3号<やまなみ>は出るのかな～」

会員の軽いパンチを受けながら遅れた原稿収集に、汗をかく！

文集だから、出来るだけ丁寧に創りたい！その心は今も変わらない。

どの会員の想いにも、登山人生を見ることが出来る。

そう思うと、つい丁寧に…となる。

多様なデーターで会の活動を表現してくれた中村(隆)さんの協力と

山が好きで好きでたまらない同志の仲間達。、山への想いはいつまでも♪。！

(細野省二)

やまなみ

第3号

平成14年8月10日

発行者 外崎 蓮

編集者 細野 省二

データー 中村 隆泰

発行所 千葉県勤労者山岳連盟加盟

岳人あびこ

我孫子市新木野3-5-5

外崎 蓮 方 270-1114

印刷所 (株) 常陸紙工印刷社

